



PLUMTREE FOUNDATION

管理者用ガイド

Plumtree Foundation 6.0

2006 年 4 月改訂

この資料の内容はお断り無く変更する場合がありますのでご了承ください。Plumtree Software, Inc. は、このマニュアルに関連する事項（このマニュアルに記述されているソフトウェアの商品価値や特定の使用目的に対する責任などを含むがこれに限定されない）について、明示または黙示にかかわらずいかなる保証も行いません。このマニュアルにおける誤りまたはこのマニュアルの提供、有用性、利用等に関連または起因する損害について、Plumtree Software, Inc. はいかなる責任も負いません。

Copyright © 2005 Plumtree Software, Inc. All rights reserved. Plumtree、Plumtree のロゴ、Plumtree Foundation、およびその他すべてのプラムツリーの製品名およびスローガンは、Plumtree Software, Inc. または米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の製品名やスローガンは、各所有者に帰属する商標または登録商標です。

未出版：米国の著作権法の下で著作権が保護されています。著作権情報は、著作権侵害の予防手段として記載しているものであり、出版または公開を暗示するものではありません。

このソフトウェアには、プラムツリー ソフトウェアの秘密情報およびトレード シークレットが含まれています。このマニュアルの使用、公開、または複製は、プラムツリー ソフトウェアの事前の明示的な書面による許可が無い限り禁止します。

このライセンス ソフトウェアおよびマニュアルは、FAR Section 12.212 および DFARS Section 227.7202 で規定されている「commercial computer software（商用コンピュータ ソフトウェア）」、および「commercial computer software documentation（商用コンピュータ ソフトウェア マニュアル）」とみなされます。

ライセンス情報の詳細については、製品リリース パッケージのアトリビューション ファイルを参照してください。

このドキュメントに関してご意見がある場合は次のアドレスに送付してください：documentation@plumtree.com.

目次

1	はじめに	1-1
	このマニュアルについて	1-1
	記述方法	1-2
	このマニュアルで使用しているアイコンについて	1-2
	プラムツリーの資料	1-3
2	ポータル管理の概要	2-1
	ポータル コンポーネントの概要	2-1
	ウェブ サービス アーキテクチャの概要	2-6
	ポータルの閲覧ユーザー インタフェースの概要	2-8
	ポータル エリア	2-8
	表示オプション	2-10
	ナビゲーション オプション	2-11
	ブランド	2-15
	ロケールの設定	2-15
	環境定義の設定	2-16
	ポータルの管理ユーザー インタフェースとツールの概要	2-17
	ポータルの管理ページ	2-18
	ポータル環境内の管理ユーティリティ	2-22
3	ポータル ユーザーとグループの管理	3-1
	ポータルにおける役割、グループ、ユーザー、およびプロフィールについて	3-1
	アクティビティ権の委譲	3-2
	カスタマイズされたアクティビティ権の作成	3-7
	グループの設定	3-8
	グループの動的メンバーシップの設定	3-8
	デフォルト ユーザー プロファイルの設定	3-9
	ユーザーの追加	3-9
	アイデンティティ サービスによるグループ、ユーザー、およびプロフィールの管理	3-10
	ユーザーの作成	3-13
	ユーザー自身によるアカウントの作成の許可	3-14
	案内状によるユーザーの追加	3-14
	ユーザー プロファイルとユーザー アカウントの管理	3-15
	ユーザー プロファイルの管理	3-15
	ユーザー アカウントの監査	3-15
	ユーザー アカウントのロックとロックの解除	3-16
	既存のアプリケーションに対するユーザーの認証情報の管理	3-18
	ユーザーのアクセス権限の設定	3-19
	ユーザーに環境定義を適用する方法	3-21
4	ポータルのコンテンツ管理	4-1
	ポータルのコンテンツについて	4-1
	コンテンツ タイプとドキュメント プロパティの設定	4-2
	グローバル コンテンツ タイプ マップの設定	4-3
	グローバル ドキュメント プロパティ マップの設定	4-3
	コンテンツ ソースの設定	4-7
	コンテンツ ソースについて	4-8
	ウェブ コンテンツ ソースの設定	4-9
	リモート コンテンツ ソースの設定	4-9
	ナレッジ ディレクトリの管理	4-10
	ナレッジ ディレクトリについて	4-10

	ナレッジ ディレクトリの基本設定	4-11
	フォルダの作成	4-11
	ドキュメントの提出	4-11
	フィルタによるドキュメントの配置の制御	4-12
	ドキュメント リンクの管理	4-14
	ポータルレットによるポータル サービスの拡張	4-14
	ポータルレットについて	4-15
	ポータルレット ウェブ サービス、ポータルレット テンプレート、ポータルレット、およびポータル レット バンドルの作成	4-20
	ポータルレットを必須にする方法と推奨する方法	4-22
	コミュニティの管理	4-23
	コミュニティについて	4-23
	ページ テンプレートとコミュニティ テンプレートの作成	4-25
	コミュニティの作成	4-26
	サブコミュニティの作成	4-27
	コミュニティ ページ	4-28
	コミュニティ グループの作成	4-28
	コミュニティ ポータルレットの作成	4-29
	コミュニティのユーザーとグループの管理	4-29
	コミュニティのナレッジ ディレクトリの管理	4-31
	ドキュメントを検出できるようにするためにコンテンツ クローラとコンテンツ サービスを使用する 方法	4-32
	コンテンツ クローラについて	4-32
	特定のコンテンツを対象にしたコンテンツ サービスの作成	4-34
	コンテンツ クローラの設定	4-35
	コンテンツ クローラのテスト	4-37
	クローラによってインポートされたコンテンツの管理	4-38
	検索の活用方法	4-40
	Search Service の動作のカスタマイズ	4-40
	エンタープライズ検索の管理	4-47
	ネットワーク検索の使用	4-58
5	管理タスクの自動化	5-1
	ジョブについて	5-1
	Automation Service の登録	5-1
	ジョブ フォルダの設定	5-2
	ジョブ ディスパッチャー サービスの起動	5-2
	ポータル エージェントの実行	5-2
	ジョブの作成および実行手順	5-3
	コマンドライン操作をジョブとして実行するための設定	5-4
	ジョブの状態とジョブのログの参照	5-4
6	ポータル オブジェクトの移行、バックアップ、および復元	6-1
	オブジェクトの移行について	6-1
	移行パッケージの使用	6-2
	ポータルにおける移行パッケージの作成	6-3
	コマンドライン ツールを使用して移行パッケージを作成する方法	6-3
	ポータルへのオブジェクトのインポート	6-4
	コマンドラインツールを使用してオブジェクトをインポートする方法	6-4
	ポータルのバックアップと復元	6-5
A	詳細プロパティとロギングの設定	A-1

	ポータル コンポーネントの設定	A-1
	ポータル ユーティリティの使用	A-1
	ポータルの設定ファイルの編集	A-1
	Automation Service の設定	A-12
	Search Service の設定の微調整	A-12
	デフォルトの Search Service パラメータ	A-13
	オプションの Search Service パラメータ	A-14
	Config Tool によるデータベース設定およびポータルのログイン設定の編集	A-17
	Plumtree Logging Spy の設定	A-18
	ポータル メッセージを表示するように Plumtree Logging Spy を設定する方法	A-18
B	Counter Monitoring System の使用方法	B-1
	カウンタの監視について	B-1
	カウンタのログ ファイルの設定	B-3
	Counter Monitoring のコンソールの実行	B-5
	Windows Perfmon を使用してカウンタ データを参照する方法	B-7
C	ポータルのローカライズ方法	C-1
	ローカライゼーションの目的	C-1
	オブジェクトのローカライズ	C-1
	オブジェクトをローカライズできるように設定する方法	C-1
	すべてのオブジェクトのローカライズ	C-2
	オブジェクトを 1 つずつローカライズする方法	C-3
	Search Service の国際化	C-4
	ポータルにおける複数言語のテキストの表示	C-6
	複数言語のドキュメントの検索	C-6
	複数言語のドキュメント リポジトリのクロール	C-6
	ナレッジ ディレクトリへの複数言語のドキュメントの提出	C-6
D	シングル サインオンの導入	D-1
	SSO について	D-1
	SSO 認証プロバイダをポータルで使用するための設定	D-1
	Windows 統合認証サービスの設定	D-2
	Netegrity SiteMinder 4.6 の設定	D-3
	Netegrity SiteMinder 5.5 の設定	D-6
	Netegrity SiteMinder 5.5 SP3 と 6.0.2.5 の設定	D-10
	Oblivion 認証プロバイダの設定	D-16
	他の認証プロバイダとの統合	D-22
	認証元の設定	D-23
	SSO に必要なポータルの設定	D-23
	BasicSSO に必要なポータルの設定	D-24
	WIA との統合の設定	D-27
	Netegrity の認証サーバーとの統合に必要なポータルの設定	D-29
	Oblivion の認証サーバーとの統合に必要なポータルの設定	D-30
	CustomSSO に必要なポータルの設定	D-32
E	Search Service のデフォルトの動作	E-1
	検索の種類	E-1
	検索構文	E-2
	演算子モード	E-3
	優先順位と丸括弧	E-5
	句読点	E-6

	大文字と小文字の区別	E-7
	ステミング（語幹処理）.....	E-7
	ワイルドカード	E-7
	引用句	E-8
	シソーラス辞書の拡張機能	E-8
	検索言語	E-8
	例	E-9
	結果のランキング	E-11
	検索用語の出現頻度	E-11
	メタデータ（フィールド）の重要度	E-12
	語句と近接度	E-12
	基本検索の動作	E-12
	詳細検索の動作	E-13
F	よくある質問とその回答	F-1
	検索に関する FAQ	F-1
	SSO に関する FAQ	F-3
	その他の FAQ	F-7
索引	I-1

1

はじめに

この章では以下のトピックについて説明します。

- 「[このマニュアルについて](#)」
- 「[記述方法](#)」、1-2 ページ
- 「[このマニュアルで使用しているアイコンについて](#)」、1-2 ページ
- 「[プラムツリーの資料](#)」、1-3 ページ

このマニュアルについて

このマニュアルは、ポータル ユーザーおよびグループの管理、ポータル システムのメンテナンスを担当するポータル管理者を対象にしています。

このマニュアルでは、ポータルの初期管理作業および継続的に実施する必要がある管理作業の実施方法について説明します。このマニュアルでは、ポータルを最初に導入する際に実施する必要がある下記のセットアップ 作業の手順について説明します。

1. デフォルト の環境定義および追加の環境定義に必要な表示、ナビゲーション、およびブランド の設定
2. 管理者の役割の委譲
3. ポータルへの管理ユーザーおよび閲覧ユーザーの追加と、管理されたアクセスを提供するための、グループ、ユーザー、ユーザー プロファイル、アクセス コントロールリスト (ACL) の設定
4. ポータルへのドキュメント の追加と、これらのドキュメント へのアクセスを管理するための ACL の設定
5. ユーザーの同期、検索インデックスの更新、ドキュメント の更新、ハウスキーピング ジョブなどを含むシステム メンテナンスの自動化の設定

ポータルの初期導入後は、継続的に実施する必要がある作業や、初期導入時には必要とされない作業、例えば基本ポータル環境を拡張して新しい認証元のユーザーや新しいコンテンツ タイプ、新しいソースからのドキュメントをポータルに追加する場合や、複数ポータルにわたるネットワーク 検索を実行する場合に必要な作業を行う際に、このマニュアルを参考にしてください。

このマニュアルの付録には、ローカライゼーション、シングル サインオン (SSO)、設定ファイルの詳細設定など、一部のポータル システムのみに関連する情報が記載されています。

記述方法

このマニュアルでは、以下の記述方法を使用します。

項目	記述方法	例・備考
<ul style="list-style-type: none"> ファイル名 フォルダ名 画面要素 	太字	<ul style="list-style-type: none"> Procedures.doc をポータルにアップロードします。 General フォルダを開きます。 変更内容を保存するには、[変更を適用] をクリックします。
入力するテキスト	コンピュータ フォント	コミュニティの名前に Marketing と入力します。
入力する変数	コンピュータ フォント、 斜め体	ポートレット サーバーのベース URL を入力してください。 例: <code>http://my_computer/</code>
<ul style="list-style-type: none"> 新しい用語 強調表示 プラムツリー オブジェクト名の 例 	斜め体	<ul style="list-style-type: none"> ポートレットはポータルに埋め込まれたウェブツールです。 URI は、必ず一意の番号でなければなりません。 図 5 のナレッジディレクトリの例は、<i>Human Resources</i> フォルダです。
Unix と Windows のパスの区切り 文字	コンピュータ フォント、 斜め体	Unix では「/」、Windows では「¥」のように、 Unix と Windows では異なるパスの区切り文字を使用しますが、このマニュアルでは、両方のプラットフォームにおける手順やパスが同じ場合は共通して「/」を使用します。

このマニュアルで使用しているアイコンについて

このマニュアルでは、以下のアイコンを使用します。




セキュリティ: 「セキュリティ」アイコンは、プラムツリー ポータルのセキュリティに関連する重要な情報を示します。



重要: 「重要」アイコンは、段落の内容に関連する重要な情報（警告を含む）を示します。

プラムツリーの資料

この節では、プラムツリーが提供しているポータル用の資料およびリソースについて説明します。

リソース名	内容
導入ガイド	ポータルをインストールまたはセットアップする前に、『プラムツリー エンタープライズ ウェブ導入ガイド』をお読みにになり、ポータル コンポーネントのインストールのために準備するホスト コンピュータ、ポータルによる通信のためのセキュリティ モード、管理権限の委譲、ユーザーのソース、ポータルから利用できるようにするドキュメントのソースとタイプ等、ポータル システムに関する明確なプランを立ててください。
インストールガイド	ポータル管理者用のマニュアルです。プラムツリー ポータルのインストール方法が記載されています。 CD イメージおよび Plumtree Product Center から電子形式（PDF）で入手できます。
アップグレードガイド	ポータル管理者用のマニュアルです。プラムツリー ポータルのアップグレード方法が記載されています。 CD イメージおよび Plumtree Product Center から電子形式（PDF）で入手できます。
リリース ノート	ポータル管理者用のファイルです。そのリリースに含まれている新しい機能や既知の問題に関する情報が記載されています。 Plumtree Product Center から電子形式（HTML）で入手できます。
開発者用ガイド、クイックスタートガイド、API 関連資料、およびサンプル コード	開発者用のドキュメントです。これらには、エンタープライズ ウェブのユーザー インタフェースおよび機能のカスタマイズ方法の説明が記載されています。 Plumtree Support Center および Developer Center から入手可能のプロダクト インストール パッケージに含まれています。
オンライン ヘルプ	オンライン ヘルプは、ポータルのすべてのレベルのユーザーが利用できます。ポータルのユーザー インタフェースの説明およびポータルで作業を行うための詳細手順が記載されています。 オンライン ヘルプにアクセスするには、ポータル バナーの右上の端にある  [ヘルプ] をクリックしてください。

リソース名	内容
Plumtree Support Center	<p>Plumtree Support Center は、プラムツリー製品に関する技術情報の総合的なリポジトリです。Support Center では、製品やドキュメントへのアクセス、ナレッジ ベースの記事の検索、最新のニュースや情報の参照、サポート コミュニティへの参加、トレーニングの受講、プラムツリー関連のニーズに適合するツールの入手を行うことができます。Support Center には次のコミュニティが含まれています。</p> <p>Technical Support Center</p> <p>サポート問題や機能要求の提出および追跡、ナレッジ ベースの検索、サービス パックおよびホット フィックスのダウンロード等を行うことができます。</p> <p>Deployment Center</p> <p>エンタープライズ ウェブ導入の展開、促進、および管理のためのツールの検索を行うことができます。同僚と戦略的なビジネス目標および技術目標に取り組んだり、アプリケーションのベスト プラクティスを習得したり、ポータルの起動例をダウンロードしたり、投資回収率を算出したりすることができます。</p> <p>Product Center</p> <p>プロダクトのダウンロード、リリース ノートの参照、最新のプロダクト資料へのアクセスなどが可能です。</p> <p>Developer Center</p> <p>開発者用のツールやドキュメントをダウンロードしたり、開発プロジェクトに対してサポートを得たり、ディスカッション フォーラムを通じて他の開発者と連絡を取ることができます。</p> <p>Education Center</p> <p>トレーニング コースに関する情報の入手、トレーニング クレジットの購入、受講するための登録を行うことができます。</p> <p>次のサイトにログインしても Support Center が表示されない場合は、アクセス権を得るために support@plumtree.com にお問い合わせください。</p> <p>http://portal.plumtree.com</p>

リソース名	内容										
技術サポート	<p>上記のリソースを使用しても問題を解決できない場合は、プラムツリー技術サポートにお問い合わせください。弊社のスタッフが、24 時間 365 日体制でお客様の技術サポート ニーズに対応致します。</p> <p>電子メール : support@plumtree.com</p> <p>電話番号 :</p> <table><tr><td>米国およびカナダ</td><td>+1 415.263.1696 または +1 866.262.PLUM (7586)</td></tr><tr><td>アジア パシフィック</td><td>+61 2.9931.7822</td></tr><tr><td>ヨーロッパと英国</td><td>+44 (0)1628 589124</td></tr><tr><td>フランス</td><td>+33 1.46.91.86.79</td></tr><tr><td>シンガポール</td><td>+65 6832.7747</td></tr></table>	米国およびカナダ	+1 415.263.1696 または +1 866.262.PLUM (7586)	アジア パシフィック	+61 2.9931.7822	ヨーロッパと英国	+44 (0)1628 589124	フランス	+33 1.46.91.86.79	シンガポール	+65 6832.7747
米国およびカナダ	+1 415.263.1696 または +1 866.262.PLUM (7586)										
アジア パシフィック	+61 2.9931.7822										
ヨーロッパと英国	+44 (0)1628 589124										
フランス	+33 1.46.91.86.79										
シンガポール	+65 6832.7747										

2

ポータル管理の概要

この章では、ポータルの概要およびポータル ユーザーやドキュメントを管理するために行う管理作業について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [「ポータル コンポーネントの概要」](#)
- [「ウェブ サービス アーキテクチャの概要」、2-6 ページ](#)
- [「ポータルの閲覧ユーザー インタフェースの概要」、2-8 ページ](#)
- [「ポータルの管理ユーザー インタフェースとツールの概要」、2-17 ページ](#)

ポータル コンポーネントの概要

以下の表では、このマニュアルに記載されている手順に従ってポータル ユーザーやドキュメントを管理する前にインストールおよび設定する必要のあるコンポーネントについて説明します。

表 2-1：ポータル コンポーネントの概要

コンポーネント	説明
ポータル データベース	ポータル データベースには、ユーザーやグループの設定、ドキュメント レコード、管理オブジェクトなどのポータル オブジェクトが格納されます。ポータル データベースには、ポータルを通して使用されるドキュメントは格納されません。ソースドキュメントは、元の場所から移動されることはありません。ポータル データベースの設定方法については、『 <i>Plumtree Foundation インストール ガイド</i> 』を参照してください。
管理ポータル	管理ポータルでは、ポータルのセットアップ、設定、コンテンツの管理などを行うことができます。管理ポータルは、ポートレットやその他のウェブ サービスの作成および管理などを行うための管理機能を提供します。管理ポータルのインストール方法については、『 <i>Plumtree Foundation インストール ガイド</i> 』を参照してください。

表 2-1 : ポータル コンポーネントの概要

コンポーネント	説明
ポータル	<p>ポータルは、エンドユーザーに対してポータル ページおよびコンテンツを配信します。</p> <p>エンドユーザーは、ポータルのマイ ページ、コミュニティ ページ、ナレッジ ディレクトリ、および検索機能を通してポータルのコンテンツにアクセスすることができます。また、ポートレットの基本設定やコミュニティの管理といった管理作業も行うことができます。</p> <p>ポータルのインストール方法については、『<i>Plumtree Foundation インストール ガイド</i>』を参照してください。ポータルの詳細設定については、付録 A 「詳細プロパティとログインの設定」を参照してください。</p>
Image Service	<p>Image Service は、ポータル コンポーネントにおいて使用または作成される静的コンテンツを配信します。</p> <p>Image Service は、プラムツリー システムで使用されるイメージおよびその他の静的コンテンツを配信します。</p> <p>Image Service のインストール方法については、『<i>Plumtree Foundation インストール ガイド</i>』を参照してください。</p> <p>プラムツリー サーバーや統合製品などの新しいコンポーネントを追加し、基本ポータル環境を拡張する場合は、追加の Image Service ファイルをインストールする必要がある場合があります。それらのコンポーネント用の Image Service ファイルのインストールについては、コンポーネント ソフトウェアに付属の資料を参照してください。</p>
Search Service	<p>Search Service は、ポータルに格納されているインデックスされたコンテンツを返します。</p> <p>Search Service はポータル、Collaboration、および Publisher からインデックスされたプラムツリー システムのコンテンツを返します。プラムツリー システムのインデックスされたコンテンツには、ドキュメント、ポートレット、コミュニティ、ユーザー、および多数の他のプラムツリー オブジェクトが含まれています。</p> <p>Search Service のインストール方法については、『<i>Plumtree Foundation インストール ガイド</i>』を参照してください。Search Service の詳細設定については、付録 A 「詳細プロパティとログインの設定」を参照してください。</p>

表 2-1 : ポータル コンポーネントの概要

コンポーネント	説明
Automation Service	<p>Automation Service は、ジョブおよびその他の自動化されたポータル タスクを実行します。</p> <p>Automation Service は、ナレッジ ディレクトリにドキュメントをクロールするためのタスク、グループやユーザーを外部の認証元と同期化するためのタスク、検索コレクションを維持するためのタスクなどを実行するためのジョブを実行します。</p> <p>Automation Service のインストール方法については、『<i>Plumtree Foundation インストール ガイド</i>』を参照してください。</p> <p>Automation Service のジョブを設定する方法については、第 5 章「管理タスクの自動化」を参照してください。</p>
ドキュメント リポジトリ サービス	<p>ドキュメント リポジトリ サービスには、ポータル コンポーネントによってアップロードされたドキュメントが格納されます。ドキュメント リポジトリ サービスには、Collaboration または Publisher にアップロードされたイメージやドキュメント等、プラムツリー システムにアップロードされたコンテンツが格納されます。</p> <p>ドキュメント リポジトリ サービスのインストール方法については、『<i>Plumtree Foundation インストール ガイド</i>』を参照してください。ドキュメント リポジトリ サービスに構成されているポータルのナレッジ ディレクトリの管理方法については、「コンテンツ ソースの設定」、4-7 ページを参照してください。</p>
API サービス	<p>API サービスは、プラムツリーの SOAP API へのアクセスを提供します。</p> <p>API サービスのインストール方法については、『<i>Plumtree Foundation インストール ガイド</i>』を参照してください。</p>
ウェブ サービス	<ul style="list-style-type: none"> • World Wide Web コンテンツ サービス ウェブ コンテンツ サービスは、WWW 上のドキュメント レコードをナレッジ ディレクトリに手動でアップロード（あるいは自動クロール）できるようにします。 • コンテンツ アップロード サービス コンテンツ アップロード サービスは、内部ネットワークのドキュメント レコードを手動でアップロード（または自動クロール）できるようにします。このサービスは、一部のユーザーに内部ネットワークへのアクセスを提供しない場合に有効です（例えば、エクストラネットを導入している場合）。

表 2-1：ポータル コンポーネントの概要

コンポーネント	説明
プラムツリー統合サービス	<p>プラムツリー統合サービスは、サード パーティのアプリケーションやリポジトリの統合を可能にします。プラムツリー統合サービスには、以下のアイデンティティ サービスとコンテンツ サービスが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プラムツリー アイデンティティ サービス <p>Active Directory: Microsoft Active Directory (AD) と Plumtree Foundation の間でユーザーの認証と同期を行うことを可能にします。</p> <p>LDAP: LDAP (Lightweight Directory Protocol) と Plumtree Foundation の間でユーザーの認証と同期を行うことを可能にします。</p> • プラムツリー コンテンツ サービス <p>コンテンツ サービスは、サード パーティのシステムやアプリケーション内の新しいコンテンツをスキャンし、それらのコンテンツへのリンクをプラムツリー ナレッジ ディレクトリの整理された検索可能な構造に分類します。この機能によって、お客様は、Plumtree Foundation 内でサード パーティのコンテンツを発行および活用し、コストの合理化を図ることができます。プラムツリー コンテンツ サービスを使用して以下のソースをスキャンすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ Windows ファイル システム ◦ Documentum ◦ Lotus Domino ◦ Microsoft Exchange • EDK と プラムツリー サービス ステーション <p>これらは、統合サービスを開発してテストするために使用します。</p>
ポートレット	<p>ポートレットは、情報のほか、カスタマイズされたツールやサービスをポータル ユーザーに提供します。ポートレットは、ポータルにアプリケーション、ツール、およびサービスを統合し、これらでポータルのセキュリティ、キャッシュ機能、およびカスタマイズ機能を利用することを可能にします。</p> <p>ポートレットに関する詳細については、「ポートレットによるポータル サービスの拡張」、4-14 ページを参照してください。</p> <p>プラムツリーは、バックエンドのコンテンツ リソースをポータルに統合するためのポートレット ソフトウェア パッケージを提供しています。これらのポートレットに関する詳細情報を入手するには、Plumtree Support Center にアクセスしてください。</p>

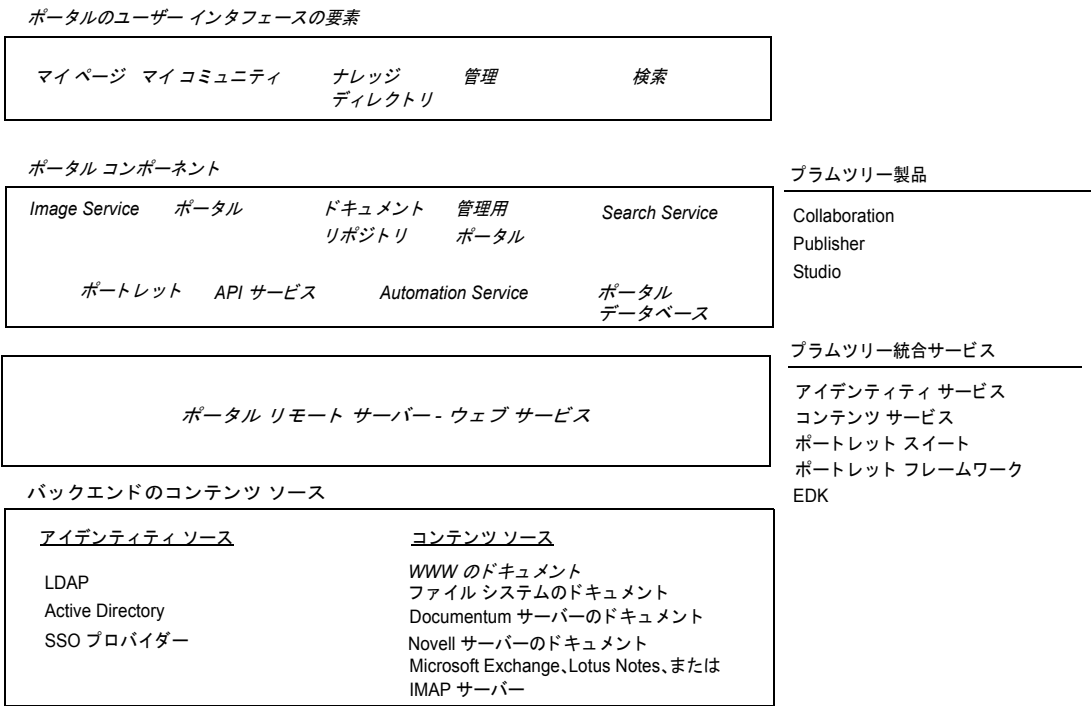
表 2-1: ポータル コンポーネントの概要

コンポーネント	説明
リモート サーバー	<p>リモート サーバーは、ポータルからバックエンドまたはリモートのコンテンツ ソースにアクセスすることを可能にするウェブサービスをホストします。リモート サーバーは、ファイアウォールの外からアクセスできるようにする必要はありません。ポータルは、リモート サーバーのコンテンツへのゲートウェイとして機能します。</p> <p>プラムツリー統合製品に含まれているリモート サーバーに関する情報を入手するには、Plumtree Support Center にアクセスしてください。</p>
プラムツリー アクティビティ サービス	<p>Plumtree Collaboration、Publisher、および Studio を導入することによって、ポータルにコラボレーション機能およびブランド機能を追加することができます。</p> <p>これらの製品に関する情報を入手するには、Plumtree Support Center にアクセスしてください。</p>
プラムツリー統合 サービス	<p>ポータルにバックエンドのコンテンツ ソースを統合するためのアイデンティティ サービス、コンテンツ サービス、およびポートレット サービスを提供します。</p> <p>EDK を使用して独自の統合サービスを開発することも可能です。</p> <p>これらの製品に関する情報を入手するには、Plumtree Support Center にアクセスしてください。</p>
リモート コンテンツ ソース	<p>リモートコンテンツ ソースは、企業内で使用されている既存のユーザー データ リポジトリおよびドキュメント リポジトリです。ポータル オブジェクトを設定して、これらのバックエンドの認証元に設定されているユーザーをポータルのユーザー グループに追加したり、バックエンドのコンテンツ ソースに格納されているドキュメントに対するポータル レコードおよびリンクをクロールしたりすることができます。</p> <p>バックエンド プロバイダーに関する詳細については、ベンダーによって提供されている資料を参照してください。</p> <p>リモート コンテンツ ソースをアクセスするためにポータル オブジェクトを設定する方法については、このマニュアルおよびプラムツリー統合製品に付属のマニュアルを参照してください。</p>

[図 2-1](#) は、ポータルのユーザー環境を構築するために、ポータル管理者が管理する必要のあるポータルコンポーネントおよびコンテンツ ソースの概要図です。斜体表記のコンポーネントは、上記で説明したコンポーネントであり、これらのコンポーネントについては、このマニュアルで詳細に説明します。そ

他のコンポーネントのインストール方法および使用方法については、各コンポーネントに付属のマニュアルを参照してください。

図 2-1: ポータル コンポーネントの概要

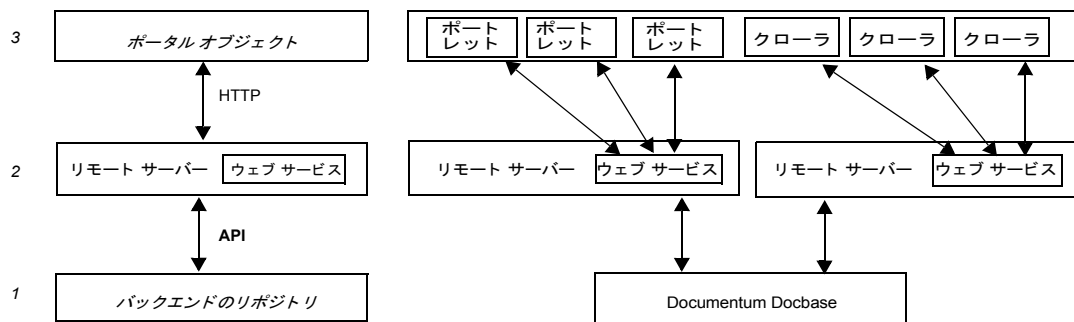


ウェブ サービス アーキテクチャの概要

ポータル内の多くのオブジェクトは、ウェブ サービスを使用します。ウェブ サービスは、ポータルを実行するコンピュータとは論理的に独立したコンピュータ上で実行されるコンポーネントであり、ポータルとは HTTP で通信します。プラムツリーでは、このような独立したコンピュータを *リモート サーバー* と呼びます。ウェブ サービス アーキテクチャでは、複数のタイプのリモート サービス (アイデンティティ サービス、コンテンツ サービス、ポートレット) が 1 つの論理リモート サーバーを共有するように構成できるため、ポータルを構成するコンピュータが管理しやすくなります。

図 2-2 は、複数のポータル オブジェクトの間で同じウェブ サービスを共有できるように構成する方法を示します。

図 2-2: ウェブ サービス アーキテクチャ



この例では、次のような構成になっています。

1. バックエンドのリポジトリには、遠隔地に保管されているドキュメントが格納されています（この例では、Documentum Docbase）。
2. リモート サーバーのコンピュータは、ウェブ サービスのソフトウェア（この例では、プラムツリーが提供したソフトウェア）をホストしています。
3. ポータルでは、プラムツリーのパッケージ ファイル（.pte ファイル）をインポートすることによってリモート サーバーとウェブ サービスを登録します。このパッケージ ファイルには、リモート サーバーの URL や認証情報、バックエンドのリポジトリの接続情報といったウェブ サービスの設定の定義が記載されています。この例では、Documentum Docbase 用の接続情報を設定してウェブ サービスを登録します。

また、追加の管理設定やユーザー設定を指定することによって、ウェブ サービスを使用するオブジェクトを作成します。この例では、ポートレット用の設定とクローラ用の設定を指定することによって複数のポートレット オブジェクトやクローラ オブジェクトを作成しています。

図 2-2 で示しているように、ウェブ サービスによって作成した異なるオブジェクトが、各種の設定（複雑な設定も含む）を共有するように設定することも可能です。例えば、ウェブ サービスを使用してポートレットやクローラ用のテンプレートを作成することが

できます。ビジネス ユーザーは、これらのテンプレートの設定をカスタマイズして必要な機能を導入することができます。

複数のウェブ サービスの機能を使用する複合アプリケーションを作成することも可能です。例えば、ユーザー認証を必要とするアプリケーションにアクセスする複数のウェブ サービスを構築することができます。これらの個々のウェブ サービスに対して個別の設定ページを作成し、ユーザーに同じ情報を何度も指定させるのではなく、これらの共有設定に対するリンクを作成し、ユーザーがこれらのウェブ サービスすべてに対して情報を 1 度だけ指定すれば済むようにすることができます。

ウェブ サービスを使用するオブジェクト用の管理設定およびユーザー設定に関する詳細情報は、Plumtree Developer Center から入手できます。

このマニュアルで説明している特定のウェブ サービスの種類に必要な設定については、そのウェブ サービスの資料を参照してください。

ポータルの閲覧ユーザー インタフェースの概要

この節では、ポータルの閲覧ユーザー用のユーザー インタフェースについて説明します。

ポータルのユーザー インタフェースの基本機能およびオプションに関する主なトピックは次の通りです。

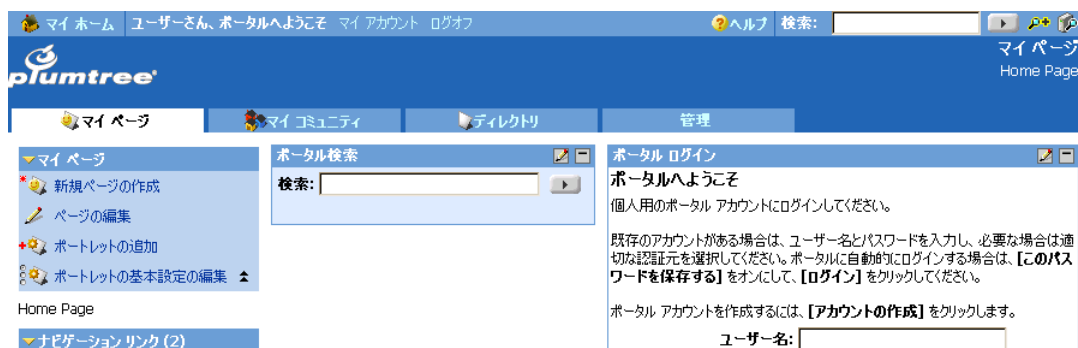
- [「ポータル エリア」](#)
- [「表示オプション」、2-10 ページ](#)
- [「ナビゲーション オプション」、2-11 ページ](#)
- [「ブランド」、2-15 ページ](#)
- [「ロケールの設定」、2-15 ページ](#)

ユーザー インタフェースを定義するには、デフォルトの環境定義と追加の環境定義を設定します。環境定義とは、ユーザーがポータルを使用する際に表示される内容を定義する一連の設定を含むポータル オブジェクトです。ユーザーは、複数の環境定義と関連付けることができます。環境定義の設定に関する詳細については、[「環境定義の設定」、2-16 ページ](#)を参照してください。

ポータル エリア

[図 2-3](#) は、この節で説明する主要ポータル エリアを示しています。

図 2-3: 主要ポータル エリア



以下の表では、各主要ポータル エリアの目的を概説します。

表 2-2 : 主要ポータル エリア

主要エリア	目的
マイ ページ	マイ ページでは、個人用設定に基づいてポータルが表示されます。ユーザーは、マイ アカウントの設定を変更したり、ポートレットを追加することによって、マイ ページをカスタマイズすることができます。ユーザーは、マイ ページを 6 ページまで作成し、コンテンツやサービスを整理することができます。
マイ コミュニティ	マイ ページは、ユーザーの個人用設定に基づいたポータルの表示ですが、コミュニティでは、共通の関心を持つ複数のユーザーに対して同じ表示が提供されます。コミュニティの作成アクティビティ権を持っているユーザーであれば、誰でもコミュニティを作成し、コミュニティに関連するコンテンツ、またはコミュニティのメンバーが作業を共有するためのコンテンツを表示するポートレットを導入することができます。
ディレクトリ	ポータルのナレッジ ディレクトリには、ドキュメントへのリンクが表示されます。外部または内部のウェブ ページ、Microsoft Office ドキュメント、その他どのようなファイルでもドキュメントとして扱うことができます。ナレッジ ディレクトリでは、ファイル システムと同様に、これらのリンクをフォルダやサブフォルダといった構造で管理します。特定のドキュメントを探すのではなく、特定のトピックに関してどのようなドキュメントがあるかを確認するためにポータルを参照する際に、容易に操作することができます。

表 2-2：主要ポータル エリア

主要エリア	目的
管理	<p>管理エリアでは、ポータルのオブジェクト（クローラ、ポートレット、ユーザー等）が格納されている管理用オブジェクトディレクトリや、ポータル ユーティリティ（サーバー設定ユーティリティ等）にアクセスすることができます。ポータル管理者に付与されている権限によって、管理エリアには異なるメニュー項目が表示されます。</p> <p>管理エリアからアクセスできる様々なオブジェクトやユーティリティについてはこのマニュアルの中で説明します。</p>

表示オプション

以下の表では、ポータルの表示オプションを概説します。

表 2-3：表示オプション

オプション	説明
標準ポータル	<p>プラムツリー ポータル ソフトウェア用の全機能を装備したユーザーインタフェース。内部ユーザーや外部ユーザーに最も豊富なユーザー インタフェース環境を提供するには、このオプションを使用します。このバージョンは、支援技術には対応していません。</p>
視聴覚障害を持つ方のための支援技術ポータル	<p>視聴覚障害を持つ方のために設計されたポータル。支援技術に対応しているポートレットのみが表示されます。</p> <p>米国のリハビリテーション法第 508 条は、連邦局の電子技術および情報技術に関して、障害を持つ人（従業員や一般市民を含む）でもアクセスできるようにしなければならないという連邦法令です。ウェブベース技術に対する米国連邦政府の基準は、ワールド ワイド ウェブ コンソーシアム (W3C) のウェブ アクセシビリティ イニシアティブによって策定されたアクセス ガイドラインに基づいています。</p> <p>ウェブベース技術に対する米国連邦政府の基準に準拠するように設計された支援技術ポータルは、視聴覚障害を持つエンドユーザーが、画面読み上げ、画面拡大鏡、音声認識、点字の読み取りデバイスといった支援ブラウジング技術を利用してポータルにアクセスできるようにします。このインタフェースは、テキストベースで、情報は順次に表示されます。クライアント側の埋め込み JavaScript または Java アプレットは使用しません。</p>

表 2-3：表示オプション

オプション	説明
低帯域幅ポータル	<p>回線速度が低いインターネット接続を使用しているユーザーをサポートします。このバージョンは、プラムツリーが提供しているすべてのポートレットに対応していますが、支援技術はサポートしていません。リモート ユーザーは、ポータル ページを表示する際に、標準バージョンまたは低帯域幅バージョンのいずれかを使用できます。また、ユーザーはセッション中に 1 つのバージョンからもう 1 つのバージョンにその場で切り替えることができます。</p> <p>低帯域幅ポータルは、ユーザーがポータルをリモートからアクセスする際、低い帯域幅または大量のトラフィックによってネットワークのパフォーマンスが遅くなっている場合に、より高いパフォーマンスを提供します。このバージョンは、グラフィックスがはるかに少ない、JavaScript や Java アプレットが組み込まれていないユーザーインターフェースを提供します。</p>

ナビゲーション オプション

ポータルには、多数のナビゲーション形式が装備されており、帯域幅の制約やブラウザ条件、デザインのニーズ、導入規模、エンドユーザーの希望に最も適合するメニュー レイアウトおよび基本ナビゲーション構造が選択できるようになっています。また、既存コードをベースに、ユーザー独自のナビゲーション形式を作成することも可能です。ナビゲーションやその他のインターフェース要素をカスタマイズする方法については、次のサイトから『*Plumtree Development Documentation G6*』を参照してください。http://www.plumtree.com/edoc/G6/Plumtree_Development_Documentation.htm

ポータルのナビゲーション形式は、ナビゲーション要素の配置によって水平および垂直のグループに分けることができます。水平ナビゲーションでは、マイ ページ、コミュニティ、ナレッジ ディレクトリ、管理エリアへのリンク、および指定した必須リンクがページの上部にドロップダウン メニューとして表示され、ポートレットに使用できるスペースが最大化されます。垂直ナビゲーションでは、リンクは画面の左側に表示されます。

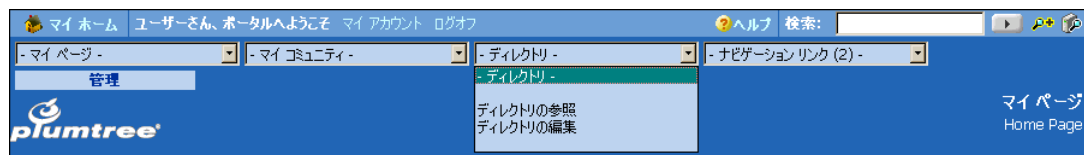
すべてのナビゲーション形式（「ナビゲーション形式なし」以外）には、ウェブ サイト、ポータルの専門家のユーザー プロファイル、ポータル ナレッジ ディレクトリのドキュメント、およびコミュニティ ページへの必須リンクを含めることができます。ナビゲーション形式で、これらのリンクは、選択した名前のカテゴリの下（マイ ページ、マイ コミュニティ、ディレクトリ、他）に表示されます。新しいポートレットやコミュニティ、重要なドキュメントの参照を促進するためにこれらのリンクを使用することをお勧めします。

以下のナビゲーション オプションは、環境定義において指定します。

水平ドロップダウン コンボボックス ナビゲーション

このナビゲーション形式では、標準の HTML コントロールによって、ナビゲーション要素がドロップダウン メニューに設定されています。メニューの生成に JavaScript を使用しないため、帯域の利用効率が低いオプションです。

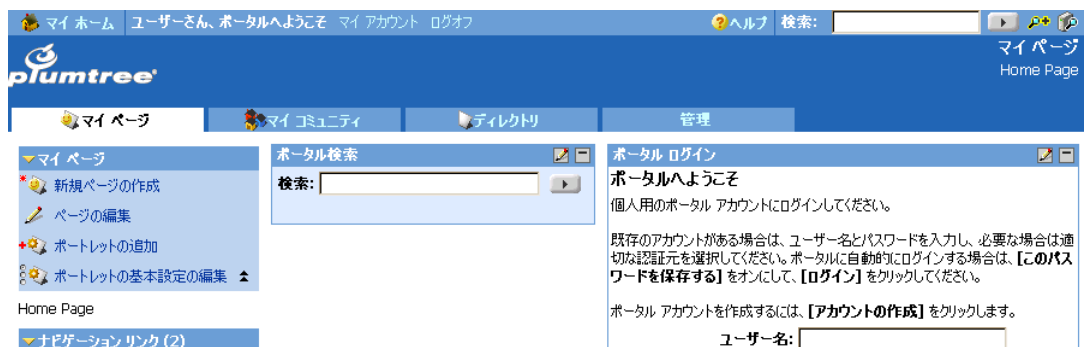
図 2-4: 水平ドロップダウン コンボボックス ナビゲーション



タブ セクション付き左の縦型ナビゲーション

このナビゲーション形式では、ページの上部の水平タブに主要ポータル エリアが表示され、これらをクリックすると、クリックしたポータル エリアで使用できるオプションへのリンクがページの左側に表示されます。この形式は、Amazon.com や MSN 等のサイトで使用されているナビゲーションと類似しています。

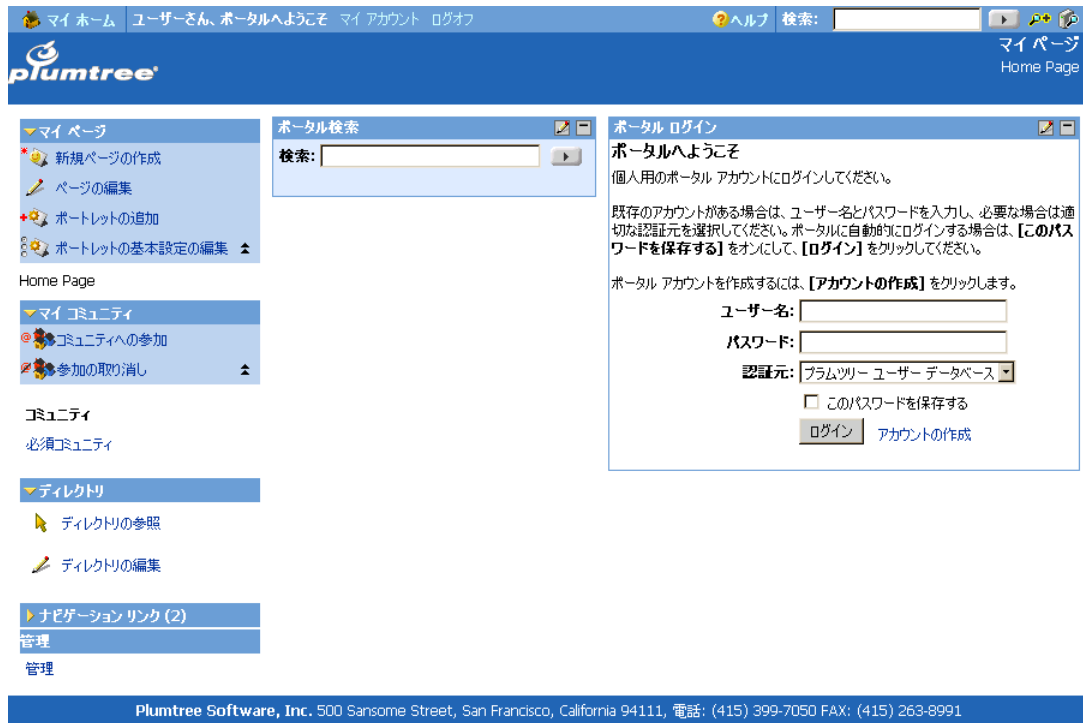
図 2-5: タブ セクション付き左の縦型ナビゲーション



左の縦型ナビゲーション

このナビゲーション形式では、ユーザーが特定の要素を自分で最小化しない限りすべてのリンクが表示されます。クリックをせずにすべてのリンクを表示できるので、とても使いやすいナビゲーションです。また、メニューの生成に JavaScript を使用しないため、帯域の利用効率が低いオプションです。しかし、ユーザーが多数のコミュニティに参加している場合は、リンクを表示するためにページをスクロールする必要があります。

図 2-6: 左の縦型ナビゲーション



必須リンクのみ

このナビゲーション形式では、必須リンク（環境定義で指定したもの）のみが水平ドロップダウン ナビゲーションと同じメニュー スタイルで表示されます。ユーザーには、ホームページ（ログインした際に表示されるページ）と必須リンクが作成されているポータル エリアのみが表示されます。しかし、ユーザーは、検索を通してドキュメントにアクセスしたり、ポートレットを通して他のエリアにアクセスしたりすることができます。このナビゲーションは、ユーザーのポータルへのアクセスを厳しく制限したい場合に使用することをお勧めします。例えば、顧客グループに対し特定のコミュニティのみへのアクセスを許可し、新しいプロダクトに対する情報を提供することができます。

図 2-7: 必須リンクのみ



ナビゲーションなし

このナビゲーション形式では、トップ バーは表示されますが、ナビゲーションは表示されません。しかし、ユーザーにアクセスが許可されている場合は、管理エリアへのリンクが表示されます。[必須リン

クのみ」のナビゲーション形式と同様、ユーザーは検索およびポートレットを通してポータル コンテンツおよび異なるエリアにアクセスできます。

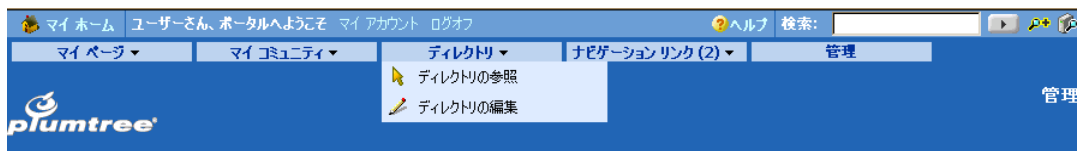
図 2-8: ナビゲーションなし



水平ドロップダウン ナビゲーション

このナビゲーション形式では、ナビゲーション要素にアクセスするための水平タブおよび JavaScript ベースのドロップダウン メニューが使用されています。これらの要素に、マウス ポインタを置くのではなく、クリックすることによってメニューを表示できます。ドロップダウン メニューは縦にも横にも広がりますが、ポートレットが隠れないように、ポータルのバナーのみを覆うようになっています。ユーザーが割り当てられたスペースに表示しきれないほどのコミュニティに所属している場合、ドロップダウン メニューに垂直のスクロールバーが表示されます。ドロップダウン メニューの垂直および水平のタイリングの範囲はユーザーが設定することができます。

図 2-9: 水平ドロップダウン ナビゲーション



低帯域幅およびユーザー補助によるナビゲーション

低帯域幅およびユーザー補助によるナビゲーションは、ポータルの低帯域幅モードおよびユーザー補助のモードで使用されます。それらのモードでは、標準モードの環境定義で選択したナビゲーションに関わらずこのナビゲーションが使用されます。

ポートレット用ナビゲーション

ポートレット用ナビゲーションでは、ヘッダとフッタ以外のすべてのナビゲーション エリアが無効化されます。検索ボックスが設置されているトップ バーも無効化されます。このナビゲーション形式は、ナビゲーション タグを使用して、ナビゲーションをポートレット（通常はヘッダ ポートレットまたはフッタ ポートレット）で制御する場合のみに使用します。ナビゲーション タグを使用することによって、開発者は、提供されているナビゲーション形式を編集するよりも迅速に且つ容易にナビゲーションをカスタマイズすることができます。

ナビゲーション タグに関する詳細については、次のサイトにアクセスして、『*Plumtree Development Documentation G6*』を参照してください。

http://www.plumtree.com/edoc/G6/Plumtree_Development_Documentation.htm

ブランド

ブランド機能によって、ヘッダやフッタを使用して、ポータル、環境定義、およびコミュニティの外観をカスタマイズすることができます。例えば、ヘッダに貴社のロゴやスローガンを追加したり、フッタに連絡先や著作権情報を追加したりすることができます。

ブランド ポートレットを作成または編集する際に、ポートレットのプロパティ、HTML、およびデフォルト値を設定します。環境定義およびコミュニティの管理者は、これらのブランド ポートレットをそれぞれの環境定義またはコミュニティに追加することができます。また、適切な権限を持つコミュニティ管理者であれば、ポートレットをニーズに合わせてさらにカスタマイズすることができます。

注意：環境定義のブランド ポートレットのプロパティ値を変更することはできません。したがって、環境定義のブランド ポートレットは、必ずデフォルトのプロパティ値を表示します。

ポートレット エディタのセキュリティ設定で許可を与えることによって、ユーザーがポートレットを表示したりコミュニティ ページにポートレットを追加したりできるようにします。しかし、ユーザーが **Publisher** で作成されたポートレットの外観をカスタマイズできるようにするには、そのユーザーをブランドまたは管理者グループに追加する必要があります。適切な権限を持っていれば、ユーザーはコミュニティ エディタを開き、[ヘッダおよびフッタ] ページでブランド ヘッダ ポートレットまたはブランド フッタ ポートレットの名前をクリックし、デフォルトのプロパティ値を編集して、ポートレットの全体のデザインを変更することなく、ポートレットのコンテンツ（例えば、テキスト、イメージ、または配色）を変更することができます。

ブランド ポートレットの作成および編集

Publisher の管理フォルダに対して管理権限を持つユーザーは、次の手順に従って、ブランド ポートレットを作成または編集することができます。

1. **[管理]** をクリックします。
2. **[Publisher | Branding]** フォルダを開きます。
3. ポートレット エディタを開きます。
 - 新規のブランド ポートレットを作成するには次を行います。
 - a. [オブジェクトの作成] ドロップダウン リストで、**[ポートレット]** をクリックします。
 - b. [テンプレートまたはウェブ サービスの選択] ダイアログ ボックスで、**[ヘッダ ポートレット テンプレート]** または **[フッタ ポートレット テンプレート]** を選択して、**[OK]** をクリックします。
 - 既存のブランド ポートレットを編集するには、ブランド ポートレットの名前をクリックします。
4. [ウェブ サービス] の下、[このポートレットの設定] の右側にある **[編集]** をクリックします。
5. ブランド ポートレット管理ウィザードで、オンライン ヘルプの説明に従ってポートレットを定義します。

注意：ブランドに関する詳細については、Plumtree Publisher の資料を参照してください。

ロケールの設定

ユーザーは、ロケールの設定によって下記を指定することができます。

- ポータルのユーザー インタフェースに使用する言語
- ポータルの入力フォーマット

例えば、[英語 (英国)] を選択すると、ポータルで日付の表示に使用される日付フォーマットは DD/MM/YYYY になりますが、[英語 (U.S.)] を選択した場合の日付フォーマットは MM/DD/YYYY になります。

オブジェクトのローカライゼーションについては、[付録 C 「ポータルのローカライズ方法」](#)を参照してください。

環境定義の設定

環境定義を設定することによって、1 つのポータル内で複数のユーザー環境を提供することができます。環境定義を使用してポータルに予めポートレットを設定することはできませんが、独自のマイ ページを持つ多数のゲスト ユーザーを作成し、異なる環境定義に関連付けることができます。作成したルールに基づいて、各ゲスト ユーザーには異なる環境定義が使用されます。

環境定義と環境定義の規則を使用して次の要素を設定することができます。

- その環境定義にアクセスした場合に表示されるポータル機能
 - 注意：**ナレッジ ディレクトリを無効にすると、ユーザーはドキュメント フォルダを参照できなくなります。ポータル ドキュメントを検索することはできます。
- ナビゲーション形式
- ブランド形式
- 必須リンク
- 表示されるデフォルトのホームページ（マイ ページ、特定のコミュニティ、ナレッジ ディレクトリのフォルダなど）
- その環境定義を使用するゲスト ユーザー、関連付けるマイ ページを指定するためのログイン設定
- その環境定義に関連付けるフォルダ
- ユーザーが特定の条件を満たした場合に表示する環境定義の指定

環境定義の作成

注意：環境定義を作成するには、その環境定義を保存するフォルダへの管理アクセス権限が必要になります。

環境定義を作成するには次を行います。

1. [**管理**] をクリックします。
2. 管理フォルダを選択します。
3. [オブジェクトの作成] ドロップダウン リストで、[**環境定義**] をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従って、環境定義の機能、ナビゲーション、およびブランドを設定します。
5. [**終了**] をクリックします。

ユーザーに対して環境定義を適用する方法

下記の 3 つの方法によって、ユーザーに対して環境定義を適用することができます。

- 環境定義の規則マネージャで作成した規則をユーザーが満たした場合に適用
これらの規則では、ユーザーがポータルをアクセスするために使用した URL、ユーザーがアクセスしたコミュニティ、ユーザーが所属しているグループ、ユーザーの IP アドレスなどを条件として指定することができます。
- 環境定義が関連付けられているフォルダにユーザーが格納された場合に適用
- 環境定義が明示的に適用されていない場合はデフォルトの環境定義を適用

環境定義を決定する際は、まず環境定義の規則が適用され、次にフォルダの関連付けが適用されます。環境定義の規則またはフォルダの関連付けに基づいて、ユーザーに対して適用する環境定義を決定できない場合は、インストール時に作成されたデフォルトの環境定義が適用されます。

環境定義の規則を作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. **[ユーティリティの選択]** ドロップダウン メニューで、**[環境定義の規則マネージャ]** をクリックします。
3. **[新規規則の作成]** をクリックし、オンライン ヘルプの説明に従って規則を追加します。
4. **[終了]** をクリックします。
5. オンライン ヘルプの説明に従って、既存規則と新規規則が評価される順番を設定します。
6. **[終了]** をクリックします。

特定のフォルダ内に作成されたユーザーに対して環境定義を関連付けるには次を行います。

1. オンラインヘルプの説明に従って、環境定義を作成し、管理フォルダと関連付けます。
2. 環境定義を関連付けたフォルダにユーザーを追加します。
 - 手動でユーザーを作成する場合は、環境定義を関連付けたフォルダの中で作成するか、作成した後でそのフォルダに移動します。
 - 認証元を使用する場合は、認証元エディタのメイン設定ページの **[デフォルト プロファイル]** で、新規ユーザーのターゲット フォルダとして環境定義を関連付けたフォルダを選択します。
 - 案内状を使用する場合は、案内状エディタのメイン設定ページで、案内状受信者用のフォルダとして環境定義を関連付けたフォルダを選択します。

上記のいずれかの方法によって新規ユーザーを環境定義のフォルダ内に作成することにより、そのユーザーがログインした際に、その環境定義を適用することができます。

ポータルにユーザーを追加するための手順については、[第 3 章「ポータル ユーザーとグループの管理」](#)を参照してください。

ポータルの管理ユーザー インタフェースとツールの概要

この節では、ポータルの管理ユーザーのためのユーザー インタフェースについて説明し、管理者がポータルを管理するために使用できるツールについて概説します。以下のトピックについて説明します。

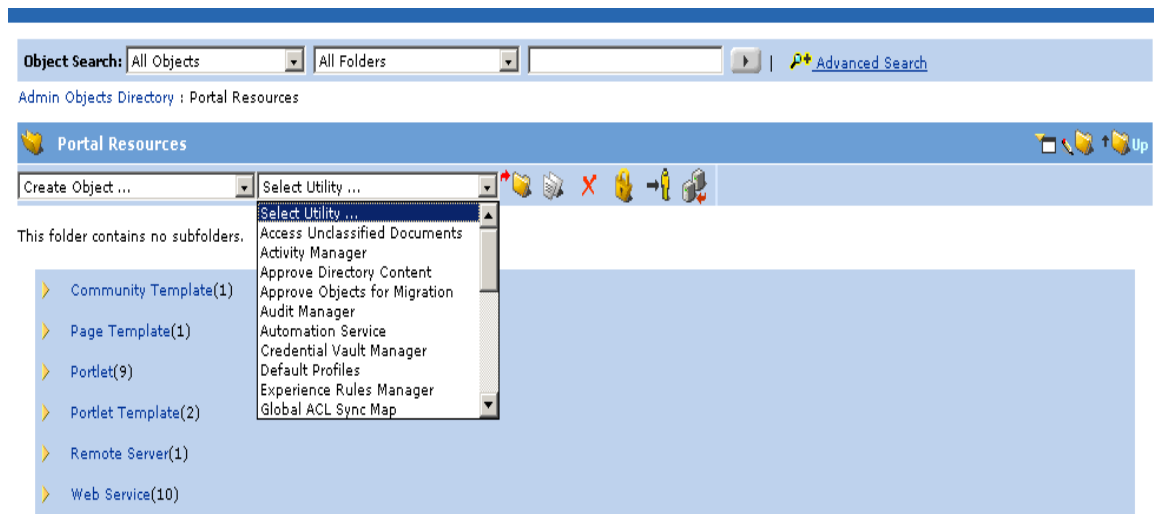
- ・ [「ポータルの管理ページ」](#)
- ・ [「ポータル環境内の管理ユーティリティ」、2-22 ページ](#)

ポータルの管理ページ

ポータルの管理ページには、ポータルの管理タスクを実行するための管理オブジェクトやユーティリティが表示されます。このガイドのすべての手順においては、まずポータルの管理ページを表示するために **[管理]** をクリックする必要があります。

[管理] をクリックすると、ポータルに管理オブジェクト ディレクトリが表示されます。[図 2-10](#) は、管理オブジェクトのサブ フォルダ (*Portal Resources*)、[管理オブジェクトの作成] ドロップダウン リスト、展開された [ユーティリティの選択] ドロップダウンリストを示しています。

図 2-10: ポータルの管理ページ



管理オブジェクト ディレクトリに表示されるフォルダや [オブジェクトの作成] ドロップダウン リストと [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストに表示されるユーティリティは、ポータルにログインする際に使用したユーザー名に関連付けられているアクティビティ権によって異なります。管理者グループやユーザーにアクティビティ権を割り当てる方法については、[第 3 章「ポータル ユーザーとグループの管理」](#)を参照してください。

以下の表では、[オブジェクトの作成] ドロップダウン リストから作成できるオブジェクトについて説明します。

表 2-4 : [オブジェクトの作成] ドロップダウン リスト

オブジェクト	説明
管理フォルダ	管理オブジェクト ディレクトリ内にフォルダを作成します。
認証元 - リモート	リモート サーバー上の認証元を参照するポータルの認証元オブジェクトを設定します。

表 2-4 : [オブジェクトの作成] ドロップダウン リスト

オブジェクト	説明
コミュニティ	ポータル コミュニティを設定します。
コミュニティ テンプレート	コミュニティ オブジェクトの基となるテンプレートを設定します。
コンテンツ クローラ - リモート	リモート ホスト上にあるターゲットに対するクローラ インスタンスを設定します。
コンテンツ クローラ - WWW	WWW 上にあるターゲットに対するクローラ インスタンスを設定します。
コンテンツ ソース - リモート	リモートのリポジトリを参照するポータルのコンテンツ ソース オブジェクトを設定します。
コンテンツ ソース - WWW	WWW 上のサイトを参照するポータルのコンテンツ ソース オブジェクトを設定します。
コンテンツ タイプ	コンテンツ タイプの識別子を設定します。
環境定義	ブランドやナビゲーション形式などの要素を含むユーザー環境を設定します。
コマンドライン操作	コマンドライン スクリプトを呼び出すジョブを設定します。
ネットワーク検索 - 受信	ネットワーク ポータルとの受信検索関係を設定します。
ネットワーク検索 - 送信	ネットワーク ポータルとの送信検索関係を設定します。
フィルタ	ドキュメントのフィルタを設定します。
グループ	グループの ACL とメンバーシップを設定します。
案内状	ポータル ユーザーになるための案内状、またはポータル オブジェクトを表示するための案内状を設定します。
ジョブ	管理タスクを自動化するためのジョブを設定します。
ページ	(コミュニティ フォルダを表示している場合のみ) コミュニティに追加するページを設定します。
ページ テンプレート	マイ ページまたはコミュニティ ページの基となるページ テンプレートを設定します。

表 2-4 : [オブジェクトの作成] ドロップダウン リスト

オブジェクト	説明
ポートレット	ポートレットのインスタンスを設定します。
ポートレット バンドル	同時に選択する必要があるポートレットのバンドルを設定します。
ポートレット テンプレート	ポートレットの基となるテンプレートを設定します。
プロファイル ソース - リモート	リモート ホスト上のプロファイル リポジトリを参照するポータルのプロファイル ソース オブジェクトを設定します。
プロパティ	ポータルのプロパティを設定します。
リモート サーバー	リモート ホスト上のウェブ サービス用のリモート サーバー ホストを設定します。
スナップショット クエリ	ポートレットのコンテンツを公開するためのクエリと発行場所を設定します。
ユーザー	ポータルのユーザーを設定します。
ウェブ サービス - 認証	リモート ホスト上の認証サービスを参照するウェブ サービス ポータル オブジェクトを設定します。
ウェブ サービス - コンテンツ	リモート ホスト上のコンテンツ サービスを参照するウェブ サービス ポータル オブジェクトを設定します。
ウェブ サービス - ビルトイン ポートレット	ポータルでホストされているポートレット サービスを参照するウェブ サービス ポータル オブジェクトを設定します。
ウェブ サービス - プロファイル	リモート ホスト上のプロファイル サービスを参照するウェブ サービス ポータル オブジェクトを設定します。
ウェブ サービス - リモート ポートレット	リモート ホスト上のポートレット サービスを参照するウェブ サービス ポータル オブジェクトを設定します。
ウェブ サービス - 検索	リモート ホスト上の検索サービスを参照するウェブ サービス ポータル オブジェクトを設定します。

以下の表では、[ユーティリティの選択] ドロップダウン リストから選択して利用できる管理ユーティリティについて説明します。

表 2-5 : [ユーティリティの選択] ドロップダウン リスト

ユーティリティ	説明
未分類ドキュメントへのアクセス	コンテンツ クローラによってインポートされ、ナレッジ ディレクトリの Unclassified Documents (未分類ドキュメント) フォルダに保存されたドキュメントにアクセスするために使用します。
アクティビティ マネージャ	アクティビティを作成、編集、または削除するために使用します。
ディレクトリ コンテンツの承認	ナレッジ ディレクトリに提出されたディレクトリ コンテンツを承認するために使用します。
移行するオブジェクトの承認	移行パッケージを承認するために使用します。
監査 マネージャ	ユーザーのアクティビティまたはオブジェクトのアクティビティの監査を行うために使用します。
Automation Service	ジョブを設定して実行するために使用します。
<i>Custom</i> ユーティリティ	独自のユーティリティを作成、編集、使用、または削除するために使用します。
デフォルト プロファイル	デフォルトのユーザー プロファイルを設定するために使用します。
環境定義の規則 マネージャ	環境定義の規則を定義し、優先付けするために使用します。
グローバル ACL 同期マップ	グローバル アクセス コントロール リスト (ACL) 同期マップを設定するために使用します。
グローバル ドキュメント プロパティ マップ	グローバル ドキュメント プロパティ マップを設定するために使用します。
グローバル コンテンツ タイプ マップ	グローバル コンテンツ タイプ マップを設定するために使用します。
グローバル オブジェクト プロパティ マップ	グローバル オブジェクト プロパティ マップを設定するために使用します。
ナレッジ ディレクトリの基本設定	ナレッジ ディレクトリの基本設定を設定するために使用します。
ローカライゼーション マネージャ	ポータルをローカライズするために使用します。

表 2-5 : [ユーティリティの選択] ドロップダウン リスト

ユーティリティ	説明
移行 - エクスポート	ポータルのエクスポート パッケージを作成するために使用します。
移行 - インポート	ポータルのエクスポート パッケージをインポートするために使用します。
ポータル設定	ポータルの設定を編集するために使用します。
無効化されたログインの解除	ユーザーのロックを管理するために使用します。
アイテム ロックの解除	オブジェクトのロックを管理するために使用します。
検索サーバー設定	検索結果の基本設定を管理するために使用します。
Search Service マネージャ	Search Service の設定を管理するために使用します。
スマート ソート	スマート ソート ユーティリティを実行するために使用します。
システム ヘルス モニタ	診断情報を表示するために使用します。
ユーザー プロファイル マネージャ	ユーザー プロファイル マップを編集するために使用します。

ポータル環境内の管理ユーティリティ

以下の表では、ポータルのホスト コンピュータの **PT_HOME/ptportal/6.0/bin** ディレクトリとポータルの管理インタフェースからアクセスできる管理ユーティリティを概説します。

表 2-6 : ポータル環境内の管理ユーティリティ

ユーティリティ	目的
cryptoutil.sh	<p>Cryptographic Password ユーティリティは、インストール時に設定するパスワードを生成するために使用します。</p> <p>Cryptographic Password ユーティリティのマンページを表示するには次のコマンドを入力してください。</p> <pre>PT_HOME/ptportal/6.0/bin/cryptoutil.sh -h</pre> <p>PT_HOME には、ポータルをインストールしたルート ディレクトリ、例えば、/opt/plumtree を指定します。</p>

表 2-6 : ポータル環境内の管理ユーティリティ

ユーティリティ	目的
portalenv.sh	<p>Portal Environment ユーティリティは、<i>PT_HOME</i>/ptportal/6.0/bin ディレクトリ内のツール用のポータル環境を設定するために使用します。</p> <p>Portal Environment ユーティリティのマンページを表示するには次のコマンドを入力してください。</p> <pre><i>PT_HOME</i>/ptportal/6.0/bin/portalenv.sh -h</pre> <p><i>PT_HOME</i> には、ポータルをインストールしたルート ディレクトリ、例えば、/opt/plumtree を指定します。</p>
ptmigration.sh または ptmigration.bat	<p>Migration Wizard ユーティリティは、例えば、開発環境から QA 環境または運用環境に移行する場合、またはリモート サーバーのホスト コンピュータからポータルのホスト コンピュータに移行する場合など、ポータル オブジェクトを新しいホスト ポータルに移行するためのインポート パッケージの管理に使用します。</p> <p>Migration Utility のグラフィカル ユーザー インタフェース (GUI) 版では、X-windows の GUI を使用して移行パッケージをインポートすることができます。</p> <p>Migration Wizard のグラフィック版を起動するには次のコマンドを入力してください。</p> <pre><i>PT_HOME</i>/ptportal/6.0/bin/ptmigration.sh</pre> <p><i>PT_HOME</i> には、ポータルをインストールしたルート ディレクトリ、例えば、/opt/plumtree を指定します。</p> <p>Migration Utility のコマンドライン インタフェース (CLI) 版では、コマンドラインを使用して移行パッケージをインポートすることができます。</p> <p>Migration Utility の CLI 版のマンページを表示するには次のコマンドを入力してください。</p> <pre><i>PT_HOME</i>/ptportal/6.0/bin/ptmigration.sh -h</pre> <p><i>PT_HOME</i> には、ポータルをインストールしたルート ディレクトリ、例えば、/opt/plumtree を指定します。</p> <p>オブジェクトの移行に関する詳細については、第 6 章「ポータル オブジェクトの移行、バックアップ、および復元」を参照してください。</p>

表 2-6 : ポータル環境内の管理ユーティリティ

ユーティリティ	目的
ptspy.sh または ptspy.bat	<p>Plumtree Logging Utilities のグラフィカル ユーザー インタフェース (GUI) 版では、ポータルを展開した際に発生する可能性のあるシステム エラーのトラブルシューティングを X-windows の GUI から行うことができます。</p> <p>Plumtree Logging Utilities を起動するには、次のコマンドを入力してください。</p> <pre>PT_HOME/ptlogging/6.0/bin/ptspy.sh</pre> <p><i>PT_HOME</i> には、ポータルをインストールしたルート ディレクトリ、例えば、C:\Program Files\plumtree または /opt/plumtree を指定します。</p> <p>代わりに、Windows で、 [スタート プログラム plumtree Logging Utilities Logging Spy] メニューを選択することもできます。</p> <p>Plumtree Logging Spy がリスンするサーバーを変更する方法については、『<i>Installation and Upgrade Guide for Plumtree Portal</i>』を参照してください。</p>
ptverify.sh	<p>Installation Verification ユーティリティでは、インストール コンポーネントやポータル データベースの接続を確認できます。</p> <p>Installation Verification ユーティリティのマンページを表示するには次のコマンドを入力してください。</p> <pre>PT_HOME/ptportal/6.0/bin/portalenv.sh -h</pre> <p><i>PT_HOME</i> には、ポータルをインストールしたルート ディレクトリ、例えば、/opt/plumtree を指定します。</p> <p>詳細については、『<i>Plumtree Foundation インストール ガイド</i>』を参照してください。</p>
automation service daemon	<p>Automation Service daemon は、Automation Service が稼動していることを確認するために使用します。</p> <p>詳細については、『<i>Plumtree Foundation インストール ガイド</i>』を参照してください。</p> <p>Automation Service のデフォルト値の編集については、「Automation Service の設定」、A-12 ページを参照してください。</p>
upgrade.sh	<p>Upgrade Database スクリプトは、4.5 バージョンのポータル データベースを現行バージョンにアップグレードするために使用します。</p> <p>詳細については、『<i>Upgrade Guide for Plumtree Portal</i>』を参照してください。</p>

表 2-6 : ポータル環境内の管理ユーティリティ

ユーティリティ	目的
タグ ライブラリ マネージャ	<p>このユーティリティは、ポータル マシンの タグ ライブラリを表示するために使用します。タグ ライブラリ マネージャにアクセスするには、次のメニューを選択します。</p> <p>[管理 ユーティリティの選択 タグ ライブラリ マネージャ]</p>

3

ポータル ユーザーとグループの管理

この章では、ポータルにおけるユーザーとグループの管理方法およびポータル オブジェクトへの管理されたアクセスを提供する手順について説明します。この章には以下の節が含まれています。

- [「ポータルにおける役割、グループ、ユーザー、およびプロフィールについて」](#)
- [「アクティビティ権の委譲」、3-2 ページ](#)
- [「グループの設定」、3-8 ページ](#)
- [「デフォルト ユーザー プロファイルの設定」、3-9 ページ](#)
- [「ユーザーの追加」、3-9 ページ](#)
- [「ユーザー プロファイルとユーザー アカウントの管理」、3-15 ページ](#)
- [「ユーザーのアクセス権限の設定」、3-19 ページ](#)
- [「ユーザーに環境定義を適用する方法」、3-21 ページ](#)

ポータルにおける役割、グループ、ユーザー、およびプロフィールについて

ポータルにおいて、*役割*とは、オブジェクトではなく、管理責任を定義するための概念です。例えば、ナレッジ ディレクトリ マネージャという役割は、ポータルで定義するオブジェクトではなく、ナレッジ ディレクトリのコンテンツを管理する者が負う管理責任に関連しています。

一方、*グループ*は、ポータルで設定するオブジェクトです。グループには、他のグループやユーザーを含めることが可能であり、グループのメンバーに割り当てるアクティビティ権を設定することもできます。グループのメンバーは固定にしたり、ユーザーのプロファイルのプロパティや他のグループへの参加によって動的に変化させたりすることもできます。

*ユーザー*は、ユーザー アカウントに対応したオブジェクトです。

新しいユーザーは、デフォルト プロファイルというプロファイルのテンプレートを使用して設定します。プロフィールは、ポータルで設定できるオブジェクトです。プロフィールには、ユーザーの名前や役職等、ユーザーに関する情報が含まれています。

アクティビティ権によって、ユーザーが作成できるポータル オブジェクトと、ユーザーがポータル オブジェクトを作成または変更するために実行できるユーティリティが決まります。

アクセス権限によって、ユーザーが参照または編集できるポータル オブジェクト、ユーザーの検索結果に表示されるオブジェクト、およびユーザーがマイ ページやマイ コミュニティに追加できるオブジェクトが決まります。

ポータルのアクセスとアクティビティに対するセキュリティは、他のネットワーク、ドメイン、システム オブジェクト等と同様に、アクセス権限やアクティビティ権を定義するオブジェクトの階層を管理することによって導入できます。

デフォルトのポータルのインストールでは、次のグループ、ユーザー、およびプロファイルのオブジェクトが作成され、デフォルトのアクセス権限とアクティビティ権が設定されます。

グループ・ユーザー・プロファイル	デフォルトのアクセス権限とアクティビティ権
管理者グループ	すべて
全員グループ	読み取り、独自のプロファイルの編集
管理者	すべて
デフォルト プロファイル	該当しない
ゲスト プロファイル	該当しない

ポータル管理者が最初に行う必要のある作業の 1 つは、管理者グループのアクセス権限とアクティビティ権を定義し、ポータル導入計画の主要素となるユーザーやユーザー グループをそれらの管理者グループに割り当てることによって、管理役割を委譲し、責任を共有できるようにすることです。

ポータルのグループやユーザーを管理する作業を始める前に、ポータルの導入計画を明確に立てる必要があります。既存の **Active Directory** または **LDAP** の認証元のグループ設定を利用する場合は、デフォルトのポータルの認証元を使用してポータル グループを管理する場合とは異なる方法で作業を進める必要があります。例えば、**LDAP** 認証元を使用する場合は、通常、ユーザー、グループ、プロファイル情報等をインポートしてから、グループに対する役割ベースの権限の割り当てを行います。一方、案内状を使用してユーザーをポータルに追加し、ポータルの認証元を通してそれらのユーザーを管理する場合は、まずグループを作成し、次に招待したユーザーをそれらのグループに追加します。

貴社のエンタープライズ ポータルにおいて管理役割、グループ、およびユーザーを管理するための計画を策定する方法については、『**Plumtree エンタープライズ ウェブ導入ガイド**』を参照してください。

この章の以下のトピックでは、ユーザーを追加し、ユーザーのアクセス権限とアクティビティ権を管理するために必要な基本手順について説明します。

1. ポータルの管理役割を委譲するための計画の策定
2. 役割に基づいたグループの設定とアクティビティ権の関連付け
3. ユーザー アカウントの各タイプに対するデフォルト プロファイルの設定
4. 設定したグループへの他のグループやユーザーの追加
5. 管理オブジェクト ディレクトリに対するアクセス権限を管理するためのアクセス コントロール リスト (ACL) の設定

アクティビティ権の委譲

ポータル グループを作成する前に、委譲する必要のある管理作業の定義や範囲をよく理解し、それらの管理役割に関連する責任や権限をユーザーのグループに割り当てるための計画を立てる必要があります。ポータル オブジェクトに関して、役割は、設定するオブジェクトではなく、グループとアクティビ

ティ権の関連付けです。[「グループの設定」、3-8 ページ](#)では、グループ オブジェクトを設定し、管理役割を適用する方法について説明します。[「ユーザーの追加」、3-9 ページ](#)では、上記で作成したグループにチャイルド グループとユーザーを追加する方法について説明します。この節では、インストール時にデフォルトで定義されるアクティビティ権について説明します。この節の内容は、以下の節の説明に従って設定した管理グループやユーザーに特定のアクティビティ権を委譲するための計画を立てる上で役立ちます。

[表 3-1](#) に、ポータルにおいてデフォルトで定義されるアクティビティ権の要約を示します。デフォルトに含まれていない権限が必要な場合は、カスタマイズされたアクティビティ権を作成することができます。カスタマイズされたアクティビティ権の作成については、[「カスタマイズされたアクティビティ権の作成」、3-7 ページ](#)を参照してください。

[表 3-1](#) では、アクティビティ権と管理役割の関連付けの例も示しています。個々の役割には、特定の作業を実施するために必要なアクティビティ権が関連付けられています。例えば、コンテンツ マネージャという役割には、リモートのコンテンツ ソースからクロールされたドキュメント レコードをポータルに投入するために必要な次のアクティビティ権が付与されます：アクセス管理、ユーティリティへのアクセス、管理フォルダの作成、コンテンツ タイプの作成、コンテンツ クローラの作成、コンテンツ ソースの作成、ジョブの作成。一方、ナレッジ ディレクトリ マネージャという別の役割には、ナレッジ ディレクトリの構造を構築するために必要な次のアクティビティ権が付与されます：スマート ソートへのアクセス、未分類ドキュメントへのアクセス、ユーティリティへのアクセス、ドキュメントの提出の詳細設定、フィルタの作成、フォルダの作成、ナレッジ ディレクトリの編集、自己設定による専門家。ポータルでは、上記両方の役割を持つユーザーやどちらか 1 つの役割を持つユーザーなど、様々なタイプのユーザーが必要となります。2 つの別個の役割を作成することにより、どちらか 1 つの役割または両方の役割の権限を 1 つまたは複数のグループに設定することが可能になります。

表 3-1：権限と役割の関連付け

アクティビティ権	役割の例		
	ポータル マネージャ	コンテンツ マネージャ	ナレッジ ディレクトリ マネージャ
アクセス管理 ユーザーが [管理] タブを表示し、管理オブジェクトの階層にアクセスできるようになります。	○	○	
検索サーバー設定へのアクセス ユーザーが検索サーバー設定の管理インターフェースを使用できるようになります。	○		
スマート ソートへのアクセス (フォルダ管理者の作成) ユーザーが新規のスマート ソートを作成できるようになります。	○		○

アクティビティ権	役割の例		
	ポータル マネージャ	コンテンツ マネージャ	ナレッジ ディレクトリ マネージャ
未分類ドキュメントへのアクセス ユーザーがナレッジ ディレクトリの編集モードを使用して、未分類ドキュメント フォルダを編集できるようになります。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
ユーザー プロファイル マネージャへのアクセス ユーザーがユーザー プロファイル マネージャ にアクセスできるようになります。	<input type="radio"/>		
ユーティリティへのアクセス ユーザーが [管理] の [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストを表示できるようになります。また、ユーザーはディレクトリ コンテンツの承認ユーティリティおよびオブジェクト移行進行状況ユーティリティにアクセスできるようになりますが、他のユーティリティへのアクセスには、t 追加の権限を設定する必要があります。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ドキュメントの提出の詳細設定 ユーザーがドキュメントをナレッジ ディレクトリに提出するときに、詳細なオプションを指定できるようになります。	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>
アクティビティの作成 ユーザーが新規のポータル アクティビティを作成できるようになります。 アクティビティ マネージャ ユーティリティを使用するにはこの権限が必要になります。	<input type="radio"/>		
管理フォルダの作成 ユーザーが新規の管理フォルダを作成できるようになります。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
認証元の作成 ユーザーが新規の認証元を作成できるようになります。	<input type="radio"/>		
コミュニティの作成 ユーザーが新規のコミュニティおよびサブコミュニティを作成できるようになります。	<input type="radio"/>		

アクティビティ権	役割の例		
	ポータル マネージャ	コンテンツ マネージャ	ナレッジ ディレクトリ マネージャ
コミュニティ インフラストラクチャの作成 ユーザーが新規のコミュニティ テンプレートや ページ テンプレートを作成できるようになります。	○		
コンテンツ クローラの作成 ユーザーが新規のクローラを作成できるようになります。	○	○	
コンテンツ ソースの作成 ユーザーが新規のコンテンツ ソースを作成できるようになります。	○	○	
コンテンツ タイプの作成 ユーザーが新規のコンテンツ タイプを作成できるようになります。	○	○	
コマンドライン操作の作成 ユーザーが新規のコマンドライン操作を作成できるようになります。	○		
ネットワーク検索の作成 ユーザーが新規の送受信ネットワーク検索を作成できるようになります。	○		
フィルタの作成 ユーザーが新規のフィルタを作成できるようになります。	○		○
フォルダの作成 ユーザーが新規のナレッジ ディレクトリ フォルダを作成できるようになります。	○	○	○
グループの作成 ユーザーが新規のグループを作成できるようになります。	○		
案内状の作成 ユーザーが新規の案内状を作成できるようになります。	○		

アクティビティ権	役割の例		
	ポータル マネージャ	コンテンツ マネージャ	ナレッジ ディレクトリ マネージャ
ジョブの作成 ユーザーが新規のジョブを作成できるようになります。	○	○	
ポートレットの作成 ユーザーが新規のポートレットを作成できるようになります。	○		
プロフィール ソースの作成 ユーザーが新規のプロファイル ソースを作成できるようになります。	○		
プロパティの作成 ユーザーが新規のプロパティを作成できるようになります。	○	○	
スナップショット クエリの作成 ユーザーが新規のスナップショット クエリと、そのクエリの結果を処理する新規ポートレットを作成できるようになります。	○	○	
環境定義の作成 ユーザーが新規の環境定義を作成できるようになります。	○		
ユーザーの作成 ユーザーが新規のユーザーを作成できるようになります。	○		
ウェブ サービスのインフラストラクチャの作成 ユーザーが新規のリモート サーバー、ウェブ サービス、ポートレット テンプレート、およびポートレット バンドルを作成できるようになります。	○	○	
権限の委譲 ユーザーが他のユーザーにアクティビティ権を委譲できるようになります。ユーザーは、そのアクティビティ権が自分自身に割り当てられている場合にのみ委譲を行うことができます。	○	○	○

アクティビティ権	役割の例		
	ポータル マネージャ	コンテンツ マネージャ	ナレッジ ディレクトリ マネージャ
ナレッジ ディレクトリの編集 ユーザーがナレッジ ディレクトリ内で編集モードを使用できるようになります。	○		○
独自のプロフィールの編集 ユーザーがユーザー自身のユーザー プロファイルの設定を編集できるようになります。	○		
プロフィール レイアウトの編集 ユーザーがユーザー プロファイル マネージャのプロファイル セクションを編集できるようになります。	○		
自己設定による専門家 ユーザーがユーザー自身をナレッジ ディレクトリ フォルダの専門家として指定できるようになります。	○		○

[表 3-1](#) を参考にして、管理権限と責任を個々の役割に委譲するためのマッピングを作成してください。

カスタマイズされたアクティビティ権の作成

カスタマイズされたポータル アクティビティを作成することもできます。例えば、ポータル経由でアクセスされる在庫管理システムにおいて、編集できるユーザーを制限する必要がある場合は、*在庫の編集*というアクティビティを作成することができます。さらに、ユーザーが適切なアクティビティ権を持っていることを確認した上でポートレットへのアクセスを許可する、「在庫管理」ポートレットを作成することができます。

カスタマイズされたポータル アクティビティに対する権限を作成、編集、または削除するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. **[ユーティリティの選択]** ドロップダウン リストで、**[アクティビティ マネージャ]** をクリックします。
3. オンライン ヘルプの説明に従って、アクティビティ権のオブジェクトを管理します。
4. **[終了]** をクリックします。

グループの設定

この節では、ポータル グループを作成し、特定の役割に関連するアクティビティ権を割り当てるための手順について説明します。

ポータル グループの作成作業を開始する前に、『[Plumtree ツリー エンタープライズ ウェブ導入ガイド](#)』のガイドラインと[「ポータルにおける役割、グループ、ユーザー、およびプロフィールについて」](#)、[3-1 ページ](#)の役割、グループ、ユーザーの概要をお読みにになり、ポータルの管理責任を共有するための計画を策定する必要があります。

LDAP または Active Directory 等の既存の認証元からユーザーやグループをインポートする場合は、最初にユーザーやグループをインポートしてから、この節の説明に従ってユーザーをグループに追加することをお勧めします。認証元からユーザーやグループをインポートする方法については、[「認証元からのユーザーとグループのインポート」](#)、[3-10 ページ](#)を参照してください。

グループを作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストから、**[管理フォルダ]** を選択し、例えば *Roles* という名前のフォルダを作成し、その *Roles* フォルダをクリックします。
3. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストで、**[グループ]** を選択します。
4. このグループを識別するための名前（例えば *Content Managers*）を指定します。
5. このグループのユーザーを既にインポートまたは作成している場合は、オンライン ヘルプの説明に従って、それらのユーザーをグループに追加します。まだインポートまたは作成していない場合は、ユーザーをインポートまたは作成する際にグループのメンバーシップを設定することができます。
6. **[終了]** をクリックします。

グループの動的メンバーシップの設定

ユーザー プロファイルのプロパティに基づいて、ユーザーをグループに自動的に追加したりグループから削除したりする必要がある場合があります。例えば、ユーザーの所在地、役職、部署、またはプロフィールの中のその他のプロパティに基づいて、コミュニティへのアクセスを提供する場合などです。頻繁に変更されるプロパティもあるため、グループへの動的メンバーシップの規則を設定し、選択したプロパティが変更された場合に、ユーザーが自動的にグループに追加される、またはグループから削除されるように設定できます。

グループの動的メンバーシップの規則を作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 管理フォルダを選択し、新規のグループを作成するか、または既存のグループを選択します。
3. グループ エディタで、**[動的メンバーシップの規則]** をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従って規則を定義します。
5. **[終了]** をクリックします。

グループの動的メンバーシップの規則を追加または変更した場合、**[終了]** をクリックした後にそのグループの動的メンバーが更新されます。その他の場合に関しては、すべてのグループの動的メンバーシップが、ジョブ（動的メンバーシップ更新エージェント）の一部として更新されます。ユーザーのプ

プロフィールデータが変更された場合、その変更に伴うグループの動的メンバーシップへの変更は、このジョブの一部として適用されます。詳細については、[「ジョブについて」、5-1 ページ](#)を参照してください。

デフォルト ユーザー プロファイルの設定

デフォルト プロファイルは、新規ユーザーのためのテンプレートです。デフォルト プロファイルによって、マイ アカウントの初期設定、マイ ページの名前およびページ数、それらのマイ ページでのポートレットのレイアウトなどが設定されます。

ユーザーをポータルに追加する前に、追加するユーザーに適用するデフォルト プロファイルを設定する必要があります。例えば、すべてのテクニカル ライターに対して、デフォルトのマイ ページとマイ コミュニティのページに特定の必須ポートレットやコミュニティを設定する必要がある場合は、それを行うためのデフォルト プロファイルを設定し、それらのユーザーをポータルに追加する際にそのデフォルト プロファイルを適用します。

必要なユーザーの種類に合わせて複数のプロファイルを作成しておく必要があります。

デフォルト プロファイルを設定するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. **[ユーティリティの選択]** ドロップダウン リストで、**[デフォルト プロファイル]** をクリックします。
3. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストで、**[ユーザー]** をクリックします。
4. デフォルト プロファイル テンプレートのログイン名を選択します。
5. **[終了]** をクリックします。

デフォルト プロファイルのレイアウトを編集するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. **[ユーティリティの選択]** ドロップダウン リストで、**[デフォルト プロファイル]** を選択します。
3. カスタマイズするプロファイルの横にあるチェックボックスをオンにします。一度に 1 つのみのプロファイルのレイアウトを編集できます。
4. **[プロファイル レイアウトの編集]** をクリックします。
5. マイ アカウントの設定を指定し、マイ ページを作成または削除し、マイ ページのレイアウトを編集します。
6. **[終了]** をクリックします。

ユーザーの追加

この節では、ユーザーをポータルに追加するための手順について説明します。ユーザーを追加する際に、グループのメンバーシップを設定し、デフォルト プロファイルを適用する必要があります。この節では、ユーザーをポータルに追加するための以下の方法について説明します。

- [「アイデンティティ サービスによるグループ、ユーザー、およびプロファイルの管理」](#)
- [「ユーザーの作成」、3-13 ページ](#)
- [「ユーザー自身によるアカウントの作成の許可」、3-14 ページ](#)
- [「案内状によるユーザーの追加」、3-14 ページ](#)

アイデンティティ サービスによるグループ、ユーザー、およびプロファイルの管理

この節では、Active Directory、LDAP、または Windows ドメインといった、貴社の既存の認証元で既に定義されているユーザーやグループをポータルに追加するための手順について説明します。この節では以下のトピックについて説明します。

- [「認証元からのユーザーとグループのインポート」](#)
- [「プロファイル ソースからのユーザー プロファイルのインポート」、3-11 ページ](#)

Plumtree Identity Service のウェブ サービスをリモート サーバーのホスト コンピュータにインストールする方法については、ご使用のソフトウェアに付属の製品資料を参照してください。

認証元からのユーザーとグループのインポート

認証サービス (AS) は、ディレクトリ サーバーからユーザー、グループ、およびグループのメンバーシップ設定をインポートすることを可能にします。ユーザーをインポートした後、認証サービスが、ポータルのログイン認証を行います。

Plumtree Identity Service - LDAP または Plumtree Identity Service - AD のような、Plumtree Identity Service の認証サービスを使用してユーザーをインポートする場合は、このガイドの手順ではなく、ご使用のソフトウェアに付属の製品資料の説明に従ってください。

以下の表に、ディレクトリ サーバーからユーザー、グループ、およびグループ メンバーシップをインポートするための手順を示します。

表 3-2：ディレクトリ サービスからのユーザー、グループ、およびグループ メンバーシップのインポート

基本手順	内容
リモート サーバーを作成します。	<ol style="list-style-type: none"> 1. [管理] をクリックします。 2. 認証サービス オブジェクト用の管理フォルダを選択するか、または新規のフォルダを作成します。 3. [オブジェクトの作成] ドロップダウン リストで、[リモート サーバー] を選択します。 4. オンライン ヘルプの説明に従って、リモート サーバーの接続情報を設定します。 5. [終了] をクリックします。

表 3-2：ディレクトリ サービスからのユーザー、グループ、およびグループ メンバーシップのインポート

基本手順	内容
認証ウェブ サービスを作成します。	<ol style="list-style-type: none"> 1. [管理] をクリックします。 2. 設定する認証サービス オブジェクトのグループの管理フォルダを選択します。 3. [オブジェクトの作成] ドロップダウン リストで、[ウェブ サービス - 認証] を選択します。 4. オンライン ヘルプの説明に従って、ウェブ サービスの接続情報を設定します。 5. [終了] をクリックします。
認証元とそれに関連付ける同期ジョブを設定します。	<ol style="list-style-type: none"> 1. [管理] をクリックします。 2. 設定する認証サービス オブジェクトのグループの管理フォルダを選択します。 3. [オブジェクトの作成] ドロップダウン リストで、[認証元 - リモート] を選択します。 4. オンライン ヘルプの説明に従って、認証と 同期の基本設定、適用するデフォルト プロファイル、および関連付ける同期ジョブを設定します。 同期ジョブを実行するには、ジョブが格納されているフォルダを Automation Service に関連付ける必要があります。Automation Service にフォルダを関連付ける方法については、第 5 章 「管理タスクの自動化」 を参照してください。 5. [終了] をクリックします。
ユーザーに適切なプロファイルが適用されており、ポータル グループには認証元オブジェクトを設定した際に指定したグループとユーザーのみが含まれていることを確認してください。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 同期ジョブを実行します。 2. インポートしたユーザーが格納されている管理フォルダを選択します。 3. 内容を確認できるユーザー アカウントをクリックし、適切なグループやプロファイル設定が適用されていることを確認してください。

プロファイル ソースからのユーザー プロファイルのインポート

プロファイル サービス (PS) は、ポータルにおいて、外部ソースを使用してユーザー プロパティを定義できるようにします。これらのユーザー プロパティは、ポータル ユーザーが検索したり、ポートレットへのアクセスを認証するためにポートレットに送信したりすることができます。

Plumtree Identity Service - LDAP のような、プラムツリ提供のプロファイル サービスを使用してユーザー プロファイル情報をインポートする場合は、このガイドの手順ではなく、ご使用のソフトウェアに付属の製品資料の説明に従ってください。

以下の表に、外部ソースからユーザー プロパティをインポートするために必要な手順を示します。

表 3-3：外部ソースからのユーザー プロパティのインポート

基本手順	内容
リモート サーバーを作成します。	<ol style="list-style-type: none"> 1.[管理] をクリックします。 2.プロファイル サービス オブジェクト用の管理フォルダを選択するか、または新規のフォルダを作成します。 3.[オブジェクトの作成] ドロップダウンリストで、[リモート サーバー] を選択します。 4.オンライン ヘルプの説明に従って、リモート サーバーの接続情報を設定します。 5.[終了] をクリックします。
プロファイル ウェブ サービスを作成します。	<ol style="list-style-type: none"> 1.[管理] をクリックします。 2.設定するプロファイル サービス オブジェクトのグループの管理フォルダを選択します。 3.[オブジェクトの作成] ドロップダウンリストで、[ウェブ サービス - プロファイル] を選択します。 4.オンライン ヘルプの説明に従って、ウェブ サービスの接続情報を設定します。 5.[終了] をクリックします。

表 3-3：外部ソースからのユーザー プロパティのインポート

基本手順	内容
プロファイル ソースを設定します。	<ol style="list-style-type: none"> 1. [管理] をクリックします。 2. 設定するオブジェクトのグループの管理フォルダを選択します。 3. [オブジェクトの作成] ドロップダウン リストで、[プロファイル ソース - リモート] を選択します。 4. 関連するウェブ サービスを指定するように指示された際は、関連付けられているウェブ サービスを選択します。 5. オンライン ヘルプの説明に従って、プロファイル ソースのフィールドをポータルのプロファイル プロパティのフィールドにマッピングし、プロファイル プロパティをインポートするためのジョブを設定します。 ジョブを実行するには、ジョブが格納されているフォルダを Automation Service に関連付ける必要があります。 Automation Service にフォルダを関連付ける方法については、第 5 章「管理タスクの自動化」を参照してください。 6. [終了] をクリックします。
インポートしたプロファイル プロパティが適切に適用されていることを確認します。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 同期ジョブを実行します。 2. インポートしたユーザーが格納されている管理フォルダを選択します。 3. 内容を確認できるユーザー アカウントをクリックし、プロファイルが正しく設定されていることを確認してください。

ユーザーの作成

サード パーティの認証元を使用する必要がない場合は、ポータルのユーティリティを使用してユーザーを作成することができます。

ポータルのユーティリティを使用して作成したユーザーや自己登録ユーザー、案内状を使用して追加されたユーザー等は、Plumtree という認証元で管理されます。

ユーザーを作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 管理フォルダを開きます。
3. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストで、**[ユーザー]** をクリックします。

4. オンライン ヘルプの説明に従って、メイン設定ページを編集します。
5. **[終了]** をクリックします。

ユーザー自身によるアカウントの作成の許可

ポータルにおいて、ユーザーは、ログイン ページの **[Create an Account]** をクリックすることによって、自分自身のアカウントを作成することができます。これらのユーザーは、管理用オブジェクト ディレクトリの **Default Experience Definition** フォルダに保存されます。このフォルダは、最初のユーザーが自己登録した際に、自動的に作成されます。

自己登録ユーザーには、**Default Profile** という名前のデフォルト プロファイルの設定に基づいてアクセス権限が付与されます。このセキュリティ設定に基づいて、ユーザーはマイ ページ、ポートレット、コミュニティへの参加を通してポータルの表示をカスタマイズし、ポータル コンテンツを表示することができます。

ポータルのユーティリティを使用して作成したユーザーや自己登録ユーザー、案内状を使用して追加されたユーザー等は、**Plumtree** という認証元で管理されます。

案内状によるユーザーの追加

案内状を使用することによって、見込みユーザーをポータルに誘導し、そのユーザーが自分のアカウントを容易に作成できるようにすることができます。また、ユーザーが特に関心のあるコンテンツを含めるように、そのユーザーの初期ポータル設定をカスタマイズすることができます。

すべての見込みユーザーに対して案内状を 1 つ作成することによって、それらのユーザーが同じポータル グループに追加され、初めてポータルにログインしたときに、同じコミュニティ、ポートレット、およびマイ ページが表示されるようにすることができます。

案内状を受け取ったユーザーがポータルへの参加を希望する場合は、メールに含まれているリンクをクリックし、手順に従って新しいポータル ユーザー アカウントを作成してポータルにログインすることができます。ユーザーがログインすると、案内状に指定されたポートレット、コンテンツ、およびコミュニティがその新しいユーザーに表示されます。

ポータルのユーティリティを使用して作成したユーザーや自己登録ユーザー、案内状を使用して追加されたユーザー等は、**Plumtree** という認証元で管理されます。

案内状を作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 管理フォルダを開きます。
3. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストで、**[案内状]** をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従って、招待するユーザーのプロファイル情報とグループ情報を設定します。
5. **[終了]** をクリックします。

案内状を作成した後、その案内状を送信する必要があります。

案内状を送信するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 送信する案内状を選択します。

3. 送信する案内状の横にあるチェックボックスをオンにし、[**案内状の送信**] をクリックします。
4. [**新規案内状リンクの作成**] をクリックします。
5. このリンクにアクセスできる最大回数とリンクの有効期限を指定します。
6. リンクを生成するには、[**終了**] をクリックします。
7. 案内状リンクを表示するには、リンク名をクリックします。この案内状リンクをコピーして電子メールに貼り付けることができます。
8. [**終了**] をクリックして、[案内状リンク] ダイアログ ボックスを閉じます。
9. [**終了**] をクリックして、[案内状の送信] エディタを閉じます。

ユーザー プロファイルとユーザー アカウントの管理

この節では、ユーザー プロファイルとユーザー アカウントを管理するための手順について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [「ユーザー プロファイルの管理」](#)
- [「ユーザー アカウントの監査」、3-15 ページ](#)
- [「ユーザー アカウントのロックとロックの解除」、3-16 ページ](#)
- [「既存のアプリケーションに対するユーザーの認証情報の管理」、3-18 ページ](#)

ユーザー プロファイルの管理

名前や役職等のプロファイル情報は、ユーザー オブジェクトのプロパティとして保存されます。ユーザー プロファイル マネージャを使用して、要求された場合にポートレットに送信するプロパティを指定することができます。

個々のプロパティの値は、ユーザーが [ユーザー プロファイルの編集] 画面で設定するか、またはプロファイル サービスによって設定されます。

ポートレットに送信するユーザー プロパティを指定するには次を行います。

1. [**管理**] をクリックします。
2. [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストで、[**ユーザー プロファイル マネージャ**] をクリックします。
3. オンライン ヘルプの説明に従って、ユーザー プロファイルの表示方法やポートレットに送信するユーザー プロパティ等を定義します。
4. [**終了**] をクリックします。

ユーザー アカウントの監査

ポータルでは、ユーザーのアクティビティがログに記録され、特定のユーザーが実行した操作や特定の管理オブジェクトに対して実行された操作、特定の期間内に実行された操作等を検索することができます。

監査ログの管理エージェントは、これらの監査メッセージをポータル データベースからアーカイブ ファイルのコレクションに移動したり、古いアーカイブ ファイルを削除するために使用します。監査ログの管理エージェントは、インストール時に作成され、Intrinsic Operations フォルダに格納されている監査ログ管理ジョブ内で実行されます。デフォルトで、このジョブは毎日実行されるように設定されています。監査ログ管理エージェントの設定方法については、[「ポータル エージェントの実行」、5-2 ページ](#)を参照してください。

ユーザー アクティビティの監査の設定

ユーザー アクティビティの監査を設定するには次を行います。

1. [**管理**] をクリックします。
2. [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストで、[**監査マネージャ**] をクリックします。
3. オンラインヘルプの説明に従って、設定を入力します。
4. [**終了**] をクリックします。

監査情報の検索

データベースの監査エントリをクエリするには次を行います。

1. [**管理**] をクリックします。
2. [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストで、[**監査マネージャ**] をクリックします。
3. 左側にある [ユーティリティ設定の編集] で、[**監査クエリの作成**] をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従ってクエリを定義します。
5. [**終了**] をクリックします。

監査 メッセージおよびアーカイブの削除

ユーザー アクティビティの監査を設定する際に、監査メッセージを自動的に削除する頻度を指定することができます。

メッセージやアーカイブをその場で削除するには次を行います。

1. [**管理**] をクリックします。
2. [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストで、[**監査マネージャ**] をクリックします。
3. オンライン ヘルプの説明に従って、削除するメッセージとアーカイブを指定します。
4. [**終了**] をクリックします。

ユーザー アカウントのロックとロックの解除

ユーザー アカウントをロックして、ユーザーがポータルにアクセスできないようにすることができます。ユーザーが繰り返しログインに失敗した際に自動的にロックするように設定するか、または必要な時に、ユーザー エディタを使用して手動でユーザー アカウントをロックすることができます。

ユーザー アカウントのロック

ログインの失敗によるアカウントのロックを設定するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. **[ユーティリティの選択]** ドロップダウン リストで、**[ポータル設定]** をクリックします。
3. アカウントのロックを有効にし、ログインの失敗を監視する時間、ユーザーがログインに失敗できる回数、自動的にロックされたアカウントのロックを維持する分数等を指定します。
4. **[終了]** をクリックします。

ユーザー アカウントを手動でロックするには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. アカウントをロックするユーザーを参照し、ユーザー名をクリックします。
3. **[ログインを無効にする]** チェックボックスをクリックし、**[終了]** をクリックします。

ユーザー アカウントのロックの解除

ロックされたアカウントは、指定された期間を過ぎると自動的にロックが解除されますが、無効化されたログインの解除ユーティリティまたはユーザー エディタを使用して手動でアカウントのロックを解除することも可能です。

以下の表に、様々な方法でロックされたアカウントのロックを解除する方法を示します。

表 3-4：ユーザー アカウントのロックの解除

ロックの種類	ロックの解除法
管理ロック ポータルの管理者によってユーザー アカウントがロックされた場合	無効化されたログインの解除ユーティリティを使用してロックを解除するには次を行います。 <ol style="list-style-type: none"> 1. [管理] をクリックします。 2. [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストで、[無効化されたログインの解除] をクリックします。 3. オンライン ヘルプの説明に従ってロックを管理します。 4. [終了] をクリックします。
自動ロック ユーザーが、ポータルへのログインの際に、間違ったユーザー名またはパスワードを繰り返し入力すると、自動的にアカウントがロックされます。 ユーザーがログインに失敗できる回数は、ポータル設定ユーティリティの設定によって決まります。この回数を超えてログインに失敗すると、ユーザーはポータルにアクセスできなくなります。 自動的にアカウントがロックされた場合、指定された期間を過ぎると自動的にロックが解除されます。	ユーザー エディタを使用してロックを解除するには： <ol style="list-style-type: none"> 1. [管理] をクリックします。 2. アカウントのロックを解除するユーザーを参照し、ユーザー名をクリックします。 3. [ログインを無効にする] チェックボックスをクリアします。 4. その場でユーザー アカウントのロックを解除する場合は、[終了] をクリックします。

表 3-4：ユーザー アカウントのロックの解除 (つづき)

ロックの種類	ロックの解除法
エージェント ロック 同期ジョブを実行した際に、認証元でユーザー アカウントが見つからないと、ユーザー アカウントがロックされる場合があります。同期ジョブが失敗してユーザーが見つからない場合にも、アカウントがロックされてしまうことがあります。 この場合、ユーザーが次にログインする際に適切な認証情報を入力することによって、ロックを解除することができます。	影響を受けたすべてのユーザーのロックを解除するには次を行います。 1. [管理] をクリックします。 2. 管理フォルダを選択します。 3. 認証元の名前をクリックして選択します。 4. 左側にある [オブジェクト設定の編集] で、 [完全同期グループ] をクリックします。 5. [ユーザーの再有効化] をクリックします。 アカウントのロックの解除には数分かかる場合があります。 6. [終了] をクリックします。

ロックされたユーザーの削除

ロックされたユーザーを削除するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. **[ユーティリティの選択]** ドロップダウン リストで、**[無効化されたログインの解除]** をクリックします。
3. オンライン ヘルプの説明に従ってユーザーを削除します。
4. **[終了]** をクリックします。

既存のアプリケーションに対するユーザーの認証情報の管理

Plumtree ポータルから既存のウェブ アプリケーションへのアクセスをユーザーに提供することができます。例えば、ユーザーが、社員用の社会保険システムにアクセスする必要がある場合、ポータルからそのシステムにアクセスすることによって、再度ログイン情報を入力しなくても済みます。また、ポータルのコンテキスト、個人用設定、ナビゲーション設定等をそのまま利用することができます。

ユーザーの認証情報を管理するために、ユーザーがポータルからアクセスする各アプリケーションに対してロックボックスを作成することができます。ユーザーは、マイ アカウントの設定で、これらの個々のロックボックスに認証情報を入力します。

アプリケーションの統合に関する詳細については、[「既存のウェブ アプリケーションへのアクセスを提供するためにポートレットを使用する方法」](#)、4-17 ページを参照してください。

ロックボックスを作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. **[ユーティリティの選択]** ドロップダウン リストで、**[認証ボールド マネージャ]** をクリックします。
3. **[新規のロックボックス]** をクリックし、オンライン ヘルプの説明に従ってロックボックスを作成します。

4. [**終了**] をクリックして認証ポータル マネージャを閉じます。

ロックボックスにログイン情報を入力するために、ユーザーは次を行う必要があります。

1. [**マイ アカウント**] をクリックします。
2. [**パスワード マネージャ**] をクリックします。
3. 表示されている各アプリケーション（対応するロックボックス）に対して、そのアプリケーションにアクセスするために必要なユーザー名とパスワードを入力します。
4. [**終了**] をクリックします。

ユーザーのアクセス権限の設定

ユーザーやグループをポータルにインポートした後、管理オブジェクト ディレクトリのフォルダに対するアクセス権限を管理するためにアクセス コントロール リスト（ACL）を設定できます。フォルダ内のオブジェクトに対してもアクセス コントロール リストを設定することができます。ポータルのデフォルトのインストール環境の管理オブジェクト ディレクトリには、次のフォルダが含まれています。

表 3-5：管理オブジェクト ディレクトリ内のフォルダ

フォルダ	デフォルトの ACL
Administrative Resources （管理リソース） このフォルダには、デフォルトのユーザー、グループ、Plumtree 認証元、WWW コンテンツ ソース、プロパティ リスト、コンテンツ タイプ リスト、およびネットワーク検索オブジェクトが格納されています。	管理者グループ - 管理権限 全員グループ - 読み取り権限
Intrinsic Operations （ビルト イン操作） このフォルダには、検索更新、ドキュメント更新、ハウスキューピングなどのコマンドライン操作やビルト イン ジョブが格納されています。このフォルダは、1 次ジョブ サーバーに登録されています。	管理者グループ - 管理権限
Portal Resources （ポータル リソース） このフォルダには、ページ、コミュニティ、ポートレットのテンプレート、ビルト イン ポートレット、およびウェブ サービスが格納されています。	管理者グループ - 管理権限 全員グループ - 読み取り権限

表 3-5：管理オブジェクト ディレクトリ内のフォルダ (つづき)

フォルダ	デフォルトの ACL
Default Experience Definition(デフォルト の環境定義) このフォルダには、デフォルトの環境定義に関連付けられているユーザーが格納されています。インストール時に、1 人のユーザーが、 管理者 というデフォルトの環境定義に関連付けられます。	管理者グループ - 管理権限 全員グループ - 読み取り権限

管理者グループのユーザーは、すべてのポータル オブジェクトに対してフルアクセスを持ちます。その他のユーザーには下記のアクセス権を割り当てることができます。

- **読み取り**を指定すると、ユーザーやグループがオブジェクトを参照できるようになります。
- **選択**を指定すると、ユーザーやグループがオブジェクトに別のオブジェクトを追加できるようになります。例えば、ポートレットをマイ ページに、ユーザーをグループにそれぞれ追加したり、リモート サーバーをウェブ サービスに関連付けたりすることができるようになります。オブジェクト選択リストには、ユーザーが「選択」アクセスを持つオブジェクトのみが表示されます。選択権限には読み取り権限も含まれています。
- **編集**を指定すると、ユーザーやグループがオブジェクトを変更できるようになります (オブジェクトの移動やコピーを含む)。編集権限には、選択権限と読み取り権限も含まれています。
- **管理**を指定すると、ユーザーやグループがオブジェクトを完全に管理・制御できるようになります。これには、オブジェクトの削除、移行の承認などが含まれます。管理権限には、読み取り権限、選択権限、編集権限も含まれています。

すべての新規オブジェクトは、デフォルトで親フォルダの ACL 設定を継承します。

下記の表に、オブジェクトの操作に必要な最小アクセス権を示します。

表 3-6：アクセス条件

操作	必要な最小アクセス権		
	オブジェクト	ソース フォルダ	ターゲット フォルダ
表示	読み取り	読み取り	該当しない
変更	編集	読み取り	該当しない
作成	該当しない	編集	該当しない
コピー	管理	読み取り	編集
移動	管理	編集	編集
削除	管理	編集	該当しない

全員グループは、下記のポータル オブジェクトに対して、常に読み取りアクセスを持ちます。

- **コンテンツ タイプ**：コンテンツ タイプは、ナレッジ ディレクトリにドキュメントを提出するために使用するので、すべてのユーザーに、すべてのコンテンツ タイプへの読み取りアクセスを提供する必要があります。
- **フィルタ**：フォルダ エディタに正確な情報が表示されるようにするには、すべてのユーザーに、すべてのフィルタへの読み取りアクセスを提供する必要があります。
- **案内状**：案内状は、ユーザーがログインする前にアクセスするため、ポータルのセキュリティ機能を適用できないので、すべてのユーザーに案内状への読み取りアクセスを提供する必要があります。
- **プロパティ**：フィルタ エディタに正確な情報が表示されるようにするには、すべてのユーザーに、すべてのプロパティへの読み取りアクセスを提供する必要があります。フィルタは、プロパティに基づいています。

管理オブジェクト ディレクトリのフォルダに ACL を設定するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. フォルダを選択し、**[サブフォルダの編集]** ボタンをクリックします。
3. ナビゲーション枠で、**[セキュリティ]** をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従って、グループ、ユーザーと、それぞれの権限を追加し、ACL を編集します。
5. **[終了]** をクリックします。

すべての新規オブジェクトは、デフォルトで親フォルダの ACL 設定を継承します。サブフォルダに対して、親フォルダとは異なる設定が必要な場合は、必要に応じてサブフォルダの ACL を編集します。また、オブジェクトのエディタのセキュリティ ページを編集することによって、フォルダ内のオブジェクトのセキュリティを設定することができます。

ユーザーに環境定義を適用する方法

環境定義によって、ユーザーに表示されるポータル ページのブランド、スタイル、ナビゲーション、機能等を指定し、ユーザー環境を定義することができます。個々のユーザーに使用する環境定義を決定するための規則を設定することができます。これらの規則は、ユーザーがポータルへのアクセスに使用した URL、ユーザーの IP アドレス、ユーザーが参加しているグループ、ユーザーが特定のコミュニティを参照した場合等、様々な条件に基づいて設定することができます。詳細については、[「環境定義の設定」、2-16 ページ](#)を参照してください。

4

ポータルコンテンツ管理

この章では、ポータルにおける管理されたコンテンツ配信の設計とコンテンツをユーザーに提供するための手順について説明します。この章では以下のトピックについて説明します。

- [「ポータルのコンテンツについて」](#)
- [「コンテンツ タイプとドキュメント プロパティの設定」、4-2 ページ](#)
- [「コンテンツ ソースの設定」、4-7 ページ](#)
- [「ナレッジ ディレクトリの管理」、4-10 ページ](#)
- [「ポートレットによるポータル サービスの拡張」、4-14 ページ](#)
- [「コミュニティの管理」、4-23 ページ](#)
- [「ドキュメントを検出できるようにするためにコンテンツ クローラとコンテンツ サービスを使用する方法」、4-32 ページ](#)
- [「検索の活用方法」、4-40 ページ](#)

ポータルのコンテンツについて

ポータルは、ユーザーが様々なポータル エリアを参照したり検索したりすることによって、そのユーザーの従業員としての役割に関連するすべての企業コンテンツを見つけ出せるように設計されています。

ポータル ユーザーは、必要なすべての情報へのアクセスを提供するマイ ページを構築することができます。例えば、テクニカル ライターがユーザー マニュアルを作成するためには、マニュアルの表記ルール、ソリューションのホワイト ペーパー、製品のデータ シート、製品のデモ、設計仕様書、リリースのマイルストーン、テスト計画書、バグ報告書などの資料、顧客サポートと顧客満足度に関連するメール スレッドなどにアクセスするためのポートレットまたはコミュニティを組み込んだマイページを作成する必要があります。一方で、テクニカル ライターが業務を遂行するためには、人事部の従業員やライン マネージャが必要とするような人事記録、経理担当または役員が必要とする会社の財務データなどにアクセスする必要はありません。したがって、ポータルには、これらのすべての企業ドキュメントを参照するための機能を装備し、いかなる業務を担当するいかなる従業員でも必要なすべての情報にアクセスできるように、ポータルを適切に設計する必要があります。しかし、それと同時に、その業務を行う従業員のみがその情報を見つけ出せるようにする必要があります。

このような企業コンテンツへの管理されたアクセスを提供するには、次を行う必要があります。

- ポータルを参照または検索することによってコンテンツを見つけ出せるようにします。
- それらのドキュメントへのアクセスを管理するためにアクセス コントロール リスト (ACL) を設定します。

この章では、ユーザーがポータルを使用して、管理されている状態で企業コンテンツを見つけ出せるようにするために必要な次の作業について説明します。

- ポータルでサポートする必要のあるすべてのコンテンツ タイプに対してドキュメント プロパティを設定し、ナレッジ ディレクトリ、クローラ、スマート ソート ユーティリティ、および Search Service においてドキュメント フィルタを適用できるようにします。

ドキュメント プロパティとコンテンツ タイプの詳細については、[「コンテンツ タイプとドキュメント プロパティの設定」、4-2 ページ](#)を参照してください。

- コンテンツ ソースに対するアクセスを設定し、ユーザーまたはクローラがそれらを選択して、ナレッジディレクトリや検索インデックスにドキュメント レコードを追加できるようにします。

コンテンツ ソースの詳細については、[「コンテンツ ソースの設定」、4-7 ページ](#)を参照してください。

- ユーザーがナレッジディレクトリにドキュメント レコードをアップロードできるように設定します。

ナレッジディレクトリについては、[「ナレッジディレクトリの管理」、4-10 ページ](#)を参照してください。

- ユーザーがそれぞれのマイ ページに追加できるポートレットを設定します。

ポートレットの詳細については、[「ポートレットによるポータル サービスの拡張」、4-14 ページ](#)を参照してください。

- ユーザーがそれぞれのマイ コミュニティのリストに追加できるコミュニティを作成します。

コミュニティの詳細については、[「コミュニティの管理」、4-23 ページ](#)を参照してください。

- WWW サイト、ファイル システム、Documentum コンテンツ サーバー、Novell サーバー、Exchange サーバー、Lotus Notes サーバー、その他の IMAP 準拠サーバーといったバックエンドのコンテンツ ソースへのリンクを作成するために、クローラとクローラのジョブを設定します。

クローラの詳細については、[「ドキュメントを検出できるようにするためにコンテンツ クローラとコンテンツ サービスを使用する方法」、4-32 ページ](#)を参照してください。

- ユーザーが検索ツールを使用してこれらのドキュメントを見つけ出せるようにするために、検索更新ジョブを実行し、これらのドキュメントをインデックスします。

検索機能の詳細については、[「検索の活用方法」、4-40 ページ](#)を参照してください。

コンテンツ タイプとドキュメント プロパティの設定

この節では、ナレッジディレクトリ、クローラ、スマート ソート ユーティリティ、および Search Service においてドキュメント フィルタを適用できるようにするために、コンテンツ タイプ オブジェクトとドキュメント プロパティ オブジェクトを設定する方法について説明します。フィルタや返される検索結果は、ソース ドキュメントに定義されているプロパティではなく、ドキュメントに関連付けられているポータル プロパティに基づいて決定されます。

ポータルにドキュメントを追加すると、ポータルでは、グローバル コンテンツ タイプ マップに指定されているマッピング、特定のコンテンツ タイプの定義、グローバルドキュメント プロパティ マップ、およびクローラ固有のコンテンツ タイプ マッピングに基づいて、ソース ドキュメントのフィールドがポータル プロパティにマッピングされます。

コンテンツ タイプとプロパティのマッピングを適用するには次を行います。

1. グローバル コンテンツ タイプ マップを設定します。

必要に応じてコンテンツ タイプを追加し、設定します。

詳細については、[「グローバル コンテンツ タイプ マップの設定」](#)を参照してください。

2. グローバル ドキュメント プロパティ マップを設定します。

必要に応じてドキュメント プロパティを追加し、設定します。

詳細については、[「グローバル ドキュメント プロパティ マップの設定」、4-3 ページ](#)を参照してください。

グローバル コンテンツ タイプ マップの設定

グローバル コンテンツ タイプ マップを使用して、ソース ドキュメントの識別子（ファイルの拡張子等）をコンテンツ タイプにマッピングします。ソース ドキュメントに関連付けられたコンテンツ タイプによって、ソース ドキュメントのメタデータがどのようにポータル プロパティにマッピングされるかが決まります。

グローバル コンテンツ タイプ マップを設定するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. **[ユーティリティの選択]** ドロップダウン リストで、**[グローバル コンテンツ タイプ マップ]** を選択します。
3. オンライン ヘルプの説明に従って、コンテンツ タイプの識別子を設定します。
4. **[終了]** をクリックします。

新しいコンテンツ タイプを作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストで、**[コンテンツ タイプ]** を選択します。
3. オンライン ヘルプの説明に従って、適切なアクセッサを選択し、プロパティ マップを設定し、ソース ドキュメントに基づいてポータル プロパティを設定するためのデフォルトの動作を指定します。
4. **[終了]** をクリックします。

グローバル ドキュメント プロパティ マップの設定

グローバル ドキュメント プロパティ マップには、ポータル内のドキュメントに共通するプロパティに対するデフォルトのマッピングが設定されます。これらのマッピングは、コンテンツ タイプ内のマッピングが適用された後に適用されます。

ユーザーがドキュメントをポータルにインポートすると、ポータルでは次の操作が実行されます。

1. グローバル コンテンツ タイプ マップまたはクローラのコンテンツ タイプの設定に基づいて、使用するコンテンツ タイプが決定されます。
2. コンテンツ タイプ内のマッピングに基づいて、ソース ドキュメントのプロパティがポータルのプロパティ値にマッピングされます。

- 3. グローバルコンテンツタイプマップに含まれているプロパティがソースドキュメントに含まれていない場合、ユーザーが事前に設定したデフォルト値に基づいてポータルのプロパティ値が設定されます。

グローバルドキュメントプロパティマップを作成するには次を行います。

- 1. [**管理**] をクリックします。
- 2. [ユーティリティの選択] ドロップダウンリストで、[**グローバルドキュメントプロパティマップ**] を選択します。
- 3. オンラインヘルプの説明に従って、ポータルプロパティとドキュメント属性間のマッピングを作成します。
- 4. [**終了**] をクリックします。

新規のプロパティを作成するには次を行います。

- 1. [**管理**] をクリックします。
- 2. 管理フォルダを開きます。
- 3. [オブジェクトの作成] ドロップダウンリストで、[**プロパティ**] をクリックします。
- 4. オンラインヘルプの説明に従って、プロパティ設定を設定します。
- 5. [**終了**] をクリックします。

HTML ページのプロパティのマッピング

基本的に、ポータルプロパティにマッピングするソースドキュメントの属性は、容易に決定することができますが、HTMLドキュメントの場合、困難である場合があります。以下の表では、HTML属性をポータルプロパティにマッピングするためのガイドラインを示します。

HTMLアクセッサは、UTF-8を含む、ウェブで一般的に使用されているすべての文字セットに対応しています。

表 4-1 : HTML 属性のポータルプロパティへのマッピング

HTML 属性	ポータルプロパティ
<Title> タグ	HTML の <TITLE> タグは、ポータルの <i>Title</i> プロパティにマップできます。

表 4-1 : HTML 属性のポータル プロパティへのマッピング (つづき)

HTML 属性	ポータル プロパティ
<Meta> タグ	<p>次の例に示すように、<META> タグを使用してプロパティ情報を HTML ページに追加することができます。</p> <pre> <HTML> <HEAD> <TITLE>Press Release - Company X Promotes Five Vice Presidents and Elects Six New Corporate Officers </ TITLE> <META NAME="corporate_information_class" CONTENT="Press Relations"> <META NAME="creation_date" CONTENT="18-Jan-2004"> <META NAME="stop_date" CONTENT="18-Jan-2005"> <META NAME="next_check_date" CONTENT="18-Jan- 2005"> <META NAME="last_check_date" CONTENT="18-Jan- 2004"> <META NAME="web_author_id" CONTENT="ktstatha"> <META NAME="language" CONTENT="English"> <META NAME="country" CONTENT="USA"> </HEAD> </pre> <p>このメタ情報を使用して適切なコンテンツ タイプを設定することによって、クローラおよびフィルタをより効率良く使用することが可能になります。例えば、creation_date (作成日) という <META> タグを Created というポータル プロパティにマップすることにより、ドキュメントを Jan 2004 のような適切な年月のフォルダに自動的に分類することが可能になります。</p>

表 4-1 : HTML 属性のポータルプロパティへのマッピング (つづき)

HTML 属性	ポータルプロパティ
ヘッドライン タグ	<p>アクセッサは、各ヘッドライン タグ (<H1>、<H2>、<H3>、<H4>、<H5>、<H6>) および各太字タグ () に対する値を返します。アクセッサによって返される属性の名前は、タグの名前に続いて順序数 (数値が 1 ずつ増える括弧に囲まれた指数) を示したものであり、値はタグの内容になります。例えば、HTML ドキュメントに次のタグが含まれている場合：</p> <pre><H1>Value 1</H1> <H3>Value 2</H3> <H1>Value 3</H1> Value 4</pre> <p>HTML アクセッサは、次のようなソースドキュメントの属性と値のペアを返します。</p> <pre><h1>(1) Value 1 <h3>(1) Value 2 <h1>(2) Value 3 (1) Value 4</pre> <p>例えば、あるニュースサイトにおいて、2 つ目の <H2> タグに記事の名前が設定されていて、3 つ目の タグに作成者の名前が設定されている場合、<i>Title</i> (題名) というポータルプロパティを <H2>(2) にマップし、<i>Author</i> (作成者) というポータルプロパティを (3) に設定することができます。</p>
HTML コメント	<p>下記のフォーマットで HTML コメントにメタデータを設定することは、一般的によく行われています。</p> <pre><!-- Writer: jm --> <!-- AP: md --> <!-- Copy editor: mr --> <!-- Web editor: ad --></pre> <p>このフォーマットでは、HTML コメントの区切り文字に続いて名前、コロン、値、コメントを終了する区切り文字が設定されています。HTML アクセッサは、このフォーマットで記述されているデータを解析し、次のようなソースドキュメントの属性と値のペアを返します。</p> <pre>Writer jm AP md Copy editor mr Web editor ad</pre>
親 URL	<p>ウェブクロールを通してインポートされたドキュメントの場合、<i>Parent URL</i> (親 URL) という属性が返されます。この属性の値は、そのドキュメントへのリンクが含まれていた親ページです。</p>

表 4-1 : HTML 属性のポータルプロパティへのマッピング (つづき)

HTML 属性	ポータルプロパティ
アンカー	<p>HTML アクセッサは、内部アンカー (<code></code>) とこれらを参照している URL (<code>http://server/page#target</code>) に対して特別な処理を実行します。アンカーは次の方法でポータルの属性にマッピングできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ポータルの Title 属性にマッピングできる代替タグ HTML ドキュメントに対するドキュメント URL に、ドキュメント断片の識別子が含まれていて (例えば、上記の例では <code>#target</code>)、アクセッサがドキュメントの中のそのアンカーを検出した場合、アクセッサは、アンカーの前にあるすべてのタイトルおよびヘッドライン タグを破棄し、アンカーの後にある最初のヘッドライン タグをドキュメントのタイトルとして返します。それ以降のタグは、アンカー タグに相対してインデックスが付けられるため、例えばポータルプロパティを <code><H1>(2)</code> にマップした場合、ドキュメント URL で指定されたアンカー タグの後にある 2 つ目の <code><H1></code> タグということになります。 Anchor Section 属性をドキュメントの説明または概要にマッピングする方法 HTML アクセッサは、指定されたアンカー タグの直ぐ後のテキスト (マークアップタグを取り除き、HTML 文を解析したもの) が含まれた Anchor Section という属性を返します。このプロパティをドキュメントの説明にマップすることによって、大きなドキュメント内の個々のセクションに対する説明をポータルで生成することが可能になります。 HTML アクセッサは、ドキュメントの最初の部分から、概要に収まる範囲のテキストを抽出し、HTML マークアップ タグを取り除いて HTML 文を正確に解析した上で、独自の概要を生成します。この概要を Summary という属性として返します。 アクセッサは、まず <code>DocumentSummary</code> メソッドを実行し、存在すれば、Anchor Section 属性の値を返します。この属性が存在しない場合は、<code><META NAME="description"></code> タグから抽出した Description 属性の値を返します。上記のいずれの属性も存在しない場合は、Summary 属性を返します。

コンテンツソースの設定

この節では、ポータルから WWW サイトやファイル システム、バックエンドのコンテンツ サーバーにアクセスできるようにするために、ポータルのコンテンツ ソース オブジェクトを設定する方法について説明します。この節では以下のトピックについて説明します。

- [「コンテンツソースについて」](#)

- [「ウェブ コンテンツ ソースの設定」、4-9 ページ](#)
- [「リモート コンテンツ ソースの設定」、4-9 ページ](#)

コンテンツ ソースについて

コンテンツ ソースは、外部のコンテンツ リポジトリへのアクセスを提供し、ユーザーやコンテンツ クローラが、ナレッジ ディレクトリにドキュメント レコードおよびリンクを追加できるようにします。例えば、セキュア ウェブ サイトにアクセスするために必要なウェブ フォームに入力するようにコンテンツ ソースを設定できます。

各セキュア ウェブ サイトまたはバックエンド リポジトリに対してコンテンツ ソースを登録することによって、それらのコンテンツをポータルにインポートすることができます。

コンテンツ ソースの履歴

コンテンツ ソースでは、そのコンテンツ ソースにアクセスしたクローラによってインポート、削除、拒否されたコンテンツの記録が保持されます。クローラによって重複リンクが作成されないようにするために、コンテンツ ソースでは、インポート済みのファイルの記録が保持されます。同じリンクが重複してポータルにインポートされないようにするには、同じコンテンツ ソースにアクセスする複数のクローラを、まだインポートされていないコンテンツのみをインポートするように設定する必要があります。

コンテンツ ソースとセキュリティ

コンテンツ ソースは保護されているドキュメントにアクセスするため、コンテンツ ソース自体へのアクセスを保護する必要があります。ポータル内のすべてのオブジェクトと同様に、コンテンツ ソースにはセキュリティを設定することができ、各コンテンツ ソースにアクセスできるユーザーおよびグループを詳細に指定することができます。コンテンツ ソースに対して読み取りアクセスを持っていないユーザーは、コンテンツを提出する際やクローラを作成する際に、そのコンテンツを選択することができません（表示されません）。

コンテンツ ソースとセキュリティによるアクセス制御

同じ情報のリポジトリにアクセスするコンテンツ ソースを複数作成することが可能です。例えば、同じウェブ サイトにアクセスする 2 つのウェブ コンテンツ ソースを作成することができます。この場合、1 つのコンテンツ ソースは、サイト内のすべてのコンテンツにアクセスできるエグゼクティブ ユーザーとしてサイトにアクセスするように設定できます。もう 1 つのコンテンツ ソースは、一部のセキュアコンテンツのみにアクセスできる管理ユーザーとしてサイトにアクセスするように設定します。その後、ポータルのエグゼクティブ ユーザーには、このウェブ サイトにエグゼクティブ ユーザーとしてアクセスするコンテンツ ソースへのアクセスを与えて、管理ユーザーには、管理ユーザーとしてウェブ サイトにアクセスするコンテンツ ソースへのアクセスを与えることができます。

注意：これらのコンテンツ ソースを両方クローラした場合、重複したリンクがポータルにインポートされる可能性があります。[「コンテンツ ソースの履歴」、4-8 ページ](#)を参照してください。

ウェブ コンテンツ ソースの設定

ウェブ コンテンツ ソースを設定することによって、ユーザーが、ウェブ コンテンツ クローラまたはウェブ ドキュメントの提出を使用して、ウェブからポータルへコンテンツをインポートできるようにします。ポータルをインストールすると、World Wide Web コンテンツ ソースが作成されます。このコンテンツ ソースを使用して保護されていないすべてのウェブ サイトにアクセスできます。

ウェブ コンテンツ ソースを作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 管理フォルダを開きます。
3. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストで、**[コンテンツ ソース - WWW]** をクリックします。
4. プロンプトが表示されたら、**World Wide Web** のウェブ サービスを選択します。
5. オンライン ヘルプの説明に従ってウェブ コンテンツ ソースを定義します。
6. **[終了]** をクリックします。

リモート コンテンツ ソースの設定

リモート コンテンツ ソースを設定することによって、ユーザーが、リモート クローラまたはリモート ドキュメントの提出を使用して、外部のコンテンツ リポジトリからポータルへコンテンツをインポートできるようにします。

以下の表では、リモート コンテンツ サービスを設定するための手順について説明します。

表 4-2：リモート コンテンツ ソースを設定するための手順

基本手順	内容
ユーザーによるドキュメントの提出とコンテンツ クローラの両方に使用できるリモート サーバーを作成します。Plumtree Content Services ソフトウェア パッケージを使用する場合は、Plumtree Content Services をポータルに登録する際に、リモート サーバーをインポートすることができます。詳細については、ソフトウェアに付属の資料を参照してください。	<ol style="list-style-type: none"> 1. [管理] をクリックします。 2. このコンテンツ ソース用の管理フォルダを選択するか、または新規のフォルダを作成します。 3. [オブジェクトの作成] ドロップダウン リストで、[リモート サーバー] を選択します。 4. オンライン ヘルプの説明に従って、リモート サーバーの接続情報を設定します。 5. [終了] をクリックします。

表 4-2 : リモート コンテンツ ソースを設定するための手順 (つづき)

基本手順	内容
ユーザーによるドキュメントの提出とクローラの両方に使用できるウェブ サービスを作成します。Plumtree Content Services ソフトウェア パッケージを使用する場合は、Plumtree Content Services をポータルに登録する際に、ウェブ サービスをインポートすることができます。詳細については、ソフトウェアに付属の資料を参照してください。	<ol style="list-style-type: none"> 1.[管理] をクリックします。 2.このコンテンツ ソース用の管理フォルダを選択します。 3.[オブジェクトの作成] ドロップダウン リストで、[ウェブ サービス - コンテンツ] を選択します。 4.オンライン ヘルプの説明に従って、ウェブ サービスの接続情報を設定します。 5.[終了] をクリックします。
リモート コンテンツ ソースを設定します。	<ol style="list-style-type: none"> 1.[管理] をクリックします。 2.管理フォルダを開きます。 3.[オブジェクトの作成] ドロップダウン リストで、[コンテンツ ソース - リモート] をクリックします。 4.オンライン ヘルプの説明に従ってリモート コンテンツ ソースを定義します。 5.[終了] をクリックします。

ナレッジ ディレクトリの管理

この節では、ポータルのナレッジ ディレクトリをセットアップし、管理する方法について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [「ナレッジ ディレクトリについて」](#)
- [「ナレッジ ディレクトリの基本設定」、4-11 ページ](#)
- [「フォルダの作成」、4-11 ページ](#)
- [「ドキュメントの提出」、4-11 ページ](#)
- [「フィルタによるドキュメントの配置の制御」、4-12 ページ](#)
- [「ドキュメント リンクの管理」、4-14 ページ](#)

ナレッジ ディレクトリについて

ナレッジ ディレクトリは、ユーザーが、他のユーザーまたはクローラによってアップロードされたドキュメントへのリンクを含むドキュメント レコードを見つけ出すために参照できるポータル エリアです。ナレッジ ディレクトリ内の情報は、ファイルの保存ボリュームやファイル シェアと同様に、サブ

フォルダに分類されていますが、管理責任を委譲したり、ACL による管理されたアクセスを導入したりするには、より詳細に分類する必要があります。

ポータルのデフォルトのインストール環境には、ナレッジ ディレクトリのルート フォルダが設定されており、その中には **Unclassified Documents**（未分類ドキュメント）という 1 つのサブフォルダがあります。追加のサブフォルダを作成する前に、『**プラムツリー エンタープライズ ウェブ導入ガイド**』の説明に従って、ナレッジ ディレクトリの分類構造を定義する必要があります。

ナレッジ ディレクトリの基本設定



ナレッジ ディレクトリの基本設定を設定することによって、ナレッジ ディレクトリで表示されるコンテンツを **Search Service** の検索またはデータベースのクエリから生成するかどうかなど、ナレッジ ディレクトリにおけるドキュメントやフォルダの表示方法を指定することができます。

ナレッジ ディレクトリの基本設定を設定するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. **[ユーティリティの選択]** ドロップダウン リストで、**[ナレッジ ディレクトリの基本設定]** をクリックします。
3. オンライン ヘルプの説明に従って、基本設定を指定します。
4. **[終了]** をクリックします。

フォルダの作成

ナレッジ ディレクトリのフォルダを作成するには次を行います。

1. **[ディレクトリ | ディレクトリの編集]** をクリックします。
2. 新しいサブフォルダを作成するフォルダを選択します。
3.  をクリックし、フォルダ エディタを起動します。
4. フォルダの名前と説明を入力し、**[OK]** をクリックします。
5. **[詳細の編集]** アイコン  をクリックし、オンライン ヘルプの説明に従って設定を行います。

デフォルトで親フォルダから継承される ACL を編集するには、**[セキュリティ]** をクリックします。

ドキュメントの提出

ドキュメントを提出（アップロード）するには次を行います。

1. ドキュメントを保存するフォルダを参照して選択します。
2. **[ドキュメントの提出]** ドロップダウン リストから **[簡易提出]** を選択するか、コンテンツ ソースを選択します。
3. オンライン ヘルプの説明に従って、ドキュメント提出用のフォームに入力します。

フィルタによるドキュメントの配置の制御

フィルタを使用することによって、ドキュメントをクロールする際、またはスマート ソートを使用する際に、どのフォルダにコンテンツを格納するかを制御することができます。フィルタによって、ドキュメントをナレッジ ディレクトリの中の関連するフォルダに分類するための条件を指定します。

フィルタは、基本設定によるフィールド検索とステートメントの組み合わせです。基本設定によるフィールド検索は、ドキュメントに関連付けられている名前、説明、およびフルテキスト コンテンツ フィールドに対して実行されます。ステートメントはドキュメントのコンテンツとプロパティの両方に対して実行されます。ステートメントはグループ化することができます。グループとは、ステートメントや他のグループを含めるためのコンテナであり、複雑なフィルタを作成するために使用します。グループは、数式でいうと括弧と同じ意味を持ちます。

フィルタの作成

多数のフォルダで利用できるフィルタを作成することが可能です。また、多数のフィルタを 1 つのフォルダに適用することも可能です。



フィルタを作成するには次を行います。

1. [**管理**] をクリックします。
2. 管理フォルダを開きます。
3. [オブジェクトの作成] ドロップダウン リストで、[**フィルタ**] をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従ってフィルタを定義します。
5. [**終了**] をクリックします。

フォルダへのフィルタの割り当て


フィルタを作成した後、そのフィルタをフォルダに割り当てることができます。ナレッジ ディレクトリのフォルダに対して適切なアクセス権を持っていれば、そのフォルダにフィルタを割り当てることができます。1 つのフォルダに複数のフィルタを割り当てる場合は、コンテンツがすべてのフィルタを通過しなければならないのか、あるいは少なくとも 1 つのフィルタを通過しなければならないのかを指定する必要があります。

フィルタをフォルダに割り当てするには次を行います。

1. [**ディレクトリ | ディレクトリの編集**] (Unix の場合は、[**ドキュメントの編集**]) をクリックします。
2. フィルタを割り当てるフォルダを選択し、フォルダの横の  をクリックします。フォルダ エディタ が起動します。
3. フィルタ セクションで、 [**フィルタの追加**] をクリックします。
4. ポップ アップ ボックスで、必要に応じてフォルダを展開し、フォルダに追加するフィルタを選択します。
5. フィルタを追加したら、[**終了**] をクリックして [フィルタ] ページに戻ります。
6. [フィルタ] ページで [**終了**] をクリックします。

コンテンツが宛先フォルダのフィルタを通過したが、宛先フォルダのサブフォルダのフィルタを通過できなかった場合は、デフォルト フォルダに保存することができます。

デフォルト フォルダを指定するには次を行います。

1. [**ディレクトリ | ディレクトリの編集**] (Unix の場合は、[**ドキュメントの編集**]) をクリックします。
2. フォルダを選択し、フォルダの横の  をクリックします。
3. [**デフォルト フォルダ**] ドロップダウン リストで、サブフォルダのフィルタを通過しなかったドキュメントを保存するフォルダを選択します。フォルダにサブフォルダがない場合、デフォルトフォルダはそのフォルダになります。フォルダにサブフォルダがある場合は、そのフォルダをデフォルト フォルダにするか、あるいはサブフォルダのどれかをデフォルト フォルダにすることができます。
4. [**終了**] をクリックします。

フィルタを使用してクロールされたコンテンツを分類する方法

ナレッジ ディレクトリ内にフォルダを作成し、そのフォルダのサブフォルダに対してフィルタを適用することによって、クロールされたコンテンツをサブカテゴリに分類することができます。例えば、ニュースのウェブサイトをクロールしてコンテンツをフォルダに保存するコンテンツ クローラを作成した場合、そのフォルダのサブフォルダに対してフィルタを適用することによって、政治、スポーツ、旅行等のトピック別にコンテンツを分類することができます。

注意： クローラの詳細については、[「ドキュメントを検出できるようにするためにコンテンツ クローラとコンテンツ サービスを使用する方法」](#)、4-32 ページを参照してください。

上記の例の場合、フィルタを使用してコンテンツを分類するには次を行います。

1. ナレッジ ディレクトリ内に **News** という名前のフォルダを作成します。
2. ニュースの中に、**Politics**、**Sports**、**Travel** という 3 つのサブフォルダを作成します。
3. ニュースのウェブサイトをクロールするクローラを作成し、宛先フォルダとして上記で作成した **News** フォルダを選択します。
4. **News** 中の各サブフォルダに割り当てるフィルタを作成します。各フィルタは、そのフィルタを適用するフォルダのコンテンツを必要なニュースのカテゴリ（政治、スポーツ、または旅行）に限定するように設定する必要があります。
5. 各フィルタを適切なサブフォルダに割り当てます。こうすることにより、ニュース サイトから **News** フォルダにコンテンツがクロールされた際、サブフォルダに適用したフィルタに基づいて、適切なサブフォルダにコンテンツが自動的にフィルタされます。

スマート ソート ユーティリティによるコンテンツのフォルダへの分類

スマート ソート ユーティリティを使用して、ナレッジ ディレクトリ内のソース フォルダからナレッジ ディレクトリ内の宛先フォルダへ、必要に応じてフィルタを適用しながら、コンテンツを再分類することができます。

スマート ソート ユーティリティを使用してコンテンツを再分類するには次を行います。

1. [**管理**] をクリックします。
2. [**ユーティリティの選択**] ドロップダウン リストで、[**スマートソート**] を選択します。
3. オンライン ヘルプの説明に従って、ソースと宛先の詳細を設定します。

ドキュメント リンクの管理

ドキュメント更新エージェントは、ナレッジ ディレクトリ内のドキュメント リンクを更新するビルトイン ジョブです。ドキュメント更新エージェントは、ポータル内のすべてのリンクにアクセスします。ドキュメント更新エージェントは、まずナレッジ ディレクトリにアップロードまたはクロールされたドキュメント レコードの設定に基づいて、各リンクの更新が必要であるかどうかを決定します。


リンクの更新が必要な場合、ドキュメント更新エージェントはリンクのソース ドキュメントを参照します。ソース ドキュメントが変更されている場合、変更内容が検索インデックスに反映されます。また必要な場合は、ソース ドキュメントを基にポータル プロパティを改めて生成することも可能です。例えば、ソース ドキュメントに 1 行追加された場合や、ソース ドキュメントの作成者の名前が変更された場合、リンクを更新すると、ユーザーはすぐにその追加された行または新しい作成者を検索してドキュメントを見つけることができます。

ドキュメント更新エージェントはまた、リンク先のソース ドキュメントが存在しない場合やリンクの期限が切れている場合は、そのリンクを削除します。

リンクへの更新が必要となる頻度でドキュメント更新エージェントを実行する必要があります。ドキュメント更新エージェントは、他にそのエージェントのコピーが稼働しているかどうかを検出し、それらのエージェントに作業を分配します。しかし、エージェントの実行されているコピーが多ければ多いほど、Automation Service が使用する CPU サイクルも多くなるので、CPU リソースに適合したエージェント数に制限する必要があります。

ドキュメント更新エージェントの詳細については、[「ポータル エージェントの実行」、5-2 ページ](#)を参照してください。

リンクの更新設定を確認するには次を行います。

1. **[ディレクトリ | ディレクトリの編集]** (Unix の場合は、**[ドキュメントの編集]**) をクリックします。
2. リンクを選択します。
3. 更新設定を確認するリンクの横にあるチェックボックスを選択し、 **[ドキュメント設定]** をクリックします。**[ドキュメント設定]** ページのすべてのオプションによって、ドキュメント更新エージェントがどのようにリンクを更新するかが決まります。

ポートレットによるポータル サービスの拡張

この節では、ユーザーにポートレットを提供するためのセットアップを行い、管理する方法について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [「ポートレットについて」](#)
- [「ポートレット ウェブ サービス、ポートレット テンプレート、ポートレット、およびポートレットバンドルの作成」、4-20 ページ](#)
- [「ポートレットを必須にする方法と推奨する方法」、4-22 ページ](#)

ポートレットについて

ポートレットは、情報のほか、カスタマイズされたツールやサービスを提供します。ポータルには多くのポートレットが付属していますが、ユーザー自身がポートレットを作成したり、ウェブ開発者やプラムツリー ポートレットの開発者にポートレットの作成を依頼したりすることもできます。また、Plumtree Support Center からポートレットをダウンロードすることもできます。

ソフトウェア パッケージとして提供されているポートレットのインストールと設定に関する情報については、このガイドの手順ではなく、ポートレット ソフトウェアの資料を参照してください。

ポートレットの開発に関する情報については、下記のサイトにアクセスして、『*Plumtree Development Documentation G6*』を参照してください。

http://www.plumtree.com/edoc/G6/Plumtree_Development_Documentation.htm

マイ ページまたはコミュニティ ページに追加できるポートレットをユーザーに提供するには、以下の手順を行う必要があります。

1. ポートレット ソフトウェアをインストールします。
2. リモート サーバーとポートレット ウェブ サービスを作成して、機能設定を定義します。
3. 必要な場合は、ポートレット テンプレートを作成し、複数のポートレットに適用する表示設定を定義します。
4. ポートレットを作成し、ポートレットの表示設定を定義します。
5. 必要な場合は、複数のポートレットをポートレット バンドルに追加し、ユーザーが、関連したポートレットのグループをマイ ページまたはコミュニティ ページに一度に追加できるようにします。

ポートレットの特徴

以下の表に、ポータル システムにおいて利用できるポートレットのタイプを示します。

表 4-3：ポートレットのタイプ

タイプ	説明
ビルトインまたはリモート	<ul style="list-style-type: none"> • ビルトイン ポートレットは、デフォルトのプラムツリーポータルに付属しているポートレットであり、ポータル内にインストールされます。 • リモート ポートレットは、デフォルトのポータルの基本機能を拡張するポートレットであり、リモート サーバー上でホストされます。リモート ポートレットが設定されているマイ ページやコミュニティ ページをユーザーが表示すると、ポータルは、HTTP を介して適切なリモート サーバーにアクセスし、そのポートレットの最新のコンテンツを取得します。

表 4-3：ポートレットのタイプ(つづき)

タイプ	説明
コミュニティ用または個人用	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ ポートレットは、コミュニティ ページにのみ追加できます。ポートレットはコミュニティ エディタから作成することもできますが、その場合、作成したポートレットはそのコミュニティでのみ使用できます。 個人用ポートレットはマイ ページまたはコミュニティ ページのどちらにも追加することができます。
幅が狭いまたは幅が広い	<ul style="list-style-type: none"> 幅が狭いポートレットは、幅の狭い列または幅の広い列のどちらにも追加することができます。列の長さは、ポートレットのコンテンツに合わせて調整されます。したがって、ポートレットのコンテンツの幅が大きいのに幅の狭い列を選択すると、ポータルの外観が不適切になる可能性があります。 幅の広いポートレットは、幅の広い列にのみ追加できます。
ヘッダ、フッタ、またはコンテンツキャンバス	<ul style="list-style-type: none"> ヘッダ ポートレットをコミュニティ、コミュニティ テンプレート、および環境定義に追加することによって、ページの一番上にあるバナーをメイン ポータルに表示されるトップ バナーとは異なるものに置き換えて、これらのオブジェクトのブランドを変更することができます。 フッタ ポートレットをコミュニティ、コミュニティ テンプレート、および環境定義に追加することによって、ページの一番下にあるバナーをメイン ポータルに表示されるボトム バナーとは異なるものに置き換えて、これらのオブジェクトのブランドを変更することができます。 コンテンツ キャンバス ポートレットは、コミュニティ ページのトップ バナーの下にあるコンテンツ キャンバス領域を含む部分に追加することができます。1 つのページに複数のコンテンツ キャンバス ポートレットを追加することはできません。 コンテンツ キャンバス ポートレットをページに追加するには、コンテンツ キャンバス ポートレットが追加可能なページ レイアウトを選択する必要があります。 <p>注意：デフォルトのポータルには、ヘッダ ポートレット、フッタ ポートレット、コンテンツ キャンバス ポートレットとポートレット テンプレートが付属しています。</p>

ポートレットをナビゲーションとログインに使用する方法

プラムツリーは、開発者がナビゲーションとログインのコンポーネント（名前フィールド、ログインフィールド等）を容易にカスタマイズするための、ポートレットで使用可能なタグを提供しています。ポータルには、これらのタグを使用する例として、2 つのポートレットが付属しています。

- ナビゲーション タグ ヘッダ ポートレット：ナビゲーション タグを使用する例として提供されています。このポートレットは、ポートレット用ナビゲーション形式（環境定義で設定）で使用します。ポートレットをナビゲーションに使用する際に利用できるタグ ナビゲーション用の環境定義もポータルに含まれています。この環境定義は、ポートレット用ナビゲーション形式を使用し、ヘッダとしてナビゲーション タグ ヘッダ ポートレットを使用するように設定されています。
- ログイン ポートレット：ログイン タグを使用する例として提供されています。

ポータルのナビゲーションに関する詳細については、[「ナビゲーション オプション」、2-11 ページ](#)を参照してください。

タグの使用に関する詳細については、下記のサイトにアクセスして『*Plumtree Development Documentation G6*』を参照してください。

http://www.plumtree.com/edoc/G6/Plumtree_Development_Documentation.htm

既存のウェブ アプリケーションへのアクセスを提供するためにポートレットを使用する方法

ポートレットを使用することによって、ユーザーがプラムツリー ポータルから既存のウェブ アプリケーションにアクセスできるように設定することができます。例えば、ユーザーが、社員用の社会保険システムにアクセスする必要がある場合、ポータルからそのシステムにアクセスすることによって、再度ログイン情報を入力しなくても済みます。また、ポータルのコンテキスト、個人用設定、ナビゲーション設定等をそのまま利用することができます。

以下に、ポータルを通して既存アプリケーションを提供するための基本手順を示します。

ポータルを通して既存アプリケーションを提供するには次を行います。

1. (推奨) ポータルで、既存アプリケーション用のロックボックスを作成し、そのロックボックスに対するログイン情報をユーザーが設定するようにします。

ロックボックスを作成するには次を行います。

- a. **[管理]** をクリックします。
- b. **[ユーティリティの選択]** ドロップダウン リストで、**[認証ポータル マネージャ]** をクリックします。
- c. **[新規のロックボックス]** をクリックし、オンライン ヘルプの説明に従ってロックボックスを作成します。
- d. **[終了]** をクリックして認証ポータル マネージャを閉じます。

ロックボックスにログイン情報を入力するために、ユーザーは次を行う必要があります。

- a. **[マイアカウント]** をクリックします。
- b. **[パスワード マネージャ]** をクリックします。
- c. 表示されている各アプリケーション（対応するロックボックス）に対して、そのアプリケーションにアクセスするために必要なユーザー名とパスワードを入力します。
- d. **[終了]** をクリックします。

2. ポータルで、既存アプリケーション用のリモート サーバーを作成します。

リモート サーバーを作成するには次を行います。

- a. **[管理]** をクリックします。

- b. このサーバー用の管理フォルダを選択するか、新規のフォルダを作成します。
 - c. [オブジェクトの作成] ドロップダウン リストで、[**リモート サーバー**] を選択します。
 - d. オンライン ヘルプの説明に従って、リモート サーバーの接続情報を設定します。
 - e. [**終了**] をクリックします。
3. ポータルで、既存アプリケーション用のポートレットに関連付けるリモート ポートレット ウェブ サービスを作成します。

リモート ポートレット用のウェブ サービスを作成するには次を行います。

 - a. [**管理**] をクリックします。
 - b. このウェブ サービス用の管理フォルダを選択するか、新規のフォルダを作成します。
 - c. [オブジェクトの作成] ドロップダウン リストで、[**ウェブ サービス - リモート ポートレット**] をクリックします。
 - d. オンライン ヘルプの説明に従って、ウェブ サービスを設定します。このアプリケーションへの認証を行うためのユーザーの認証情報は、このアプリケーション用に作成したロックボックスに設定できます。
 - e. ポータルのヘッダとフッタの間の領域全体に既存アプリケーションのコンテンツを表示するには、ウェブ サービス エディタの HTTP 設定ページで、[**ホストされている表示モードを使用**] を選択します。この設定によってユーザーは、ポータルのナビゲーションを変更せずにアプリケーションを拡大して表示することが可能になります。この設定にできなかった場合、このアプリケーション用に作成したポートレット内にコンテンツが表示されます。
 - f. [**終了**] をクリックします。
4. 上記のウェブ サービスに基づいたポートレットを作成します。

ポートレットを作成するには次を行います。

 - a. [**管理**] をクリックします。
 - b. このポートレット用の管理フォルダを選択するか、新規のフォルダを作成します。
 - c. [オブジェクトの作成] ドロップダウン リストで、[**ポートレット**] を選択します。
 - d. オンライン ヘルプの説明に従って、ポートレットを設定します。
 - e. [**終了**] をクリックします。
5. マイ ページまたはコミュニティにポートレットを追加します。

ユーザーがこのアプリケーション用のポートレットを ([**マイ ページ | ポートレットの追加**] または [**マイ コミュニティ | ポートレットの追加**] によって) 任意で追加できるようにするか、ポートレットを必須に設定することができます。[「必須ポートレットの定義」、4-22 ページ](#)を参照してください。

ポートレット コンテンツのキャッシュ

ポートレットのコンテンツの一部をキャッシュすることによって、ポータルのパフォーマンスを大幅に向上させることができます。ポートレットのコンテンツをキャッシュした場合、コンテンツは指定した時間の間ポータル内に保存されます。ユーザーが、キャッシュされたポートレットが設定されたマイ ページまたはコミュニティ ページにアクセスし、そのコンテンツを要求すると、ポータルは、ポート

レットのコードを実行してコンテンツを生成するのではなく、キャッシュされたコンテンツを提供します。

ポートレットの作成時に、そのポートレットをキャッシュするかどうかを指定でき、キャッシュする場合は、キャッシュする期間を指定できます。ユーザー固有のコンテンツを提供するポートレット以外のポートレットは、すべてキャッシュすることをお勧めします。例えば、株式情報を提供するポートレットはキャッシュすべきですが、ユーザーのメールボックスを表示するポートレットはキャッシュすべきではありません。

ポートレットのコードを開発する際は、キャッシュ パラメータを定義してください。

ポートレットのキャッシュに関する詳細については、[『Plumtree Development Documentation G6』](#)またはポートレット ソフトウェアに付属の資料を参照してください。

ポートレットの基本設定

ポートレットに対して、以下の基本設定のタイプを設定することができます。

表 4-4：ポートレットの基本設定

基本設定のタイプ	説明
管理の基本設定 <i>電子メール ポートレットにおける例：</i> 接続するメール サーバーの設定	これらの基本設定は、ポートレットの作成者がポートレット エディタの [メイン設定] ページで設定でき、全ユーザーのポートレット表示に適用されます。管理権限を持つユーザーであれば、 [マイ ページ ポートレットの基本設定の編集] を選択するか、ポートレットのタイトル バーにある編集アイコンをクリックすることによって、これらの基本設定を編集できます。
ユーザー設定 <i>電子メール ポートレットにおける例：</i> ポートレット内に表示される電子メール数の設定	これらの基本設定は、ユーザーが、 [マイ ページ ポートレットの基本設定の編集] または [マイ コミュニティ ポートレットの基本設定の編集] から設定できます。 これらの基本設定は、設定を行ったユーザーのポートレット表示にのみ適用されます。

表 4-4：ポートレットの基本設定

基本設定のタイプ	説明
<p>コミュニティの基本設定</p> <p>電子メール ポートレットにおける例： 共有のメール フォルダが表示されるように設定し、そのフォルダに対する共通のログイン/パスワードを指定する</p>	<p>これらの設定は、コミュニティの管理者が、コミュニティ エディタの [ポートレットの基本設定] ページで設定します。このページでは、そのコミュニティ固有のポートレットやその他のポートレットに対するコミュニティの基本設定を設定できます。コミュニティの基本設定は、そのコミュニティの全ユーザーのポートレット表示に適用されます。</p> <p>コミュニティ管理者は、コミュニティを表示し、[マイコミュニティ ポートレットの基本設定の編集] を選択するか、ポートレットのタイトル バーにある編集アイコンをクリックすることによって、これらの基本設定を編集できます。</p>
<p>ポートレット テンプレートの基本設定</p> <p>例： 使用するポートレット ウェブ サービスの指定</p>	<p>これらの基本設定は、ポートレット テンプレートの作成者がポートレット テンプレート エディタの [メイン設定] ページで設定でき、ポートレット テンプレートそのものと、そのテンプレートから作成されるすべてのポートレットに適用されます。</p> <p>テンプレートからポートレットを作成した後に、そのテンプレートの基本設定を変更した場合、変更内容は、変更後にそのテンプレートから作成したポートレットにのみ適用されます。変更が行われる前に作成したポートレットには適用されません。</p>

ポートレット ウェブ サービス、ポートレット テンプレート、ポートレット、およびポートレット バンドルの作成

ポートレット ウェブ サービスの作成

ポートレット ウェブ サービスを使用することによって、ポートレットの機能設定を集中的に指定することが可能になります。表示設定は、個々のポートレットで指定できます。

ビルトイン ポートレットはポートレット内にインストールされています。

ビルトイン ポートレット用のウェブ サービスを作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 管理フォルダを開きます。
3. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストで、**[ウェブ サービス - ビルトイン ポートレット]** をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従って、ポートレット用のウェブ サービスを定義します。
5. **[終了]** をクリックします。

リモート ポートレットは、デフォルトのポータルの基本機能を拡張するポートレットであり、リモート サーバー上でホストされます。

リモート ポートレット用のウェブ サービスを作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 管理フォルダを開きます。
3. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストで、**[ウェブ サービス - リモート ポートレット]** をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従って、ポートレット用のウェブ サービスを定義します。
5. **[終了]** をクリックします。

ポートレット テンプレートの作成

ポートレット テンプレートを使用することによって、1 つのポートレットの複数のインスタンスを作成し、各インスタンスには、ほぼ共通の基本設定を適用しながら、少しずつ異なる情報を表示するように設定できます。例えば、地域別売上のポートレット テンプレートを作成し、そのテンプレートを基にして、会社の販売地域ごとに異なるポートレットを作成できます。また、すべての地域別売上ポートレットを 1 ページにまとめて概要ページを提供することもできます。

ポートレット テンプレートからポートレットを作成した後、その 2 つのオブジェクトの関係はなくなります。したがって、ポートレット テンプレートを変更した場合、変更内容は、そのテンプレートを使用して既に作成したポートレットには反映されません。

ポートレット テンプレートを作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 管理フォルダを開きます。
3. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストで、**[ポートレット テンプレート]** をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従ってポートレット テンプレートを定義します。
5. **[終了]** をクリックします。

ポートレットの作成

ポートレット（ビルトインまたはリモート）を作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 管理フォルダを開きます。
3. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストで、**[ポートレット]** をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従ってポートレットを定義します。
5. **[終了]** をクリックします。

ポートレット バンドルの作成

ポートレット バンドルは、関連するポートレットのグループを 1 つのパッケージにまとめて、マイ ページまたはコミュニティ ページに追加しやすくしたものです。ユーザーは、ポートレットをマイ ページまたはコミュニティ ページに追加する際に、バンドル内のすべてのポートレットを追加するか、また

は選択したポートレットのみを追加するかを決定できます。関連する機能を持つ複数のポートレットまたは特定のユーザー グループにとって役立つポートレットを 1 つのグループにまとめて、ポートレット バンドルを作成すると便利です。こうすることにより、ユーザーはポータル内のすべてのポートレットを参照しなくても、特定のニーズに関連するポートレットを簡単に見つけることができます。

ポートレット バンドルを作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 管理フォルダを開きます。
3. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストで、**[ポートレット バンドル]** をクリックします。
4. バンドルにポートレットを追加します。
5. **[終了]** をクリックします。

ポートレットを必須にする方法と推奨する方法

この節では、グループまたはユーザーに対して、ポートレットを必須にする方法と推奨する方法について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [「必須ポートレットの定義」](#)
- [「ポートレットの推奨」、4-22 ページ](#)

必須ポートレットの定義

ユーザーまたはグループのデフォルトのマイ ページに特定のポートレットを強制的に設定するには、そのユーザーまたはグループに対してそのポートレットを必須に設定します。必須ポートレットは、ユーザーが選択したポートレットの上に表示されます。また、ユーザーは、必須ポートレットをマイ ページから削除することはできません。

必須のポートレットはマイ ページに追加されるため、ヘッダ、フッタ、コンテンツ キャンバス ポートレットやコミュニティ専用ポートレットを必須に設定することはできません。

特定のグループに対してポートレットを必須に設定するには次を行います。


1. **[管理]** をクリックします。
2. 必須にするポートレットを選択して名前をクリックします。
3. **[セキュリティ]** ページをクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従って、ユーザーとグループの必須設定を定義します。
5. **[終了]** をクリックします。

ポートレットの推奨

特定のポートレットをマイ ページに追加するように *推奨* することができます。ユーザーは、マイ ページに追加できるポートレットであり、かつアクセス権限のあるポートレットであれば、そのポートレットを推奨することができます。

推奨ポートレットはマイ ページに追加されるため、ヘッダ、フッタ、コンテンツ キャンバス ポートレットやコミュニティ専用ポートレットを推奨ポートレットとして設定することはできません。


ポートレットを推奨するには次を行います。

1. [ポートレットの追加] ページまたはポートレット エディタ内で  をクリックします。URL が含まれたテキストが表示され、このテキストをメールに貼り付けてユーザーに送信することができます。
2. リンクをメールで送信するか、コミュニティ リンク ポートレットに追加します。

複数のポートレットを複数のグループのマイ ページに追加する方法

1 つまたは複数のグループのマイ ページに 1 つ以上のポートレットを一括して追加することができます。

複数のグループに複数のポートレットを追加するには次を行います。

1. [管理] をクリックします。
2. ポートレットが含まれている管理フォルダを選択するか、ポートレットを検索します。
3. 1 つまたは複数のポートレットを選択し、 をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従ってポートレットを選択し、選択したグループのマイ ページに追加します。
5. [終了] をクリックします。ユーザーは、この方法で設定されたポートレットをマイ ページから削除することができます。

コミュニティの管理

この節では、ポートレット コミュニティを作成する方法と、コンテンツ マネージャが追加のコミュニティを作成して管理できるようにする方法について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [「コミュニティについて」](#)
- [「ページ テンプレートとコミュニティ テンプレートの作成」、4-25 ページ](#)
- [「コミュニティの作成」、4-26 ページ](#)
- [「サブコミュニティの作成」、4-27 ページ](#)
- [「コミュニティ グループの作成」、4-28 ページ](#)
- [「コミュニティ ポートレットの作成」、4-29 ページ](#)
- [「コミュニティのユーザーとグループの管理」、4-29 ページ](#)
- [「コミュニティのナレッジ ディレクトリの管理」、4-31 ページ](#)

コミュニティについて

コミュニティは、ポートレットを表示するという意味ではマイ ページに類似しています。しかし、コミュニティでは、1 人のユーザーに対してではなく、1 つのグループに対してコンテンツやサービスを提供します。

会社の部署単位でコミュニティを作成すると便利です。例えば、マーケティング部では、プレス情報、リード数、トレードショー カレンダーなどの情報を提供するコミュニティを作成できます。一方、技術

部では、プロジェクトのマイルストーン、規定順守条件、技術仕様書などを含む別のコミュニティを作成できます。

会社で進行中のプロジェクト単位でコミュニティを作成することもできます。例えば、プロフェッショナル サービス部の担当者が顧客と共同でシステムを導入している場合、1 つのコミュニティを作成して、そのグループが導入課題に共同で取り組めるようにすることができます。このようなコミュニティは、プロジェクトが終了次第削除できます。

各コミュニティは、コミュニティ テンプレートを基に作成されます。コミュニティ テンプレートは、1 つ以上のページ テンプレートによって構成されており、ページ テンプレートは複数のポートレットを含みます。コミュニティ テンプレートまたはコミュニティ自体からコミュニティに追加された個々のページ テンプレートは、コミュニティのトップ ページにリンクとして表示されます。



セキュリティ: 個々のコミュニティ ページには固有のセキュリティ設定を設定することができます。したがって、ページとサブコミュニティの両方を使用してコミュニティの異なる箇所へのアクセスを制御することができます。

最初に追加したページがコミュニティのホームページとして設定されます。コミュニティのホームページは、ユーザーがコミュニティにアクセスした際に表示されるデフォルト ページです。

また、コミュニティでは下記の機能を使用することができます。

- サブコミュニティ - コミュニティ内の各エリアに異なるセキュリティを設定するために使用します。
- ヘッダとフッタ - そのコミュニティの外観をポータルのほかのページから区別するために使用します。
- コミュニティ固有のポートレットやグループ
- コミュニティ ナレッジ ディレクトリ - コミュニティのメンバーの一覧、コミュニティに関連するウェブ サイト、ポータル ドキュメント、他のコミュニティ ページへのリンク等を含めることができます。

ページ テンプレートとコミュニティ テンプレートの作成

ページ テンプレートの作成

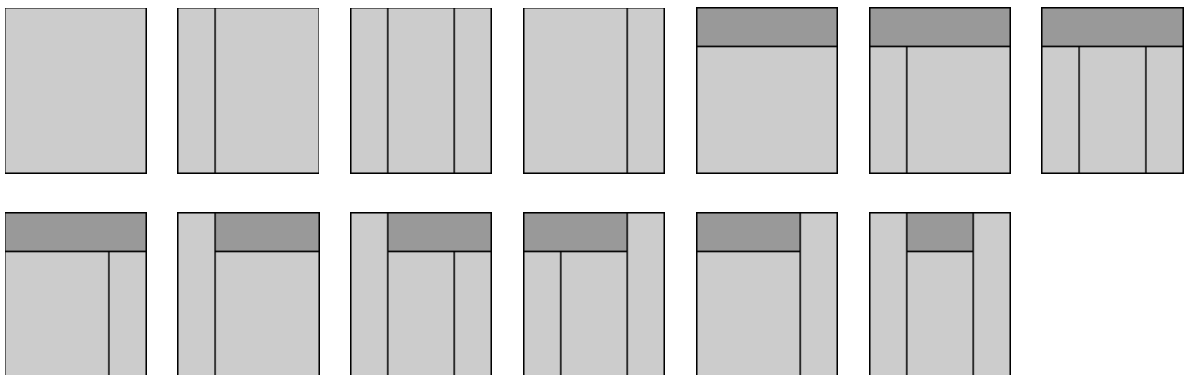
ページ テンプレートには、コミュニティのページの基になるポートレットやレイアウト設定が含まれています。1つのページ テンプレートを多数の異なるコミュニティで使用できるため、同種類のページに対して同じ外観を設定することができます。例えば、会社の各部署でコミュニティを作成し、各コミュニティの最初のページには、グループの基本的な役割、その部署に所属しているメンバーの一覧、その部署に現在割り当てられているプロジェクトなどの情報を表示するための同じページ テンプレートを使用できます。

各ページ テンプレートでは特定のページ レイアウトを指定できます。ページ レイアウトによって、ページに追加できるポートレットの種類とその位置が決まります。例えば、コンテンツ キャンバス ポートレットをページに追加するには、コンテンツ キャンバス ポートレットが追加可能なページ レイアウトを選択する必要があります。

ページ レイアウトには次の3つの部分があります。提供されているページ レイアウトには、これらの異なる組み合わせが設定されています。

- 幅の広い列：幅の広いポートレットまたは幅の狭いポートレットのどちらでも追加できます。各ページ レイアウトには幅の広い列が1つ設定されています。
- 幅の狭い列：幅の狭いポートレットのみ追加できます。ページ レイアウトには、幅の広い列の左側または右側のどちらか、あるいは両側に幅の狭い列が設定されているものがあります。
- コンテンツ キャンバス エリア：コンテンツ キャンバス ポートレットを追加できます。提供されているページ レイアウトの中には、ページの一番上に配置され、列の一部またはすべてを跨ぐように設定できるコンテンツ キャンバス エリアが設定されているものがあります。

以下の中からページ レイアウトを選択できます（濃いグレーの領域は、コンテンツ キャンバス エリアです）。



ページ テンプレートを作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 管理フォルダを開きます。
3. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストで、**[ページ テンプレート]** をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従ってページ テンプレートを定義します。

5. [終了] をクリックします。

ページ テンプレートに基づいてコミュニティ ページを作成する際、テンプレートから作成したページが、テンプレートへの将来の変更を継承するかどうかを指定することができます。例えば、コミュニティ ページがテンプレートへの変更を継承するように設定した場合、テンプレートにポートレットを追加すると、関連付けられているすべてのコミュニティ ページにポートレットが追加されます。

コミュニティ テンプレートの作成

コミュニティは、コミュニティ テンプレートを基に作成します。コミュニティ テンプレートを使用して、ページ テンプレートや、必要に応じてヘッダまたはフッタを含む、コミュニティの最小構成要素を定義することができます。コミュニティの作成者は、新しいコンテンツやサービスを追加することはできますが、コミュニティ テンプレートによって提供されているコンテンツ、サービス、またはデザインを削除することはできません。1 つのコミュニティ テンプレートを多数の異なるコミュニティで使用できるため、関連するコミュニティが同じ外観を持つように設定することができます。例えば、部署単位で作成したすべてのコミュニティには、類似した外観やコンテンツを持たせるようにし、プロジェクト単位で作成したコミュニティには異なる外観やコンテンツを持たせるようにすることができます。

次のいずれかの方法を使用してヘッダ ポートレットとフッタ ポートレットをコミュニティに追加できます。

- コミュニティ テンプレートに追加し、テンプレートから作成されたすべてのコミュニティで、同じ基本ヘッダとフッタが表示されるようにすることができます。
- コミュニティ テンプレートにヘッダまたはフッタが指定されていない場合、コミュニティに直接追加することができます。

ブランド ポートレット（ポータルに付属しているヘッダ、フッタ、およびコンテンツ キャンバス ポートレット）を使用した場合、コミュニティの管理者は、ヘッダまたはフッタのテキスト、アイコン、配色などのポートレット設定を編集することができます。これを使用することにより、異なるコミュニティが同種類の異なるヘッダおよびフッタを持つように設定できます。

コミュニティ テンプレートを作成するには次を行います。

1. [管理] をクリックします。
2. 管理フォルダを開きます。
3. [オブジェクトの作成] ドロップダウン リストで、[**コミュニティ テンプレート**] をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従ってコミュニティ テンプレートを定義します。
5. [終了] をクリックします。

コミュニティ テンプレートに基づいてコミュニティを作成する場合、作成したコミュニティが、テンプレートへの将来の変更を継承するように指定することができます。変更を継承するように選択した場合、コミュニティ テンプレートに適用したすべての変更がコミュニティに反映されます。例えば、コミュニティ テンプレートからページ テンプレートを削除した場合、そのテンプレートから作成されたページもコミュニティから削除されます。

コミュニティの作成

コミュニティまたはサブコミュニティを作成するには、コミュニティに対する編集権限とコミュニティの作成アクティビティ権を持っている必要があります。

コミュニティを作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 管理フォルダを開きます。
3. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストで、**[コミュニティ]** をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従ってコミュニティを定義します。
5. **[終了]** をクリックします。

サブコミュニティの作成

サブコミュニティ（ページも同様）を使用することによって、コミュニティ内に異なるセキュリティ設定を適用したサブセクションを作成することができます。必要な場合、それらのサブセクションには、コミュニティの主要部より厳格なセキュリティを適用することができます。例えば、マーケティング コミュニティ内に広告サブコミュニティを作成し、そのサブコミュニティには異なる所有者を設定したり、マーケティング コミュニティの一部のユーザーのみにアクセスを許可するように設定したりすることができます。

サブコミュニティとは、コミュニティ フォルダ内に作成されたもう 1 つのコミュニティ フォルダです。したがって、サブコミュニティは、親コミュニティのセキュリティとデザインを継承しますが、それらの設定をサブコミュニティのニーズに合わせて変更することもできます。また、フォルダの構造を変更することによって、コミュニティとサブコミュニティの関係を変更することもできます。

注意： サブ コミュニティでコミュニティのナレッジ ディレクトリを表示するように設定した場合、親コミュニティのコミュニティ ナレッジ ディレクトリとは独立したものになります。

コミュニティに対するユーザーのアクセス権限によって、そのユーザーのサブコミュニティへのアクセス方法が異なります。

- サブコミュニティへのアクセスを持つすべてのユーザーは、**[マイ コミュニティ]** タブの **[コミュニティへの参加]** リンクからサブコミュニティを表示したり参加したりすることができます。
- コミュニティ全体へのアクセスを持つユーザーは、親コミュニティの **[サブコミュニティ]** タブからサブコミュニティにアクセスすることもできます。

サブコミュニティを作成するには、コミュニティの作成アクティビティ権を持っている必要があります。

新しいコミュニティの中にサブコミュニティを作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 管理フォルダを開きます。
3. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストで、**[コミュニティ]** をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従ってコミュニティのページを定義します。
5. **[サブコミュニティ]** ページをクリックします。
6. **[サブコミュニティの作成]** をクリックします。
7. オンライン ヘルプの説明に従ってサブコミュニティを定義します。
8. サブコミュニティ エディタで **[終了]** をクリックします。
9. コミュニティ エディタで **[終了]** をクリックします。

注意: サブコミュニティは、最大 10 レベルまでネストできます。



重要: [関連するコミュニティ] タブには、ピア コミュニティ（そのコミュニティと同じ管理フォルダに保存されているコミュニティ）が表示されます。このため、関連するコミュニティへのアクセスを効率良く提供するには、コミュニティを保存する場所および管理フォルダ構造をよく検討する必要があります。

コミュニティ ページ

コミュニティのページは、リンクとしてコミュニティ内に表示されます。コミュニティのページは、コミュニティ フォルダ内またはコミュニティ エディタ内で作成することができます。ページは、コミュニティと同様にテンプレートに基づいて作成され、テンプレートへの将来の変更を継承するかどうかを選択できます。コミュニティ ページは、他のポータル オブジェクトと同様に、（他のコミュニティ フォルダに）コピーすることができ、ローカライズ、移行することができます。また、固有のセキュリティ設定を適用することができます。

コミュニティ ページを作成するには次を行います。

1. [**管理**] をクリックします。
2. コミュニティ フォルダを開きます。
3. [**オブジェクトの作成**] ドロップダウン リストで、[**ページ**] をクリックします。
4. 必要な場合は、[**テンプレートの設定を継承する**] チェックボックスをオンにします。

ページ テンプレートを継承するように設定した場合、ページ テンプレートに関連付けられているポートレットを削除することはできません。しかし、テンプレートから作成したページにポートレットを追加することは可能です。テンプレートを継承しないように設定した場合は、テンプレートに関連付けられているポートレットを削除したり、新しいポートレットを追加したり、ページ レイアウトを変更したりすることができます。

5. オンライン ヘルプの説明に従ってページを定義します。
6. [**終了**] をクリックします。

コミュニティ グループの作成


グループとは、ポータル ユーザーの集まりであり、それらのポータル ユーザーには共通のアクセス権限が付与されます。ポータル グループに影響を与えることなく、コミュニティのグループを作成できます。コミュニティのグループを作成することによって、コミュニティのメンバーに対して容易に役割を割り当てることが可能になります。例えば、コミュニティのスケジュールを管理する役割を持つグループを作成できます。

その後、作成したコミュニティ グループをコミュニティの外でも使用できるようにする必要がある場合は、そのグループをコミュニティ フォルダから他の管理フォルダに移動することができます。

コミュニティ グループを作成するには、コミュニティの作成アクティビティ権を持っている必要があります。

コミュニティ グループを作成するには次を行います。

1. [**マイ コミュニティ**] をクリックして、編集するコミュニティを選択します。

2. 右側にある  **[このコミュニティを編集]** をクリックしてコミュニティ エディタを開きます。
3. コミュニティ エディタの左側にある **[コミュニティ設定の編集]** で、**[このコミュニティのグループ]** をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従ってコミュニティ グループを作成します。
5. グループを保存するには、**[終了]** をクリックして、**[オブジェクトの保存]** ダイアログ ボックスに必要な事項を入力します。


コミュニティ ポートレットの作成

コミュニティ内で、ポートレットを作成したり管理したりすることができます。ポートレットを作成するには、ポートレット ウェブ サービスまたはポートレット テンプレートへのアクセスとポートレットの作成アクティビティ権が必要です。

コミュニティ エディタで作成したポートレットは、そのコミュニティ内のみで使用できます。その後、作成したポートレットをコミュニティの外でも使用できるようにする必要がある場合は、そのポートレットをコミュニティ フォルダから上位の管理フォルダに移動することができます。

注意：コミュニティからコミュニティ ポートレットを削除すると、ポータルからも削除されます。

このコミュニティでのみ使用可能なポートレットを作成するには次を行います。

1. **[マイ コミュニティ]** をクリックして、編集するコミュニティを選択します。
2. 右側にある  **[このコミュニティを編集]** をクリックしてコミュニティ エディタを開きます。
3. 左側にある **[コミュニティの設定を編集]** で、**[このコミュニティのポートレット]** をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従ってコミュニティ ポートレットを作成します。
5. ポートレットを作成したら、**[終了]** をクリックします。



これらのポートレットをコミュニティ ユーザーに表示するには、ポートレットを適切なコミュニティ ページに追加する必要があります。

コミュニティのユーザーとグループの管理

コミュニティのメンバーシップによって、ポータルの **[マイ コミュニティ]** セクションで選択できるコミュニティが決まります。また、コミュニティのナビゲーションにおける必須タブもこれによって決まります。どのユーザーがコミュニティに対して参加、編集、および管理できるかを制御することが可能です。

ユーザーがコミュニティに参加するには、選択権限が必要になります。

コミュニティの各メンバーのアクセス権限を編集するには次を行います。


1. **[管理]** をクリックします。
2. コミュニティが含まれている管理フォルダを開きます。
3. コミュニティをクリックします。
4.   をクリックします。
5. コミュニティ エディタの **[標準設定の編集]** で、**[セキュリティ]** をクリックします。

6. オンライン ヘルプの説明に従って、ACL を設定します。
7. **[終了]** をクリックします。

グループに対してコミュニティを必須に設定する方法

1 つ以上のグループのメンバーがコミュニティに参加することを必須にすることができます。ユーザーは必須コミュニティから自ら退出することはできません。ポータルのトップ バナーの **[マイ ページ]** および **[マイ コミュニティ]** タブの横に必須コミュニティのタブを表示することもできます。


特定のグループに対してコミュニティを必須に設定するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. コミュニティが含まれている管理フォルダを開きます。
3. コミュニティをクリックします。
4.  をクリックします。
5. コミュニティ エディタの **[標準設定の編集]** で、**[セキュリティ]** をクリックします。
6. ユーザーおよびグループの必須設定を定義します。
7. **[終了]** をクリックします。

コミュニティの推奨

コミュニティをユーザーに *推奨* して、参加するように促すことができます。ユーザーは、アクセスできるコミュニティであればそのコミュニティを推奨することができます。


コミュニティを推奨するには次を行います。

1. **[コミュニティへの参加]** ページまたはコミュニティ エディタ内で、 をクリックします。電子メールに貼り付けてユーザーに送信できる、URL が含まれたテキストが表示されます。
2. リンクを電子メールで送信するか、コミュニティ リンク ポートレットに追加します。

複数のグループを複数のコミュニティに参加させる方法

一括操作で、1 つまたは複数のグループを 1 つ以上のコミュニティに参加させるさせることができます。

複数のグループに複数のコミュニティを追加するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. コミュニティが含まれている管理フォルダを選択するか、コミュニティを検索します。
3. 1 つまたは複数のコミュニティを選択し、 をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従ってコミュニティを選択し、選択したグループに追加します。
5. **[終了]** をクリックします。ユーザーは、このように追加されたコミュニティへの参加を取り消すことができます。

コミュニティのナレッジ ディレクトリの管理







コミュニティのナレッジ ディレクトリは、フォルダの階層構造からコミュニティ固有の追加コンテンツにアクセスすることを可能にするコミュニティのオプション機能です。コミュニティのナレッジ ディレクトリには、次の 2 つのフォルダが必ず含まれています。


- **Members** (メンバー) フォルダ - コミュニティに所属する全ユーザーの一覧が表示されます (個別のユーザーとしてあるいはそのコミュニティが必須となっているグループの一員として表示されます)。
- **Subcommunities** (サブコミュニティ) フォルダ - そのコミュニティ内のサブコミュニティの一覧が表示されます。サブコミュニティがなくてもフォルダは表示されます。

独自のフォルダを作成して、それらの中にウェブ サイト、コミュニティ内の専門家のユーザー プロファイル、ポータル ナレッジ ディレクトリのドキュメント、ほかのコミュニティのページなどへのリンクを含めることもできます。ユーザーは、コミュニティのナレッジ ディレクトリからこれらのリンクを参照するか、コミュニティ リンク ポートレットでこれらのリンクを表示することができます。

注意: 重要な二次コミュニティ ページへのリンクを含んだコミュニティ リンク ポートレットを作成し、そのポートレットをマイ ページに追加するようにユーザーに推奨することができます。こうすることにより、それらのコミュニティ ページに直接アクセスすることが可能になり、ユーザーはコミュニティのホームページを開いてから必要なコミュニティ ページを選択するという操作を行う必要がなくなります。

コミュニティのナレッジ ディレクトリのフォルダとリンク、コミュニティ リンク ポートレットを作成するには次を行います。

1. **[マイ コミュニティ]** をクリックして、編集するコミュニティを選択します。
2. コミュニティ ページのリンクの右にある **[コミュニティ メンバーおよびナレッジ ディレクトリ]** をクリックします。
3.  **[編集]** をクリックします ([このコミュニティを編集] ではないことに注意)。
4.  をクリックします。
5. フォルダの名前と説明を入力し、**[OK]** をクリックします。
6. フォルダの名前をクリックしてフォルダを開きます。
7. 次の方法でフォルダにリンクを追加します。
 - ウェブ サイトへのリンクを追加するには、 **[リンクの追加]** をクリックし、オンライン ヘルプの説明に従って設定を入力します。
 - 特定のユーザー プロファイルへのリンクを追加するには、 **[専門家の追加]** をクリックし、オンライン ヘルプの説明に従って設定を入力します。
 - ポータルのナレッジ ディレクトリのドキュメントへのリンクを追加するには、 **[ドキュメントの追加]** をクリックし、オンライン ヘルプの説明に従って設定を入力します。
 - ほかのコミュニティのページへのリンクを追加するには、 **[ページの追加]** をクリックし、オンライン ヘルプの説明に従って設定を入力します。

8. このフォルダのリンクをコミュニティ内のポートレットで表示するには、 [**コンテンツ スナップショット**] をクリックし、ポートレットを追加するコミュニティ ページを指定します。

ドキュメントを検出できるようにするためにコンテンツ クローラとコンテンツ サービスを使用する方法

この節では、WWW のサイト、ファイル システム、バックエンド コンテンツ、メール サーバーなどをクロールし、それらのリポジトリに含まれているドキュメントをポータルのリンクからアクセスできるようにする方法について説明します。この節では以下のトピックについて説明します。

- [「コンテンツ クローラについて」](#)
- [「特定のコンテンツを対象にしたコンテンツ サービスの作成」、4-34 ページ](#)
- [「コンテンツ クローラの設定」、4-35 ページ](#)
- [「コンテンツ クローラのテスト」、4-37 ページ](#)

プラムツリー提供のクローラの概要や、クローラを導入するためのベスト プラクティスのガイドラインについては、『プラムツリー エンタープライズ ウェブ導入ガイド』を参照してください。

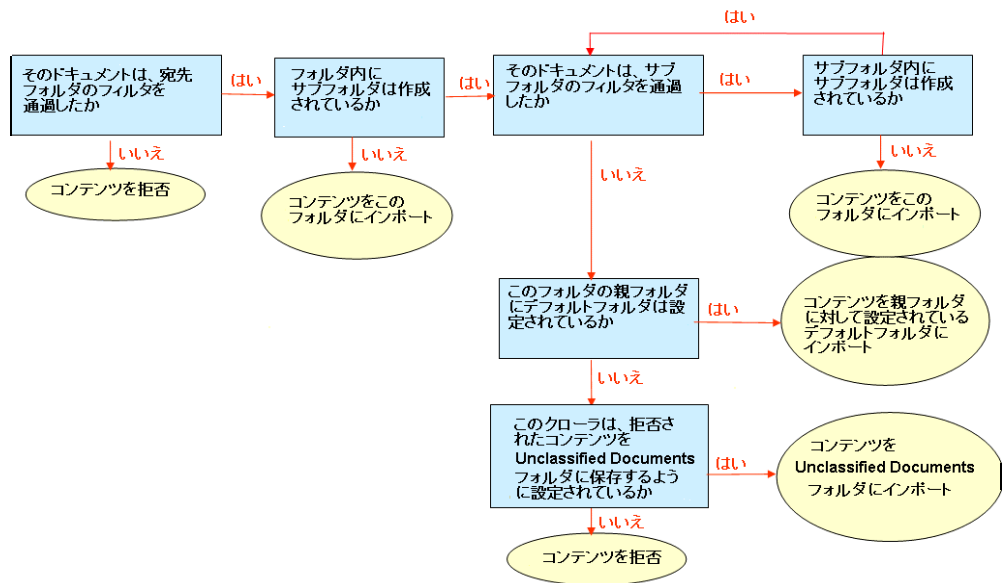
プラムツリー提供のリモート クローラのインストールと設定については、このガイドの説明ではなく、ご使用のソフトウェアに付属の製品資料の説明に従ってください。

コンテンツ クローラについて

次の図に示すように、コンテンツ クローラは、コンテンツ タイプやプロパティ、ドキュメントの ACL（読み取りアクセスのみ）といったドキュメントに関する情報が含まれているドキュメント レコードと

それらのドキュメントへのリンクを、バックエンドのコンテンツ ソースからナレッジ ディレクトリにインポートし、プロパティ ベースのフィルタに基づいてサブフォルダに分類します。

図 4-1: クローラのフローチャート



コンテンツが、どのフォルダ（宛先フォルダを含む）のフィルタも通過できない場合があります。そのような場合は、拒否されたコンテンツのインポートを中止するか、あるいは拒否されたコンテンツをUnclassified Documents（未分類ドキュメント）フォルダに保存することができます。拒否されたコンテンツをUnclassified Documents（未分類ドキュメント）フォルダに保存した場合、そのコンテンツをナレッジ ディレクトリの編集モードで参照することができます。その後、必要であれば、それらのドキュメント レコードをナレッジ ディレクトリに移動することができます。

以下の表に、プラムツリー提供のクローラを使用してインポートできるメタデータの種類を示します。

表 4-5 : プラムツリー提供のコンテンツ クローラによってインポート可能なメタデータの種類

コンテンツ クローラ	ドキュメントへのリンクのインポート	ドキュメントのセキュリティ設定のインポート	フォルダのセキュリティ設定のインポート
ウェブ コンテンツ クローラ	はい	いいえ	いいえ
リモート Windows コンテンツ クローラ	はい	はい (Windows)	はい (Windows)
リモート Exchange コンテンツ クローラ (Windows)	はい	いいえ	いいえ

表 4-5： プラムツリー提供のコンテンツ クローラによってインポート可能なメタデータの種類

コンテンツ クローラ	ドキュメントへの リンクのインポート	ドキュメントの セキュリティ設定の インポート	フォルダの セキュリティ設定の インポート
リモート Lotus Notes コンテンツ クローラ (Windows)	はい	はい	いいえ
リモート Documentum コンテンツ クローラ	はい	はい	はい

クローラは、またドキュメントのフルテキスト インデックスを作成します。Search Service ではこのインデックスを使用し、検索ツールを通してドキュメントを検索できるようにします。

特定のコンテンツを対象にしたコンテンツ サービスの作成

プラムツリーは、管理を簡素化するために、各クローラ タイプの複数インスタンスを導入し、特定の目的に合わせて個々のクローラの対象を限定することをお勧めします。

ファイル システムのクローラに関しては、クロールを開始点となる最上位レベルのフォルダとそのサブフォルダを指定して、ファイル システムのフォルダ階層構造全体をミラーリングするクローラを導入することをお勧めします。フォルダ構造の中のコンテンツはネットワークからもアクセスできますが、この構造をポータルに複製することによって以下の利点を得ることができます。

- ユーザーは、ウェブ上でコンテンツを検索し、そのコンテンツにアクセスすることができます。
- そのコンテンツに関心を持ったユーザーは、スナップショット クエリを利用して、更新されたコンテンツを定期的に受信できます。
- デフォルト プロファイルを使用して、新規ユーザーを重要なフォルダに誘導することができます。

しかし、特定のフォルダに範囲を限定したクローラをいくつか作成することによって、アクセス制御、ドキュメントの更新、ドキュメントの期限切れなどをより容易に管理できる場合もあります。

WWW のサイトをクロールする場合は、インポートするページの内容を予め把握しておく必要があります。通常は、必要なすべての情報へのリンクを含んだページが 1 つか 2 つあります。例えば、ほとんどの企業は、最新のプレス リリースへのリンクの一覧を提供するページを設けており、ほとんどのウェブマガジンには、最新記事の一覧を示したページがあります。このようなソース用にクローラを設定する際は、これらのページをクロールの対象として設定し、ほかのページは除外することによってクロールジョブの効率を高めることができます。

ある日付を過ぎると特定のコンテンツが役に立たなくなる場合、例えばそのコンテンツが特定の会計年度やプロジェクトの終了日などに関連している場合、その日付に依存するコンテンツ専用のクローラを作成することができます。そうすることにより、コンテンツが無効になった際に、その専用クローラによって作成されたすべてのコンテンツを削除するジョブを実行することができます。

リモート クローラに関しては、メール クローラの対象を特定のユーザー名に限定したり、ドキュメント クローラの対象を特定のコンテンツ タイプに限定したりすることができます。

その他の検討事項やベスト プラクティスについては、『プラムツリー エンタープライズ ウェブ導入ガイド』を参照してください。

コンテンツ クローラの設定

コンテンツ サービスによって、リモート コンテンツ リポジトリの基本設定を指定することができます。クローラの対象やセキュリティの各種設定については、関連付けられたリモート クローラで設定します。これにより、すべての設定を何度も指定することなく、同じコンテンツ リポジトリの複数の場所をクローラできます。

プラムツリー提供のクローラ ウェブ サービス (プラムツリー コンテンツ サービス) を使用してドキュメント リポジトリをクローラする場合は、このガイドの手順ではなく、そのソフトウェアに付属の製品資料の説明に従ってください。プラムツリーのリモート クローラには、事前設定されたリモート サーバーやウェブ サービス オブジェクトをインポートするための移行パッケージが付属しています。

以下の表では、対象を限定したコンテンツ サービスを設定するための手順について説明します。

表 4-6：対象を限定したコンテンツ サービスの設定

基本手順	内容
リモート サーバーを作成します。	<ol style="list-style-type: none"> 1.[管理] をクリックします。 2.コンテンツ サービス オブジェクト用の管理フォルダを選択するか、または新規のフォルダを作成します。 3.[オブジェクトの作成] ドロップダウンリストで、[リモート サーバー] を選択します。 4.オンライン ヘルプの説明に従って、リモート サーバーの接続情報を設定します。 5.[終了] をクリックします。
コンテンツ サービスを作成します。	<ol style="list-style-type: none"> 1.[管理] をクリックします。 2.設定するコンテンツ サービス オブジェクトのグループの管理フォルダを選択します。 3.[オブジェクトの作成] ドロップダウンリストで、[ウェブ サービス - コンテンツ] を選択します。 4.オンライン ヘルプの説明に従って、ウェブ サービスの接続情報を設定します。 5.[終了] をクリックします。

表 4-6：対象を限定したコンテンツ サービスの設定

基本手順	内容
コンテンツ ソースを設定します。	<ol style="list-style-type: none"> 1.[管理] をクリックします。 2.設定するコンテンツ サービス オブジェクトのグループの管理フォルダを選択します。 3.[オブジェクトの作成] ドロップダウンリストで、ウェブ サイトの場合は [コンテンツ ソース - WWW] をクリックし、バックエンドのコンテンツ リポジトリの場合は [コンテンツ ソース - リモート] をクリックします。 4.オンライン ヘルプの説明に従って、ウェブ サービスの接続情報を設定します。 5.[終了] をクリックします。
ドキュメント プロパティ マップを設定します。	<p>コンテンツ用の新しいコンテンツ タイプとプロパティを定義する必要がある場合は、「コンテンツ タイプとドキュメント プロパティの設定」、4-2 ページの手順に従ってください。</p>
<p>クローラとクロール ジョブを設定します。クローラを設定する際は、次を指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ソース ドキュメントの場所 • ソース ドキュメントのプロパティをどのようにポータル プロパティにマップするかを決定するためのコンテンツ タイプ • ドキュメントのセキュリティ設定 • ドキュメントのソート、更新、および削除に関する設定 	<ol style="list-style-type: none"> 1.[管理] をクリックします。 2.管理フォルダを開きます。 3.[オブジェクトの作成] ドロップダウンリストで、ウェブ サイトの場合は [コンテンツ クローラ - WWW] をクリックし、バックエンドのコンテンツ リポジトリの場合は [コンテンツ クローラ - リモート] をクリックします。 4.オンライン ヘルプの説明に従ってウェブ クローラを定義します。 5.[ジョブの設定] ページでこの操作をジョブに追加し、ジョブを実行するようにスケジュールを設定します。 6.[終了] をクリックします。 <p>注意： クロールされたコンテンツをフォルダに分類する方法については、「フィルタを使用してクロールされたコンテンツを分類する方法」、4-13 ページを参照してください。</p>

表 4-6：対象を限定したコンテンツ サービスの設定

基本手順	内容
セキュリティをインポートするには、グローバル ACL 同期マップで、クロールするソースのドメインとグループの情報が認証元プレフィックスにマップされている必要があります。クローラを実行しても、セキュリティ設定の一部またはすべてがインポートされない場合は、グローバル ACL 同期マップでドメインをマップし、クローラを再度実行してください。	<ol style="list-style-type: none"> 1.[管理] をクリックします。 2.[ユーティリティの選択] ドロップダウン リストで、[グローバル ACL 同期マップ] を選択します。 3.オンライン ヘルプの説明に従って、コンテンツ ソースに対するドメイン プレフィックスとグループのマッピングを追加します。 4.[終了] をクリックします。

コンテンツ クローラのテスト

クローラを実行してポータルのパブリック フォルダにコンテンツをインポートする前に、ドキュメントレコードを一時フォルダにクロールするジョブを実行してクローラをテストする必要があります。

テスト フォルダを作成する際は、フォルダの [**セキュリティ**] ページで、全員グループやその他の一般グループを削除し、ユーザーがテスト用のコンテンツにアクセスできないようにする必要があります。

以下の表に、クローラに対するテスト計画の概要を示します。

表 4-7：クローラに対するテスト計画

テストの目的	手順
クローラによって正しいリンクが作成されることを確認します。	<p>ターゲット フォルダを参照し、クローラによって必要なコンテンツに対するレコードやリンクが作成されたことと、必要のないレコードやリンクは作成されていないことを確認します。</p> <p>クローラの設定を変更した後に、このテスト手順を再度実行する場合は、テスト フォルダの内容を削除し、削除履歴の消去、4-39 ページの説明に従ってクローラの削除履歴を消去する必要があります。</p>

表 4-7：クローラに対するテスト計画

テストの目的	手順
クローラによって正しいメタデータが作成されることを確認します。	<p>すべてのドキュメントに適切なコンテンツ タイプが割り当てられていて、それらのコンテンツ タイプで、プロパティがソース ドキュメントの属性に正しくマップされていることを確認してください。</p> <p>クローラを実行した後、ナレッジ ディレクトリを開いて、クローラがインポートしたドキュメントのプロパティやコンテンツ タイプが適切であることを確認してください。</p> <p>ドキュメントのプロパティおよびコンテンツ タイプを表示するには次を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [ディレクトリ] をクリックし、プロパティおよびコンテンツ タイプを確認するドキュメントが格納されているフォルダを選択します。 2. ドキュメントの下に [プロパティ] をクリックすると、ドキュメントに関する情報が表示されます。プロパティとその値は表の中に表示されます。コンテンツ タイプはページの一番下に表示されます。 <p>クローラの設定を変更した後、このテスト手順を再度実行する場合は、クローラがこれらのリンクを更新するように設定してください。リンクの更新に関する情報については、「ドキュメント レコードを最新の状態に保つ方法」、4-39 ページ を参照してください。</p>
プロパティ、フィルタ、および検索をテストします。	<p>ドキュメント プロパティが正しく設定され、フィルタや検索が実行できる状態であることを確認するために、テスト フォルダを参照して、テストするフィルタと同じ条件で検索を実行します。フィルタからテキストを切り取ってポータルの検索ボックスに貼り付けるか、詳細検索ツールを使用してプロパティに基づいた検索条件を入力します。[このフォルダのみ検索する] オプションを選択してください。検索結果として返されるリンクが、フィルタを通過するドキュメントのリンクです。</p>

クローラによってインポートされたコンテンツの管理

この節では、クローラによってインポートされたドキュメント レコードを管理する方法について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [「ドキュメント レコードを最新の状態に保つ方法」](#)
- [「削除履歴の消去」、4-39 ページ](#)
- [「ドキュメント レコードの削除」、4-39 ページ](#)

ドキュメント レコードを最新の状態に保つ方法

ドキュメント更新エージェントは、ナレッジ ディレクトリ内のレコードを更新するビルトイン ジョブです。ドキュメント更新エージェントは、ポータル内のすべてのリンクを確認します。ドキュメント更新エージェントは、ファイルのアップロード時に設定されたドキュメント レコードの設定、またはリンクを作成したクローラによって設定された設定に基づいて、各リンクの更新が必要であるかどうかを決定します。

クローラの更新設定を設定するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. ドキュメント レコードを更新する必要があるクローラを選択します。
3. **[ドキュメント設定]** ページと **[詳細設定]** ページで、ドキュメントの更新設定を設定します。
4. **[終了]** をクリックします。

削除履歴の消去

コンテンツ クローラは、クロールされたドキュメントに対して、削除履歴を含む、実行された操作の履歴を保持します。レコードを削除した場合、クローラは、コンテンツがインポートされた後に削除されたことを検出し、そのコンテンツをインポートしなくなります。したがって、一度削除した後にそのコンテンツのレコードをインポートする必要がある場合は、削除履歴を消去する必要があります。

削除履歴を消去するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 削除履歴を消去する必要があるクローラを選択し、名前をクリックします。
3. **[詳細設定]** ページで **[削除履歴のクリア]** をクリックします。
4. **[終了]** をクリックします。

ドキュメント レコードの削除

1 つのトピックに関するコンテンツのみを生成するようにクローラの対象を限定することによって、そのトピックが不要になった際に、ほかのコンテンツに影響を与えることなく、そのコンテンツのみを容易に削除することが可能になります。

特定のクローラによって今までにインポートされたすべてのコンテンツを削除するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 削除する必要があるリンクをインポートしたクローラを選択し、名前をクリックします。クローラ エディタが起動します。
3. **[ドキュメント設定]** ページで、生成されたコンテンツがその場で削除されるように設定し、**[これらの設定を、このクローラが作成した既存のドキュメントに適用]** というチェックボックスを選択します。
4. **[終了]** をクリックします。

ドキュメント更新エージェントが次に実行されたときに、このクローラによって作成されたすべてのレコードが削除されます。

検索の活用方法

この節では、ナレッジディレクトリ内、コミュニティ内、クロールされたリンクのコレクション内に含まれているドキュメントに対して実行可能な検索機能を導入する方法について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [「Search Service の動作のカスタマイズ」](#)
- [「エンタープライズ検索の管理」、4-47 ページ](#)
- [「ネットワーク検索の使用」、4-58 ページ](#)

Search Service の動作のカスタマイズ

この節では、ポータルの検索機能をカスタマイズする方法について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [「おすすめコンテンツと上位おすすめコンテンツの設定」](#)
- [「ドキュメント プロパティの重要度の編集」、4-41 ページ](#)
- [「検索用シソーラス機能の導入」、4-43 ページ](#)
- [「スペル チェックの適用」、4-42 ページ](#)
- [「検索結果のカテゴリ分類のカスタマイズ」、4-46 ページ](#)

検索構文や結果ランキングのデフォルトの動作については、[付録 E 「Search Service のデフォルトの動作」](#)を参照してください。

おすすめコンテンツと上位おすすめコンテンツの設定

おすすめコンテンツは、検索サーバー設定ユーティリティで設定することができます。おすすめコンテンツ機能では、特定の検索用語に対して返される検索結果とそれらの結果が返される順番を指定できます。また、ユーザーは、通常の検索結果を表示せずに、最上位にランキングされている結果である上位おすすめコンテンツに直接アクセスすることができます。

エンドユーザーが、おすすめコンテンツが設定された検索語句に完全に一致するバナー検索クエリを入力すると、関連性でランク付けされた検索結果一覧の上位におすすめコンテンツの結果が表示されます。「Best Bet」（おすすめコンテンツ）という語句が各おすすめコンテンツの横に表示され、ユーザーのクエリに特に関連が深い結果であることを示します。

おすすめコンテンツ機能は、ポータル バナーの検索ボックスと検索ポートレットにのみ適用されます。詳細検索やオブジェクトの選択での検索などのほかのポータル検索インタフェースでは、おすすめコンテンツは使用されません。

注意：おすすめコンテンツ機能では、大文字と小文字は区別されません。

おすすめコンテンツを作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. **[ユーティリティの選択]** ドロップダウン リストで、**[検索サーバー設定]** を選択します。
3. **[新規おすすめコンテンツ]** をクリックして、おすすめコンテンツのエディタを起動します。
4. オンライン ヘルプの説明に従って、おすすめコンテンツの設定を入力します。


5. [終了] をクリックして、おすすめコンテンツの設定を保存します。
6. 検索サーバー設定ユーティリティで [終了] をクリックします。

数百ものおすすめコンテンツを作成することが可能であり、個々のおすすめコンテンツは、最大 20 件の結果にマップすることができます。

おすすめコンテンツは、Search Service によって処理され、管理ポータル オブジェクトではないため、開発環境から運用環境に移行することはできません。運用環境においてそれらを再構築する必要があります。

上位おすすめコンテンツの活用方法

ある検索用語に対して返される最上位ランキングのおすすめコンテンツが上位おすすめコンテンツとなります。ある検索用語に対しておすすめコンテンツが設定されている場合、ユーザーは、次のいずれかの操作を行うことによって、検索結果を表示せずに直接上位おすすめコンテンツ（コミュニティやドキュメント等）を参照することができます。




- バナー検索ボックスまたは検索ポートレットで、検索用語の前に「>」を入力し、 をクリックします。例えば、次のように入力します。

検索: 

- ポータルの URL に「tbb= 検索用語」を挿入します（空白を含めることができます）。例えば、次のような URL を指定できます。

`http://portal.plumtree.com/portal/server.pt?tbb=HR department`

注意： 検索用語に空白が含まれている場合、空白は、%20 に変換されます。

-  ボタンが表示されている場合は、検索用語を入力して、 の代わりに  をクリックします。

注意： 検索タグを使用してこのボタンを有効にする方法については、下記のサイトにアクセスして、『Plumtree Development Documentation G6 』を参照してください。

http://www.plumtree.com/edoc/G6/Plumtree_Development_Documentation.htm

ユーザーが入力した検索用語に対しておすすめコンテンツが設定されていない場合は、その用語に対する通常の検索結果が代わりに表示されます。

あるオブジェクトが特定の検索用語の上位おすすめコンテンツとして設定されている場合、そのオブジェクトのエディタの [プロパティおよび名前] ページにそれらの検索用語が表示されます。

ドキュメント プロパティの重要度の編集

検索結果を制御するもう 1 つの方法は、ドキュメントまたはオブジェクトの名前や説明といったドキュメントプロパティ、またはドキュメントのテキスト全体に対して重要度を設定することです。プロパティ（バナー フィールドと呼ばれるプロパティのサブセット）の重要度を高く設定すると、そのフィールドの関連性ランクが高くなります。一方、フィールドの重要度を低く設定すると、関連性ランクは低くなります。また、キーワード、部署、作成者などのカスタマイズされたプロパティを追加することによって、検索結果の精度を向上させることができます。

例えば、フル テキスト コンテンツというバナー フィールドの重要度を高く設定し、名前というバナー フィールドの重要度をそれより低く設定することができます。その場合、検索結果では、コンテンツが検索用語に一致するドキュメントが上位に表示され、その下にドキュメントの名前が検索用語に一致するドキュメントが表示されます。つまり、ユーザーが widgets という検索用語を入力した場合、コンテンツの中に widgets という単語を含んでいるドキュメントが関連性に基づいてランクされた検索結果の上位に表示され、名前に widgets が含まれているドキュメントやファイルがその下に表示されます。

バナー フィールドの設定は、バナー検索ボックス、詳細検索、オブジェクトの選択での検索、およびその他すべてのポータル検索インタフェースに適用されます。

既存のバナー フィールドの重要度を設定するには次を行います。

1. [**管理**] をクリックします。
2. [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストで、[**検索サーバー設定**] を選択します。
3. [ユーティリティ設定の編集] で、[**バナー フィールド**] をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従って、バナー フィールドの設定を入力します。
5. [**終了**] をクリックします。

新規のバナー フィールドを追加するには次を行います。

1. [**管理**] をクリックします。
2. [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストで、[**検索サーバー設定**] を選択します。
3. [ユーティリティ設定の編集] で、[**バナー フィールド**] をクリックします。
4. [**フィールドの追加**] をクリックします。
5. 表示されたドロップダウン リストで、追加するバナー フィールドを選択します。
6. オンライン ヘルプの説明に従って、バナー フィールドの設定を入力します。
7. [**終了**] をクリックします。

バナー フィールドの重要度は、Search Service の設定であり、管理ポータル オブジェクトではないため、これらの設定を開発環境から運用環境に移行することはできません。運用環境においてそれらを再構築する必要があります。

スペル チェックの適用

自動スペル チェックは、基本検索で入力された用語が Search Service によって認識されなかった場合、その用語に適用されます。スペル チェックは、引用符で囲まれた用語には適用されません。

例えば、ユーザーが portel server という用語を検索した場合、portel という用語は Search Service によって認識されないため、portal と server に一致する項目が代わりに返されます。インターネット スタイル モードとクエリ オペレータ モードにも同じ機能が適用されます。したがって、例えば、portel <NEAR> server を検索した場合、portal と server という単語が近接しているドキュメントが返されます。しかし、これは、portel と server という単語が近接しているドキュメントが無かった場合に限りです。

自動スペル チェックはデフォルトで有効に設定されています。管理ポータル ユーザー インタフェースの検索サーバー設定ユーティリティを使用して無効に設定することができます。

自動スペル チェックを有効または無効に設定するには次を行います。

1. [**管理**] をクリックします。
2. [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストで、[**検索サーバー設定**] を選択します。
3. [ユーティリティ設定の編集] で、[**シソーラスおよびスペル チェック機能**] をクリックします。
4. [**スペル チェックを適用**] チェックボックスをオンにします。
5. [**終了**] をクリックします。

検索用シソーラス機能の導入

Search Service では、シソーラス辞書または同義語リストを作成し、サーバーにロードすることによって、すべてのユーザー クエリに対してシソーラス辞書の拡張機能を適用することができます。シソーラスの拡張機能では、検索が実行される前に、ユーザーが検索で使った用語や語句をカスタマイズされた関連用語に置き換えることができます。この機能は、独自の用語、あいまいな用語、業界の専門用語などを処理できるようにし、検索の精度を向上させます。

例えば、従来のキーワード マッチングでは、gadgets という用語を検索した場合、portlets または web services に関するドキュメントは結果に含まれません。しかし、シソーラスに gadgets という項目を追加することによって、ユーザーが異なる用語を使用したときに検索結果がゼロになることを防ぐことができます。シソーラスに項目を追加し、関連用語や語句に重み付けを設定することによって、検索結果の関連性ランキングを調整することができます。例えば、gadgets は、実際には web services の同義語ではありません。したがって、gadgets という単語を含むドキュメントは、web services を含むドキュメントよりも高くランク付ける必要があります。

シソーラスの項目では、下記に示すように、小文字で記述した用語をカンマで区切ります。

```
gadgets,portlets,Web services[0.5]
```

この例で、[0.5] という数字は web services という語句のデフォルトの重み付けを変更します。

重要：シソーラスの項目は小文字で記述する必要があります。

関連している用語や語句、専門用語、使われなくなった用語、略語、頭字語、よくあるスペルミスなどをリンクするためにシソーラスの項目を作成することができます。シソーラス項目の最初の用語を項目内のすべての用語あるいは語句で構成される OR クエリで置き換えることによって拡張機能が適用されます。一致した検索結果をランク付けする際に、重み付け設定が考慮されます。

シソーラスの拡張機能は、絞り込み検索、特定の業界に関する検索、または特定のドメインの検索で最大限に活用できます。この機能は、従来の印刷されたシソーラス辞書のように単語間または言語間の基本的な意味関係を提供するものではありません。Search Service のシソーラスの拡張機能によって検索品質は確実に向上しますが、非常に一般的または標準的な用語の項目を登録すると、一致する検索結果の件数が多くなり、検索品質が低下してしまいます。

シソーラス機能の有効化

シソーラス機能を有効にするには次を行います。

1. [**管理**] をクリックします。
2. [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストで、[**検索サーバー設定**] を選択します。

3. [ユーティリティ設定の編集]で、[シソーラスおよびスペルチェック機能]をクリックします。
4. [シソーラスを使用]チェックボックスをオンにします。
5. [終了]をクリックします。

この機能を有効にした後、次の節で説明するように、データベース内に同義語リストを作成する必要があります。

シソーラス用の同義語リストの設定

検索シソーラスを設定するには次を行います。

1. シソーラス項目をカンマで区切った UTF-8 ファイルを作成します。

重要：シソーラスの項目は小文字で記述する必要があります。

シソーラス辞書は、カンマ区切りのファイル（CDF）です。ファイル内の各行は、シソーラスの 1 つの項目を表しています。カンマ区切りの行の最初の要素が、シソーラス辞書項目の名前になります。同行の残りの要素は、シソーラス辞書項目の同義語として取り扱われる検索トークンです。各同義語には、その同義語に一致した場合に加算されるクエリ スコアを決定するための重み付けを設定することができます。例えば、**couch** と **dog** に対するシソーラス項目を定義する下記の 2 行を記述したファイルがあるとしてします。

```
couch,sofa[0.9],divan[0.5],davenport[0.4]
dog,canine,doggy[0.85],pup[0.7],mutt[0.3]
```

この場合、**couch** を検索すると、**couch**、**sofa**、**divan**、または **davenport** という用語と一致するテキストを含んだドキュメントが検索結果として返されます。また、**dog** を検索した場合は、**dog**、**canine**、**doggy**、**pup**、または **mutt** という用語と一致するテキストを含んだドキュメントが検索結果として返されます。この例では、**dog** という用語には **canine** という用語と同じ重み付けが設定されており、これらに一致する項目には同じ関連性スコアが割り当てられます。これはデフォルトの同義語の重み付け 1.0 と同等です。一方、**pup** という用語の重み付けは 0.7（70%）なので、この用語に一致する項目には **dog** という用語と一致した場合よりも 3 割がた少ない関連性スコアが割り当てられます。

例に挙げたシソーラス辞書の項目は、これだけで 1 つのカンマ区切りのファイルになります。ファイルの初めまたは終わりに他の情報を記述する必要はありません。

また、項目に空白が含まれていても問題はありません。例えば、次の行を記述したファイルを作成することによって、**New York City** のシソーラス辞書項目を設定することができます。

```
new york city,big apple[0.9],gotham[0.5]
```

この場合、**new york city** という語句を検索すると、**big apple** や **gotham** を含んでいるドキュメントも検索結果に含まれます。語句をシソーラス辞書に登録した場合、シソーラスの拡張機能は、語句全体の検索だけに適用されます。語句の中の個々の単語に対しては適用されません。同様に、同義語の項目は、語句として取り扱われ、個々の用語としては取り扱われません。したがって、「**new york city**」を検索した場合は、「**big apple**」や **gotham** を含んでいる項目が返されますが、**new**（または **york**、または **city**、または「**new york**」）を検索した場合これらは返されません。また、「**new york city**」を検索した場合、**big** または **apple** を含んでいる項目でも、「**big apple**」という語句を含んでいない場合、その項目は検索結果に含まれません。

カンマ区切りのファイルでは、ASCII 文字だけではなく、すべての UTF8 エンコード文字がサポートされます。ただし、句読点は含めないでください。例えば、ne'r-do-well を wastrel の同義語として登録するには、次のように句読点をスペースで置き換える必要があります。

```
wastrel,ne er do well[0.7]
```

こうすると、ne'er-do-well、ne er do well、または ne'er do well のような異なる句読点とスペースの組み合わせを含んだドキュメントが一致します。neer-do-well（最初の ne と er をアポストロフィで分離しない）を含むドキュメントと一致する同義語も含めたい場合は、次のように別個の同義語を登録しなければなりません。

```
wastrel,ne er do well[0.7],neer do well[0.7]
```

コメント行は行の始めに「#」をつけることで指定できます。

```
# furniture entries (家具の項目)
couch,sofa[0.9],divan[0.5],davenport[0.4]
#chair,stool[5.0]
# animal entries( 動物の項目)
dog,canine[0.9],doggy[0.85],pup[0.7],mutt[0.3]
```

上記の例の場合、Search Service は、couch と dog の 2 つのシソーラス項目を認識します。chair の項目は作成されません。

これらの項目は、ASCII 文字のみを使用した項目の例ですが、このユーティリティでは、UTF8 でエンコードされている非 ASCII 文字もサポートされます。

注意：特に UTF-8 でファイルがエンコードされる場合などでは、エディタがバイト オーダー マークをファイルの初めに挿入することがあります。バイト オーダー マークが含まれているファイルはサポートされていないため、カスタマイズ ユーティリティを実行する前にバイト オーダー マークを削除する必要があります。

CDF のシソーラス辞書ファイルには、最大で 50,000 の個々の項目（行）を含めることができます。各項目には、最大 50 個のカンマで区切られた要素（項目の名前を含む）を含めることができます。いずれかの制限を超えた場合、カスタマイズ ユーティリティは、このことを示すエラー メッセージを表示してから終了します。

2. Search Service を停止します。

カンマ区切りのファイルは、次のステップでバイナリ形式に変換されます。この変換では、Search Service が使用しているいくつかのファイルが削除され、置き換えられます。Search Service が実行中の場合は、この削除及び置換はできません。

3. コマンド プロンプトで、カスタマイズ ユーティリティを実行します。

カスタマイズ ユーティリティは、Search Service のインストール ディレクトリ内の **bin** ディレクトリにあります。このユーティリティは、コマンド プロンプトから実行する必要があります。次のように、シソーラス辞書の CDF ファイルのコマンドライン引数と Search Service のインストール ディレクトリへのパスを入力して実行します。

```
customize -r <thesaurus file> SEARCH_HOME
```

SEARCH_HOME は、Search Service がインストールされているルート ディレクトリです。通常は、/PT_HOME/ptsearchserver/6.0 です。これは設定しなければならない環境変数ではありません。コマ

ンドラインで直接ディレクトリを指定するだけで済みます。例えば、シソーラス ファイルが `/temp` にある場合、次のように入力します。

```
customize -r /tempthesaurus.cdf /plumtree/ptsearchserver/6.0
```

カスタマイズ ユーティリティを実行すると、`SEARCH_HOME/common` 内のファイルが削除され、同じ名前のファイルに置き換えられます。新しいファイルには、カスタマイズ ユーティリティによって作成されたマッピングが含まれています。カスタマイズ ユーティリティのコマンドラインモードから、Search Service 付属のデフォルトのマッピング ファイルのセットに設定を戻すことができます（これによりシソーラス辞書へのすべてのカスタマイズを元に戻すことができます）。このモードでは、次に示すように **-r thesaurusfile** の代わりに **-default** を指定します（コマンドのそれ以外の部分は上記と同じです）。

```
bin/customize -default /plumtree/ptsearchserver/6.0
```

4. Search Service を再起動します。

Search Service を起動すると、カスタマイズ ユーティリティによって生成されたファイルがロードされます。

検索結果のカテゴリ分類のカスタマイズ

ユーザーは、検索結果ページの [ソート順] ドロップダウン リストを使用して、検索結果をオブジェクト タイプまたはドキュメント ディレクトリあるいは管理オブジェクト ディレクトリ内のフォルダの場所によってソートすることができます。このドロップダウン リストをカスタマイズして、ユーザーのニーズに合ったカテゴリを追加することができます。例えば、ポータルのドキュメントで「Region」（地域）というプロパティを使用している場合、[ソート順] ドロップダウン リストに **Region** という項目を追加することによって、New England、Midwest といった地域別に結果を分類することが可能になります。

あるプロパティに基づいて検索結果を分類すべきかどうかを決定するには、次の 2 つの事項を検討する必要があります。

1 つ目の検討事項は、そのプロパティが、検索結果項目のほとんどにおいて定義されているプロパティであるかどうかです。例えば、検索結果項目の 90% においてそのプロパティが定義されていない場合、そのプロパティを使用してカテゴリに分類しても、結果のほとんどが「その他」に分類されてしまい、あまり有用ではありません。したがって、原則として、すべてのドキュメントと管理オブジェクトのうち半分以上でプロパティが定義されていない場合は、そのプロパティをカスタム カテゴリ分類オプションとして追加することは推奨できません。

2 つ目の検討事項は、そのプロパティの値が適切なカテゴリ タイトルになるかどうかです。プロパティに基づいてカテゴリ分類を効果的に行うには、プロパティの各値が、「New England」、「Midwest」、「Product Management」、「Food and Drug Administration」のように、1 つの単語または短い名詞句である必要があります。プロパティの値が、「This crawler crawls the New York Times finance section」のように、完全文やキーワードの長いリストである場合は使用できません。各結果項目のプロパティ値の内容全体が、カテゴリ分類に使用される単位の 1 つになります。したがって、完全文がカテゴリ タイトルとして返される場合は不適切です。

カテゴリ分類のためのプロパティ データの設定

新しいカテゴリ分類オプションを追加する際の最初の手順は、ドキュメントやオブジェクトにそのカテゴリ分類用のプロパティが含まれていることを確認することです。ソースドキュメントの属性とポータルプロパティ間のマッピングを設定する方法については、[「コンテンツタイプとドキュメントプロパティの設定」、4-2 ページ](#)を参照してください。カテゴリ分類用のプロパティが次の特徴を持っていることを確認してください。

- ドキュメントに対してそのプロパティを使用することが可能であること
- UI で表示することが可能であること
- 検索可能であること
- 必須であること（そのプロパティに対して値が設定されている項目が多いほど検索結果のカテゴリ分類が有用となり、すべての項目にそのプロパティが設定されている場合は最も高い効果を得られます）。
- 適切な名前が設定されていること

検索結果のソート

プロパティに基づいて検索結果をソートできるようにするには、**portalconfig.xml** の <Search> セクションに次の設定を追加する必要があります。

```
<CategoryName_1 value="CategoryName"/>
<CategoryField_1 value="PTObjectID"/>
```

CategoryName は、[ソート順] ドロップダウン リストに表示されるカテゴリ名です（例：Region）。

ObjectID は、プロパティ オブジェクトを識別するための整数のオブジェクト ID です。整数のオブジェクト ID を調べるには、プロパティ オブジェクトのリンクを右クリックし、[**プロパティ**] を選択してください。次のようなリンクが表示されます。

```
http://portal.plumtree.com/portal/
server.pt?space=Opener&cached=true&parentname=ObjMgr&parentid=13&userid=1&control=0
penObject&in_hi_ClassID=36&in_hi_ObjectID=200
```

in_hi_ObjectID 引数にこの整数が設定されています。上記のリンクでは、オブジェクト ID が 200 なので、**CategoryField** 項目を次のように記述します。

```
<CategoryField_1 value="PT200"/>
```

CategoryName_2、**CategoryField_2**、**CategoryName_3**、**CategoryField_3** のように、同様のタグを追加することによって複数のカスタム カテゴリ分類オプションを追加することができます。**portalconfig.xml** では、**Category** タグに順番に番号を振っていく必要があります。例えば、<**CategoryName_3**> タグが含まれている場合は、**Category 1** と **2** のタグも存在する必要があります。

portalconfig.xml ファイルの詳細については、[付録 A「詳細プロパティとログインの設定」](#)を参照してください。

エンタープライズ検索の管理

この節では、ポータルにおける検索品質を確保するために実施する必要があるメンテナンス作業と管理作業について説明します。この節では以下のトピックについて説明します。

- [「検索コレクションの更新」](#)

- [「スナップショット クエリの作成」、4-49 ページ](#)
- [「ログによる検索状況の監視」、4-49 ページ](#)
- [「検索インデックスの修正」、4-51 ページ](#)
- [「Search Service コレクション イメージの複製」、4-52 ページ](#)
- [「ポータル検索のフェイルオーバーの設定」、4-57 ページ](#)

検索コレクションの更新

ユーザーが、ポータル内でオブジェクトを作成、削除、または変更すると、検索インデックスが更新されます。ポータルでは、検索インデックスが即座に更新されることがありますが、検索更新エージェントが次に実行されるまで検索インデックスが更新されない場合もあります。以下の表に、検索インデックスが即座に更新されるケース（I）と検索更新エージェントによって更新されるケース（SU）を示します。

表 4-8：検索インデックスの更新方法

オブジェクト	作成	削除	移動	名前または説明の変更	その他のプロパティの変更
ドキュメント	I	SU	SU	I	I
ディレクトリ フォルダ	I	SU	SU	I	SU
管理フォルダ	I	I	I	I	I
管理オブジェクト	I	I	I	I	I

注意：ナレッジ ディレクトリ の参照モードでは、検索インデックスに基づいてドキュメントやフォルダが表示されます。したがって、検索更新エージェントが実行されるまで変更は反映されません。一方、ナレッジ ディレクトリの編集モードと管理オブジェクト ディレクトリでは、データベースに基づいてオブジェクトが表示されます。したがって、変更はすぐに反映されます。

検索更新エージェントのジョブは、Intrinsic Operations（ビルトイン操作）管理フォルダに格納されています。検索更新エージェントのジョブは、検索インデックスに対して以下の操作を実行します。

- インデックスの更新
- ユーザーやオブジェクトに対する期限切れのロックの解除
- Search Service マネージャの修正設定に基づいた検索インデックスの修正

検索更新エージェントのデフォルトの実行間隔は 1 時間であり、これはほとんどのポータル システムに適していますが、検索インデックスが非常に大きい場合は、1 時間で作業を完了できない場合があります。検索更新エージェントのジョブ設定の編集については、[「ポータル エージェントの実行」、5-2 ページ](#) を参照してください。

スナップショット クエリの作成

スナップショット クエリは、クエリの結果をポートレットで表示するか、またはメールでユーザーに送信することを可能にします。検索するリポジトリ（Publisher と Collaboration を含む）を選択したり、言語、オブジェクト タイプ、フォルダ、プロパティ、テキスト条件などで検索を絞り込んだりすることができます。

スナップショット クエリを作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 管理フォルダをクリックします。
3. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストで、**[スナップショット クエリ]** を選択します。
4. オンライン ヘルプの説明に従って、クエリと結果の形式を入力します。
5. **[終了]** をクリックします。
6. プロンプトが表示されたら、スナップショット クエリを保存するフォルダを指定します。

エディタでは、クエリを参照するための案内状を送信するための指示が表示されます。エディタの指示に従って案内状を送信してください。

ログによる検索状況の監視

ポータルには「毎週実行される検索ログ レポート」というコマンドライン操作が搭載されています（Intrinsic Operations （ビルトイン操作）管理フォルダにインストールされています）。このレポートには、検索サーバーの使用状況の要約が記載されます。ログ レポートを作成するには、この節の説明に従って、この操作のジョブを作成し実行する必要があります。

ログ レポートには次の 4 つの情報が記載されます。

- ポータル ユーザーによって最も多く実行された検索
- 最も多く実行されたが、結果がゼロであった検索（ポータル ユーザーが探しているけど見つからない情報が何であるかが分かります。このような問題を解決するには、おすすめコンテンツを作成するか、ポータルにコンテンツを追加してください。）
- 一日当たりの平均検索回数
- Search Service が検索要求を処理した平均速度（秒単位）

検索ログ レポートの作成

検索ログ レポートを作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. Intrinsic Operations （ビルトイン操作）フォルダを開いてコマンドライン操作を展開します。
3. **[毎週実行される検索ログ レポート]** コマンドライン操作をクリックします。
4. **[ジョブの設定]** をクリックし、この操作のジョブを作成しスケジュールを設定します。デフォルトでこの操作は、Search Service ログをその日から遡って 7 日間分析するように設定されているため、このジョブは週に 1 回実行することをお勧めします。また、Search Service のパフォーマンスへの影響を最小限にするために、なるべく検索の利用が少ないとき（例えば、週末の深夜）にこのジョブをスケジュールして実行するようにしてください。

5. **[終了]** をクリックします。

レポート日数の変更

ログ レポートは、デフォルトで、前の週のログの要約を提供するように設定されています。しかし、コマンドライン操作を編集してレポート日数を変更することもできます。

ログ レポートのレポート日数を変更するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. **Intrinsic Operations** (ビルトイン操作) フォルダをクリックします。
3. **[毎週実行される検索ログ レポート]** をクリックします。
4. コマンドラインにある `-numPreviousDays` 引数を編集します。例えば、前日のログのレポートのみが必要な場合は、この値を 1 に変更します。
5. **[プロパティおよび名前]** をクリックして、新しいレポート間隔を示すようにコマンドライン操作の名前を変更します。
6. **[ジョブの設定]** をクリックし、新しいレポート間隔に適合する間隔で実行されるジョブを作成します。
7. **[終了]** をクリックします。

特定の日付範囲に対するレポート

特定の日付範囲に対するログ レポートを作成するようにログ レポート操作を設定できます。例えば、現在が 2003 年 6 月で、4 月分のログ レポートを作成する場合は、`-numPreviousDays` 引数を次のテキストで置き換えます。

```
-startDate 2003-04-01 -endDate 2003-04-30
```

`startDate` (開始日) と `endDate` (終了日) 引数は両端入れです。すなわち、この場合、4 月の 1 日と 30 日のログが分析に含まれます。

レポートで返される結果の数の変更

`-numTopQueries` 引数をコマンドラインの末尾に追加することによって、最も実行回数の多かったクエリと最も実行回数が多く且つゼロ回答であったクエリの一覧の長さを設定できます。例えば、一覧に含まれるクエリ数を 50 に増やすには、次の文をコマンドラインの末尾に追加します。

```
-numTopQueries 50
```

検索ログ レポートの表示

毎週実行される検索ログ レポートを表示するには次を行います。

1. レポート ジョブが完了した後、**[管理]** をクリックします。
2. **[ユーティリティの選択]** ドロップダウン リストで、**[検索サーバー設定]** をクリックします。
3. 検索サーバー設定ユーティリティで、**[ログ レポート]** をクリックします。
4. 表示したいレポートをクリックします。

解析エラーの対処方法

ログ レポート機能は、どのような Search Service ログ ファイルでも、そのコンテンツが何であっても、解析できるように堅牢に設計されています。しかし、予期せぬ事態が発生した場合、Search Service によって解析できないログ ファイルが生成され、"Failed" (失敗) というログ レポート状態が通知されることがあります。この場合、レポートを表示すると下記のようなメッセージが表示されることがあります。

```
The log report Job failed with the following message: Error: (0x80044301)
Exception thrown at PTLogAnalysis.cpp(119): Error reported by server: Parse error
at line 70515 in file /ptsearchserver/6.0/logs/logfile-2003-06-02: not well-
formed (invalid token)
```

このような事態が発生した場合は、以下の手順を実行してください。

1. Search Service を停止します。
2. 解析できなかったログ ファイルの名前を変更し (例えば、**badLog0602** に)、次にログ レポート ジョブが実行されたときに無視されるようにします。
3. 不正なログ ファイルをプラムツリーのカスタマーサポートに送信し、その後の指示に従ってください。
4. Search Service を再起動して、ログ レポート ジョブを再度実行します。正常に完了するはずですが、レポートには次のようなメッセージが含まれます。"NOTE: Log files for some of the days within the requested date range were not found..." (注意: 要求された日付範囲内の何日分のログ ファイルが検出されませんでした)。不正なログの日付もリストされます。これは、その日のファイルの名前を変更したために発生したエラーであり、正常な動作です。

検索インデックスの修正

クロールの途中で Search Service が使用できなくなったり、ネットワーク障害によってインデックス作成操作が完了できなかったりした場合、検索インデックスとデータベースの同期がずれる可能性があります。また、インデックスが空の Search Service を以前から存在するドキュメントやフォルダを含んだ既存のポータルに投入した場合にも、同様のことが起きる可能性があります。

Search Service マネージャでは、検索更新エージェントが検索インデックスを修正するスケジュールと頻度を指定することができます。修正操作では、特定のオブジェクトのみを同期するのではなく、データベースに含まれているすべてのオブジェクトと検索インデックスを同期します。データベースにある検索可能なオブジェクトは、検索インデックス内の ID と比較されます。データベースにあるオブジェクト ID が検索インデックスに含まれていない場合、検索更新エージェントはそのオブジェクトのインデックスを作成します。一方、検索インデックスに含まれている ID がデータベースに無い場合、検索エージェントはそのオブジェクトを検索インデックスから削除します。

検索インデックスのメンテナンスをバックグラウンドで実行するか、または完全に入れ替えるために検索更新エージェントを実行できます。

検索の修正操作を設定するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. **[ユーティリティの選択]** ドロップダウン リストで、**[Search Service マネージャ]** をクリックします。

3. [検索修正設定] で、検索インデックスを自動的に修正するスケジュールと次の修正操作の実行間隔を指定します。
4. [終了] をクリックします。

Search Service コレクション イメージの複製

複製ユーティリティ (`<search_home>/bin/replicate.exe`) は、次のことに使用できます。

- 障害回復：コレクション イメージのバックアップを作成することによって、元のイメージが損傷または破損、破壊された場合に Search Service をこのバックアップ イメージ上で再起動できます。このバックアップは、必要な障害保護のレベルに応じて、同一ディスク上の別ディレクトリ、別のディスク上のディレクトリ、またはアーカイブ テープで保管してください。
- クエリの実行とインデックス作成の分離： インデックス作成専用の Search Service のコレクション イメージをクエリの実行専用の Search Service に定期的に複製することによって、検索コレクションのインデックス作成処理がクエリのスループットに悪影響を及ぼさないようにすることができます。しかし、インデックス作成処理によるコンテンツの更新と、ユーザーのクエリへの反映との間に時差が発生します。
- フェイルオーバー サーバーの維持管理： インデックス作成専用の Search Service のコレクション イメージをクエリの実行専用の 2 つの Search Service に定期的に複製することによって、一次クエリサーバーがダウンしたときに、二次クエリ サーバーにポータルをフェイルオーバーさせることができます。

複製ユーティリティは、以下のモードで実行できます。:

複製モード	説明
差分バックアップ	<p>差分バックアップ モードでは、複製ユーティリティが ready ファイルを読み取って、アクティブのコレクション ディレクトリを特定します。ユーティリティは、検索コレクションを BACKUP_DIR にコピーします。ユーティリティは、差分バックアップが呼び出されるたびに、アクティブのコレクション ディレクトリの中のファイルをバックアップ ディレクトリ内のファイルと比較し、変更されているファイルのみをコピーした上で、replicate.log というログ ファイルを作成します。このログ ファイルには、バックアップ ディレクトリに書き込まれたファイルとそこから削除されたファイルの一覧が記載されます。</p> <p>差分バックアップを実行するには、コマンド プロンプトで次のように入力します。</p> <pre>replicate -incr_backup HOST PORT INDEX_DIR BACKUP_DIR</pre> <p>上記のコマンドで、HOST は Search Service のホスト コンピュータ、PORT は対応するポート番号、INDEX_DIR は既存のインデックス ディレクトリのパス名、そして BACKUP_DIR はインデックスのバックアップを作成する場所です。</p>

複製モード	説明
リストア	<p>このモードは、指定したバックアップ コレクションに基づいて Search Service を復元するために使用します。このモードでは、ユーティリティが ready ファイルを参照してアクティブのコレクション ディレクトリを特定します。次に、ユーティリティは、ready ファイルの中の値を現在アクティブではないディレクトリの名前に設定し、そのアクティブではないディレクトリの内容を BACKUP_DIR の内容で置き換えます。Search Service にリロード コマンドが送信され、Search Service が再起動して、このアクティブではないコレクションを指し示すようになります（こうすることによって、このアクティブではないコレクションがアクティブ コレクションになります）。</p> <p>（障害回復時などに）バックアップ イメージからインデックス サーバーを復元する際は、コマンド プロンプトで次のコマンドを入力します。</p> <pre>replicate -restore HOST PORT INDEX_DIR BACKUP_DIR</pre> <p>上記のコマンドで、HOST は Search Service のホスト コンピュータ、PORT は対応するポート番号、INDEX_DIR は既存のインデックス ディレクトリのパス名、そして BACKUP_DIR はインデックスのバックアップを作成する場所です。</p> <p>この場合、Search Service は、復元後、読み取り / 書き込みモードで稼働します。</p> <p>読み取り専用のクエリ サーバーでバックアップ イメージを復元する場合は、コマンド プロンプトで次を入力します。</p> <pre>replicate -restore_ro HOST PORT INDEX_DIR BACKUP_DIR</pre> <p>この場合、Search Service は、復元後、読み取り専用モードで稼働します。上記のコマンドを使用することによって、システムの構成ミスにより、インデックス要求が一次インデックス サーバーではなく複製されたクエリ サーバーに送信されることを防ぐことができます。</p>

複製モード	説明
リロード	<p>リロード モードは、リストア モードと併用することによって、複数の読み取り専用クエリ サーバーで、ネットワーク ファイル システム上の 1 つのアーカイブ コレクションを共有することを可能にします。リロード モードでは、ユーティリティが ready ファイルを参照してアクティブなコレクション ディレクトリを特定し、Search Service にリロードコマンドを送信します。このコマンドを受信すると、Search Service は再起動してアクティブなコレクションを指し示すようになります。</p> <p>リロード後、Search Service は、読み取り専用モードで稼働します。こうすることによって、システムの構成ミスにより、インデックス要求が一次インデックス サーバーではなく複製されたクエリサーバーに送信されることを防ぐことができます。これは、複数の Search Service で同じアーカイブ コレクションを共有するような構成においては、その中の 1 つのサーバーが共有コレクション内のデータを変更した場合に重大な整合性の問題が発生する可能性があるため、特に注意する必要があります。</p> <p>リロードを実行するには、コマンドプロンプトで次を入力します。</p> <pre>replicate -reload_ro HOST PORT INDEX_DIR</pre> <p>上記のコマンドで、<i>HOST</i> は Search Service のホスト コンピュータ、<i>PORT</i> は対応するポート番号、<i>INDEX_DIR</i> は既存のインデックス ディレクトリのパス名、そして <i>BACKUP_DIR</i> はインデックスのバックアップを作成する場所です。</p>
スワップ	<p>スワップ モードでは、ユーティリティが ready ファイルを参照してアクティブなコレクション ディレクトリを特定します。次に、ユーティリティは、ready ファイルの中の値を現在アクティブではないディレクトリの名前に設定します。リロード コマンドが Search Service に送信され、Search Service が再起動し、このアクティブではないコレクションを指し示すようになります。</p> <p>このモードは、Search Service を早急に前の状態に戻すために使用することもできますが、そのような場合、通常は、リストア モードを使用します（アクティブではないディレクトリのコンテンツを <i>BACKUP_DIR</i> のコンテンツで置き換えます）。</p> <p>スワップを実行するには、コマンド プロンプトで、次を入力します。</p> <pre>replicate -swap HOST PORT INDEX_DIR</pre> <p>上記のコマンドで、<i>HOST</i> は Search Service のホスト コンピュータ、<i>PORT</i> は対応するポート番号、<i>INDEX_DIR</i> は既存のインデックス ディレクトリのパス名、そして <i>BACKUP_DIR</i> はインデックスのバックアップを作成する場所です。</p>

複製モード	説明
<p>エンド スナップショット (スナップショットの終了)</p>	<p>このモードは、Search Service をスナップショット モードから強制的に切り替えます。(例えば、CTRL-C イベント等によって) 複製ユーティリティが正常に終了しない場合にこのモードが必要になります。このモードでは、ユーティリティは、Search Service がスナップショット モードを使用しているかどうかを確認し、必要であれば、モードを切り替えます。</p> <p>30 分経過すると、Search Service は自動的にタイムアウトしてスナップショット モードから切り替わります。したがって、このモードは、予期せぬ事態によって複製が失敗し、複製処理をすぐに再開したい場合にのみ必要になります。</p> <p>Search Service を強制的にスナップショット モードから切り替えるには、コマンド プロンプトで次を入力します。</p> <pre>replicate -endsnapshot HOST PORT</pre> <p>上記のコマンドで、<i>HOST</i> は Search Service のホスト コンピュータで、<i>PORT</i> は対応するポート番号です。</p> <p>Search Service がスナップショット モードになっている場合に、EndSnapshot コマンドを実行すると次のメッセージが表示されます。</p> <pre>Replicate.exe -endsnapshot HOST 1090 TRACE: ENDSNAPSHOT on host HOST and port 1090 Checking status of Search Service Ending existing snapshot mode endSnapshot successful (HOST というホスト、ポート 1090 に対してエンド スナップショットを実行。Search Service の状態をチェックしています。現行のスナップショット モードを終了します。endSnapshot コマンドは成功しました。)</pre> <p>Search Service がスナップショット モードになっていない場合に、EndSnapshot コマンドを実行すると次のメッセージが表示されます。</p> <pre>Replicate.exe -endsnapshot HOST 1090 TRACE: ENDSNAPSHOT on host HOST and port 1090 Checking status of Search Service Search Service is not in snapshot mode (HOST というホスト、ポート 1090 に対してエンド スナップショットを実行。Search Service の状態をチェックしています。Search Service はスナップショットモードになっていません。)</pre>

以下の表に、複製機能の使用例と複製ユーティリティを使用して実施する必要のある作業の概要を示します。

使用例	作業
バックアップと復元	<ul style="list-style-type: none"> ネットワーク アクセス可能なファイル システムに Search Service コレクションをバックアップするには、差分バックアップ モードを使用します。 バックアップのコレクション イメージを定期的に更新するには、差分バックアップ モードを使用します。 差分バックアップによって作成されたコレクション イメージを使用して Search Service を復元するにはリストア モードを使用します。 <p>検索コレクションがひどく破損している場合、Search Service を起動できないことがあります。このような場合は、Search Service を起動する前に、ポータルのインストーラを使用して空のアーカイブ コレクションを再インストールする必要があります。Search Service が起動した後、複製ユーティリティを使用してバックアップ イメージを復元できます。</p>
ローカルの導入環境での使用	<ul style="list-style-type: none"> マスター インデックス作成用の Search Service コレクションを、ネットワーク アクセス可能なファイル システムのバックアップ ディレクトリにバックアップするには、差分バックアップ モードを使用します。 バックアップのコレクション イメージを定期的に更新するには差分バックアップモードを使用します。 読み取り専用クエリ Search Service およびフェイルオーバー Search Service のコレクションをこのコレクション イメージに更新するには、リストア モードを使用します。
グローバルの導入環境での使用	<ul style="list-style-type: none"> マスター ノードにおいて、マスター インデックス作成用 Search Service コレクションをバックアップ ディレクトリにバックアップするには差分バックアップ モードを使用します。 バックアップのコレクション イメージを定期的に更新するには差分バックアップモードを使用します。 バックアップ コレクション イメージを各サテライト ノード内のリモート マシンに移動するには、PTFtp のようなファイル複製ツールを使用します。前回実施した複製の後に変更されたファイルのみをリモート マシンにコピーする必要があります。 各サテライト ノードで、リモート Search Service のコレクションをコピーしたコレクション イメージに更新するにはリストア モードを使用します。

使用例	作業
複数のクエリ サーバーによる検索コレクションの共有	<p>次の構成を使用することにより、複数のクエリ（読み取り専用）Search Service で 1 つのネットワーク アクセス可能な検索コレクションを共有できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • サポートされているクエリ / フェイルオーバー構成 • クエリ Search Service またはフェイルオーバー Search Service の IP ロード バランシング <p>複数のクエリ Search Service が 1 つのネットワーク アクセス可能な検索コレクションを共有することは可能ですが、インデックス サーバーは、複製ユーティリティ (replicate.exe) 以外の方法で検索コレクションを他のサーバーと共有することはできません。</p> <p>複数のクエリサーバーによって共有されているインデックスディレクトリに検索コレクションを複製するには次を行う必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 差分バックアップ モードを使用して、マスター インデックス作成用の Search Service コレクションを、ネットワーク アクセス可能なファイル システムのバックアップ ディレクトリにバックアップします。 2. リストア モードを使用して、読み取り専用クエリ サーバーの 1 つのコレクションをバックアップ コレクション イメージに更新します。 3. リロード モードを使用して残りのクエリ サーバーをリロードします。 <p>上記の最初の 2 つの手順によって、検索コレクションがネットワーク ファイル システム上の共有コレクション ディレクトリに複製されます。リストア モードの手順を実行すると、クエリ サーバーの 1 つが新しく複製されたコレクションに切り替わります。残りのクエリ サーバーは、以前複製されたコレクションを引き続き使用します。</p> <p>3 つ目の手順を残りのクエリ サーバーに対して繰り返します。各クエリ サーバーがリロード コマンドを受信すると、新しく複製されたコレクションに切り替わります。上記の処理を終了すると、すべてのクエリ サーバーが新しく複製された同じコレクション イメージを参照するようになります。</p>

ポータル検索のフェイルオーバーの設定

ポータル管理の **Search Service** マネージャ ユーティリティで、一次クエリ サーバーとフェイルオーバー クエリ サーバーを指定することができます。フェイルオーバー クエリ サーバーを設置することによって、ポータル検索の耐障害性を向上させることができます。

ポータルから一次サーバーに対して発行された検索クエリが失敗した場合、ポータルは、フェイルオーバー クエリ サーバーに対して同じクエリを自動的にリトライします。クエリのリトライも失敗した場合、ポータルでエラーが報告されます。クエリは以下の理由で失敗することがあります。

- クエリ サーバーに接続できない場合（一般的に、クエリ サーバーのサービスが稼動していないことが原因となります）
- クエリ サーバーとの通信時に I/O エラーが発生した場合（一般的に、ネットワーク問題が原因となります）
- クエリ サーバーからエラー応答を受信した場合
- タイムアウトが発生した場合（一般的に、Search Service でクエリが迅速に処理されなかったことが原因となります）

フェイルオーバー サーバーを指定するには次を行います。

1. [**管理**] をクリックします。
2. [**ユーティリティの選択**] ドロップダウン リストで、[**Search Service マネージャ**] を選択します。
3. [**フェイルオーバー ホスト名**] テキスト ボックスにサーバー名とポート番号を入力します。
4. [**終了**] をクリックします。

フェイルオーバー クエリ サーバーは、クエリ サーバーのみに使用できます。インデックス サーバーには使用できません。検索インデックスとポータル データベース間の同期を回復する方法については[「検索コレクションの更新」](#)、4-48 ページを参照してください。

ネットワーク検索の使用

この章では、このポータルのユーザーが外部リポジトリのコンテンツを検索し、他のポータルのユーザーがこのポータルのコンテンツを検索できるようにする ネットワーク検索機能について説明します。この節では以下のトピックについて説明します。

- [「ネットワーク検索について」](#)
- [「ネットワーク検索の設定」](#)、4-59 ページ
- [「非ポータル リポジトリの検索」](#)、4-60 ページ

ネットワーク検索について

ネットワーク検索によって、個々のプラムツリー ポータルが、相互におよび他のリポジトリと接続されます。ネットワーク検索は、地理的に分散された組織が、複数のポータルを導入し、相互に接続することで、グローバルなコンテンツを取り扱いながらそのコンテンツをローカルで制御することを可能にします。ネットワーク検索では、エンドユーザーに対して単一のインタフェースが提供され、複数のプラムツリー ポータルを検索した結果がまとめて表示されます。また、外部のインターネットおよびイントラネット ベースの検索エンジンを同時にクエリすることも可能です。

ポータルをインストールすると、公開アクセスの受信ネットワーク検索が作成されます。これによって、他のプラムツリー ポータルが、ゲスト ユーザーとしてこのポータルを検索できるようになります。

他の検索関係を確立するには、新規の受信または送信ネットワーク検索を作成する必要があります。このポータルがコンテンツの要求または提供のどちらを行うかにかかわらず、関係する管理者は、ネットワーク検索を設定する前に次の事項について合意する必要があります。

- どのポータルがコンテンツを配信するのか
- どのポータルがコンテンツを要求するのか
- これらのポータルでは、共通の外部ユーザー データベースを共有するのか

両方のポータルで、共通の外部ユーザー データベース (LDAP サーバーまたは NT ドメインなど) を共有する場合は、それらの共有ユーザーが、サーバー ポータル上で適切なコンテンツにアクセスできるように権限を付与する必要があります。これによって、追加の管理作業を行うことなく最大のコンテンツ セキュリティを確保することができます。

関係するポータルにおいて、ユーザー情報のデータベースを共有しない場合は、リクエスト ポータルのユーザーが使用できる 1 つまたは複数の仮のユーザー アカウントをサーバー ポータル上に作成する必要があります。

- 認証元を使用しない場合は、ポータルを識別するために使用するポータル ID とパスワードは何か
リクエスト ポータルは、要求を発行する度に、認証のための ID とパスワードをサーバー ポータルに送信します。リクエスト ポータルの送信ネットワーク検索とサーバー ポータルの受信ネットワーク検索の両方に、同じ ID とパスワードを入力する必要があります。

デフォルトで、公開アクセスネットワーク検索の検索 ID は「guest」で、パスワードは空白です。

- リクエスト ポータルが使用できるサーバー ポータルのコンテンツは何か

ネットワーク検索の設定

ネットワーク検索を使用することによって、プラムツリー ポータルから他のプラムツリー ポータルを検索することができます。この機能を有効にするには、検索する側のポータル（送信）と検索される側のポータル（受信）との間に関係を設定する必要があります。信頼関係を確立するには、この 2 つのポータルに、要求を送信しているソースが信頼できるソースであることを保証するための名前とパスワードの組み合わせを設定する必要があります。この情報は、ポータル識別用の名前とパスワードとして記録されます。

ネットワーク検索には、受信検索と送信検索があります。

- **送信ネットワーク検索**は、このポータルのユーザーが、他のプラムツリー ポータルまたはその他の外部リポジトリを検索できるようにします。プラムツリー ポータル間でネットワーク検索が実行できるようにするには、受信ネットワーク ポータルと送信ネットワーク ポータルの間に関係を設定する必要があります。プラムツリー ポータルと外部リポジトリの間でネットワーク検索を実行できるようにするには、検索ウェブ サービスを作成する必要があります。
- **受信ネットワーク検索**は、他のプラムツリー ポータルからこのポータル内を検索できるようにします。

送信ネットワーク検索の設定

検索ウェブ サービスを作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 管理フォルダを開きます。
3. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストで、**[ウェブ サービス - 検索]** をクリックします。

4. オンライン ヘルプの説明に従って、検索ウェブ サービスを定義します。
5. **[終了]** をクリックします。

送信ネットワーク検索を作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 管理フォルダを開きます。
3. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストで、**[ネットワーク検索 - 送信]** をクリックします。
4. プロンプトが表示されたら、検索ウェブ サービスを選択します。
5. オンライン ヘルプの説明に従って送信ネットワーク検索を定義します。
6. **[終了]** をクリックします。

受信ネットワーク検索の設定

受信ネットワーク検索を作成するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 管理フォルダを開きます。
3. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストで、**[ネットワーク検索 - 受信]** をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従って受信ネットワーク検索を定義します。
5. **[終了]** をクリックします。

非ポータル リポジトリの検索

ポータル以外のリポジトリを検索する必要がある場合、プラムツリーまたは他のベンダーによってそのリポジトリにアクセスするための検索ウェブ サービスが既に作成されている可能性があります。既に作成されていない場合は、プラムツリーが提供するエンタープライズ ウェブ開発キットを使用して、独自の検索ウェブ サービスを Java または .NET で容易に作成できます。詳細については、Plumtree Developer Center にアクセスしてください。

非ポータル リポジトリにアクセスする送信ネットワーク検索を作成するには次を行います。

タスク	手順
検索プロバイダをインストールします。	詳細については、検索プロバイダの資料を参照してください。
リモート サーバーを設定します。	<ol style="list-style-type: none"> 1. [管理] をクリックします。 2. このコンテンツ ソース用の管理フォルダを選択するか、または新規のフォルダを作成します。 3. [オブジェクトの作成] ドロップダウン リストで、[リモート サーバー] を選択します。 4. オンライン ヘルプの説明に従って、リモート サーバーの接続情報を設定します。 5. [終了] をクリックします。

タスク	手順
検索ウェブ サービスを設定します。	<ol style="list-style-type: none"> 1.[管理] をクリックします。 2.管理フォルダを開きます。 3.[オブジェクトの作成] ドロップダウン リストで、 [ウェブ サービス - 検索] をクリックします。 4.オンライン ヘルプの説明に従って、検索ウェブ サービスを定義します。 5.[終了] をクリックします。
送信ネットワーク検索を作成します。	<ol style="list-style-type: none"> 1.[管理] をクリックします。 2.管理フォルダを開きます。 3.[オブジェクトの作成] ドロップダウン リストで、 [ネットワーク検索 - 送信] をクリックします。 4.プロンプトが表示されたら、検索ウェブ サービスを選択します。 5.オンライン ヘルプの説明に従って送信ネットワーク検索を定義します。 6.[終了] をクリックします。

5

管理タスクの自動化

この章では、Automation Service のセットアップおよび定期的にポータル管理タスクを実行するジョブのスケジュール設定を行うための手順について説明します。この章には以下の節が含まれています。

- [「ジョブについて」](#)
- [「Automation Service の登録」、5-1 ページ](#)
- [「ジョブ フォルダの設定」、5-2 ページ](#)
- [「ジョブ ディスパッチャー サービスの起動」、5-2 ページ](#)
- [「ポータル エージェントの実行」、5-2 ページ](#)
- [「ジョブの作成および実行手順」、5-3 ページ](#)
- [「コマンドライン操作をジョブとして実行するための設定」、5-4 ページ](#)
- [「ジョブの状態とジョブのログの参照」、5-4 ページ](#)

ジョブについて

ジョブによって、ポータルの管理操作のスケジュールを設定することができます。ジョブとは関連する操作のコレクションです。操作とは、ドキュメントのクロール、ユーザーのインポート、システム メンテナンスの操作といったの 1 つのタスクのことをいいます。

次の操作を実行するには、ジョブを実行する必要があります。


- 認証元によるユーザーやグループのインポートまたは同期
- クローラによるドキュメントのインポートまたは更新
- コマンドライン操作の実行
- 一部のポートレットのコンテンツの実行および格納
- プロファイル ソースによるユーザー情報のインポート
- スマート ソートによるコンテンツの移動またはコピー（このジョブはポータルによって自動的に作成され、実行されます）

Automation Service の登録

ジョブを実行するには、まずポータルで Automation Service を登録する必要があります。『*Plumtree Foundation インストール ガイド*』の説明に従って、Automation Service をインストールし、関連するデータベース スクリプトを実行することによって、一次 Automation Service を登録することができます。

追加の Automation Service を登録するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. **[ユーティリティの選択]** ドロップダウン リストで **[Automation Service]** をクリックします。

3.  **[Automation Service の追加]** をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従って、設定を入力します。
5. **[終了]** をクリックします。Automation Service にジョブ フォルダを割り当てるまで、ジョブをその Automation Service 上で実行することはできません。

ジョブ フォルダの設定

ジョブは、そのジョブが格納されているフォルダが Automation Service に割り当てられている場合のみ実行することができます。フォルダの中のすべてのジョブは、1 つまたは複数の Automation Service によって実行されます。複数の Automation Service が 1 つのフォルダに関連付けられている場合、プラムツリー ジョブ ディスパッチャー サービスは、各 Automation Service で利用可能なリソースに合わせてジョブを割り当てていきます。

Automation Service へのフォルダの割り当てを管理するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. **[ユーティリティの選択]** ドロップダウン リストで **[Automation Service]** をクリックします。
3. フォルダを割り当てる Automation Service の名前をクリックします。
4. 必要に応じてフォルダを追加または削除します。
5. **[終了]** をクリックします。

ジョブ ディスパッチャー サービスの起動

Automation Service は、プラムツリー ジョブ ディスパッチャー サービスとして実行されます。プラムツリー ジョブ ディスパッチャー サービスは、システムを起動すると自動的に起動するように設定されています。ジョブ ディスパッチャー サービスが自動的に起動するように設定する方法については、『*Plumtree Foundation インストール ガイド*』を参照してください。

ポータル エージェントの実行

ポータルには、インストール時に作成される 4 つのジョブが付属しています。一括追加を実行した際、または動的グループ メンバーシップ ルールを作成した際に、さらに 2 つのジョブが作成されます。これらジョブは、すべてデフォルトで管理ディレクトリの Intrinsic Operations フォルダの Jobs フォルダに格納されます。

- **監査ログの管理** エージェントは、古い監査メッセージをファイルにアーカイブ保存し、古い監査ファイルを削除します。

監査ログの管理 エージェントは、また監視マネージャ ユーティリティに設定されているスケジュールに従って監査ファイルをアーカイブ保存し、削除します。

- **一括追加** エージェントは、一括追加エディタで指定したコミュニティやポートレットを複数ユーザーに追加します。
- **ドキュメントの更新** エージェントは、ドキュメント リンクやプロパティの更新、期限の切れたドキュメントの削除など、ナレッジ ディレクトリに対するメンテナンス処理をバックグラウンドで実行します。
- **動的メンバーシップ** 更新 エージェントは、動的なプラムツリー グループ メンバーシップを更新します。
- **検索更新** エージェントは、検索コレクションをデータベースと同期させます。このジョブの複数のインスタンスを同時に実行することができます。

検索更新エージェントは、また **Search Service** マネージャ ユーティリティに設定されている更新頻度に従って検索インデックスを修正します。

- **週ごとのハウスキーピング** エージェントは、期限の切れた案内状や古いジョブ ログ、コミュニティへのアクセスが無効になったコミュニティ メンバーを削除するなど、週ごとのシステム メンテナンスを行います。

これらのエージェントを実行するには、ジョブをクリックし、スケジュールを設定します。

ジョブの作成および実行手順

ジョブを関連付ける必要のあるポータル オブジェクトのオブジェクトの作成エディタには、その関連するジョブを設定しスケジュールを設定するためのページが含まれています。オブジェクトの作成エディタを使用せずに追加ジョブを作成する場合は、この節の手順に従ってください。

ジョブを作成し、実行するには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 管理フォルダを開きます。
3. **[オブジェクトの作成]** ドロップダウン リストで、**[ジョブ]** をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従ってジョブを定義します。
5. **[終了]** をクリックします。

ジョブを実行できるようにするには下記を行う必要があります。

1. ジョブ ディスパッチャー サービスが **Automation Service** のマシン上で稼働していることを確認します。稼働していない場合は、直ぐに起動してください ([「ジョブ ディスパッチャー サービスの起動」](#)、[5-2 ページ](#)参照)。
2. [「Automation Service の登録」](#)、[5-1 ページ](#)の手順に従って、Automation Service をポータルに登録します。
3. [「ジョブ フォルダの設定」](#)、[5-2 ページ](#)の手順に従って、管理フォルダを登録済みの Automation Service に割り当てます。

コマンドライン操作をジョブとして実行するための設定

ポータルを通してコマンドライン アクションを実行するコマンドライン操作を作成し、ポータルのジョブに設定することによって、これらのアクションのスケジュールを設定することができます。例えば、ドキュメントに対するクエリを実行するスクリプトやポータルに対して Ping を送信するスクリプト、ユーザーにスナップショット クエリの結果を電子メールで送信するスクリプト、または指定されたスケジュールで実行される任意のカスタム スクリプトを作成することができます。

コマンドライン操作を作成するには次を行います。

1. [**管理**] をクリックします。
2. 管理オブジェクト フォルダを開きます。
3. [オブジェクトの作成] ドロップダウン リストで、[**コマンドライン操作**] をクリックします。
4. オンライン ヘルプの説明に従って、コマンドライン操作と関連するジョブを定義します。
5. [**終了**] をクリックします。

ポータルの**管理オブジェクト - Intrinsic Operations** フォルダには、コマンドライン操作の次の 2 つの例が格納されています。

- **保存されている検索結果のメール送信**：スナップショット クエリの検索結果をユーザーに電子メールで送信するコマンドライン操作の例です。このスクリプトのカスタマイズについては、保存されている検索結果のメール送信の操作によって呼び出される **PT_HOME/scripts/SavedSearchMailer.sh** ファイルのコメント部分を参照してください。
- **毎週実行される検索ログ レポート**：前週（必要なレポート期間を設定することも可能）の Search Service ログに関する概要レポートを実行するコマンドライン操作です。このスクリプトのカスタマイズについては、毎週実行される検索ログ レポートの操作によって呼び出される **PT_HOME/scripts/WeeklySearchLogReport.sh** ファイルのコメント部分を参照してください。

ジョブの状態とジョブのログの参照

Automation Service ユーティリティの [ジョブ履歴] ページには、処理中のジョブや完了したジョブの情報が表示され、ジョブを停止するオプションもあります。

処理中のジョブや完了したジョブの状態およびログを表示するには次を行います。

1. [**管理**] をクリックします。
2. [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストで [**Automation Service**] をクリックします。
3. 画面左側の [ユーティリティ設定の編集] の下の [**ジョブ履歴**] をクリックします。
4. 実行済みジョブおよび各ジョブのログの表示、処理中のジョブの停止等の操作を行います。
5. [**終了**] をクリックします。

6

ポータル オブジェクトの移行、バックアップ、および復元

この章では、ポータル オブジェクトの移行（エクスポートとインポート）、バックアップ、および復元の手順を説明します。この章には以下の節が含まれています。

- [「オブジェクトの移行について」](#)
- [「ポータルにおける移行パッケージの作成」、6-3 ページ](#)
- [「ポータルへのオブジェクトのインポート」、6-4 ページ](#)
- [「ポータルのバックアップと復元」、6-5 ページ](#)

オブジェクトの移行について

オブジェクトの移行によって、1 つのポータルから別のポータルにリソースをコピーすることができます。グローバル展開するために複数のポータルを導入する場合、または開発環境、テスト環境、運用環境を分けるために複数のポータルを構築する場合などにおいては、オブジェクトの移行を行うことをお勧めします。

1 つのポータルから別のポータルにリソースをコピーするには、移行パッケージを作成します。移行パッケージは、以下のように使用できます。

- 開発ポータル内に作成されているオブジェクトをエクスポートし、十分なテストを行った後で運用ポータルにインポートします。
- ポータルに新しい機能をインストールするためにポータル オブジェクトをインポートします。例えば、ポートレット スイートをインストールして、それらのポートレットをポータルに登録することができます。

[表 6-1](#) では、オブジェクトの移行機能の特徴を概説します。

表 6-1：移行機能の特徴

移行機能の特徴	説明
パッケージに含めることができるポータル オブジェクト	すべてのオブジェクト
Collaboration 情報と Publisher 情報	Collaboration 情報と Publisher 情報を移行することが可能

表 6-1：移行機能の特徴

移行機能の特徴	説明
要求と承認	<p>編集アクセス権限以上の権限を持つユーザーが移行を要求することができます。しかし、ポータル管理者グループのメンバーのみがオブジェクトの移行を承認することができます。</p> <p>管理者は、移行パッケージに追加する承認済みオブジェクトを選択します。また、移行要求を申請することなくオブジェクトをパッケージに追加することができます。</p> <p>ユーティリティへのアクセスアクティビティ権を持つユーザーは、移行要求の状態を確認することができます。</p>
移行パッケージの作成	<p>ユーティリティへのアクセスというポータル アクティビティへのアクセス権限を持つユーザーのみが移行パッケージを作成することができます。</p> <p>管理者は、(要求と承認プロセスを省略して) 移行要求が申請されていないオブジェクトを移行パッケージに追加することができます。</p>
オブジェクトの依存関係	<p>オブジェクトの依存関係は常に保持されます。依存オブジェクトは、移行パッケージに含めることができますが、必須ではありません。</p>
汎用一意識別子 (UUID) と今後の移行パッケージのインポートへの影響	<p>デフォルトで UUID が保持されるように設定されており、今後の移行においては、以前移行したオブジェクトが上書きされます。しかし、以前移行したオブジェクトを上書きしたくない場合は、同じオブジェクトの新しいインスタンスを作成し、新しい UUID を割り当てることも可能です。</p>

移行パッケージの使用

ポータルの移行 - エクスポート ユーティリティを使用して移行パッケージを作成することができます。移行パッケージからオブジェクトをインポートするには、移行 - インポート ユーティリティを使用します。

下記に移行作業をより容易に且つ効果的に行うためのガイドラインを示します。

- ソース ポータルとターゲット ポータルをなるべく同じ状態に保つことによって、必要となるマッピング作業を減らします。
- オブジェクトを承認した後、なるべく早く移行パッケージを作成します。移行パッケージに含まれるオブジェクトの設定は、パッケージの作成時のものであり、オブジェクトの承認時の設定ではありません。したがって、承認後すぐに移行パッケージを作成することによって、承認後にオブジェクトの設定が変更される可能性を最小限にすることができます。

- 移行パッケージのオブジェクトは、選択してインポートすることが可能です。例えば、クローラとコミュニティを別々にインポートする必要がある場合は、パッケージを二度インポートして、インポートする際に異なるオブジェクトを選択することができます。

ポータルにおける移行パッケージの作成

ポータル リソースのほかに Publisher 情報や Collaboration 情報を含めた移行パッケージを作成することができます。

ポータルにおいて移行パッケージを作成するには次を行います。

- [**管理**] をクリックします。
- [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストで [**移行 - エクスポート**] をクリックします。
- オンラインヘルプの説明に従って、ポータル リソース、および必要であれば Publisher 情報や Collaboration 情報を追加します。
- [**終了**] をクリックします。移行パッケージが作成されている間、進行状態を示すメッセージが表示されます。移行パッケージが作成された後、デスクトップにダウンロードすることができます。

注意： Collaboration または Publisher のオブジェクトを移行する場合、Collaboration または Publisher がインストールされているマシン上に、圧縮ファイル（.zip）としてそれらのオブジェクトが書き込まれます。この圧縮ファイルは、書き込まれた場所から必要な場所に移動する必要があります。

コマンドライン ツールを使用して移行パッケージを作成する方法

ポータル リソースを含む移行パッケージを作成するには次を行います。

- ポータルの所有者としてポータルのホスト コンピュータにログインします。
- Windows の場合は **ptmigration.bat**、Unix の場合は **./ptmigration.sh** というコマンドを入力し、次のパラメータを指定します。

```
./ptmigration.sh [username] [password] -export [migration package name] [log file name] <-exportdependencies>
```

主なパラメータの内容は次の通りです。

パラメータ	説明
migration package name	必須。作成する移行パッケージの名前とパス。
log file name	必須。作成するログ ファイルの名前とパス。 ログ ファイルのパスは、移行パッケージのパスとは異なるパスである必要があります。
-exportdependencies	オプション。このパラメータは、エクスポートするオブジェクトが依存している追加オブジェクトをエクスポートする場合に使用します。

注意: コマンドライン ツールを使用して Collaboration または Publisher のオブジェクトをエクスポートすることはできません。これらのオブジェクトをエクスポートするには、ポータルの管理 ユーザー インタフェースの移行 - エクスポート ユーティリティを使用してください。[「ポータルにおける移行パッケージの作成」、6-3 ページ](#)を参照してください。

3. **[Enter]** を押します。移行が承認されているすべてのオブジェクトが移行パッケージにエクスポートされます。移行ユーティリティによってソース ポータルの移行状態が更新されます。

ポータルへのオブジェクトのインポート

移行パッケージから Publisher 情報や Collaboration 情報を含むオブジェクトをポータルにインポートするには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. **[ユーティリティの選択]** ドロップダウンリストで **[移行 - インポート]** をクリックします。
3. オンライン ヘルプの説明に従って、移行パッケージをアップロードし、そのパッケージからインポートするオブジェクトを選択します。
4. オンラインヘルプの説明に従って、未解決の依存関係を解決します。
5. **[終了]** をクリックします。

コマンドラインツールを使用してオブジェクトをインポートする方法

移行パッケージからポータル リソースをインポートするには次を行います。

1. 移行パッケージを移行先であるポータルのホスト コンピュータにコピーします。
2. ポータルの所有者としてポータルのホスト コンピュータにログインします。
3. Windows の場合は **ptmigration.bat**、Unix の場合は **./ptmigration.sh** というコマンドを入力し、次のパラメータを指定します。

```
ptmigration.bat [username] [password] -import [migration package name] [log  
file name] <-noacl> <-overwriterevoteservers> <-createnewobjectinstances>
```

主なパラメータの内容は次の通りです。

パラメータ	説明
migration package name	必須。作成する移行パッケージの名前とパス。
log file name	必須。作成するログ ファイルの名前とパス。 ログ ファイルのパスは、移行パッケージのパスとは異なるパスである必要があります。
-noacl	オプション。インポートするオブジェクトに関連するアクセス コントロール リスト（セキュリティ データ）をインポートしない場合はこのパラメータを指定します。

<code>-overwritereOTEServers</code>	オプション。既存のリモート サーバー オブジェクトを移行パッケージ内のリモート サーバー オブジェクトで上書きする場合はこのパラメータを指定します。デフォルトでは、既存のリモート サーバーは上書きされません。
<code>-createnewobjectinstances</code>	オプション。インポート先のポータルの既存オブジェクトを上書きせずに、新しいオブジェクトインスタンスを作成する場合はこのパラメータを指定します。

4. **[Enter]** を押します。移行パッケージのすべてのオブジェクトがインポートされます。インポートされたオブジェクトは、インポート先のポータルにおいて、ソース ポータルと同じフォルダに格納されます。依存リソースを検出できないオブジェクトは無視され、インポートされません。インポートできなかったオブジェクトを確認するには、移行ログを参照してください。

ポータルのバックアップと復元

システムをオフラインにしなくてもバックアップを行うことができます。

ポータルをバックアップするには次を行います。

1. データベース ベンダーの資料やベスト プラクティスに従って、データベースのバックアップを行います。
2. 検索コレクションを別の場所またはテープにバックアップします。

ポータルを以前に保存した状態に復元するには次を行います。

1. すべてのポータルおよび管理ポータル上のウェブ サービスを停止させます。
2. すべての Automation Service 上のプラムツリー ジョブ ディスパッチャー サービスを停止させます。
3. Plumtree Portal Search Service を停止させます。
4. ポータル データベースを再構築する必要がある場合は、データベース ソフトウェアを使用して以前に保存したデータベースから復元します。
5. 検索コレクションを、使用するデータベース バックアップの時期にできるだけ近接したバックアップ ファイルで置き換えます。

データベースのバックアップと検索コレクションのバックアップが完全に一致していないため、復元されたデータベースと検索コレクションは同期がずれています。これを正常な状態に戻すためには、検索コレクションを最初から再構築する必要があります。

検索コレクションを再構築するには次を行います。

1. Search Service を再インストールし、**[既存の検索インデックスの上書き]** を選択します。詳細については、『*Plumtree Foundation インストール ガイド*』を参照してください。
2. Search Service が更新を実行するように設定します。
 - a. **[管理]** をクリックします。

- b. [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストで、[**Search Service マネージャ**] をクリックします。
- c. [検索修復設定] で、[**次回の修正日**] を過去の日付に設定します。
- d. [**管理**] をクリックします。
- e. **Intrinsic Operations** (ビルトイン操作) フォルダをクリックします。
- f. 検索更新ジョブをクリックし、すぐに実行されるようにスケジュールを設定します。

A 詳細プロパティとロギングの設定

この付録では、ポータル コンポーネントのデフォルト設定を編集する方法と、Plumtree Logging Spy を設定する方法について説明します。この章には以下の節が含まれています。

- [「ポータル コンポーネントの設定」](#)
- [「Search Service の設定の微調整」、A-12 ページ](#)
- [「Config Tool によるデータベース設定およびポータルのロギング設定の編集」、A-17 ページ](#)
- [「Plumtree Logging Spy の設定」、A-18 ページ](#)

ポータル コンポーネントの設定

デフォルトの設定では、ポータルの全機能が提供されます。この節の以下のトピックでは、インストール時のデフォルトのポータル設定をカスタマイズする方法について説明します。

- [「ポータル ユーティリティの使用」](#)
- [「ポータルの設定ファイルの編集」](#)
- [「Automation Service の設定」、A-12 ページ](#)

ポータル ユーティリティの使用

初期導入の後にホスト名または IP アドレスが変更された場合は、ポータル設定ユーティリティを使用してポータルの URL を編集することができます。

ポータルの URL を編集するには次を行います。

1. [**管理**] をクリックします。
2. [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストで、[**ポータル設定**] をクリックします。
3. 必要に応じてポータルの URL を編集します。
4. [**終了**] をクリックします。

ポータルの設定ファイルの編集

初期導入の後に構成を変更する必要がある場合は、**PT_HOME/settings** ディレクトリに格納されているファイルの設定を編集することができます。PT_HOME とは、例えば、C:\Program Files\plumtree または /opt/plumtree のようなプラムツリー ソフトウェアのインストール ディレクトリです。

この節の以下のトピックでは、各種設定ファイルについて説明します。

- [「portalconfig.xml」、A-1 ページ](#)
- [「serverconfig.xml」、A-11 ページ](#)

portalconfig.xml

この節では、**portalconfig.xml** ファイルの以下の要素について説明します。

- [「MainURLs」、A-2 ページ](#)
- [「SystemProperties」、A-2 ページ](#)
- [「URLMapping」、A-3 ページ](#)
- [「CachedSettings」、A-3 ページ](#)
- [「Authentication」、A-4 ページ](#)
- [「Security」、A-5 ページ](#)
- [「International」、A-7 ページ](#)
- [「Documents」、A-7 ページ](#)
- [「SystemProperties」、A-2 ページ](#)
- [「Crawlers」、A-8 ページ](#)
- [「Style」、A-8 ページ](#)
- [「Communities」、A-8 ページ](#)
- [「Administration」、A-8 ページ](#)
- [「Authentication」、A-9 ページ](#)
- [「Invitations」、A-11 ページ](#)

MainURLs

- **WebHome:** ポータルの JAR / DLL ファイルのホーム ディレクトリ
- **ImageServerBaseURL:** Image Service のベース URL
- **ImageServerSecureBaseURL:** HTTPS を使用する Image Service のベース URL
- **ImageServerConnectionURL:** ポータルが JSRegistry 情報を取得するために Image Service に接続する場合に使用するベース URL
多くの構成において、この URL は、Image Service Base URL と同じです。
- **ImageServerConnectionURLTimeout:** ImageServerConnectionURL の秒単位のタイムアウト値
この値を -1 に設定した場合、起動時においては確認しないという意味を持ちます。
- **AdminSiteBaseURL:** 管理ポータルのベース URL
- **TempHome:** ポータルが使用する一時ファイルのディレクトリ
これはウェブからはアクセスできないディレクトリである必要があります。

SystemProperties

- **ServerName:** ポータルを実行するプロキシ サーバー（すなわちマップされたサーバー）の名前
- **MachineName:** サーバー マシンの名前（すなわち、プロキシ サーバーの背後にあるポータルの名前）
- **PerformanceComments:** HTML ソース内のパフォーマンスのコメントを有効または無効にするための設定
1: コメントを有効にします。0: コメントを無効にします。
- **DoctypeSpecification:** 1: なし、2: HTML 3.2、3: HTML 4.0 Transitional、4: HTML 4.0 Frameset、5: HTML 4.0 Strict

- **VirtualDirectoryPath:** ポータルの仮想パス（通常は、/portal/）
- **HTTPEntryPoint:** ポータルのメイン サーブレットのマッピング名
Java の場合（portalconfig.xml）、これは、web.xml 中の HTTPServlet と同じマッピング名である必要があります。.Net の場合、アプリケーションのマッピング名は、web.config 中の httpHandlers のマッピング名と同じである必要があります。
- **HTTPPort:** HTTP を使用するポータルのポート番号
- **HTTPSecurePort:** HTTPS を使用するポータルのポート番号
- **SSOVirtualDirectoryPath:** シングル サインオン（SSO）用の仮想ディレクトリ パス
- **SSOServletName:** SSO サーブレットのマッピング名
Java の場合（portalconfig.xml）、これは、web.xml 中の SSOLoginPage と同じマッピング名である必要があります。.Net の場合、デフォルトのウェブ サイトの /portal/sso 仮想ディレクトリ内の SSOLogin.aspx ファイルに記載されている名前と同じである必要があります。

URLMapping

URL マッピングによって、要求オブジェクトからの要求 URL に基づいてポータルのベース URL が決定されます。ポータルのベース URL が、すべての個々のリンクおよびリダイレクションのベース URL になります。例えば、ポータルのベース URL が、`http://portal.plumtree.com/portal/server.pt`

である場合、デフォルトのマイ ページへのリンクは、`http://portal.plumtree.com/portal/server.pt?space=MyPage` になります。

このマッピングには無制限に項目を追加できます。マッピング URL は `http://` または `https://` で始まり、HTTP のエントリポイント名で終わらなければなりません（デフォルト値の「*」を除く）。

URL マッピングに関する詳細情報は、Plumtree Developer Center から入手できます。

- **ApplicationURL0:** SecurityMode 2 および 3 では、ApplicationURL は使用されません。モード 0 では、ApplicationURL0 が「*」であることがあります。その場合、アプリケーションのベース URL は、要求オブジェクトからの URL になります。
- **SecureApplicationURL0:** SecurityMode 0 では、SecureApplicationURL は使用されません。モード 2 および 3 では、ApplicationURL0 が「*」であることがあります。その場合、アプリケーションのベース URL は、要求オブジェクトからの URL になります。

CachedSettings

各ユーザーの http セッションでキャッシュする必要のある個人設定の項目を追加します。このリストに含まれていない個人設定は、要求される度にポータルから取得されます。このリストに含まれている設定は、ログイン時にポータルから取得され、ユーザーの http セッションの間はキャッシュされます。

注意： AccessStyle、Locale、および TimeZone は、サーバー上で常にキャッシュする必要があります。

ユーザーは、ポータル インタフェースの **[マイアカウント]** をクリックして、これらの設定をカスタマイズすることができます。ポータルの各ページに対する手順および詳細な説明を参照するには、🔗 **[ヘルプ]** をクリックしてください。

次の設定は、デフォルトでキャッシュされます。

- **Greeting:** ユーザーがポータルにログインした際にポータル バナーに表示される、パーソナライズされた挨拶メッセージが格納されます。
- **AccessStyle:** ユーザーの表示オプションが格納されます。
- **Locale:** 選択されているポータル インタフェースの言語が格納されます。
ポートレットの名前やコンテンツは、ポートレットがその言語をサポートしている場合のみ選択されている言語で表示されます。また、ポータルの入力フォーマット (検索要求のフォーマットを含む) も格納されます。例えば、[英語 (英国)] を選択すると、ポータルで日付の表示や入力に使用される日付フォーマットは DD/MM/YYYY になりますが、[英語 (U.S.)] を選択した場合の日付フォーマットは MM/DD/YYYY になります。
- **TimeZone:** ユーザーのタイムゾーンが格納されます。
- **PortletTimeout:** ポートレットがロードされるまで待つ最大時間が格納されます。
- **CollapsedGadgets:** ユーザーが、どのポートレットを最小化したかに関する情報が格納されます。
- **COMCollapsedGadgets:** ユーザーが、コミュニティ ページ内のどのポートレットを最小化したかに関する情報が格納されます。
- **MyPageRefreshRate:** マイ ページの更新間隔が格納されます。

Authentication

- **AllowGuestAccess:** ゲストユーザーのポータルへのアクセスの許可
ゲスト アクセスが許可されていない場合、ポータルは常にログイン情報の入力を求めます。
- **GuestPassword:** ゲスト ユーザーのパスワード
このパスワードを変更するには、この設定を変更するとともに、ポータル データベースでも変更する必要があります。
- **GuestRedirectToLogin:** ゲスト ユーザーが URL のクエリ文字列で `space` を指定しなかった場合、ユーザーに表示される初期ページは、この設定によって決まります。

ユーザーは、URL のクエリ文字列に「`space=xxxx`」のような文字列を含めることによって異なるポータル ページを開くことができます。例えば、ユーザーが、
`http://MYSERVER/portal/server.pt?space=MyPage` と入力した場合、ユーザーは、マイ ページに転送されます (そのページに対するアクセス権限が適用されます)。

ユーザーがクエリ文字列に「`space=xxxx`」という文字列を含めなかった場合 (つまり、ユーザーが `http://MYSERVER/portal/server.pt` のみを入力した場合)、ポータルは、次に示すように、`GuestRedirectToLogin` の設定と 環境定義の設定に基づいてユーザーをデフォルトのページに転送します。

GuestRedirectToLogin の設定	説明
0	ポータルは、現在の環境定義に定義されているホームページ (通常は、マイ ページまたはコミュニティ ページ) にゲスト ユーザーをリダイレクトします。

GuestRedirectToLogin の設定	説明
1	ポータルは、現在の環境定義に定義されているログイン ページにゲスト ユーザーをリダイレクトします。

RedirectOnLogout: 以下に示すように、ログアウト後、ユーザーは、デフォルト ページにリダイレクトされます。

RedirectOnLogout の設定	説明
0	ポータルは、現在の環境定義に定義されているホームページ（通常は、マイ ページまたはコミュニティ ページ）にゲスト ユーザーをリダイレクトします。
1	ポータルは、現在の環境定義に定義されているログイン ページにゲスト ユーザーをリダイレクトします。

Security

SecurityMode: この設定によって、どのページに SSL 暗号化を使用するかを指定します。この設定のデフォルト値 0 を変更する場合は、予めデジタル証明書をインストールしてウェブ サーバー上で SSL を有効にしなければなりません。

重要 : **SecurityMode** の変更は、URL マッピングに影響します。詳細については、[「URLMapping」](#)を参照してください。

SecurityMode	説明
0	ポータルは受信した要求のセキュリティを確認しません。 モード 0 では、ApplicationURL0 と SecureApplicationURL0 が「*」であることがあります。その場合、アプリケーションのベース URL は、要求オブジェクトからのベース URL になります。

SecurityMode	説明
1	<p>パスワードなどの機密情報を含む一部のページでは、SSL が使用されます。他のページは、より高いパフォーマンスを確保するために、暗号化せずに送信されます。</p> <p>(portalconfig.xml と同じフォルダに格納されている)</p> <p>SecureActivitySpaces.xml に記載されているアクティビティ スペースのページのみが HTTPS で送信されます。</p> <p>ポータルは、セキュア アクティビティ スペースへのリンクやリダイレクトにおいて HTTPS が使用されることを確認します。非セキュア URL を使用してセキュア アクティビティ スペースが要求された場合、ポータルはその要求を HTTPS にリダイレクトします。</p> <p>XHttpRequest.GetRequestURL() が URLFromRequest0 と同じである場合、アクティビティ スペースのセキュリティ設定によっては、ApplicationURL0 と SecureApplicationURL0 の両方がアプリケーションのベース URL になることがあります。</p> <p>予めデジタル証明書をインストールしてウェブ サーバー上で SSL を有効にする必要があります。</p>
2	<p>すべてのページに SSL が使用されます。ポータルは、受信したすべての要求に対し、HTTPS が使用されていることを確認します。HTTPS が使用されていない場合、ポータルはその要求を HTTPS にリダイレクトします。この設定は、パフォーマンスよりもアプリケーションのセキュリティが重視されるアプリケーションに適しています。</p> <p>要求オブジェクトからの URL が URLFromRequest0 と同じである場合、アプリケーションのベース URL は、SecureApplicationURL0 になります。</p> <p>URLFromRequest0 は、「*」でなければなりません。これがデフォルトのエントリです。要求オブジェクトからの URL に一致するマッピング項目がなかった場合に使用されます。</p> <p>予めデジタル証明書をインストールしてウェブ サーバー上で SSL を有効にする必要があります。</p>

SecurityMode	説明
3	<p>SSL アクセラレータを使用する場合はこのモードを選択します。ポータルは、SSL アクセラレータの背後にあるため、受信した要求のセキュリティを確認しません。つまり、ポータルは、SSL アクセラレータから渡されるすべての要求を信頼します。すべてのリンクとリダイ렉션には HTTPS を使用します。</p> <p>要求オブジェクトからの URL が URLFromRequest0 と同じである場合、アプリケーションのベース URL は、SecureApplicationURL0 になります。</p> <p>URLFromRequest0 は、「*」でなければなりません。これがデフォルトのエントリです。要求オブジェクトからの URL に一致するマッピング項目がなかった場合に使用されます。</p> <p>予めデジタル証明書をインストールしてウェブ サーバー上で SSL を有効にする必要があります。</p>

International

- Locale:** ユーザーのデフォルトのロケール
 ロケールを *UseBrowser* に設定すると、ポータルは、ブラウザの言語設定からロケールを取得します。portalconfig.xml ファイルのロケール設定は、ユーザー プロファイルからユーザーを作成した場合に保存される（あるいは、ポータルの [**マイ アカウント | ロケールの設定の編集**] に設定された）ユーザー ロケールの設定によって上書きされます。
- TimeZone:** ユーザーのデフォルトのタイムゾーン
 この設定は、ポータルの [**マイ アカウント | ロケールの設定の編集**] に設定された）ユーザー のタイムゾーンの設定によって上書きされます。ポータルは、ユーザーがデフォルトのタイムゾーンを設定しなかった場合のみ、このファイルの設定を使用します。
- MandatoryObjectLanguage:** この設定を使用して、管理者はすべての新しいオブジェクトに対して言語を設定することができます。この設定を空白のままにすると、オブジェクトを作成したユーザーが、オブジェクトの言語を設定できるようになります。この設定が空白ではない場合、この値がすべての新しいオブジェクトまたは編集されたオブジェクトの言語として使用されます。この値はロケールを示す文字列である必要があります（すなわち、msgs ディレクトリの下にあるフォルダ名のいずれかに一致しなければなりません）。

Documents

- NewDocumentTime:** ドキュメントまたはフォルダの名前の後に「new」を表示する日数
- DocumentLastUpdated:** ドキュメントの名前の後に「updated」（更新）を表示する日数
- OpenNewWindow:** 新しいウィンドウで開くというオプションのデフォルト設定
 0: 同じウィンドウで開く、1: 新しいウィンドウで開く。
 ユーザーは、個人設定を変更することによって、この設定を変更することができます。

Crawlers

- **MaxWebCrawlRadius 値** : クロールする範囲を、目的のページからのリンクの最大範囲として指定するための設定

例えば、1 を選択すると、クローラは、目的のページに直接リンクしているすべてのページをインポートします。2 を選択すると、目的のページに直接リンクしているすべてのページと、それらのページに直接リンクしているページをインポートします。この設定は、ウェブ クローラ エディタの **[クロールの範囲]** ドロップダウン リストと連携しています。デフォルトの最大値は 4 であり、ドロップダウン リストでは 1 ～ 4 のクロール範囲を選択できます。

Style

- **StyleSheetName**: ポータルのデフォルトのスタイルシートの名前

Communities

- **DefaultCommunityID**: タブ セクション付き左の縦型ナビゲーション、または `IPluggableNavModelRO.GetDefaultCommunity()` メソッドを使用するカスタムのナビゲーション形式を使用している場合のみこれを設定する必要があります。この設定では、これらのナビゲーションにおいてユーザーが **[コミュニティ]** タブをクリックした際に表示されるデフォルト コミュニティの ID を指定します。
- **CommKnowledgeDirLinksPerPage**: コミュニティのナレッジ ディレクトリで一画面に表示するリンク数

Administration

- **IsAdminSite**: このコンピュータが管理ポータルであるか閲覧用ポータルであるかを指定します。

ポータルのモード	説明
0	コンピュータを閲覧専用のポータルに設定します。
1	コンピュータを閲覧用と管理用のポータルに設定します。

- **AdminObjectsPerPage**: 1 画面に表示する 1 タイプの管理オブジェクト（例えば、クローラ、コンテンツ ソース等）の数を指定します。この設定は、管理インタフェースに表示される項目数を制御するために使用します。デフォルトは、10 です。

Authentication

- **AllowDefaultLoginPageAuthSource:** この設定は、ログイン ページとログイン ポートレットにおいて、(SSO を使用しない) ポータルでのデフォルトの認証元の使用を制御するために使用します。また、認証元ドロップダウン リストを設定することができます。

認証元モード	設定	外観	必要な操作
0	ポータルは、デフォルトの認証元を使用しません。	ドロップダウン リストの項目の順番は指定されません。	デフォルト モード
1	ポータルは、デフォルトの認証元を使用します。	ドロップダウン リストは非表示ですが、認証元ドロップダウン リストを表示するためのリンクが表示されます。これにより、ユーザーは、標準ではない認証元を選択することができます。	ログイン ポートレットのキャッシュ機能をオフにするか、ログイン ポートレットを無効に設定する必要があります。 DefaultAuthSourcePrefix タグにすべてのユーザーのデフォルト値となる認証元のプレフィックスを設定する必要があります。
2	ポータルは、デフォルトの認証元を使用します。	ドロップダウン リストは表示されますが、デフォルトの認証元が事前に選択されている状態になります。	ログイン ポートレットのキャッシュ機能をオフにするか、ログイン ポートレットを無効に設定する必要があります。 DefaultAuthSourcePrefix タグにすべてのユーザーのデフォルト値となる認証元のプレフィックスを設定する必要があります。
3	ポータルは、デフォルトの認証元を使用します。	ドロップダウン リストが永久的にオフに設定されます。	

- **DefaultAuthSourcePrefix:** ユーザーがシステムにログインした際にログイン名の前に追加されるデフォルトの認証元のプレフィックスを設定します。但し、ユーザーがログイン ページのドロップダウン リストから別の認証元を選択した場合は使用されません。SSO の場合、これは全 SSO ユーザーの認証元カテゴリになります。

AuthSourcePrefix タグを使用して認証元ドロップダウン リストの項目の順番を設定することができます。エントリーは、次のように記述する必要があります。

```
<AuthSourcePrefix[i] value="Auth Source Prefix">
</AuthSourcePrefix[i]>
```

[i] には、ドロップダウン リストでのその項目の順番を指定します (1 ~)。

プラムツリー認証元をリストに含めるには、"**Plumtree Auth Source**" を **value** に指定したエントリーを作成します。プラムツリー認証元は、ポータルのプラムツリー ユーザー データベース内に作成されたユーザー用の認証元です。例えば、プラムツリー認証元をドロップダウン リストの 3 つ目の項目に設定するには、次のタグを使用します。

```
<AuthSourcePrefix3 value="Plumtree Auth Source">
</AuthSourcePrefix3>
```

順次リストに含まれている認証元がドロップダウンリストの上部に表示され、順次リストに含まれていない認証元はその下に表示されます。

- **AllowAutoConnect:** パスワードをクッキーに保存するための設定

自動接続モード	説明
0	パスワードをクッキーに保存するというオプションをオフにします。
1	ポータルのログイン ページに [パスワードを保存する] というチェックボックスが表示されます。このチェックボックスを選択したユーザーのパスワードは、クッキーとして保存され、その後、ユーザーがポータルにアクセスした際は、自動的にログインすることが可能になります。

- **CaptureBasicAuthenticationForPortlets:** 基本認証情報（ログインとパスワード）を取得して、（ポートレットに送信するために）セッション内で保存するかどうかを指定します。ユーザーが [パスワードを保存する] を選択してクッキーによってログインした場合、基本認証情報は取得できません。

セッション保存モード	説明
0	セッション内で認証情報は保存されません。
1	セッション内で認証情報が保存されます。

- **RememberPassword:** この設定によって、ポータルでログイン パスワードを保存しておく期間を指定します。この値は、分単位で指定する必要があります。デフォルトは、1 週間です。

- **SSOVendor:** シングル サインオン設定を指定します。SSO に関する詳細については、[付録 D「シングル サインオンの導入」](#)を参照してください。

Invitations

IsInvitationURLSecure: 案内状用の URL のセキュリティを設定します
HTTP を無効にした場合のみセキュア URL が使用されます。

案内状の セキュリティ モード	説明
0	非セキュア。URL には http:// を使用します。 http を無効にしたり、http の URL を https にリダイレクトするように設定していなければ、いかなるセキュリティ モードにおいても案内状用の非セキュア URL を使用できます。
1	セキュア。URL には https:// を使用します。 portalconfig.xml ファイルの SecurityMode 設定で、http が許可されていない場合はこのモードを選択する必要があります。

serverconfig.xml

serverconfig.xml を編集して、ポータル コンポーネントの接続情報とパス情報を変更することができます。

表 A-1 : serverconfig.xml の要素

要素	説明
Logging	<ul style="list-style-type: none"> • <ServerName> には、ログを収集するポータルのホスト コンピュータの名前を指定します。 • <LocalMachineOnly> を true に設定した場合、ポータル ホストのネットワークではなく、ローカル ホストのみに対しログ収集が行われます。
データベース	<ul style="list-style-type: none"> • <Common> には、データベース タイプ、データベース名、ホスト名、データベース ユーザーとパスワードといったポータル データベースの接続情報を設定するための要素と、ログイン タイムアウトやプール接続などを設定するための要素が含まれています。
SysManagement	<ul style="list-style-type: none"> • <JMXView> は、JMX ベースの管理が有効に設定されているかどうかを示します。 • <JMXRemoteService> には、RMI レジストリがリッスンするポートを指定します。

表 A-1 : *serverconfig.xml* の要素

要素	説明
HTTP	<ul style="list-style-type: none"> • <DefaultProxy> には、ポータルの http プロキシ設定を指定します。 • <HttpContentCache> には、キャッシュ サイズを指定します。
Crawlers	クローラ処理用のデフォルト設定が含まれています。
Gateway	ゲートウェイ処理用のデフォルト設定が含まれています。
Search	検索処理用のデフォルト設定が含まれています。

Automation Service の設定

デフォルトの設定では、Automation Service の全機能が提供されます。初期導入の後に構成を変更する必要がある場合は、*PT_HOME/settings/serverconfig.xml* ファイルの設定を編集することによって Automation Service の新しい構成を指定できます。AutomationServers 要素には次の設定が含まれています。

表 A-2 : *Automationserver.xml* の要素

要素	説明
Nodes	Automation Service のポート番号を指定します。
MaxConcurrentJobs	同時に実行できるジョブ数を指定します。
VirtualMachineArgs	Automation Service によって実行される個々のジョブの JVM のチューニング値を指定します。

Search Service の設定の微調整

インストーラにより、Search Service のほとんどの設定パラメータが有用なデフォルト値に設定されます。*PT_HOME/ptsearchserver/6.0/config* ディレクトリには、デフォルトの設定ファイルとともに Search Service 用のテンプレート設定ファイルが格納されています。個々のテンプレートには、異なるオペレーティング システムおよび RAM 構成に適切な設定が含まれています。検索コレクションに含めるドキュメントの推奨される最大数は RAM によって決まります。また、このコレクションのサイズによってテンプレート設定ファイルの多くの設定が決まります。これらのファイルの内容を確認し、導入環境に最も適したファイルを選択して、そのテンプレートの名前を **ignite.ini** (アクティブの設定ファイル) に変更してください。

注意 : Search Service のコンポーネントが他のポータル コンポーネントと同じコンピュータに導入されている場合は、Search Service のパフォーマンスに悪影響を与えるシステム ページングを防止するために、少な目のメモリー量に調整されたテンプレートを使用することを検討してください。

ignite.ini ファイルのほかの値を変更することによって、パフォーマンスを更に向上できる場合があります。この節の以下のトピックでは、**ignite.ini** のパラメータについて説明します。

- [「デフォルトの Search Service パラメータ」](#)
- [「オプションの Search Service パラメータ」、A-14 ページ](#)

デフォルトの Search Service パラメータ

次のパラメータは、デフォルトで **ignite.ini** に含まれています。

- **RFINDEX:** Search Service のインデックス ファイルを保存するディレクトリ
デフォルトで、インストーラはこれらのファイルを **PT_HOME/ptsearchserver/6.0/index** サブディレクトリに保存します。このディレクトリには、インデックスするコレクションを保存するための十分な空きスペースが必要になります。
インデックス ファイルを移動した場合、またはプラムツリーのカスタマー サポートから移動するように指示された場合以外は、このパラメーターを変更しないでください。
- **RFPORT:** Search Service が他のプロセス（主にポータル サーバー）と通信するために使用するポート
インストール時に、このポートを入力するようにインストーラから指示されます。この値は、Search Service マネージャの [ホスト設定] ページに表示されます。**ignite.ini** の中のこの値を変更した場合、Search Service マネージャの中でもこの値を変更する必要があります。変更しなかった場合、ポータルは誤作動します。
- **RF_MAPPING_TOKEN_CACHE_SIZE:** マッピング トークンのキャッシュのサイズを指定するパラメータ
これらのトークンは、マッピング コレクションから読み取られた辞書項目およびおすすめコンテンツ項目を表します。デフォルト値は、5000 です。サポートされているコレクションの最大サイズに基づいて予想されるトークン数を指定するために、設定ファイル テンプレートでこのパラメータを選択します。このパラメータの値は、Search Service のパフォーマンスに大きな影響を与えません。各キャッシュ エLEMENTのサイズは 120 バイトです。したがって、デフォルトのマッピング キャッシュは 600 キロバイトのメモリーを占有します。
- **RF_LOG_VERBOSITY:** Search Service ログに記録する情報の量を指定する数値パラメータ
値は、0 ～ 5 の値になります。デフォルトは 3 （高い詳細度）に設定されています。基本的には、このパラメータを変更する必要はありません。この値を 3 より低い値に設定しないことをお勧めします。RF_LOG_VERBOSITY を 3 より低い値に設定した場合、検索ログ分析コマンドライン操作によって生成され、検索サーバー設定ユーティリティから参照が可能となるレポートには、ログ解析に必要なすべての情報が含まれません。
- **RF_DOCUMENT_TOKEN_CACHE_SIZE:** ドキュメント トークンのキャッシュのサイズを指定する数値パラメータ
これらのトークンは、Search Service で実際にインデックスされたコンテンツから取得された単語です。デフォルト値は 250000 です。このパラメータは、Search Service のインデックス作成およびクエリのパフォーマンスに大きく影響します。値が大きいほどパフォーマンスが良くなります。サポートされているコレクションの最大サイズに基づいて予想されるトークン数を指定するために、設定ファイル テンプレートでこのパラメータを選択します。各キャッシュ エLEMENTのサイズは

120 バイトです。したがって、デフォルトのドキュメント トークン キャッシュは 29 メガバイトのメモリーを占有します。

- RF_SPELL_TOKEN_CACHE_SIZE:** スペリング トークンのキャッシュのサイズを指定する数値パラメータ
 これらのトークンは、インデックスされたコンテンツから取得されたスペリング データからの単語の断片です。デフォルト値は、250000 です。この値は、スペル コレクションに含まれているトークン数以下の値、および **config** ディレクトリの設定ファイルの中の値以下の値に設定してください。このパラメータは、インデックス作成のパフォーマンス、スペル チェック、およびワイルドカードクエリに大きく影響します。これらの操作が非常に遅く感じられる場合は、このパラメータによって指定されている値を大きくすることをお勧めします。実際には、1000000 より大きい値は収穫減をもたらし、大量のメモリーを消費してしまいます。各キャッシュ エLEMENTのサイズは 120 バイトです。したがって、デフォルトのスペル キャッシュは 29 メガバイトのメモリーを占有します。
- RF_INDEX_CACHE_BYTES:** インデックス キャッシュのサイズをバイト単位で指定する数値パラメータ
 デフォルト値は 78643200 (75 メガバイト) です。このパラメータの値は、Search Service のクエリのパフォーマンスに大きな影響を与えます。インデックス キャッシュおよび docset キャッシュ (RF_DOCSET_CACHE_BYTES 参照) は、Search Service のその他のニーズに対応するための十分なメモリーを確保した上で、できるだけ大きくするようにしてください。
- RF_DOCSET_CACHE_BYTES:** ドキュメント キャッシュのサイズをバイト単位で指定する数値パラメータ
 デフォルト値は 2614400 (25 メガバイト) です。このパラメータの値は、Search Service のクエリのパフォーマンスに大きな影響を与えます。インデックス キャッシュ (RF_INDEX_CACHE_BYTES 参照) および docset キャッシュ は、Search Service のその他のニーズに対応するための十分なメモリーを確保した上で、できるだけ大きくするようにしてください。

オプションの Search Service パラメータ

プラムツリー カスタマー サポートから指示があった場合、オプションで、次の値を **ignite.ini** ファイルに追加できます。

- RFLOG:** Search Service が自身のログを書き込むディレクトリ
 デフォルトは、**<SearchServerInstall>/logs** サブディレクトリです。このディレクトリを変更する場合のみこの値を編集してください。新しいディレクトリは必ず存在するディレクトリである必要があります。また、Search Service が書き込めるように設定されている必要があります。
- RF_HIGH_PRIORITY:** このパラメータに値が設定されている場合、Search Service は、自分のプロセスの優先度をほかのプロセスよりも高くしようとします。これは通常必要ありませんが、コンピュータ上の他のプロセスが Search Service とリソースを争う場合においては有用であることがあります。
- RF_MAX_WILDCARD_EXPANSIONS:** このパラメータは、ユーザーがワイルドカードを使用したクエリを入力したときに (例えば、「**plum***」)、ワイルドカードが展開されて作成される単語 (例: plum、plums、plumber、plumtree) の最大数を指定します。デフォルトは 100 語です。この制限は非常に幅の広いクエリ (例えば、「***ing**」) が入力された場合に、ワイルドカードが膨大な数の単語に展開されて、多大な時間とメモリー量が消費されてしまうことを防ぎます。大規模なインストール環境では、この値を増やす必要がある場合があります。

- RF_MAX_QUERY_MSECS:** ユーザー クエリの最大時間（ミリ秒単位）
 デフォルトは 10000 (10 秒) です。Search Service はここで指定された時間内でクエリを処理し、その時間内に検出した結果を返します。エンド ユーザーからクエリの結果の待ち時間が 10 秒では長すぎるという苦情があった場合などは、このパラメータの値を低く設定してください。
- RF_MAX_TOTAL_RESULTS:** クエリによって返される結果の最大数
 デフォルトは 10000 です。ポータルでは、Search Service の最大値より少ない結果が表示されるため、基本的には、このパラメータを変更する必要はありません。
- RF_MAX_NUM_STATIC_ARCHIVES:** コレクションごとにインデックス ディレクトリに作成される静的アーカイブの最大数
 デフォルトは 50 です。これは、最大 50 の archive.NNN.docset ファイル（NNN は数値）、archive.NNN.index ファイル等が作成されることを意味します。また、最大 50 の spell.NNN.docset ファイル、spell.NNN.index ファイル等も作成される場合があることを意味します。基本的には、このパラメータを変更する必要はありません。唯一変更する理由としては、オペレーティング システムで（例えば、Solaris 2.6）、Search Service がすべてのファイルを一度に開くのに必要なファイルの記述子を使用できない場合です。この数値を低くした場合、アーカイブの結合のときにメモリーとディスク スペースをより多く使用することになります。
- RF_QUERY_THREADS:** クエリ処理専用割り当てるスレッド数
 デフォルトは 8 です。Search Service への負荷が大きい場合は、このパラメータを増やす必要があります。この値は予想される同時クエリ数を表します。この値が低すぎる場合、受信されたクエリはキューに入れられ、次のクエリ スレッドが空くまで保留されるため、ユーザーの検索待ち時間が長くなります（数秒間かかることもあります）。
- RF_QUERY_QUEUE_SIZE:** Search Service のすべてのクエリ スレッド（RF_QUERY_THREADS を参照）が使用中の場合、受信されたクエリ要求はキューに入れられ、クエリ スレッドが使用可能になるまで待つことになります。このパラメータによって、そのキューの長さが決まります。デフォルト値は 20 であり、通常は変更する必要はありません。クエリのキューが一杯になった場合は、追加のクエリ要求が拒否され、Search Service ログにメッセージが記録されます。このようなことが発生した場合は、RF_QUERY_QUEUE_SIZE を増やしてください。
- RF_INDEX_THREADS:** インデックス作成専用割り当てるスレッド数
 デフォルトは 2 ですが、Search Service のインデックス作成パフォーマンスが低すぎる場合、このパラメータを増やす必要があります。しかし、追加のシステム リソースをインデックス作成専用割り当てた場合、クエリのパフォーマンスが低下します。基本的に、RF_INDEX_THREADS の値は、システムの CPU の数以下に設定することをお勧めします。
- RF_INDEX_QUEUE_SIZE:** Search Service のすべてのインデックス スレッド（RF_INDEX_THREADS を参照）が使用中の場合、受信されたインデックス要求はキューに入れられ、インデックス スレッドが使用可能になるまで待つことになります。このパラメータによって、そのキューの長さが決まります。デフォルトは 20 です。適切な値を決定するには、同時に実行される可能性のあるすべてのクローラのスレッド数を合計してください（クローラを設定するときには最大 4 スレッドまで指定できます）。安定性を確保するには、高い値を設定してください。このパラメータが低すぎると、クローラの要求によってインデックスのキューが一杯になり、Search Service は、キューが空くまで追加のインデックス要求を拒否することになります。

注意：RF_INDEX_QUEUE_SIZE に高い値を設定するより、クローラが同時に実行されないようにスケジュールを設定するほうが効果的です。パラメータを変更する前に、まずクローラのスケジュール設定を変更することを検討してください。

- **RF_HANDSHAKE_THREADS:** 受信ソケット接続へのサービスの提供に専用に割り当てるスレッド数
デフォルトは 5 です。この値を変更する必要はありません。
- **RF_HANDSHAKE_QUEUE_SIZE:** Search Service クライアントからのソケット接続は、このキューに入れられ、ハンドシェイク スレッドの 1 つによる確認応答を待ちます
(RF_HANDSHAKE_THREADS を参照)。このパラメータによって、そのキューの長さが決まります。デフォルト値は 20 です。一旦確認応答が成功すると、接続はクエリ キューまたはインデックス キューに割り当てられます。例外的に高い負荷が発生した場合、このキューが満杯になり、Search Service は、キューが空くまで新しい接続を拒否します。このようなことが発生した場合は、このパラメータの値を増やしてください。
- **RF_TOKEN_LEXICON_REBUILD_LIMIT:** 自動的に再構築する辞書の最大サイズ（トークン数）
辞書が不適切にクローズされたことが Search Service によって検出された場合、スタートアップ プロセスの中で辞書が再構築されます。これには時間がかかる場合があります。デフォルト値は 400000 であり、この設定の場合、再構築は 2、3 分で終わります。より大きな辞書を修復する場合は、スタンドアローンの *examinearchive* ユーティリティを使用して再構築を行う必要があります。非常に大きい辞書の自動再構築を許可するには、この値をゼロに設定（変更）してください。

Windows システムに関する注意： この値を大きく設定しすぎると、Search Service が Windows サービスとして実行され、辞書の再構築が実行された際に、Windows サービス コントロール マネージャによってエラー ダイアログが記録されることがあります。これらのエラー ダイアログは、サービスがすぐに起動しなかったことを示すものであり、無視することができます。

- **RF_USE_DATA_FILE_CACHE:** Search Service が、インデックス データおよびドキュメント データにアクセスする際、キャッシュを使用するかどうかを指定する数値パラメータ
値がゼロの場合、キャッシュは無効化され、Search Service はメモリー マッピングを使用します。ゼロ以外の値の場合、キャッシュは有効になります。デフォルト値は 1 です。Plumtree はこの値を変更しないことを強く推奨します。

このパラメータは、RF_INDEX_CACHE_BYTES、RF_DOCSET_CACHE_BYTES、RF_INDEX_CACHE_MAX_PAGES_PER_BLOCK、および RF_DOCSET_CACHE_MAX_PAGES_PER_BLOCK のマスター オン/オフ スイッチとして機能します。RF_USE_DATA_FILE_CACHE がゼロの場合、これらのパラメータは有効になりません。

小さい検索コレクション（1 ギガバイト未満のデータ）の場合、キャッシュを無効にすることによって、Search Service のホストの利用可能な物理メモリー容量によっては、パフォーマンスを若干改善できることがあります。メモリー マップ モードにおいて、インデックス データおよびドキュメント データと Search Service の中間データ構造の合計容量が 2 または 3 ギガバイト（オペレーティングシステムの構成によって異なる）を超えた場合、Search Service は機能しなくなります。

- **RF_REQUIRED_DISK_SPACE:** インデックスの動的結合の開始に必要なディスクスペース（KB）
インデックス データを検索コレクションへ動的に結合する際、Search Service は、検索コレクションを格納しているボリュームの空きスペースを確認します。空きスペースが無い場合、結合プロセスは中止され、Search Service は読み取り専用モードに切り替わります。それ以後の動的インデックス作成要求は拒否されます。このパラメータのデフォルト値は 40000 です。変更する必要はありません。

キャッシュ設定を変更する際は、次の重要な値と関係を必ず考慮してください。

- 一般的な検索コレクションの場合、最適に近いキャッシュ パフォーマンスを提供するには、RF_DOCSET_CACHE_BYTES:RF_INDEX_CACHE_BYTES の比率を 1:3 にする必要があることが実験的に確認されています。
- トークンのキャッシュ項目は、108 バイト (32- ビット プラットフォーム) または、120 バイト (64- ビット プラットフォーム) を占有します。
- RF_MAPPING_TOKEN_CACHE_SIZE の合理的な値は、500 から 10000 までです。
- パフォーマンスを確保するため、ドキュメントのオフセット データとインデックスのオフセット データは、**ignite.ini** ファイルにある RF_USE_DATA_FILE_CACHE の設定に関わらず、メモリー マッピングを経由してアクセスされます。これは、稼働中の Search Service のメモリー容量が、検索コレクションのサイズに依存することを意味し、**config** ディレクトリ内の設定ファイルのテンプレートの設定は、このことを考慮した上で計算されています。これらのマッピングに必要なメモリーの量の概算は、(*.docsetOffsets ファイルをバイト数で表したサイズ) + 0.006 × (*.index および *.key.index ファイルをバイト数で表したサイズ) で計算できます。
- クエリ スレッドおよびインデックス スレッドの数に十分なアドレス スペース (できれば物理 RAM も) を残しておく必要があります。クエリ スレッドあたり 10 MB (RF_QUERY_THREADS 参照) およびインデックス スレッドあたり 50 MB (RF_INDEX_THREADS) を確保してください。

Config Tool によるデータベース設定およびポータルのロギング設定の編集

Config Tool では、グラフィカル ユーザー インタフェースを使用してデータベースの設定を容易に変更し、データベース接続をテストすることができます。また、このツールを使用して、ポータル サーバーのロギング メッセージをリモートから参照できるように設定することができます。

Config Tool を使用して設定を変更すると、serverconfig.xml の設定が変更されます。

Config Tool ツールを使用するには次を行います。

1. コマンド プロンプトから、Windows の場合は **ptconfig.exe**、Unix の場合は **ptconfig.sh** と入力します。
2. Config Tool ウィンドウで次を行います。
 - データベースのログイン設定およびパスワード設定を変更するには、[Database Settings] タブをクリックし、必要な設定と、データベースのホスト、ポート番号、データベース タイプを入力します。
 - データベース接続をテストするには、[Database Settings] タブの [Test DB Connection] をクリックします。状態を示すメッセージが表示されます。
 - ポータルのロギング メッセージをリモートから参照できるようにするには、[Logging Settings] タブをクリックします。サーバー名を入力し、[Local Machine Only] の下の [False] をクリックします。

注意：これは、ポータル サーバーのリモート ログギングのみを有効にします。オートメーション サーバーや API サーバーには適用されません。それらのリモート ログギングを有効にするには、serverconfig.xml ファイルで次の設定を編集する必要があります。

- オートメーション サーバーのリモート ログギングを有効にするには、**automation server logging** セクションで、**logging:local-only** を **false** に設定します。
 - API サーバーのリモート ログギングを有効にするには、**wsserver logging** セクションで、**logging:local-only** を **false** に設定します。
3. **[OK]** をクリックします。
 4. 設定への変更を有効にするには、ポータルを再起動してください。

Plumtree Logging Spy の設定

ポータルをインストールすると、Plumtree Logging Utilities もインストールされ、ポータルは、デフォルトでそれらのユーティリティにログ メッセージを送るように設定されます。ポータルを設定して、ログギング機能を無効にしたり、リモート ログギング（すなわち、ポータルがネットワーク上の別のマシンにログ メッセージを送信すること）を有効にしたりすることができます。ポータルのログギング機能を設定する方法については、『*Plumtree Foundation インストール ガイド*』を参照してください。

Plumtree Logging Spy（以前のバージョンでは、PTSpy）は、Plumtree Logging Utilities のメインのログ メッセージ受信機能です。Plumtree Logging Spy は、ポータルや他のログ メッセージ送信者（Plumtree Collaboration や Plumtree Publisher など）からログ メッセージを受信し、それらをグラフィカル ユーザー インタフェースで表示します。

ポータル メッセージを表示するように Plumtree Logging Spy を設定する方法

ポータル メッセージを表示するように Plumtree Logging Spy を設定するには次を行います。

1. **[スタート | すべてのプログラム | Plumtree | PT Logging Utilities | Logging Spy]** メニューを選択して Plumtree Logging Spy を起動します。Plumtree Logging Spy の使用方法に関する詳細については、Plumtree Logging Spy に付属のオンライン ヘルプを参照してください。
2. **[View | Set Filters]** メニューを選択し、**[Filter Settings]** ウィンドウを開きます。
3. ログの送信者を追加するには、**[Filter Settings]** ウィンドウの任意の場所で右クリックをします。コンテキスト メニューが表示されます。
4. **[Add Message Sender]** を選択します。**[Add Message Sender]** ダイアログ ボックスが表示されます。
5. サーバー名を入力するか、サーバー名のリストから選択して **[OK]** をクリックします。

ここで表示されるサーバー名は、portalconfig.xml ファイルの *Logging* セクションの `<logging:server-name>` ノードに記述されています。

メッセージの送信者としてサーバーを追加すると **[Filter Settings]** ウィンドウのトリー構造内に表示されます。「+」をクリックすることによってサーバーを展開し、メッセージを送信するコンポーネントのリストを表示することができます。

6. **[Filter Settings]** ウィンドウで、サーバーの下各コンポーネントを展開し、そのコンポーネントに対して選択されているログギング レベルを確認します。

各コンポーネントの横にあるチェックボックスには次の 3 つの状態があります。

- グレー、チェックマーク有り：一部のログギング レベルのみが選択されている
- 透明、チェック マークあり：すべてのログギング レベルが選択されている
- 透明：ログギング レベルが 1 つも選択されていない

コンポーネントの横のチェックボックスをクリックすることによってこれらの状態を設定することができます。

7. また、**[Filter Settings]** ウィンドウでは、次の操作を行うこともできます。
 - メッセージを送信するサーバーおよびそのコンポーネントを削除するには、サーバー名を右クリックし、表示されたメニューから **[Remove Message Sender]** を選択します。
 - 選択したログギング レベルをサーバーのすべてのコンポーネントに適用するには、サーバー名を右クリックし、表示されたメニューから **[Enable <LoggingLevel>]** を選択します（例えば、**Enable Performance**）。
 - 1 つのコンポーネントに対してログギング レベルを有効または無効にするには、コンポーネントを展開し、ログギング レベルの横のチェックボックスを選択またはクリアします。
 - サーバーのすべてのコンポーネントのすべてのログギング レベルをクリアするには、サーバー名を右クリックし、表示されたメニューから **[Clear All Filters]** を選択します。確認メッセージが表示された際は、**[OK]** をクリックします。こうすることによって、それらのコンポーネントが **Logging Spy** のこのインスタンスにログギング メッセージを送信しないように設定することができます。
 - サーバーのすべてのコンポーネントのすべてのログギング レベルを元の 4 レベルにリセットするには、サーバー名を右クリックし、表示されたメニューから **[Reset All Filters]** を選択します。確認メッセージが表示された際は、**[OK]** をクリックします。
8. 最後に **[OK]** をクリックします。

B Counter Monitoring System の使用方法

この章では、Counter Monitoring System を使用して、各種パフォーマンス カウンタによって報告されるポータルの実タイムの統計データを参照する方法について説明します。この章には以下の節が含まれています。

- [「カウンタの監視について」](#)
- [「カウンタのログ ファイルの設定」、B-3 ページ](#)
- [「Counter Monitoring のコンソールの実行」、B-5 ページ](#)
- [「Windows Perfmon を使用してカウンタ データを参照する方法」、B-7 ページ](#)

カウンタの監視について

Counter Monitoring System は、ポータル アプリケーションの各種パフォーマンス カウンタから情報を取得し、診断と解析のためにこれらの情報を公開します。このシステムのマシンとリモート ホストのマシンが同じネットワーク上に設置されており、UDP によって通信できる場合は、リモート ホストに導入されているいかなるプラムツリー アプリケーションのカウンタでも、このシステムから参照することが可能です。

Counter Monitoring System を使用して以下を行うことができます。

- カウンタ ロギング ファイルを必要なフォーマットで作成し、カウンタ情報を参照できます。
- Counter Monitoring のコンソールを使用して、リアルタイムで特定のカウンタ データを取得できます。
- Windows システムを使用している場合は、Windows Perfmon ユーティリティを使用してポータルのカウンタ データを参照できます。

以下の表は、ポータルで提供されている主要カウンタを示します。パフォーマンスの各カテゴリには 1 つ以上のインスタンスがあり、カテゴリの中の各インスタンスは、そのカテゴリ用のカウンタを使用して監視することができます。

注意：Counter Monitoring のコンソールで、**info** コマンドを使用することによって、利用可能なすべてのカウンタの一覧を表示することができます。[「Counter Monitoring のコンソールの実行」、B-5 ページ](#)を参照してください。

表 B-1：主要パフォーマンス カウンタ

カテゴリ	インスタンス	カウンタ
Cache 多くの UI オブジェクトやページには、固有のキャッシュ システムが設定されています。Cache カウンタには、個々のキャッシュの状態が記録されます。	CommunityInfoCache: ポータル コミュニティ用のキャッシュ GuestLoginInfoCache: ゲスト ログイン用のキャッシュ HTTP_CACHE: リモート ポートレットまたはウェブ サービスに対する HTTP 要求用のキャッシュ PreferenceCache: 基本設定ページ用のキャッシュ SubportalInfoCache: 環境定義用のキャッシュ	Size: 現在キャッシュに格納されている項目数 MaxSize: キャッシュがフラッシュされるまで格納することができる最大項目数 NumSearches: キャッシュがアクセスされる度にこのカウンタが増えます NumHits: キャッシュがアクセスされ、キャッシュされたコンテンツが見つかった際にこのカウンタが増えます NumInserts: キャッシュがアクセスされ、キャッシュされたコンテンツが見つからなかった際にこのカウンタが増えます
Opendb_SQLstats OpenDB のデータベース統計	SQLSelectStats: 「SELECT」文の SQL クエリの数	NumOperations: 発生した SQL 操作の数
OpenHTTPLowLevelNetworkCounter 使用量、接続、処理などを含む、HTTP の基本情報	Total: リモート ホストごとに 1 インスタンスあります。Total ではすべての統計が集計されます。	BytesReceived: リモート ホストから受信したバイト数 BytesSent: リモート ホストに送信したバイト数 OpenConnections: 現在接続しているリモート ホストの数
OpenHTTPHttpLevelStatistics HTTP 要求に関する統計	Total: リモート ホストごとに 1 インスタンスあります。Total ではすべての統計が集計されます。	RequestsActive: 処理中の HTTP 要求の数 RequestsProcessed: 処理済みの HTTP 要求の数

表 B-1: 主要パフォーマンス カウンタ (つづき)

カテゴリ	インスタンス	カウンタ
portalpages プラムツリー ポータルのページ に関連する統計	該当しない (1 インスタンスのみ)	CommunityPages: コミュニティ ページへのアクセス回数 LoginsFailure: ユーザーのログイン が失敗した回数 LoginsSuccessful: ユーザーがログ インした回数 MyPages: マイ ページへのアクセス 回数 TotalHits: ポータル ページへのアク セス回数 TotalOpensessions: 現在アクティ ブのセッション数

カウンタのログ ファイルの設定

カウンタのログ ファイルについて、ファイルの場所、サイズ、フォーマット、カウンタ値をポーリングする間隔、どのカウンタをファイルに書き込むかを指定するためのフィルタなどを設定することができます。

カウンタのログファイルを設定するには、次を行います。

- PORTAL_HOME¥bin ディレクトリで次のコマンドを入力します。

opencounterslogger.bat (Unix の場合は **opencounterslogger.sh**) *ServerName ContextName*
-d LogDirectory -l LogOutputStyle -s MaxLogSize -r PollingInterval -f FilterExpression

パラメータの内容は次の通りです。

ServerName: 監視を行うポータルがインストールされているサーバーの名前 (例: ptserver 2)。この名前の値は、(PT_HOME¥settings¥common の中の) serverconfig.xml file の

opencounters:application-name という要素に設定されています。この値の大文字と小文字は区別されます。

ContextName: 監視するプラムツリー アプリケーションの名前 (例: portal)。この名前の値は、serverconfig.xml ファイルの **context** 要素に設定されています。この値の大文字と小文字は区別されます。

-d LogDirectory: (オプション) カウンタのログ ファイルを保存するローカル ディレクトリ。このディレクトリは、opencounterslogger.bat コマンドを実行する前に作成しておく必要があります。

-l LogOutputStyle: (オプション) ログの出力フォーマット。次のフォーマットの任意の組み合わせを指定することができます。

- **c**: カウンタ値を .csv ファイルに書き込み、カウンタをカウンタ名によってソートします。CSV とは、カンマ区切りのファイル形式であり、Excel 等のアプリケーションでデータを読み込んで、値を簡単にグラフ化することができます。
- **t**: カウンタ値を .csv ファイルに書き込み、カウンタをタイムスタンプによってソートします。
- **f**: カウンタ情報を連続的にファイルに書き込みます。各行には、カウンタ名と値のペアが書き込まれます。
- **s**: カウンタ情報を連続的に画面に表示します。各行には、カウンタ名と値のペアが表示されます。

-s MaxLogSize: (オプション) ログ ファイルの最大サイズをキロバイトで指定するための整数。このファイル サイズに到達すると、ログは、新しいファイルに切り替わります。

-r PollingInterval: (オプション) カウンタ値をファイルに書き込む間隔 (秒単位)。

注意: ポーリング間隔を短くすると (すなわち、ポーリング速度を速くすると)、ポータルの総合的なパフォーマンスが影響されます。デフォルトの設定を使用した場合、パフォーマンスへの影響は最大 2% になります。

-f FilterExpression: (オプション) ログするカウンタをフィルタするための表現。表現の大文字と小文字は区別されません。表 B-1 を参照して、カテゴリ、インスタンス、およびカウンタ名を決定し、次のように表現を入力します。

カテゴリ名に含まれる用語: インスタンス名に含まれる用語: カウンタ名に含まれる用語

上記の表現の各条件はオプションであり、返されるカウンタ値の範囲を絞り込むために使用できます。

例えば、

-f Cache::Num のように指定することができます。この場合、「Cache」という単語を含むカテゴリ名を持つカウンタと「Num」という単語を含むカウンタ名を持つすべてのカウンタのみが返されます。インスタンス名はフィルタされません。

注意: Counter Monitoring のコンソールで、**info** コマンドを使用することによって、利用可能なすべてのカウンタの一覧を表示することができます。[「Counter Monitoring のコンソールの実行」、B-5 ページ](#)を参照してください。

opencounterslogger コマンドの例:

```
opencounterslogger.bat PtServer2admin collab -d C:\logdir -l t -s 1000 -r 10 -f open:sql:
```

このコマンドによって次の特徴を持つログが実行されます。

- PtServer2admin 上の collab アプリケーションを監視 (この例では、Plumtree Collaboration がインストールされているものとします)
- すべてのカウンタのログを C:\logdir に書き込む
- タイムスタンプによってソートされたログ ファイルを生成
- 最大ログ サイズは、1 MB、すなわち 1000 KB
- 10 秒間隔で値をログに書き込む

- 「*open*」という単語を含むカテゴリ名と「*sql*」という単語を含むインスタンス名を持つカウンタのみに範囲を限定（例えば、`Opendb_SQLstats`、`SQLSelectStats` インスタンス）

このコマンドを入力すると次のようなメッセージが表示されます。

```
Starting counter logger...
Log files will be written to directory: C:\logdir
Logging rate (seconds): 10
Log file rollover size (kilobytes): 1000
Logging from host: PtServer2.collab
```

この時点で、ログ機能がサーバーへの接続を確立した場合は、次のメッセージが表示されます。

```
Logging counters...
```

このメッセージが表示された後、ログ ディレクトリ を参照してログ ファイルが生成されていることを確認することができます。ただし、カウンタ サーバー上に少なくとも 1 つのカウンタが作成されるまで、ログ ファイルは生成されません。

Counter Monitoring のコンソールの実行

カウンタのログ ファイルを監視することに加えて、指定したカウンタ値をコンソールから参照することもできます。

コンソールからカウンタ値を参照するには次を行います。

1. `PORTAL_HOME\bin` ディレクトリで次のコマンドを入力します。

opencountersconsole.bat (Unix の場合は `opencountersconsole.sh`) *ServerName ContextName*

パラメータの内容は次の通りです。

ServerName: 監視を行うポータルがインストールされているサーバーの名前（例：ptserver 2）。この名前の値は、(`PT_HOME¥settings¥common` の中の) `serverconfig.xml` file の

opencounters:application-name という要素に設定されています。この値の大文字と小文字は区別されます。

ContextName: 監視するプラムツリー アプリケーションの名前（例：portal）。この名前の値は、`serverconfig.xml` ファイルの **context** 要素に設定されています。この値の大文字と小文字は区別されます。

上記のコマンドを入力すると、カウンタ コンソールの起動メッセージが表示されます。指定したサーバーへの接続が確立されると、次のメッセージが表示されます（コマンド プロンプトの前に監視するサーバー名とアプリケーション名も表示されます）。

```
... Connection success!
[ServerName.ContextName]>
```

例：

opencountersconsole.bat *PtServer2 collab*

上記のコマンドを発行すると、*PtServer2* 上の *collab* アプリケーションを監視するためのコンソールが開きます。この例では、Plumtree Collaboration がインストールされているものとします。

2. コンソールのコマンド プロンプトから下記のコマンドを使用できます（括弧内の文字はショートカット キーです）。

- **help** (h): ヘルプ メニューを表示
- **last** (l): 最後に入力されたコマンドを実行
- **num** (n): ホスト サーバーで利用可能なカウンタの合計数を取得
- **info** (i): すべてのカウンタ名とそれぞれの現在の値と追加説明情報を表示
必要な場合は、コマンドの後にフィルタ表現を入力し、返される情報を絞り込むことができます。フィルタ表現は、次のように指定します。

カテゴリ名に含まれる用語: インスタンス名に含まれる用語: カウンタ名に含まれる用語

上記の表現の各条件はオプションであり、カテゴリ名、インスタンス名、またはカウンタ名の部分一致を指定できます。主なカテゴリ名、インスタンス名、およびカウンタ名については、[表 B-1](#) を参照してください。

例: **info cache:pref:num**

- **values** (v): すべてのカウンタ名とそれぞれの現在の値を表示
必要な場合は、コマンドの後にフィルタ表現を入力し、返される情報を絞り込むことができます。上記の例を参照してください。

例: **values cache:pref:num**

- **filterset** (fs): カテゴリ名、インスタンス名、およびカウンタ名のフィルタを設定
このフィルタは、**filterget** コマンドを使用した際に返される情報の範囲を制限します。**filterset** を指定していない場合、**filterget** コマンドは、利用可能なすべてのカウンタを返します。このコマンドでは、上記の **info** コマンドと同じフィルタ表現を使用できます。

例: **filterset cache:pref:num**

上記の例のコマンドを発行し、その後で、**filterget** を発行した場合、**values cache:pref:num** コマンドを単独で発行した場合と同じ結果が返されます。

指定した **filterset** は、新しい **filterset** を設定するまで有効になります。**filterset** をデフォルト値に戻すには、「**filterset**」のみ入力してください。デフォルトの **filterset** ではすべてのカウンタが一致します。

- **filtercategory** (fc): カテゴリ名のフィルタを設定
このコマンドは、**filtergetvalues** コマンドによって返されるカウンタを指定するために使用します。ここで入力したサブストリングを含むカテゴリ名のみが返されます。

例: **filtercategory Open**

指定したカテゴリ フィルタは、新しいフィルタを設定するまで有効になります。

- **filterinstance** (fi): インスタンス名のフィルタを設定
このコマンドは、**filtergetvalues** コマンドによって返されるカウンタを指定するために使用します。ここで入力したサブストリングを含むインスタンス名のみが返されます。

例：filterinstance Total

指定したインスタンス フィルタは、新しいフィルタを設定するまで有効になります。

- **filtercounter (fr)**: カウンタ名のフィルタを設定
このコマンドは、**filtergetvalues** コマンドによって返されるカウンタを指定するために使用します。ここで入力したサブストリングを含むカウンタ名のみが返されます。

例：filtercounter Bytes

指定したカウンタ フィルタは、新しいフィルタを設定するまで有効になります。

- **filtergetvalues (fg)**: カウンタ名と現在の値を表示
このコマンドを実行すると、**filterset**、**filtercategory**、**filterinstance**、または **filtercounter**、によって指定されたフィルタに一致するカウンタのみが取得されます。フィルタが 1 つも設定されていない場合は、すべてのカウンタが返されます。
- **verbose (vb)**: 詳細レベルのオン / オフの切り替え（デフォルトは OFF）
詳細レベルをオンにすると、**values** コマンドでは、カウンタ値とともに追加のカウンタ情報（例えば、カウンタの説明情報）が返されます。詳細レベルをオフに設定すると、**values** コマンドでは、カウンタ値のみが返されます。
- **connect (c)**: 別のホスト サーバーに接続
既にホスト サーバーが接続されている場合、その接続は切断されます。

例：connect PtServer4 portal

- **disconnect (d)**: 接続している場合は、現在のホスト サーバーとの接続を切断
- **exit (e)**: コンソール アプリケーションの終了

Windows Perfmon を使用してカウンタ データを参照する方法

Counter Monitoring System は、Windows Perfmon アプリケーションと統合されます。ポータルを起動すると、Perfmon のアダプタは、監視可能なカウンタのリストにプラムツリーのカウンタを追加します。その後、Perfmon（または Windows のパフォーマンス カウンタをサポートしている任意の監視アプリケーション）を起動して、利用可能なカウンタのリストに含まれているプラムツリー カウンタを参照することができます。

Windows Perfmon を起動するには次を行います。

1. **[スタート | ファイル名を指定して実行]** メニューを選択します。
2. **perfmon.exe** と入力し、**[OK]** をクリックします。

注意： Perfmon では、カテゴリ名の前にコンテキスト名が付加されます。コンテキスト名は、(PT_HOME¥settings¥common 内の) serverconfig.xml ファイルの **context** 要素に設定されています。

Perfmon アダプタの無効化

Perfmon アダプタは、全体のシステム パフォーマンスに対して、若干のオーバーヘッドをもたらします。Perfmon アダプタを無効にするには、`PT_HOME¥settings¥serverconfig.xml` で、**opencounters:perfmon-enabled** を **false** に設定してください。

C ポータルのローカライズ方法

この節では、ポータルを国際化およびローカライズする方法について説明します。以下の節が含まれています。

- [「ローカライゼーションの目的」](#)
- [「オブジェクトのローカライズ」、C-1 ページ](#)
- [「Search Service の国際化」、C-4 ページ](#)
- [「複数言語のドキュメント リポジトリのクロール」、C-6 ページ](#)
- [「ナレッジ ディレクトリへの複数言語のドキュメントの提出」、C-6 ページ](#)

ローカライゼーションの目的

ポータルの個々のオブジェクトには、ポータルでサポートされている各言語での代替名と説明を設定することができます。ポータルでオブジェクト（例えば、ポートレット）を作成する際は、第 1 言語でそのオブジェクトの名前と説明を入力します。それらはユーザーが選択したロケールとは関係なく表示されます。異なる言語でポータル インタフェースを表示するユーザーに対応するために、ローカライズした名前と説明を設定することもできます。

例えば、「Engineering」というオブジェクトがある場合、そのオブジェクトの代替名として、フランス語の訳語である「Ingenieur」を設定することができます。そうすることにより、ユーザーがフランス語のユーザー インタフェースを使用してログインした際に、フランス語でオブジェクト名や説明が表示されるように設定できます。

オブジェクトのローカライズ

オブジェクト エディタを使用して、ローカライズした用語を 1 つずつ設定することも可能ですが、ローカライゼーション マネージャを使用することにより、すべての オブジェクトを同時に編集することができるため、効率良くローカライズを行うことができます。

ローカライゼーション マネージャでは、ローカライズされた名前を設定することが可能なすべてのオブジェクトの名前や説明を含んだ .xml ファイルをダウンロードすることができます。.xml ファイルをダウンロードする前に、各オブジェクトをローカライズできるように設定してください。その後で、このリストを編集し、ポータルにアップロードし直してください。

オブジェクトをローカライズできるように設定する方法

オブジェクトをローカライズできるようにするには次を行います。

1. **[管理]** をクリックします。
2. 管理フォルダを選択します。

3. 既存のオブジェクト（例えば、クローラ、ポートレット、ジョブ等）をクリックして編集するか、あるいは、[**オブジェクトの作成**] ドロップダウン リストからオブジェクトを選択することによって新しいオブジェクトを作成します。オブジェクト エディタが開きます。
4. オンライン ヘルプの説明に従って、ロケール情報などの設定プロパティを設定します。

すべてのオブジェクトのローカライズ

ローカライゼーション マネージャを使用してオブジェクトをローカライズするには次を行います。

1. [**管理**] をクリックします。
2. [ユーティリティの選択] ドロップダウン リストで、[**ローカライゼーション マネージャ**] をクリックします。
3. ローカライゼーション マネージャで [**ダウンロード**] をクリックします。
4. 指示に従って、.xml ファイルをコンピュータに保存します。
5. 必要に応じて、テキスト エディタを使用して項目を編集します。例えば、次のようにフランス語の用語を編集することができます。
`<target language="fr">Tous</target>`
6. 変更を保存します。
7. 編集したファイルを参照するには、ローカライゼーション マネージャで [**参照**] をクリックし、次に [**アップロード**] をクリックします。アップロードが成功したかどうかを示すメッセージがエディタの一番下に表示されます。
8. [**終了**] をクリックします。

ポータルの各ページに対する手順および詳細な説明を参照するには、🔗 [**ヘルプ**] をクリックしてください。

ローカライゼーション マネージャの XML ファイル

ローカライズされる個々のオブジェクトに対して次のような項目が設定されます。

```
<segment classid="2" itemid="51" stringid="0">
  <source language="en">Everyone</source>
  <target language="de" />
  <target language="en" />
  <target language="es" />
  <target language="fr" />
  <target language="it" />
  <target language="ja" />
  <target language="ko" />
  <target language="pt" />
  <target language="zh" />
</segment>
```

最初の行はオブジェクト項目の情報を示します。

- classid はオブジェクト タイプを表します（この例ではグループ）。
- itemid はポータル データベース内のオブジェクト ID を表します。
- stringid は、オブジェクト名の場合は「0」、オブジェクトの説明の場合は「1」です。

2 行目は、第 1 言語と用語を示します (この例では、第 1 言語は英語、用語は Everyone です)。残りの行は下記の利用可能な言語を示します。

表 C-1 : 利用可能な言語

値	言語	値	言語
de	ドイツ語	ko	韓国語
en	英語	nl	オランダ語
es	スペイン語	pt	ポルトガル語
fr	フランス語	zh	中国語 (簡体字)
it	イタリア語	zh-tw	中国語 (繁体字)
ja	日本語		

オブジェクトを1つずつローカライズする方法

オブジェクト エディタの [プロパティおよび名前] ページで、オブジェクトの名前と説明、言語、ローカライズされた名前と説明、プロパティなどを指定するには次を行います (このエディタを開く方法については、[「オブジェクトをローカライズできるように設定する方法」](#)、[C-1 ページ](#)を参照してください。)

1. [**第 1 言語**] の横には、次のいずれかが表示されます。
 - portalconfig.xml ファイルの MandatoryObjectLanguage が設定されている場合は、必須言語が表示されます。この言語の名前 (および必要に応じてその説明) を入力する必要があります。
 - 必須言語が設定されていない場合は、ドロップダウン リストが表示されます。このオブジェクトのデフォルトの名前と説明に使用する言語を選択します。

第 1 言語は、デフォルト言語として設定されます。したがって、サポートされていない言語のローケルを設定しているユーザーには、ここで選択した第 1 言語で名前と説明が表示されます。
2. [**ローカライズ名をサポート**] チェックボックスをオンにします。新しい [ローカライズ名と説明] セクションが表示され、他の言語での名前と説明を追加することができます。
3. [ローカライズ名と説明] セクションの下で、[**新規ローカライズ名**] をクリックします。
4. [**名前と説明**] ダイアログ ボックスに、このオブジェクトのローカライズ名を入力します。
5. [**言語**] ドロップダウン リストから、追加する名前と説明に使用する言語を選択します。
6. [**説明**] ボックスに、このオブジェクトに対するローカライズされた説明を入力します。
7. 最後に [**終了**] をクリックします。

注意: このオブジェクトの名前が、サポートされているすべての言語に既にローカライズされている場合は、ローカライズ名や説明は追加できません。([**新規ローカライズ名**] ボタンは表示されません)。

Search Service の国際化

テキストの保存と取得には、ユニコード文字が使用されます。システムは、フルテキスト インデックスの作成中、複数の言語を処理するために、言語ごとに作成されたルールを使用します。これにより、高い検索性能を確保しながら、同一検索コレクション内に複数言語のドキュメントを含めることが可能になります。

Plumtree ポータルは、61 言語に対応しています。この内の 22 言語に対して、単語語幹処理および合成語分解のサポートが提供されています。この追加情報は、フルテキスト インデックスの検索性能を高めます。

表 C-2：単語語幹処理および合成語分解のサポートが提供されている言語

- | | | |
|-------------------------|---------------|-------------------------|
| • 中国語 (簡体字) | • 中国語 (繁体字) | • チェコ語 |
| • デンマーク語 | • オランダ語 | • 英語 |
| • フィンランド語 | • フランス語 | • ドイツ語 |
| • ギリシャ語 | • ハンガリー語 | • イタリア語 |
| • 日本語 | • 韓国語 | • ノルウェー語 (ブーク
モール) |
| • ノルウェー語 (ニーノ
シュク) | • ポーランド語 | • ポルトガル語 |
| • ロシア語 | • スペイン語 | • スウェーデン語 |
| • トルコ語 | | |

残りの 39 言語については、単語語幹処理と合成語分解のサポートは提供されていません。

表 C-3：サポートされているその他の言語

• アフリカーンス語	• アルバニア語	• アラビア語
• バスク語	• ベラルーシアン語	• ベンガル語
• ブルガリア語	• カタロニア語	• コーンウォール語
• クロアチア語	• エスペラント語	• エストニア語
• フェロー語	• ガリシア語	• ヘブライ語
• ヒンディー語	• アイスランド語	• インドネシア語
• アイルランド語	• カラアアリストット語	• コンカニ語
• ラトビア語	• リトアニア語	• マケドニア語
• マルタ語	• マンクス語	• マラーティー語
• ペルシア語	• ルーマニア語	• セルビア語
• セルビア・クロアチア語	• スロバキア語	• スロベニア語
• スワヒリ語	• タミル語	• テルグ語
• タイ語	• ウクライナ語	• ベトナム語

ポータルにおける複数言語のテキストの表示

検索コレクションのすべてのコンテンツは、ユニコード文字として格納されます。ユーザー インタフェースでは、UTF-8 エンコードによってテキストが処理され、すべてのユニコード文字を表示することができます。したがって、ウェブ ブラウザで適切なフォントが使用可能であれば、検索結果は常に正しく表示されます。

複数言語のドキュメントの検索

複数言語のドキュメントを検索する方法については、[「検索言語」、E-8 ページ](#)を参照してください。

複数言語のドキュメント リポジトリのクロール

ウェブ クローラとファイル クローラは、指定した言語と関連付けられます。クローラで処理されるすべてのドキュメントは、その指定された言語に適した言語ルールによって、インデックスされます。最適の結果を得るには、異なる言語のドキュメントを処理するために、別々のクローラを作成してください。ほとんどのヨーロッパ言語に関しては、1 つのクロール内で複数の言語を混ぜてもコンテンツが検索不能になることはありませんが、ドキュメントに格納されている単語の語幹処理および合成語分解の情報はクローラの指定言語以外のドキュメントには含まれません。アジア系言語の処理には特別のトークン作成ルールが必要であるため、ヨーロッパ言語用に設定されたクローラを使用してアジア系言語のドキュメントをインデックスしないでください。

ナレッジ ディレクトリへの複数言語のドキュメントの提出

ドキュメントの提出ユーティリティを使用して、ドキュメントをナレッジ ディレクトリに追加する際は、サポートされている言語のポップアップ リストからドキュメントの言語を選択して指定します。クローラと同様、最適の検索性能を得るためには、この言語をドキュメントの実際の言語に設定しなければなりません。特にアジア系言語のコンテンツを正しくインデックスするには、正しい言語を指定する必要があります。

D シングル サインオンの導入

この付録では、プラムツリー ポータル環境にシングル サインオン (SSO) 機能を導入する方法について説明します。この付録には以下の節が含まれています。

- [「SSO について」](#)
- [「SSO 認証プロバイダをポータルで使用するための設定」、D-1 ページ](#)
- [「認証元の設定」、D-23 ページ](#)
- [「SSO に必要なポータルの設定」、D-23 ページ](#)

SSO について

SSO は、ユーザーが、単一のエントリ ポイントからドメイン内の複数のサーバーをアクセスすることを可能にする認証システムです。プラムツリー ポータルに SSO を導入すると、SSO サービスが、企業に一般的に導入されている LDAP または Active Directory などの認証元に対してユーザー セッションの認証を透過的に実行します。

SSO をポータルに導入するには、ユーザーとドメインの認証情報を共有できるようにするために、次のリソースを設定してください。

1. SSO 認証サーバー

このリソースを設定する方法の詳細については、次の節の [「SSO 認証プロバイダをポータルで使用するための設定」](#)を参照してください。

2. 認証元

このリソースを設定する方法の詳細については、[「認証元の設定」、D-23 ページ](#)を参照してください。

3. プラムツリー ポータル

このリソースを設定する方法の詳細については、[「SSO に必要なポータルの設定」、D-23 ページ](#)を参照してください。

SSO 認証プロバイダをポータルで使用するための設定

この節では、プラムツリー ポータルを保護するために認証サーバーを設定する方法について説明します。以下のトピックでは、サポートされているサーバーとサポートされていないサーバーの設定の詳細について説明します。

- [「Windows 統合認証サービスの設定」、D-2 ページ](#)
- [「Netegrity SiteMinder 4.6 の設定」、D-3 ページ](#)
- [「Netegrity SiteMinder 5.5 の設定」、D-6 ページ](#)
- [「Netegrity SiteMinder 5.5 SP3 と 6.0.2.5 の設定」、D-10 ページ](#)

- [「Oblix 認証プロバイダの設定」、D-16 ページ](#)
- [「他の認証プロバイダとの統合」、D-22 ページ](#)



重要：Plumtree ポータルを保護するために SSO 認証サーバーを設定する必要がありますが、Plumtree Image Service を保護するように設定する必要はありません。そのように設定した場合、ポータルと Image Service 間の通信においてエラーが発生する可能性があります。Image Service には、各ポータル システムに標準装備される一般的な静的コンテンツのみが格納されています。ユーザーや貴社の組織の固有のデータが Image Service に保存されることは一切ありません。

Windows 統合認証サービスの設定

貴社の SSO 環境用に Windows 統合認証 (WIA) サービス (以前は、Windows NT LAN Manager (NTLM) と呼ばれていたもの) を設定するには、次の手順に従ってください。

1. IIS のインターネット サービス マネージャを開きます。
2. 左枠に表示されているウェブ サーバー フォルダとその中のポータル仮想ディレクトリ サブフォルダを展開します。sso フォルダを右クリックし、[プロパティ] を選択します。
3. [ディレクトリ セキュリティ] タブをクリックします。
4. 「匿名アクセスと認証制御」の、[編集] ボタンをクリックします。
5. [認証済みアクセス] で、[統合 Windows 認証] チェックボックスを選択します。その他のチェックボックスは、選択しないままにします。
6. ディレクトリ セキュリティ設定への変更を保存するために [OK] をクリックします。
7. プロパティへの変更を保存するために [OK] をクリックします。

注意：WIA による SSO が導入されているポータル環境においては、クライアント側で下記の条件が満たされている場合、Internet Explorer ユーザーは、ポータル ウェブサイトにログインする際に、ユーザー名とパスワードを入力せずにログインできます。

- ユーザーが、ポータルへのアクセス権限を持つユーザーとして Windows NT ドメインにログインしている
- クライアント コンピュータとポータル ウェブ サイトの間に HTTP プロキシが設置されていない
- ポータル ウェブ サイトをローカルのイントラネット サイトとして認識するように Internet Explorer が設定されている
デフォルトで、サイトがローカル イントラネット ゾーンに含まれていない場合は、次の手順によってブラウザから追加できます。
 - a. [ツール | インターネット オプション | セキュリティ | イントラネット] を選択します。
 - b. [サイト] ボタンをクリックします。
 - c. [詳細設定] をクリックします。
 - d. ポータル ウェブ サイトのアドレスを追加します。

注意 : Netscape Navigator 7.1 より前のバージョンはサポートされていません。Netscape Navigator 7.1 以降のバージョンでは、ユーザーがポータル ウェブ サイトにログインする際は、ユーザー名とパスワードを入力する必要があります。

注意 : WIA による SSO が導入されているポータル環境において、ポータルは、ユーザーのパスワードを基本認証ヘッダとしてリモート サーバー（ポータル環境の外にあるサーバー）に渡しません。

Netegrity SiteMinder 4.6 の設定

プラムツリー ポータル用に Netegrity SiteMinder 4.6 を設定するには、次の基本手順に従ってください。

1. SiteMinder ポリシー サーバーを設定します。詳細な手順については、[「Netegrity SiteMinder Policy Server の設定」、D-3 ページ](#)を参照してください。
2. SiteMinder ウェブ エージェントを設定します。詳細な手順については、[「Netegrity SiteMinder Web Agent \(4.6\) の設定」、D-5 ページ](#)を参照してください。

Netegrity SiteMinder Policy Server の設定

SSO 環境用に SiteMinder ポリシー サーバーを設定するには次を行います。

1. Netegrity のマニュアルの説明に従ってサーバーをインストールします。
2. SiteMinder の管理ツールを開き、オブジェクトを作成する権限のあるユーザーとしてログインします。
3. 以下の順番で、オブジェクトを作成します。

表 D-1 : Netegrity SiteMinder Policy Server 4.6 でオブジェクトを作成する手順

オブジェクト	オブジェクトを作成する方法
エージェント	<ol style="list-style-type: none"> 1.左枠で、[Agents] を右クリックし、メニューから [Create Agent] を選択します。 2.[Name] ボックスにプラムツリー ポータルの名前を入力します。 3.[address] ボックスにポータルの IP アドレスを入力するか、SiteMinder のコントロールを使用して DNS ルックアップを実行します。 4.[shared secret] ボックスに、ウェブ エージェントのホストの設定に一致する文字列を入力します。 5.[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。

表 D-1 : Netegrity SiteMinder Policy Server 4.6 でオブジェクトを作成する手順

オブジェクト	オブジェクトを作成する方法
ユーザー ディレクトリ	<ol style="list-style-type: none"> 1.左枠で、[User Directories] を右クリックし、メニューから [Create User Directory] を選択します。 2.[Name] ボックスにオブジェクトの記述名を入力します（例：Iplanet）。 3.[NameSpace] ボックスで、適切なネームスペースを選択します。例えば、次のネームスペースを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> • WinNT: WinNT を選択した場合は、[Windows Domain] テキストボックスで、Windows NT ドメイン名を指定します。 • LDAP: LDAP を選択した場合は、LDAP ユーザー ディレクトリをホストしているサーバーの IP アドレスとポート番号を指定します。さらに、[LDAP Search] と [LDAP User DN Lookup] のコントロールを使用して、Netegrity 管理ツールのコンテキスト ベースのオンラインヘルプに記載されている条件や例に基づいて、検索とルックアップを設定します。 4.[Apply] をクリックします。 5.ポリシー サーバーにインポートされたユーザー グループを表示するには、[View Contents] をクリックします。 6.ユーザーがインポートされたことを確認するには、[Search] をクリックして、LDAP で特定のユーザーを検索します。 7.[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。
ポリシー ドメイン	<ol style="list-style-type: none"> 1.左枠で、[Policy Domain] を右クリックし、メニューから [Create Policy Domain] を選択します。 2.[Name] ボックスにドメインの記述名を入力します（例：Portal）。 3.[add directory] ボックスで、上記で作成したユーザー ディレクトリを指定します。 4.[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。
レルム	<ol style="list-style-type: none"> 1.左枠で、[Domains] タブをクリックします。 2.上記で作成したドメインを右クリックし、[Create Realm] を選択します。 3.[Name] ボックスにレルムの記述名を入力します（例：sso）。 4.[Resource] の [Agent] ドロップダウン リスト ボックスで、上記で作成したエージェントを選択します。 5.[Resource Filter] ボックスで、/portal/sso と入力します。これは、ポータルが SSO サービス認証を行うために使用するディレクトリです。 6.[Authentication Scheme] ボックスで [Basic Authentication] を選択します。 7.[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。

表 D-1 : Netegrity SiteMinder Policy Server 4.6 でオブジェクトを作成する手順

オブジェクト	オブジェクトを作成する方法
レルムの規則	<ol style="list-style-type: none"> 1.左枠で、名前が設定されているレルムが表示されるようにポリシードメイン のツリーを展開し、上記で作成したレルムを右クリックして、メニューから [Create Rule under Realm] を選択します。 2.[Name] ボックスにルールの記事名を入力します (例: Allow Access)。 3.[Realm and Resource] で、上記で作成したレルムを選択し、リソースボックスで、/* と入力します。 4.[Allow/Deny and Enable/Disable] で、ルールを有効にし、ルールが適用された際に、アクセスを許可するように設定します。 5.[Action] ボックスで、[Web Agent Actions] をクリックし、次に [GET]、[POST] と [PUT] をクリックします。 6.[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。
レルムのポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1.上記で作成したドメインの下での [Policies] を右クリックし、[Create Policy] を選択します。 2.[Name] ボックスにポリシーの記事名を入力します (例: Normal Case)。 3.[Users] タブをクリックし、コントロールを使用して、このポリシーを適用するユーザーやグループを追加します。 4.[Rules] タブをクリックし、[Add/Remove Rules] ボタンをクリックして上記で作成したルールを追加します。 5.[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。

Netegrity SiteMinder Web Agent (4.6) の設定

貴社の導入環境用に SiteMinder Web Agent を設定するには、次を行います。

1. ポータルと同じホストに Web Agent のセットアップ プログラムをインストールします。
2. セットアップが完了した後、Web Agent Configuration Wizard を実行するように指示されます。後でウィザードを実行する場合は、**[スタート | プログラム | SiteMinder | Web Agent Configuration Wizard]** メニューを選択することによってウィザードを開くことができます。

ウィザードで、設定するコンポーネントを選択するように指示された際は、**[IIS]** を選択して、**[Configure]** をクリックし、次の設定情報を入力してください。

表 D-2 : Netegrity SiteMinder Web Agent Configuration Wizard のページ

プロンプト	値
Policy Server	上記の節で設定したポリシー サーバーの名前を入力します。
Agent name	上記の節で作成したエージェントの名前を入力します。

表 D-2 : Netegrity SiteMinder Web Agent Configuration Wizard のページ

プロンプト	値
Cookie domain	認証クッキーを転送する完全修飾ドメイン名を入力します。例えば、 <code>.company.com</code> を指定した場合、クッキーにより、 company.com で終わるすべてのドメインへのアクセスが可能になります。一方、 <code>sub.company.com</code> を指定した場合、クッキーにより、 sub.company.com で終わるドメインのみへのアクセスが可能になります。
IIS Proxy User Name and Password	IIS 上で SiteMinder ISAPI フィルタを実行するためのユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーには、IIS ホストに対する管理権限が付与されている必要があります。
Shared Secret	ポリシー サーバー上で作成したエージェント オブジェクトの名前に完全に一致する文字列を入力します。

3. IIS Web Agent Management Console を開くには、[**スタート | プログラム | SiteMinder | IIS Web Agent Management Console**] を選択します。

以下の表の説明に従って設定を編集してください。

表 D-3 : Web Agent Management Console の設定

コンソールのコントロール	設定の編集方法
[Settings] タブ	<p>[Settings] タブをクリックし、次の設定を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Enable Web Agent • Enforce Policies
[Single Sign On] タブ	<p>[Single Sign On] タブをクリックし、次の設定を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Require Cookies] を選択し、他の 2 つのチェックボックスの選択を解除します。 • [Cookie Domain] に、クッキーを転送する完全修飾ドメインの名前を設定します。例えば、<code>.company.com</code> を指定した場合、クッキーにより、company.com で終わるすべてのドメインへのアクセスが可能になります。一方、<code>sub.company.com</code> を指定した場合、クッキーにより、sub.company.com で終わるドメインのみへのアクセスが可能になります。

4. 編集した設定を適用するには、IIS を再起動します。

Netegrity SiteMinder 5.5 の設定

Plumtree ポータル用に Netegrity SiteMinder Policy Server 5.5 を設定するには、次の基本手順に従ってください。

1. Netegrity SiteMinder Policy Server を設定します。

詳細な手順については、[「Netegrity SiteMinder Policy Server の設定」、D-7 ページ](#)を参照してください。

2. Netegrity SiteMinder Web Agent を設定します。

Netegrity SiteMinder Policy Server の設定

貴社の導入環境用に SiteMinder Policy Server を設定するには次を行います。

1. Netegrity のマニュアルの説明に従ってサーバーをインストールします。
2. SiteMinder の管理ツールを開き、オブジェクトを作成する権限のあるユーザーとしてログインします。
3. 以下の順番で、オブジェクトを作成します。

表 D-4 : Netegrity SiteMinder Policy Server 5.5 でオブジェクトを作成する手順

オブジェクト	オブジェクトを作成する方法
Host Conf オブジェクト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 左枠で、[Host Conf Object] をクリックします。 2. 右枠で、[Default Host Configuration Object] を右クリックし、メニューから [Duplicate Configuration Object] を選択します。 3. [Name] ボックスにホスト名を入力します (例: policyserver)。 4. [Configuration Values] で、[policyserver] オブジェクトをダブルクリックし、コントロールを使用してポリシー サーバーの IP アドレスと 3 つのポート、通常は 44441、44442、44443 を設定します。 例えば、10.1.140.124, 44441, 44442, 44443 のように入力できます。 5. [Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。
エージェント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 左枠で、[Agents] を右クリックし、メニューから [Create Agent] を選択します。 2. [Name] ボックスにプラムツリー ポータルの名前を入力します。 3. [Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。
AgentConf オブジェクト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 左枠で、[Agent Conf Objects] をクリックします。 2. 右枠で、デフォルトの設定と大体一致するサーバーのタイプ (例えば、IISDefaultSettings) を右クリックし、[Duplicate Configuration Object] を選択します。 3. [Name] ボックスにオブジェクトの記述名を入力します。通常は、ホスト名の後に設定オブジェクト名を付加したものになります (例: PortalServerIISDefaultSettings)。 4. [Configuration Values] で、[DefaultAgentName] をダブルクリックし、パラメータを非コメント化してから (最初の「#」を外す)、上記の手順で作成したエージェントの名前をそのパラメータの値として設定します。 5. [Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。

表 D-4 : Netegrity SiteMinder Policy Server 5.5 でオブジェクトを作成する手順

オブジェクト	オブジェクトを作成する方法
ユーザー ディレクトリ	<ol style="list-style-type: none"> 1.左枠で、[User Directories] を右クリックし、メニューから [Create User Directory] を選択します。 2.[Name] ボックスにオブジェクトの記述名を入力します（例：Iplanet）。 3.[NameSpace] ボックスで、適切なネームスペースを選択します。例えば、次のネームスペースを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> • WinNT: WinNT を選択した場合は、[Windows Domain] テキストボックスで、Windows NT ドメイン名を指定します。 • LDAP : LDAP を選択した場合は、LDAP ユーザー ディレクトリをホストしているサーバーの IP アドレスとポート番号を指定します。さらに、[LDAP Search] と [LDAP User DN Lookup] のコントロールを使用して、Netegrity 管理ツールのコンテキスト ベースのオンライン ヘルプに記載されている条件や例に基づいて、検索とルックアップを設定します。 4.[Apply] をクリックします。 5.ポリシー サーバーにインポートされたユーザー グループを表示するには、[View Contents] をクリックします。 6.ユーザーがインポートされたことを確認するには、[Search] をクリックして、LDAP で特定のユーザーを検索します。 7.[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。
ポリシー ドメイン	<ol style="list-style-type: none"> 1.左枠で、[Policy Domain] を右クリックし、メニューから [Create Policy Domain] を選択します。 2.[Name] ボックスにドメインの記述名を入力します（例：Portal）。 3.[add directory] ボックスで、上記で作成したユーザー ディレクトリを指定します。 4.[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。
レルム	<ol style="list-style-type: none"> 1.左枠で、[Domains] タブをクリックします。 2.上記で作成したドメインを右クリックし、[Create Realm] を選択します。 3.[Name] ボックスにレルムの記述名を入力します（例：sso）。 4.[Resource] の [Agent] ドロップダウン リスト ボックスで、上記で作成したエージェントを選択します。 5.[Resource Filter] ボックスで、/portal/sso と入力します。これは、ポータルが SSO サービス認証を行うために使用するディレクトリです。 6.[Authentication Scheme] ボックスで [Basic Authentication] を選択します。 7.[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。

表 D-4 : Netegrity SiteMinder Policy Server 5.5 でオブジェクトを作成する手順

オブジェクト	オブジェクトを作成する方法
レルムの規則	<ol style="list-style-type: none"> 1.左枠で、名前が設定されているレルムが表示されるようにポリシードメインのツリーを展開し、上記で作成したレルムを右クリックして、メニューから [Create Rule under Realm] を選択します。 2.[Name] ボックスにルールの記事名を入力します (例: Allow Access)。 3.[Realm and Resource] で、上記で作成したレルムを選択し、リソースボックスで、/* と入力します。 4.[Allow/Deny and Enable/Disable] で、ルールを有効にし、ルールが適用された際に、アクセスを許可するように設定します。 5.[Action] ボックスで、[Web Agent Actions] をクリックし、次に [GET]、[POST] と [PUT] をクリックします。 6.[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。
レルムのポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1.上記で作成したドメインの下の [Policies] を右クリックし、[Create Policy] を選択します。 2.[Name] ボックスにポリシーの記事名を入力します (例: Normal Case)。 3.[Users] タブをクリックし、コントロールを使用して、このポリシーを適用するユーザーやグループを追加します。 4.[Rules] タブをクリックし、[Add/Remove Rules] ボタンをクリックして上記で作成したルールを追加します。 5.[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。

Netegrity SiteMinder Web Agent (5.5) の設定

貴社の導入環境用に SiteMinder Web Agent を設定するには、次を行います。

1. ポータルと同じホストに Web Agent のセットアップ プログラムをインストールします。
2. セットアップが完了した後、Web Agent Configuration Wizard を実行するように指示されます。後でウィザードを実行する場合は、**[スタート | プログラム | SiteMinder | Web Agent Configuration Wizard]** メニューを選択することによってウィザードを開くことができます。

ウィザードで、設定するコンポーネントを選択するように指示された際は、**[IIS]** を選択して、**[Configure]** をクリックし、次の設定情報を入力してください。

表 D-5 : Netegrity SiteMinder Web Agent Configuration Wizard のページ

プロンプト	値
Policy Server	上記の節で設定したポリシー サーバーの名前を入力します。
Agent name	上記の節で作成したエージェントの名前を入力します。

表 D-5 : Netegrity SiteMinder Web Agent Configuration Wizard のページ

プロンプト	値
Cookie domain	認証クッキーを転送する完全修飾ドメイン名を入力します。例えば、 <code>.company.com</code> を指定した場合、クッキーにより、 company.com で終わるすべてのドメインへのアクセスが可能になります。一方、 <code>sub.company.com</code> を指定した場合、クッキーにより、 sub.company.com で終わるドメインのみへのアクセスが可能になります。
IIS Proxy User Name and Password	IIS 上で SiteMinder ISAPI フィルタを実行するためのユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーには、IIS ホストに対する管理権限が付与されている必要があります。
Shared Secret	ポリシー サーバー上で作成したエージェント オブジェクトの名前に完全に一致する文字列を入力します。

- IIS Web Agent Management Console を開くには、[**スタート | プログラム | SiteMinder | IIS Web Agent Management Console**] を選択します。

以下の表の説明に従って設定を編集してください。

表 D-6 : Web Agent Management Console の設定

コンソールのコントロール	設定の編集方法
[Settings] タブ	<p>[Settings] タブをクリックし、次の設定を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Enable Web Agent • Enforce Policies
[Single Sign On] タブ	<p>[Single Sign On] タブをクリックし、次の設定を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Require Cookies] を選択し、他の 2 つのチェックボックスの選択を解除します。 • [Cookie Domain] に、クッキーを転送する完全修飾ドメインの名前を設定します。例えば、<code>..company.com</code> を指定した場合、クッキーにより、company.com で終わるすべてのドメインへのアクセスが可能になります。一方、<code>sub.company.com</code> を指定した場合、クッキーにより、sub.company.com で終わるドメインのみへのアクセスが可能になります。

- 編集した設定を適用するには、IIS を再起動します。

Netegrity SiteMinder 5.5 SP3 と 6.0.2.5 の設定

以下の手順は、Netegrity SiteMinder 5.5 SP3 または 6.0.2.5 との SSO 統合に必要となります。

プラムツリー ポータル用に SiteMinder Policy Server を設定するには、次の基本手順に従ってください。

1. SiteMinder Policy Server をインストールし、設定します。詳細については、次の節、[「Netegrity SiteMinder Policy Server の設定」](#)を参照してください。
2. 対応する SiteMinder Web Agent をインストールし、設定します。詳細については、[「Linux または Unix 上での Netegrity SiteMinder Web Agent \(5.5 SP3 または 6.0\) の設定」](#)、D-14 ページを参照してください。

Netegrity SiteMinder Policy Server の設定

貴社の導入環境用に SiteMinder Policy Server を設定するには次を行います。

1. Netegrity のマニュアルの説明に従って、リモートのホスト コンピュータ上に、SiteMinder Policy Server 5.5 と SP3、または 6.0.2.5 をインストールします。
2. SiteMinder の管理ツールを開き、オブジェクトを作成する権限のあるユーザーとしてログインします。
3. 以下の順番で、オブジェクトを作成します。

表 D-7 : Netegrity SiteMinder Policy Server でオブジェクトを作成する手順

オブジェクト	オブジェクトを作成する方法
Host Conf オブジェクト	<ol style="list-style-type: none"> 1.左枠で、[Host Conf Object] をクリックします。 2.右枠で、[Default Host Configuration Object] を右クリックし、メニューから [Duplicate Configuration Object] を選択します。 3.[Name] ボックスにホスト名を入力します (例: policyserver)。 4.[Configuration Values] で、[policyserver] オブジェクトをダブルクリックし、コントロールを使用してポリシー サーバーの IP アドレスと 3 つのポート、通常は 44441、44442、44443 を設定します。 例えば、次のように入力します。 10.1.140.124, 44441, 44442, 44443 5.[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。
エージェント	<ol style="list-style-type: none"> 1.左枠で、[Agents] を右クリックし、メニューから [Create Agent] を選択します。 2.[Name] ボックスにプラムツリー ポータルのホスト コンピュータの名前を入力します。 3.[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。

表 D-7 : Netegrity SiteMinder Policy Server でオブジェクトを作成する手順

オブジェクト	オブジェクトを作成する方法
AgentConf オブジェクト	<ol style="list-style-type: none"> 1.左枠で、[Agent Conf Objects] をクリックします。 2.右枠で、デフォルトの設定と大体一致するサーバーのタイプ（例えば、ApacheDefaultSettings）を右クリックし、[Duplicate Configuration Object] を選択します。 3.[Name] ボックスにオブジェクトの記述名を入力します。通常は、ホスト名の後に設定オブジェクト名を付加したものになります（例：PortalServerApacheDefaultSettings）。 4.[Configuration Values] で、[DefaultAgentName] をダブルクリックし、パラメータを非コメント化してから（最初の「#」を外す）、上記の手順で作成したエージェントの名前をそのパラメータの値として設定します。 5.[Configuration Values] で、[BadURLChars] をダブルクリックし、次の値に変更します。 <code>//,.,/,./,/*,*,.,~,\\</code> 6.[Configuration Values] で、貴社の必要条件に適合するように、[LogAppend]、[LogConsole]、[LogFileName]、[LogLevel] と [Logfile] を設定します。詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。 7.[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。
ユーザー ディレクトリ	<ol style="list-style-type: none"> 1.左枠で、[User Directories] を右クリックし、メニューから [Create User Directory] を選択します。 2.[Name] ボックスにオブジェクトの記述名を入力します（例：Iplanet）。 3.[NameSpace] ボックスで、適切なネームスペースを選択します。例えば、LDAP を選択した場合は、LDAP ユーザー ディレクトリをホストしているサーバーの IP アドレスとポート番号を指定します。さらに、[LDAP Search] と [LDAP User DN Lookup] のコントロールを使用して、Netegrity 管理ツールのコンテキスト ベースのオンライン ヘルプに記載されている条件や例に基づいて、検索とルックアップを設定します。 4.[Apply] をクリックします。 5.ポリシー サーバーにインポートされたユーザー グループを表示するには、[View Contents] をクリックします。 6.ユーザーがインポートされたことを確認するには、[Search] をクリックして、LDAP で特定のユーザーを検索します。 7.[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。

表 D-7 : Netegrity SiteMinder Policy Server でオブジェクトを作成する手順

オブジェクト	オブジェクトを作成する方法
ポリシー ドメイン	<ol style="list-style-type: none"> 1.左枠で、[Policy Domain] を右クリックし、メニューから [Create Policy Domain] を選択します。 2.[Name] ボックスにドメインの記述名を入力します（例：Portal）。 3.[add directory] ボックスで、上記で作成したユーザー ディレクトリを指定します。 4.[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。
レルム	<ol style="list-style-type: none"> 1.左枠で、[Domains] タブをクリックします。 2.上記で作成したドメインを右クリックし、[Create Realm] を選択します。 3.[Name] ボックスにレルムの記述名を入力します（例：sso）。 4.[Resource] の [Agent] ドロップダウン リスト ボックスで、上記で作成したエージェントを選択します。 5.[Resource Filter] ボックスで、/portal/SSOServlet と入力します。これは、ポータルが SSO サービス認証を行うために使用するサービスです。 6.[Authentication Scheme] ボックスで [Basic Authentication] を選択します。 7.[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。
レルムの規則	<ol style="list-style-type: none"> 1.左枠で、名前が設定されているレルムが表示されるようにポリシー ドメイン のツリーを展開し、上記で作成したレルムを右クリックしてメニューから [Create Rule under Realm] を選択します。 2.[Name] ボックスにルール の記述名を入力します（例：Allow Access）。 3.[Realm and Resource] で、上記で作成したレルムを選択し、リソース ボックスで、* と入力します。 4.[Allow/Deny and Enable/Disable] で、ルールを有効にし、ルールが適用された際に、アクセスを許可するように設定します。 5.[Action] ボックスで、[Web Agent Actions] をクリックし、次に [GET]、[POST] と [PUT] をクリックします。 6.[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。
レルムの ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1.上記で作成したドメインの下 の [Policies] を右クリックし、[Create Policy] を選択します。 2.[Name] ボックスにポリシーの記述名を入力します（例：Normal Case）。 3.[Users] タブをクリックし、コントロールを使用して、このポリシーを適用するユーザーやグループを追加します。 4.[Rules] タブをクリックし、[Add/Remove Rules] ボタンをクリックして上記で作成したルールを追加します。 5.[Apply] をクリックし、[OK] をクリックします。

Linux または Unix 上での Netegrity SiteMinder Web Agent (5.5 SP3 または 6.0) の設定

SiteMinder Web Agent をセットアップするには次を行います。

1. まだインストールしていない場合は、ポータルのホスト コンピュータに Apache HTTPd をインストールします。詳細については、『*Plumtree Foundation インストール ガイド*』を参照してください。
2. ポータルのホスト コンピュータに次をインストールします。

次のコンポーネントをインストールします。

- SiteMinder Web Agent 5.5
- SiteMinder Web Agent 5.5 Quarterly Maintenance Release (QMR) 6
- SiteMinder Web Agent 5.5 QMR 6 CR007

上記の代わりに次のコンポーネントをインストールすることも可能です。

- SiteMinder Web Agent 6.0
- SiteMinder Web Agent 6.0 Quarterly Maintenance Release (QMR) 2
- SiteMinder Web Agent 6.0 QMR 2 CR005

Netegrity SiteMinder コンポーネントのインストール方法の詳細については、Netegrity のカスタマーケア ウェブサイト や Netegrity SiteMinder のマニュアルを参照してください。

SiteMinder Web Agent、Web Agent QMR とホットフィックスのインストール例については、プラムツリーのナレッジベースの記事 DA_236222、「Netegrity Siteminder 5.5 Web Agent Installation Tips」(英語) を参照してください。

3. SiteMinder の設定ユーティリティを起動します。例えば、コマンドラインから次を入力することによって起動できます。

```
./nete-wa-config
```

プロンプトが表示された際は、必要な設定を入力してください。下記のオブジェクトについては、上記の節で設定したものと同一設定を指定する必要があります。

- Policy Server IP Address
- Host Configuration Object name

プロンプトが表示された際は、Apache ウェブ サーバーのルート ディレクトリの場所を入力します (例: **/opt/httpd/**)。

4. Netegrity の環境スクリプトを source コマンドで実行します。コマンドラインから次を入力します。

```
source /opt/netegrity/siteminder/webagent/nete_wa_env.sh
```

5. SiteMinder Web Agent を有効化するために、Apache ウェブ サーバーの **httpd.conf** 設定ファイルを編集します。以下の抜粋は、SiteMinder Web Agent を有効化するための **httpd.conf** ファイルの例です。

```
...
LoadModule sm_module /opt/netegrity/siteminder/webagent/lib/mod2_sm.so
...
# SSO Configuration
```

```

SmInitFile /opt/httpd/conf/WebAgent.conf
Alias /siteminderagent/pwcgi/ "/opt/netegrity/siteminder/webagent/pw"
<Directory "/opt/netegrity/siteminder/webagent/pw">
    Options Indexes MultiViews ExecCGI
    AllowOverride None
    Order allow,deny
    Allow from all
</Directory>

Alias /siteminderagent/pw/ "/opt/netegrity/siteminder/webagent/pw"
<Directory "/opt/netegrity/siteminder/webagent/pw">
    Options Indexes MultiViews ExecCGI
    AllowOverride None
    Order allow,deny
    Allow from all
</Directory>

Alias /siteminderagent/ "/opt/netegrity/siteminder/webagent/samples/"
<Directory "/opt/netegrity/siteminder/webagent/samples/">
    Options Indexes MultiViews
    AllowOverride None
    Order allow,deny
    Allow from all
</Directory>

##SITEMINDER .exe ##
AddHandler cgi-script .exe

##SITEMINDER .fcc ##
AddHandler smformsauth-handler .fcc

##SITEMINDER .scc ##
AddHandler smadvancedauth-handler .scc

##SITEMINDER .ccc ##
AddHandler smcookieprovider-handler .ccc

```

...

SiteMinder Web Agent を設定する行は、**bea.conf** などのウェブ アプリケーション サーバー設定 ファイルを記述した行の *前*に記述する必要があります。

6. **/opt/httpd/conf/WebAgent.conf** 中の次の設定を編集します。

この設定を確認： `enablewebagent="YES"`

この設定を追加： `ServerPath="/opt/httpd/conf/httpd.conf"`

7. Apache ウェブ サーバーを再起動させます。

Windows 上での Netegrity SiteMinder Web Agent (5.5 SP3 または 6.0) の設定

貴社の導入環境用に SiteMinder Web Agent を設定するには、次を行います。

1. ポータルと同じホストに Web Agent のセットアップ プログラムをインストールします。サポートされている Netegrity のバージョンについては、[D-14 ページ](#)を参照してください。
2. セットアップが完了した後、Web Agent Configuration Wizard を実行するように指示されます。後でウィザードを実行する場合は、[**スタート | プログラム | SiteMinder | Web Agent Configuration Wizard**] メニューを選択することによってウィザードを開くことができます。
3. ウィザードの指示に従って、下記のオブジェクトに対して上記の節で設定した設定を指定します。
 - Policy Server IP Address
 - Host Configuration Object name
4. `<siteminder_webagent_install_location>\IIS\bin\WebAgent.conf` ファイルで、**EnableWebAgent** パラメータを `yes` に設定します。

Oblix 認証プロバイダの設定

Oblix 6.5、7.0、7.0.4 との SSO 統合は、プラムツリーにおいて確認済みです。

プラムツリー ポータル用に Oblix のコンポーネント を設定するには、次の基本手順に従ってください。

1. Oblix スイート 6.5、7.0、または 7.0.4 をインストールし、設定します。詳細については、[「Tomcat 上で稼動するポータルに対する Oblix Access Server の設定」、D-16 ページ](#)または [「IIS 上で稼動するポータルに対する Oblix Access Server の設定」、D-18 ページ](#)を参照してください。
2. 対応する Oblix Webgate for Apache をインストールし、設定します。詳細については、[「Oblix WebGate を Apache 用に設定する方法」、D-21 ページ](#)を参照してください。

Tomcat 上で稼動するポータルに対する Oblix Access Server の設定

Tomcat 上で稼動するポータル用に Oblix Access Server を設定するには、次の基本手順を行います。

1. Oblix スイート 6.5、7.0、または 7.0.4 をインストールします。各 Oblix スイートには、COREid、WebPass、Access Server と Access Manager がコンポーネントとして含まれています。

Oblix 製品のインストールに関する情報については、Oblix の製品マニュアルを参照してください。

2. NetPoint Access Manager を開きます（通常は、`http://oblix_access_server:port/access/oblix`）。
3. 以下の順番で、オブジェクトを作成します。

表 D-8 : Oblix NetPoint Policy Server でオブジェクトを作成する手順

オブジェクト	オブジェクトを作成する方法
ポリシー ドメイン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 左枠で、[Create Policy Domain] をクリックします。 2. ポリシー ドメインの記述名を入力し、[Save] をクリックします。 3. [Modify] をクリックします。 4. ポリシー ドメインを有効し、[Save] をクリックします。

表 D-8 : Oblix NetPoint Policy Server でオブジェクトを作成する手順

オブジェクト	オブジェクトを作成する方法
HTTP リソース	<ol style="list-style-type: none"> 1.[Resources] タブをクリックし、[Add] をクリックします。 2.[Resource] ドロップダウン リストで、[HTTP] を選択します。 3.[URL-prefix] ドロップダウン リストで、スラッシュ (/) を選択し、portal と入力します。 4.[Save] をクリックします。
ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1.[Policies] タブをクリックし、[Add] をクリックします。 2.[Name] ボックスにオブジェクトの記述名を入力します（例：allow access）。 3.[Resource Type] ドロップダウン リストで、[HTTP] を選択します。 4.[Resource Operations] で、[GET] と [POST] をクリックします。 5.[Resource] で、[all] を選択します。 6.[URL Pattern] フィールドに次を入力します。 {SSOServlet[;!*],SSOServlet/.../*,SSOServlet} この場合、「SSOServlet」という文字列および「SSOServlet」の変形を含む URL に対して、強制的に認証が行われます。 URL pattern を指定しなかった場合、Oblix は、すべての要求に対して認証プロンプトを表示します。この場合、ポータルへのゲスト アクセスが使用できなくなります。 7.その他のフィールドは空白のままにし、[Save] をクリックします。
許可ルール	<p>Oblix サーバーは、これらのルールを解析し、ユーザー名属性をポータルに送信します。これにより、ユーザーは、役割、権限、表示等が定義された既知のユーザーとしてログインすることが可能になります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.[Authorization Rules] タブをクリックし、[Add] をクリックします。 2.[Name] ボックスにルールの記述名を入力します（例：allow everyone rule）。 3.ルールを有効し、[Save] をクリックします。 4.[Allow Access] サブタブをクリックし、[Add] をクリックして、このリソースへのアクセスを許可するユーザーやグループを追加するためのコントロールを表示します。 5.必要なユーザーとグループを追加します。ここでは、ポータルへのアクセスを必要とするすべてのユーザーとグループを含める必要があります。[Role] ドロップダウンを [Anyone] に変更し、[Save] をクリックします。 <p>注意：ここで表示されるユーザーの名前は、Oblix へのログインに<input type="text"/>する名前とは必ずしも一致していません。</p>

表 D-8 : Oblix NetPoint Policy Server でオブジェクトを作成する手順

オブジェクト	オブジェクトを作成する方法
デフォルトのルール	<ol style="list-style-type: none"> 1. [Default Rules] タブをクリックし、[Add] をクリックします。 2. [Authentication Rule] サブタブで、名前と説明を入力します。 3. [Authentication Scheme] ドロップダウン メニューで、[NetPoint None Authentication] を選択します。これは、Oblix のインストール時に自動的に作成される認証スキームです。 4. [Save] をクリックします。 5. [Authorization Expression] サブタブをクリックし、[Add] をクリックします。 6. [Expression] サブタブで、上記で作成した [Allow Everyone Rule] を追加します（あるいは、上記でルールに違う名前を付けた場合は、その名前を選択します）。[Authorization Expression] ボックスに表示されるようにするには、[Add] をクリックする必要があります。 7. [Actions] サブタブをクリックし、[Add] をクリックします。 8. [Authorization Success] の下の最終行にある次のフィールドに入力します。 <ul style="list-style-type: none"> o [Type] には、headerVar のような記述名を入力します。 o [Name] には、UID と入力します。 o [Return Attribute] には、ポータルに送信する UID ヘッダの値を入力します。これは、通常、LDAP を使用している場合は、UID、Active Directory を使用している場合は、samaccountname になります。 9. [Save] をクリックします。
認証ルール	<ol style="list-style-type: none"> 1. [Policies] タブをクリックします。 2. 上記で作成したポリシーの名前をクリックして選択します。 3. [Authentication Rule] サブタブをクリックし、貴社の構成に適合したメソッド（例えば Basic over LDAP）を追加します。 注意： Basic over LDAP は、Oblix のインストール時に作成されるルールです。このメソッドが表示されない場合は、Oblix が正しくインストールされていません。 4. [Save] をクリックします。

IIS 上で稼動するポータルに対する Oblix Access Server の設定

IIS 上で稼動するポータル用に Oblix Access Server を設定するには、次の基本手順を行います。

1. Oblix スイート 6.5、7.0、または 7.0.4 をインストールします。各 Oblix スイートには、COREid、WebPass、Access Server と Access Manager がコンポーネントとして含まれています。

Oblix 製品のインストールに関する情報については、Oblix の製品マニュアルを参照してください。
2. NetPoint Access Manager を開きます（通常は、http://oblix_access_server:port/access/oblix）。

3. 以下の順番で、オブジェクトを作成します。

表 D-9 : Oblix NetPoint Policy Server でオブジェクトを作成する手順

オブジェクト	オブジェクトを作成する方法
ポリシー ドメイン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 左枠で、[Create Policy Domain] をクリックします。 2. ポリシー ドメインの記述名を入力し、[Save] をクリックします。 3. [Modify] をクリックします。 4. ポリシー ドメインを有効し、[Save] をクリックします。
HTTP リソース	<ol style="list-style-type: none"> 1. [Resources] タブをクリックし、[Add] をクリックします。 2. [Resource] ドロップダウン リストで、[HTTP] を選択します。 3. [URL-prefix] ドロップダウン リストで、スラッシュ (/) を選択し、その隣のテキストボックスに SSO 仮想ディレクトリへのパスを入力します。例えば、一般的なプラムツリー環境では、portal/sso と入力します。 注意：サーバーへのフルパスは入力しないでください。 4. [Save] をクリックします。
ポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1. [Policies] タブをクリックし、[Add] をクリックします。 2. [Name] ボックスにオブジェクトの記述名を入力します（例：allow access）。 3. [Resource Type] ドロップダウン リストで、[HTTP] を選択します。 4. [Resource Operations] で、[GET] と [POST] をクリックします。 5. [Resource] で、上記で作成したリソースを選択します（この例では、/portal/sso）。 6. その他のフィールドは空白のままにし、[Save] をクリックします。

表 D-9 : Oblix NetPoint Policy Server でオブジェクトを作成する手順

オブジェクト	オブジェクトを作成する方法
許可ルール	<p>Oblix サーバーは、これらのルールを解析し、ユーザー名属性をポータルに送信します。これにより、ユーザーは、役割、権限、表示等が定義された既知のユーザーとしてログインすることが可能になります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [Authorization Rules] タブをクリックし、[Add] をクリックします。 2. [Name] ボックスにルールの記述名を入力します（例：forward user name）。 3. ルールを有効し、[Save] をクリックします。 4. [Actions] をクリックし、[Add] をクリックします。 5. [Authorization Success] の下の最終行にある次のフィールドに入力します。 <ul style="list-style-type: none"> o [Type] には、headerVar のような記述名を入力します。 o [Name] には、UID と入力します。 o [Return Attribute] には、ユーザー ディレクトリ内のユーザー名にマップするために認証元が使用する属性の名前を入力します。例えば、IPlanet LDAP は、デフォルトで uid 属性を使用します。その他の LDAP リポジトリと Active Directory は、デフォルトで cn または samaccountname を使用します。 <p>注意： アクションが値を返すように設定しないでください。</p> 6. [Save] をクリックします。 7. [Allow Access] サブタブをクリックし、[Add] をクリックして、このリソースへのアクセスを許可するユーザーやグループを追加するためのコントロールを表示します。 8. 必要なユーザーとグループを追加します。ここでは、ポータルへのアクセスを必要とするすべてのユーザーとグループを含める必要があります。 9. [Save] をクリックします。

表 D-9 : Oblix NetPoint Policy Server でオブジェクトを作成する手順

オブジェクト	オブジェクトを作成する方法
認証ルール	<ol style="list-style-type: none"> 1. [Policies] タブをクリックします。 2. 上記で作成したポリシーの名前をクリックして選択します。 3. [Authentication Rule] サブタブをクリックし、貴社の構成に適合したメソッド（例えば Basic over LDAP）を追加します。 注意： Basic over LDAP は、Oblix のインストール時に作成されるルールです。このメソッドが表示されない場合は、Oblix が正しくインストールされていません。 4. [Save] をクリックします。 5. [Authorization Expression] サブタブをクリックし、[Add] をクリックします。 6. [Select the Authorization Rule] ボックスで、上記で作成したルールを選択します。 7. [Save] をクリックします。

Oblix WebGate を Apache 用に設定する方法

貴社の Oblix スイートと互換性のある Oblix WebGate のバージョンを使用してください。例えば、Oblix NetPoint 6.5 を使用している場合は、Oblix WebGate 6.5 を使用してください。Oblix Coreid 7.0 を使用している場合は、Oblix WebGate 7.0 を使用してください。

Apache 用に Oblix WebGate を設定するには、次を行います。

1. Oblix WebGate に必要な Apache のバージョンをポータルのホスト コンピュータにインストールします。
 - WebGate 6.5 の場合は、Apache 1.3 をインストールします。
 - WebGate 7.0 または 7.0.4 の場合は、Apache 1.3 または Apache 2.0 をインストールします。

注意： プラムツリーによって提供されている Apache のバージョン（詳細については、『*Plumtree Foundation インストールガイド*』を参照）は、Oblix WebGate には使用できません。必要なバージョンの Apache を Apache のウェブ サイトからダウンロードする必要があります。
2. ポータルのホスト コンピュータで、Apache 用の Oblix WebGate をインストールします。詳細については、Oblix の資料を参照してください。
3. ポータルのホスト コンピュータ上の、ポータル アプリケーションが導入されているウェブ アプリケーション サーバーで、URL のリライトをオフにするようにウェブ アプリケーション サーバー設定を編集します。

ウェブ アプリケーション サーバーを編集して URL のリライトをオフにする方法については、ウェブ アプリケーション サーバーの資料かプラムツリー ナレッジ ベースの記事 A_239501、「Configuring Web Application Servers to not Rewrite URLs」（英語）を参照してください。

リモート サーバーと使用するために Oblix WebGate を設定する方法

SSO トークンをリモート層に委任するには、WebGate をインストールしているすべてのリモート ポータル サーバーに対して次の手順を行います。この手順によって、WebGate 設定ファイルの IP 認証がオフになります。

IP 認証をオフにするには次を行います。

1. `../netpoint/webcomponent/access/oblix/apps/webgate/` ディレクトリの `webgatestatic.lst` ファイルを開きます。
2. ファイルの最初にある **IPValidation** を **false** に設定します。このファイルの最初を以下のように編集します。

```
BEGIN:vCompoundList
DenyOnNotProtected:false
CachePragmaHeader:no-cache
CacheControlHeader:no-cache
IPValidation:false
```
3. `webgatestatic.lst` ファイルを保存し、リモート サーバーを再起動します。ポータルを再起動する必要はありません。

他の認証プロバイダとの統合

プラムツリーの製品には、他の認証ベンダー用の統合機能は、標準装備されていません。しかし、以下の SSO 設定オプションを使用することによって他のベンダー製品と統合することが可能です。

- **BasicSSO:** プラムツリーがサポートしていない認証サーバーに対して SSO を導入する場合は、なるべく BasicSSO を使用することをお勧めします。

BasicSSO を使用するには、以下の基本手順に従ってください。

1. ベンダーの資料の説明に従って認証サーバーをインストールし、設定します。
 2. [「認証元の設定」、D-23 ページ](#) の標準手順に従って認証元を設定します。
 3. [「BasicSSO に必要なポータルの設定」、D-24 ページ](#) の説明に従って、BasicSSO 専用の設定手順を実行します。
- **CustomSSO:** プラムツリーがサポートしていない認証サーバーに対して SSO を導入する場合は、なるべく BasicSSO を使用することをお勧めします。必要な SSO ソリューションを導入するために、BasicSSO では不十分である場合のみ CustomSSO を使用してください。

CustomSSO を使用するには、次の基本手順に従ってください。

1. ベンダーの資料の説明に従って認証サーバーをインストールし、設定します。
2. [「認証元の設定」、D-23 ページ](#) の標準手順に従って認証元を設定します。
3. [「CustomSSO に必要なポータルの設定」、D-32 ページ](#) の説明に従って、CustomSSO 専用の設定手順を実行します。

CustomSSO 統合コードの開発に関する情報については、「[Developing Custom SSO Objects to Integrate Third-Party SSO Servers with the Portal: DA_217750](#)」（英語）というナレッジベースの記事を参照してください。

認証元の設定

ポータルで、SSO 用の認証元を設定するには、以下の表の手順に従ってください。

表 D-10：ポータルで、SSO 用の認証元を設定するための手順

手順	内容
認証 ウェブ サービス (AWS) を設定し、SSO に使用するためにその認証元を選択します。	<p>詳細な手順については、「認証元からのユーザーとグループのインポート」、3-10 ページを参照してください。</p> <p>注意： リモート サーバーとウェブ サービスを設定する際は、「SSO 認証プロバイダをポータルで使用するための設定」、D-1 ページ で設定した SSO パートナー用の設定を指定する必要があります。</p> <p>注意： 認証元を設定する際は、次を行う必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [メイン設定] ページの [カテゴリ] に文字列を入力します。この文字列をメモしておいてください。ほとんどの場合、この文字列を portalconfig.xml ファイルの DefaultAuthSourcePrefix 要素の値として設定する必要があります。 • [同期] ページの [この認証元でサポートする操作] セクションで、[同期] を選択します。 • [同期] ページの [認証パートナー] ドロップダウンリストから、[SSO 認証元] を選択します。 • 同期のその他の設定を必要に応じて設定します。ただし、ユーザー認証は設定しないでください。

SSO に必要なポータルの設定

この節では、以下のケースにおいて、ポータル設定を編集して SSO を導入する方法について説明します。

- [「BasicSSO に必要なポータルの設定」](#)、D-24 ページ
- [「Netegrity の認証サーバーとの統合に必要なポータルの設定」](#)、D-29 ページ
- [「Oblivion の認証サーバーとの統合に必要なポータルの設定」](#)、D-30 ページ
- [「CustomSSO に必要なポータルの設定」](#)、D-32 ページ



重要： SSO を導入する個々のポータルに、この節で説明する適切な SSO 要素を設定する必要があります。

BasicSSO に必要なポータルの設定

プラムツリーは、任意の認証元との統合を可能にするビルトインの BasicSSO サービスを提供しています。BasicSSO サービスを設定するには、ポータルが、[「認証元の設定」](#)、[D-23 ページ](#)で設定したリモート認証元または LDAP 認証元から認証情報を取得できるようにするために、**portalconfig.xml** を設定します。

portalconfig.xml の設定

以下の表の説明に従って、**portalconfig.xml** ファイルの **<Authentication>** セクションの下の要素を設定してください。

表 D-11 : *portalconfig.xml* の中の SSO 要素

要素	値
SSOVendor	<SSOVendor value="50"/>
DefaultAuthSourcePrefix	<p>PrefixHeader 要素の値が、リモート認証元または LDAP 認証元に対して設定した認証元のカテゴリの文字列と一致している場合は、この要素を省略することができます。</p> <p>それ以外の場合は、この要素の値を認証元のカテゴリに設定した文字列に設定します。</p> <p>例えば、認証元のカテゴリに設定した文字列が、HQ である場合は、下記の例のように、DefaultAuthSourcePrefix を HQ に設定します。</p> <pre><DefaultAuthSourcePrefix value="HQ"/></pre> <p>認証元の設定に関する詳細については、「認証元からのユーザーとグループのインポート」、3-10 ページを参照してください。</p>
CookiePath	<p>この値を / に設定します。ご使用の SSO 認証元において異なる表記が必要である場合以外は上記の値を設定してください。</p> <p>例: <CookiePath value="/" /></p>

表 D-11 : portalconfig.xml の中の SSO 要素

要素	値
CookieDomain	<p>この要素の値には、クッキーを転送する完全修飾ドメインの名前を設定します。例えば、<code>.company.com</code> を指定した場合、クッキーにより、company.com で終わるすべてのドメインへのアクセスが可能になります。一方、<code>sub.company.com</code> を指定した場合、クッキーにより、sub.company.com で終わるドメインのみへのアクセスが可能になります。</p> <p>この文字列は、ピリオド「<code>.</code>」で始まり、2 つ以上のピリオドが含まれている必要があります。</p> <p>例：</p> <pre><CookieDomain value=".company.com"/></pre>
SSOCookieIsSecure	<p>この要素の値は 0 または 1 に設定します。</p> <p>0（デフォルト値）に設定した場合は、クッキーの転送に必要なリモート サーバーとの接続に、SSL を使用する必要がないことを示します。</p> <p>1 は、SSL が必要であることを示します。</p> <p>例：</p> <pre><SSOCookieIsSecure value="0"/></pre>

次の設定によって、BasicSSO が使用できるようになります。

```
<SSOVendor value="50"/>
<DefaultAuthSourcePrefix value=""/>
<CookiePath value="/" />
<CookieDomain value=".it.company.com"/>
<SSOCookieIsSecure value="0"/>
```

次に、以下の表の説明と例に従って、**portalconfig.xml** ファイルの **<vendorSettings>** 要素の属性を編集してください。

表 D-12 : <vendorSettings> 要素

要素	値
NameHeader	<p>この要素の値を認証サーバーがポータルに送信するユーザー名ヘッダの名前に設定します。</p> <p>この値は、正当なヘッダ名である必要があります。</p> <p>Base64 復号の認証ヘッダからユーザー名を抽出する場合は、Authorization に設定します。</p> <p><UseRemoteUser> が指定されていないか、0 に設定されている場合は、<NameHeader> に有効な値を設定する必要があります。</p>
PrefixHeader	<p>リモート ポートレットのログイン認証に認証元プレフィックスが必要な場合は、認証元プレフィックスを格納したヘッダの名前をこの要素の値に設定します。</p> <p>Base64 復号の認証ヘッダからプレフィックスを抽出する場合は、Authorization に設定します。</p> <p><PrefixHeader> は、空白の文字列に設定することも可能ですが、必ず portalconfig.xml に含める必要があります。</p>
PasswordHeader	<p>リモート ポートレットのログイン認証にパスワードが必要な場合は、パスワードを格納したヘッダの名前をこの要素の値に設定します。</p> <p>Base64 復号の認証ヘッダからパスワードを抽出する場合は、Authorization に設定します。</p> <p><PasswordHeader> は、空白の文字列に設定することも可能ですが、必ず portalconfig.xml に含める必要があります。</p>
Cookie	<p>リモート ポートレットのログイン認証にクッキーが必要な場合は、クッキーを格納したヘッダの名前をこの要素の値に設定します。</p> <p>下記のフォーマットを使用して、0、1 つまたは複数のエントリを設定できます。</p> <pre><setting name="Cookie"> <value xsi:type="xsd:string">ssocookie1;ssocookie2</value> </setting></pre> <p>portalconfig.xml ファイルで、クッキーの属性を設定する必要があります。詳細については、「portalconfig.xml の設定」、D-24 ページを参照してください。</p>

表 D-12 : <vendorSettings> 要素

要素	値
SecureHeader	<p>リモート ポートレットには送信しないヘッダの名前をこの要素の値に設定します。</p> <p>指定した値は、プレフィックスとして解釈されます。すなわち、ここで指定した値で始まるヘッダは転送されません。</p> <p>0、1 つまたは複数のエントリを設定できます。</p>
UseRemoteUser	<p>認証済みユーザーの名前を、ユーザー名ヘッダからではなくサーバー変数から抽出する場合は、<UseRemoteUser value="1"/> のように設定します。Java の実装においては、サーバー変数は REMOTE_USER です。</p> <p>.NET においては、サーバー変数は AUTH_USER です。</p> <p>この値は、デフォルトで 0（使用しない）に設定されています。</p> <p><NameHeader> が指定されていない場合は、<UseRemoteUser> の値を 1 に設定する必要があります。</p>

以下の例では、BasicSSO の要素の要約を示します。

```
<vendorSettings>
  <NameHeader value="pt_user"/>
  <PrefixHeader value="pt_domain"/>
  <PasswordHeader value="pt_password"/>
  <Cookie value="PTSSOCookie"/>
  <SecureHeader value="authorization"/>
</vendorSettings>
```

認証済みユーザーの名前を、ユーザー名ヘッダからではなくサーバー変数から抽出する場合は、次の設定を使用します。

```
<vendorSettings>
  <UseRemoteUser value="1"/>
</vendorSettings>
```

WIA との統合の設定

プラムツリー製品には、WIA 用の統合機能が標準装備されています。したがって、WIA との SSO 統合を設定するには、BasicSSO サービスを設定するのではなく、この節の手順に従ってください。

[『認証元の設定』、D-23 ページ](#) で認証元を設定した際に、認証元のカテゴリで Windows NT ドメイン名を指定した場合は、**portalconfig.xml** の要素のみ設定する必要があります。

portalconfig.xml の設定

以下の表の説明と例に従って、**portalconfig.xml** ファイルの **<Authentication>** セクションの下の要素を設定してください。

表 D-13 : portalconfig.xml の中の SSO 要素

要素	値
SSOVendor	<SSOVendor value="5"/>
DefaultAuthSourcePrefix	<p>リモート認証元の設定において、認証元のカテゴリを適切な Windows NT ドメイン名に設定した場合はこの要素を省略することができます。</p> <p>例えば、Windows ドメイン名が USA で、認証元のカテゴリの文字列が USA の場合は、この要素を空白のままにすることができます。</p> <p>認証元のカテゴリを Windows NT ドメイン名以外の値に設定した場合は、その文字列を指定する必要があります。</p> <p>例えば、認証元のカテゴリに設定した文字列が、HQ である場合は、下記の例のように、DefaultAuthSourcePrefix を HQ に設定します。</p> <pre><DefaultAuthSourcePrefix value="HQ"/></pre> <p>さらに、<UseDomain value="0"/> のように設定します。</p> <p>認証元の設定に関する詳細については、「認証元からのユーザーとグループのインポート」、3-10 ページを参照してください。</p>

下記に、WIA との統合を設定する例を示します。

```
<SSOVendor value="5"/>
<DefaultAuthSourcePrefix value=""/>
```

次に、(必要な場合は) 以下の表の説明と例に従って、**portalconfig.xml** ファイルの **<vendorSettings>** 要素の属性を編集してください。

表 D-14 : <vendorSettings> 要素

要素	値
UseDomain	<p>認証元のカテゴリ を Windows NT ドメイン名に設定した場合は、この要素を設定する必要はありません。</p> <p>認証元のカテゴリ を Windows NT ドメイン名以外の値に設定した場合は、次のように設定します。<UseDomain value="0"/></p> <p>さらに、「portalconfig.xml の設定」、D-28 ページ の説明に従って、portalconfig.xml の <DefaultAuthSourcePrefix> 要素を設定する必要があります。</p>

下記の例では、WIA の統合の設定に必要な要素の要約を示します。

```
<vendorSettings>
  <UseDomain value="0"/>
</vendorSettings>
```

Netegrity の認証サーバーとの統合に必要なポータルの設定

プラムツリー製品には、Netegrity の認証サーバー用の統合機能が標準装備されています。したがって、Netegrity の認証サーバーとの SSO 統合を設定するには、BasicSSO サービスを設定するのではなく、この節の手順に従ってください。

以下の表の説明と例に従って、**portalconfig.xml** ファイルの **<Authentication>** セクションの下の要素を設定してください。

表 D-15 : portalconfig.xml の中の SSO 要素

要素	値
SSOVendor	<SSOVendor value="2"/>
DefaultAuthSourcePrefix	<p>認証元を設定する際に入力した認証元のカテゴリの値に一致する文字列をこの要素の値に設定します。</p> <p>例えば、認証元のカテゴリに設定した文字列が、HQ である場合は、下記の例のように、DefaultAuthSourcePrefix を HQ に設定します。</p> <pre><DefaultAuthSourcePrefix value="HQ"/></pre> <p>認証元の設定に関する詳細については、「認証元からのユーザーとグループのインポート」、3-10 ページを参照してください。</p>

表 D-15 : portalconfig.xml の中の SSO 要素

要素	値
CookiePath	<p>この値を / に設定します。ご使用 の SSO 認証元において異なる表記が必要である場合以外は上記の値を設定してください。</p> <p>例 :</p> <pre><CookiePath value="/" /></pre>
CookieDomain	<p>この要素の値には、クッキーを転送する完全修飾ドメインの名前を設定します。例えば、.company.com を指定した場合、クッキーにより、company.com で終わるすべてのドメインへのアクセスが可能になります。一方、sub.company.com を指定した場合、クッキーにより、sub.company.com で終わるドメインのみへのアクセスが可能になります。</p> <p>この文字列は、ピリオド「.」で始まり、2 つ以上のピリオドが含まれている必要があります。</p> <p>例 :</p> <pre><CookieDomain value=".company.com" /></pre>
SSOCookieIsSecure	<p>この要素の値は 0 または 1 に設定します。</p> <p>0 (デフォルト値) に設定した場合は、クッキーの転送に必要なリモート サーバーとの接続に、SSL を使用する必要がないことを示します。</p> <p>1 は、SSL が必要であることを示します。</p> <p>例 :</p> <pre><SSOCookieIsSecure value="0" /></pre>

下記に、Netegrity の認証サーバーとの統合を設定する例を示します。

```
<SSOVendor value="2" />
<DefaultAuthSourcePrefix value="HQ" />
<CookiePath value="/" />
<CookieDomain value=".company.com" />
<SSOCookieIsSecure value="0" />
```

Oblix の認証サーバーとの統合に必要なポータルの設定

プラムツリー製品には、Oblix の認証サーバー用の統合機能が標準装備されています。したがって、Oblix の認証サーバーとの SSO 統合を設定するには、BasicSSO サービスを設定するのではなく、この節の手順に従ってください。

注意 : デフォルトで、ポータルは、Oblix サーバーから **uid** というユーザー名ヘッダを受信するように設定されています。異なるユーザー名ヘッダを転送するように Oblix サーバーを設定している場

合は、BasicSSO サービスとして SSO を実装する必要があります。BasicSSO サービスに関する情報については、[「BasicSSO に必要なポータルの設定」、D-24 ページ](#) を参照してください。

以下の表の説明と例に従って、**portalconfig.xml** ファイルの **<Authentication>** セクションの下の要素を設定してください。

表 D-16 : portalconfig.xml の中の SSO 要素

要素	値
SSOVendor	<code><SSOVendor value="3"/></code>
DefaultAuthSourcePrefix	<p>認証元を設定する際に入力した認証元のカテゴリの値に一致する文字列をこの要素の値に設定します。</p> <p>例えば、認証元のカテゴリに設定した文字列が、HQ である場合は、下記の例のように、DefaultAuthSourcePrefix を HQ に設定します。</p> <pre><DefaultAuthSourcePrefix value="HQ"/></pre> <p>認証元の設定に関する詳細については、「認証元からのユーザーとグループのインポート」、3-10 ページ を参照してください。</p>
CookiePath	<p>この値を / に設定します。ご使用 の SSO 認証元において異なる表記が必要である場合以外は上記の値を設定してください。</p> <p>例：</p> <pre><CookiePath value="/" /></pre>
CookieDomain	<p>この要素の値には、クッキーを転送する完全修飾ドメインの名前を設定します。例えば、.company.com を指定した場合、クッキーにより、company.com で終わるすべてのドメインへのアクセスが可能になります。一方、sub.company.com を指定した場合、クッキーにより、sub.company.com で終わるドメインのみへのアクセスが可能になります。</p> <p>この文字列は、ピリオド「.」で始まり、2 つ以上のピリオドが含まれている必要があります。</p> <p>例：</p> <pre><CookieDomain value=".company.com"/></pre>

表 D-16 : portalconfig.xml の中の SSO 要素

要素	値
SSOCookieIsSecure	<p>この要素の値は 0 または 1 に設定します。</p> <p>0 (デフォルト値) に設定した場合は、クッキーの転送に必要なリモート サーバーとの接続に、SSL を使用する必要がないことを示します。</p> <p>1 は、SSL が必要であることを示します。</p> <p>例 :</p> <pre><SSOCookieIsSecure value="0"/></pre>

下記に、Obliv の認証サーバーとの統合を設定する例を示します。

```
<SSOVendor value="3"/>
<DefaultAuthSourcePrefix value="HQ"/>
<CookiePath value="/" />
<CookieDomain value=".company.com"/>
<SSOCookieIsSecure value="0"/>
```

CustomSSO に必要なポータルの設定

プラムツリーは、貴社によって開発された統合コードを使用して、プラムツリーがサポートしていない認証サーバーとのカスタム統合を実装することをサポートします。CustomSSO 統合コードの開発に関する情報については、「Developing Custom SSO Objects to Integrate Third-Party SSO Servers with the Portal: DA_217750」(英語) というナレッジベースの記事 を参照してください。

CustomSSO サービスによる統合を設定するには、BasicSSO サービスを設定するのではなく、この節の手順に従ってください。

以下の表の説明と例に従って、portalconfig.xml ファイルの **<Authentication>** セクションの下の要素を設定してください。

表 D-17 : portalconfig.xml の中の SSO 要素

要素	値
SSOVendor	<pre><SSOVendor value="100"/></pre> (または 100 以上の任意の値)
CustomSSOClass	<p>この要素の値を SSO 認証サーバーをポータルと統合するために開発したオブジェクトの完全修飾クラス名に設定します。</p> <p>例 :</p> <pre><CustomSSOClass value="com.plumtree.portaluiinfrastructure.sso.integrations.SSOTest"/></pre>

表 D-17 : portalconfig.xml の中の SSO 要素

要素	値
CustomSSOAssembly	<p>(.NET のみ)</p> <p>この値を CustomSSOClass 要素に指定した .NET クラスを含むアセンブリの名前に設定します。</p> <p>例 :</p> <pre><CustomSSOAssembly value="portaluiinfrastructure"/></pre>
DefaultAuthSourcePrefix	<p>認証元を設定する際に入力した認証元のカテゴリの値に一致する文字列をこの要素の値に設定します。</p> <p>例えば、認証元のカテゴリに設定した文字列が、HQ である場合は、下記の例のように、DefaultAuthSourcePrefix を HQ に設定します。</p> <pre><DefaultAuthSourcePrefix value="HQ"/></pre> <p>認証元の設定に関する詳細については、「認証元からのユーザーとグループのインポート」、3-10 ページを参照してください。</p>
CookiePath	<p>この値を / に設定します。ご使用 の SSO 認証元において異なる表記が必要である場合以外は上記の値を設定してください。</p> <p>例 :</p> <pre><CookiePath value="/" /></pre>
CookieDomain	<p>この要素の値には、クッキーを転送する完全修飾ドメインの名前を設定します。例えば、.company.com を指定した場合、クッキーにより、company.com で終わるすべてのドメインへのアクセスが可能になります。一方、sub.company.com を指定した場合、クッキーにより、sub.company.com で終わるドメインのみへのアクセスが可能になります。</p> <p>この文字列は、ピリオド「.」で始まり、2 つ以上のピリオドが含まれている必要があります。</p> <p>例 :</p> <pre><CookieDomain value=".company.com"/></pre>

表 D-17 : portalconfig.xml の中の SSO 要素

要素	値
SSOCookieIsSecure	<p>この要素の値は 0 または 1 に設定します。</p> <p>0 (デフォルト値) に設定した場合は、クッキーの転送に必要なリモート サーバーとの接続に、SSL を使用する必要がないことを示します。</p> <p>1 は、SSL が必要であることを示します。</p> <p>例 :</p> <pre><SSOCookieIsSecure value="0"/></pre>

下記に、.NET プラットフォーム上で、CustomSSO を使用し、プラムツリーがサポートしていない認証元との統合を実装するための設定の例を示します。

```
<SSOVendor value="100"/>
<CustomSSOClass
value="com.plumtree.portaluiinfrastructure.sso.integrations.SSOTest"/>
<CustomSSOAssembly value="portaluiinfrastructure"/>
<DefaultAuthSourcePrefix value="HQ"/>
<CookiePath value="/" />
<CookieDomain value=".company.com"/>
<SSOCookieIsSecure value="0"/>
```

下記に、Java プラットフォーム上で、CustomSSO を使用し、プラムツリーがサポートしていない認証元との統合を実装するための設定の例を示します。

```
<SSOVendor value="100"/>
<CustomSSOClass
value="com.plumtree.portaluiinfrastructure.sso.integrations.SSOTest"/>
<DefaultAuthSourcePrefix value="HQ"/>
<CookiePath value="/" />
<CookieDomain value=".company.com"/>
<SSOCookieIsSecure value="0"/>
```


この付録では、ポータル検索のデフォルトの動作について説明します。この情報は、オンライン ヘルプ にも記載されています。この付録には以下の節が含まれています。

- [「検索の種類」](#)
- [「検索構文」、E-2 ページ](#)
- [「結果のランキング」、E-11 ページ](#)
- [「基本検索の動作」、E-12 ページ](#)
- [「詳細検索の動作」、E-13 ページ](#)

検索の種類

ポータルは、一般ユーザー向けの基本検索ツールと上級ユーザー向けの詳細検索ツールを提供します。基本検索と詳細検索では、検索の構文や動作は基本的に同じですが、基本検索には、自動拡張機能、ランキング機能、構文の修正機能などが追加されています。以下の表に、ポータルの様々なエリアで提供されている検索ツールによって実行される検索の種類を示します。

ポータル エリア	検索の種類	説明
バナー 検索	基本	次のようなポータル オブジェクトを検索できます：バナー フィールド、ナレッジディレクトリ、ポートレット、コミュニティ、ユーザー、Collaboration アイテム、Publisher アイテム
詳細検索	詳細	特定のドキュメント プロパティまたはオブジェクト プロパティに対する複雑なクエリの組み合わせを実行できます。日付フィールドおよびテキスト フィールドに対する検索が可能です。特定のオブジェクト タイプに検索を絞り込むことも可能です。さらに、詳細検索では、すべてのインデックス可能なポータル オブジェクト（またはあらゆる組み合わせ）を検索することが可能です。これには、クローラ、ジョブ、ウェブサービスのようバナー検索では検索されない多くのオブジェクトが含まれます。

ポータル エリア	検索の種類	説明
ネットワーク検索	該当しない	ネットワーク検索では、複数の検索ウェブ サービスをクエリし、照合された結果を表示することができます。ポータル検索を検索サービスの 1 つとして含めることができます。このページからのポータル検索オプションは、基本検索と動作が類似していますが、ナレッジ ディレクトリのドキュメントのみが検索されます。また、検索サーバー設定ユーティリティで設定したスペル チェック、おすすめコンテンツ、およびその他のカスタマイズ設定は適用されません。
オブジェクトの選択	基本	エンドユーザーは、この検索機能を使用して、ポートレットをページに追加する際にポートレットを検索したり、コミュニティへの参加を設定する際にコミュニティを検索したりすることができます。
管理オブジェクトの検索	基本	この検索機能によって、管理者は、管理オブジェクトディレクトリを検索できます。オプションで、フォルダおよびオブジェクト タイプでフィルタできます。特定の種類のポータル オブジェクトを検索するための機能は、各種管理オブジェクトの作成機能と統合されています。例えば、リモート クローラを作成するとき、管理者は利用可能なデータソース オブジェクトを検索することができます。
フィルタ	詳細	この機能によって、ドキュメントをナレッジ ディレクトリ内の特定のフォルダに分類するために一致させる詳細検索クエリを作成することができます。
スナップショットクエリ	詳細	この検索クエリによって、ポータル オブジェクトを検索し、必要であれば結果をコンテンツ スナップショット ポートレットに表示する、あるいはユーザーにメールで送信するための条件を指定することができます。検索範囲を言語、オブジェクト タイプ、フォルダ、プロパティ、およびテキストといった条件によって絞り込むことができます。

検索構文

この節では、サポートされている検索構文と基本的な動作について説明します。以下のトピックについて説明します。

- [「演算子モード」](#)
- [「優先順位と丸括弧」、E-5 ページ](#)

- [「句読点」、E-6 ページ](#)
- [「大文字と小文字の区別」、E-7 ページ](#)
- [「ステミング（語幹処理）」、E-7 ページ](#)
- [「ワイルドカード」、E-7 ページ](#)
- [「引用句」、E-8 ページ](#)
- [「シソーラス辞書の拡張機能」、E-8 ページ](#)
- [「検索言語」、E-8 ページ](#)
- [「例」、E-9 ページ](#)

演算子モード

Search Service は、クエリを解析し、そのクエリに使用する演算子モードを下記から選択します。

- **bag-of-words**（単語のグループ）モード：クエリに検索演算子（+/-、AND、OR、NEAR、その他）が含まれていない場合、Search Service は、bag-of-words モードでクエリを解析します。その場合、クエリで指定されたすべての用語が含まれている結果のみが検索結果として返されます（すなわち、ブーリアンの AND 演算子が指定された場合と同じ結果になります）。
- **クエリ オペレータ モード**：クエリにクエリ演算子が含まれている場合、Search Service は、クエリ オペレータ モードでクエリを解析します。

AND、OR、NOT、および NEAR といった検索演算子は、特別な記述を使用しなくても認識されます（例えば、cat AND dog のように指定できます）。しかし、その他すべての演算子については、特別な意味を持っていることを認識させるためには、山形括弧で囲まなければなりません（例えば、<WORD> のように指定します）。

クエリで、3 つ 以上の用語と 1 つの演算子を指定した場合、演算子の両側の用語が引用符で囲まれている場合と同様に解析されます。例えば、

Search Service and Notification

と指定した場合、このクエリは次のように解析されます。

"Search Service" AND Notification

検索演算子がローカライズされているヨーロッパ言語は、英語、デンマーク語、オランダ語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ノルウェー語（ブークモール）、ノルウェー語（ニーノシュク）、ポルトガル語、スペイン語です。これらの言語のインタフェースで、演算子を山形括弧で囲んだ場合は、英語の演算子も認識されます。例えば、スペイン語ロケールでは、perro y gato、perro <AND> gato、perro gato のクエリの結果は同じになります。しかし、perro AND gato の場合、AND が山形括弧で囲まれていないため、スペイン語ロケールでは同一の結果になりません。

山形括弧で単語を囲んでも、その単語がサポートされている演算子の 1 つとして認識されなかった場合は無視されます。

- **インターネット スタイル モード**：Alta Vista や Google などのインターネット検索エンジンにおいて一般的に使用されている演算子がクエリに含まれている場合、Search Service は、その検索をインターネット スタイル モードで解析します。その場合、用語の前にプラス記号（+）がある場合、その用語は検索結果に含まれます。用語の前にマイナス記号（-）がある場合、その用語は除外されま

す。クエリ内の 1 つ以上の用語の前に + がある場合、用語の前に + または - が付いてないすべての用語は、結果のランキングを引き上げるために使用されますが、含まれている必要はありません。例えば、

```
+dog -cat bird
```

の場合、*dog* は含まれているが、*cat* は含まれていないドキュメントが検索結果として返されます。さらに、*dog* と *bird* の両方の用語が含まれているドキュメントが一番高くランク付けされます。一方、

```
bird -cat
```

というクエリの場合、*bird* は含まれているが、*cat* は含まれていないドキュメントが返されます。+ が付いている用語が無い場合、+ または - のどちらも付いていない用語 *bird* が必要な用語として扱われます。

以下の表では、検索演算子について概説します。

表 E-1：検索演算子

演算子	意味	代替演算子
<AND>	2 つの検索用語の間に入力し、その両方の用語が返される結果に含まれていなければならないことを指定するためのブーリアン演算子	AND '&' (アンパーサンド)
<OR>	2 つの検索用語の間に入力し、そのどちらかの用語が返される結果に含まれていなければならないことを指定するためのブーリアン演算子	OR、ACCRUE、 ANY、' ' (垂直バー)、 ';' (カンマ)
<NOT>	指定した用語が含まれていない項目を返すことを指定	NOT、AND NOT
<NEAR>	用語の順序は関係なく、用語がお互いの <i>N</i> 語範囲内にななければならないことを指定	NEAR, <NEAR/25>
<ORDER>	最初の用語が 2 番目の用語の前になくならないことを指定	
<WORD>	ステミングや活字ケースの違いなどを除外し、完全に一致した用語を含む項目のみを返すように指定	
<PHRASE>	用語が指定した順番で語句の中に含まれていなければならないことを指定	"" (二重引用符) で 用語を囲む
<SENTENCE>	<NEAR/10> と同じ	
<PARAGRAPH>	<NEAR/50> と同じ	
+(プラス)	用語が返される項目の中に含まれていなければならないことを指定	

表 E-1：検索演算子

演算子	意味	代替演算子
-(マイナス)	用語が返される項目の中に含まれていてはならないことを指定	
* (アスタリスク)	検索結果に含まれている単語の初めまたは終わりに 0 文字以上の一致があることを指定	

ユーザーが気付かずに演算子を使用し、間違って詳細検索モードを呼び出してしまうことがあります。例として次のようなクエリがあります。

The young and the restless	"the young" <AND> "the restless" と同じ結果になります。
File not found	file <AND> <NOT> found と同じ結果になります。
Error -217439239	Error <AND> <NOT> 217439239 と同じ結果になります。

上記の各例では、二重引用符でクエリを囲むことによって必要な結果を得ることができます。

優先順位と丸括弧

インターネット スタイル モードの演算子である「+」と「-」は、ほかの検索演算子より優先されます。したがって、例えば、+big dog <order> cat の場合、big という用語を含むすべてのドキュメントが一致し、dog または cat のいずれかを含むドキュメントのランキングが高くなります。

クエリ オペレータ モードでは、演算子は次のような優先クラスを持ちます（最大から最小）。

- NEAR、ORDER、PHRASE、SENTENCE、PARAGRAPH
- NOT
- AND
- OR

演算子の優先順位を無視させるには、丸括弧を使用します。次の 2 つのクエリは同等です。丸括弧は検索の構文に影響しません。

- a and b near c or d
- (a and (b near c)) or d

この検索では、次の 2 つの条件のうちの 1 つを満たすドキュメントが一致します。

- d という用語が含まれているドキュメント
- a、b、c の 3 つの用語が含まれており、b と c が極近接しているドキュメント

一方、次のクエリの丸括弧は演算子のデフォルトの優先順位を無効にします。

a and b near (c or d)

この検索では、a と b、さらには c または d のいずれかが含まれており、b は c または d と極近接しているという条件を満たすドキュメントが一致します。

句読点

句読点は特別に扱われます。以下では、句読点文字に関する規則と解釈方法について説明します。

- 引用符は常に引用句を示す演算子として解釈されます。したがって、引用符を検索することはできません（引用符の特別の意味を取り除くためのバックスラッシュのようなエスケープ文字はありません）。
- 引用符内のその他すべての句読点は演算子として扱われません。（AND のようなすべての演算子についても同じです。）
- 引用符の外にある句読点は、演算子として扱われるか、あるいは無視されます。次の句読点は、引用符の外では特別な演算子としての意味を持ちます。
 - 左と右の山形括弧 (<>) は、<NEAR> のように演算子を囲むために使用します。
 - カンマ (,) は、OR として取り扱われます。
 - アンパーサンド (&) は、AND として取り扱われます。
 - 垂直バー (|) は、OR として取り扱われます。
 - プラス記号 (+) とマイナス記号 (-) は、インターネット スタイル構文として解釈されます。
 - アスタリスク (*) は、ワイルドカード文字として解釈されます。
- 句読点は、常に隣接する英数字から分離されます。したがって、例えば、bag-of-words の詳細検索では、3 つのトークン bag、of、および words を含むドキュメントが一致します。
- アンダースコアは句読点として扱われます。したがって、アンダースコアを含んだ用語を完全に一致させるには、その用語を引用符で囲まなければなりません（例えば、"HOST_NAME" は、HOST_NAME と一致します。しかし、引用符がない場合は、HOST NAME と一致します）。

左右対称の句読点を使用したトークンの作成がインデックスに格納されているテキストに適用されるため、bag-of-words のような検索用語の用語展開によって、bag-of-words という語句を含んだドキュメントが検索結果に含まれる場合があります。

大文字と小文字の区別

すべての検索では、<WORD> 演算子を使用した場合を除いて、大文字と小文字は区別されません。

検索	一致項目
Plumtree	plumtree、Plumtree またはその他の活字ケースの変形が含まれている項目
"Search Service"	search service という語句またはその他の活字ケースの変形が含まれている項目
<WORD> Plumtree	Plumtree が含まれている項目。PLUMTREE、plumtree 等は含まれません。

ステミング（語幹処理）

単語の語幹処理は、ユーザーの検索クエリに含まれているすべての個々の用語に適用されます。ただし、引用句、または、<WORD> 演算子が使用されている場合はこの限りではありません。クエリ用語のステミング（語幹処理）が適用されるということは、個々のクエリ用語の変形を含むドキュメントも一致するということを意味します。例えば、dogs AND go を検索した場合、dog と went が含まれているドキュメントも一致することになります。（これは、英語を使用した場合の例です。ステミングでは各言語固有の情報を使用しますので、ユーザーのロケールやドキュメントのインデックスに使用した言語に依存します。）

ワイルドカード

ワイルドカード演算子は、インデックス用語のプレフィックス、サフィックス、サブストリングを検索するために使用します。ワイルドカードは引用句の内部では使用できません。

プレフィックス	cat*	caterpillar といった、cat で始まる用語を含むすべてのドキュメントが検索されます。
サフィックス	*cat	tomcat のような、cat で終わる用語を含むすべてのドキュメントが検索されます。
サブストリング	*cat*	tomcats のような、cat を含んだ用語を含むすべてのドキュメントが検索されます。用語に含まれている文字列を指定するためのワイルドカード表現では、3 文字以上指定しなければなりません（例えば、*abc* は正当な表現ですが、*bc* は使用できません。）

ワイルドカードの展開によって生成された用語はステム（語幹処理）されません。

ワイルドカードの展開は、各パターンをそのパターンに一致する制限された用語のリストで置き換えることによって内部的に処理され、その後実際のクエリが実行されます。したがって、非常に幅のあるワイルドカード表現を使用した場合、結果のリストの一部しか返されないことがあります。

引用句

ユーザーが検索クエリに引用句を使用した場合、指定された順序で用語を含んでいるドキュメントのみが一致します。例えば、"big dog" を検索した場合、ドキュメントに big と dog が含まれていても、big dog という語句が含まれていない場合、そのドキュメントは一致しません。ステミングは引用句内の用語には適用されません。また、ワイルドカードも引用句の内部では使用できません。

シソーラス辞書の拡張機能

シソーラス辞書の拡張機能が有効に設定されている場合、シソーラス辞書の拡張機能が基本検索の個々の用語に適用されます。シソーラス辞書の拡張機能は、3つの検索モード（インターネット スタイル、クエリ オペレータ、および bag-of-words）すべてに適用されます。シソーラス辞書の拡張機能は引用句には適用されません。用語に対してシソーラス辞書の拡張機能が適用された場合、自動スペルチェックの対象ではなくなります。

修正されていない用語と一致するドキュメントが無い時のフォールバックとしてのみ適用される自動スペルチェック機能とは違って、シソーラス辞書の拡張機能が有効に設定されている場合、必ずすべての個々の用語に拡張機能が適用されます。

検索言語

ドキュメントとポータル オブジェクトには、単語分割およびステミングがどのように適用されるかを指定するための言語設定のインデックスが付けられます。ユーザーが検索クエリを実行すると、ユーザー アカウントのロケールの設定値によって単語分割およびステミングが適用されます。検索に使用する言語が検索するドキュメントの言語と一致している場合、最適の検索結果を得ることができます。しかし、検索はすべての言語のドキュメントに正しく適用されます。複数の言語にわたる検索には、ロケールに基づいたステミングや単語分割を適用できませんが、それでも有用な結果を得ることができます。

詳細検索ページでは、検索の範囲を特定の言語に絞り込むことができます。

- ユーザー アカウントの検索基本設定には、ユーザーのロケールの言語のインデックスが付けられたドキュメントのみを返すというオプションがあります。
- ポータル オブジェクトには、ローカライズされた名前や説明を設定することができます。基本検索は、デフォルトのオブジェクト名と説明、さらにはユーザーのロケールでの名前と説明に対して実行されます。

ポータル バナー内の検索ボックスからポータルのコンテンツを検索した場合、クエリのテキストはユーザー インタフェースの言語設定に基づいて処理されます。例えば、ポータル インタフェースがドイツ語に設定されている場合、ドイツ語の言語ルールに基づいてクエリ トークンが作成され、語幹処理されます。その結果、ドイツ語の言語ルールによってインデックスされたドキュメントに対して最適の検索結果を得ることができます。

検索コレクションにその他の言語のドキュメントが含まれている場合でも、（ユーザー インタフェースで必要な文字を入力できる場合は、）適切なテキストを使用したクエリを指定することによって、それらのドキュメントを取得することができます。ただし、例えば、ドイツ語のインタフェースを使用したポータルの検索ボックスに英語の単語を入力すると、クエリ テキストにはドイツ語の言語ルールが適用されます。この場合、英語の語幹処理が使用されないため、そのクエリでは単語の変形を一致させることはできませんが、入力された単語を含む英語のドキュメントは取得されます。

(互換性のある文字エンコードを使用することにより、) ヨーロッパ言語の検索ボックスにアジア系言語のテキストを入力することはできますが、検索コレクションの中のアジア系言語のコンテンツを一致させるためには、テキストを一語に制限するか、空白で単語を区切る必要があります。

[詳細検索] ページには、複数言語のドキュメント コレクションを検索するための追加機能が含まれています。ユーザーは、ポップアップ リストからクエリ処理に使用する言語を選択することができます。クエリ テキストを処理する際は、選択された言語のトークンの作成および語幹処理のための言語ルールが使用されます。これは、余分な空白を入力せずにアジア系テキストを入力できることを意味します。

詳細検索は、ユーザー インタフェース用に設定された文字エンコードの制限を受けます。多言語のテキスト クエリを入力する際は、入力した文字が文字エンコードと互換性があることを確認してください。最大の柔軟性を得るためには、ユーザー インタフェースには UTF-8 エンコードを選択してください。そうすることにより、あらゆるユニコード文字にアクセスできます。

基本検索や詳細検索で利用できるクエリ演算子は、言語設定によって異なります。例えば、クエリがドイツ語として処理される場合、AND 演算子を「UND」と指定できます。英語、デンマーク語、オランダ語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ノルウェー語 (ブークモール)、ノルウェー語 (ニーノシュク)、ポルトガル語、スペイン語には、ローカライズされた演算子を使用できます。その他すべての言語には英語の演算子を使用します。

例

下記の検索の説明には、基本検索で適用されるクエリの拡張機能やランク付け機能などの説明は含まれていません。特に注意書きがない限り、検索において大文字と小文字は区別されません。

クエリの例	結果
Dog	Dog のすべての語幹変形を含むドキュメントが検索されます。
<WORD> Dog	ステミングも小文字化もせず、指定された通りの Dog という用語を含むドキュメントが検索されます。これが唯一の活字ケースを区別する検索です。
Big <PHRASE> Dog	ステミング無しで、big dog という語句を含むドキュメントが検索されます。
"Big Dog"	Big <PHRASE> Dog と同じです。
cat AND dog	cat および dog の語幹変形を含むドキュメントが検索されます。cat <AND> dog と同じです。
cat <ALL> dog	cat AND dog と同じです。
cat OR dog	cat または dog のいずれかの語幹変形を含むドキュメントが検索されます。
cat, dog	cat OR dog と同じです。
cat <ANY> dog	cat OR dog と同じです。

クエリの例	結果
cat <ACCRUE> dog	cat OR dog と同じです。
cat NOT dog	cat の語幹変形を含むが、dog の語幹変形を含まないドキュメントが検索されます。
cat AND NOT dog	cat NOT dog と同じです。
cat NEAR dog	dog と cat の語幹変形が近接している（デフォルトは 25 語以内）項目が検索されます。
cat NEAR/15 dog	dog の 15 語以内にある cat の語幹変形が検索されます。
cat <ORDER><NEAR/15> dog	dog の前 15 語以内にある cat の語幹変形が検索されます。よりシンプルな構文である cat<ORDER NEAR/15> dog も使用できます。
cat <ORDER> dog	dog の前の任意の場所にある cat の語幹変形が検索されます。
cat <SENTENCE> dog	dog の 10 語以内にある cat の語幹変形が検索されます。
cat <PARAGRAPH> dog	dog の 50 語以内にある cat の語幹変形が検索されます。
cat <XYZ> dog	cat および dog の語幹変形が検索されます。XYZ という演算子はサポートされていないので無視されます。
cat*	caterpillar といった、cat で始まる用語を含むすべてのドキュメントが検索されます。
*cat	tomcat のような cat で終わる用語を含むすべてのドキュメントが検索されます。
cat	tomcats のような cat を含んだ用語を含むすべてのドキュメントが検索されます。用語に含まれている文字列を指定するためのワイルドカード表現では、3 文字以上指定しなければなりません（例えば、*abc* は正当な表現ですが、*bc* は使用できません。）
dog *	dog の語幹変形を含むドキュメントが検索されます。ワイルドカードを単独で指定した場合は、単独の句読点として扱われます。

クエリの例	結果
dog cat bird	dog、cat、およびbird という 3 つの用語の語幹変形を含むドキュメントが検索されます。(bag-of-words モード)
big dog AND bird	big dog という語句と bird という用語の語幹変形を含むドキュメントが検索されます。(黙示的に語句を指定したクエリ オペレータ モード)
dog cat +bird	bird の語幹変形を含むドキュメントが検索されます。dog または cat の語幹変形を含むドキュメントのランクは引き上げられます。インターネット スタイル モードでは、dog と cat を組み合わせた語句として解釈されません。
+dog -cat bird	dog の語幹変形を含むが cat の語幹変形は含まないドキュメントが検索されます。また、dog と bird の両方を含んでいるドキュメントが最高位にランク付けされます。
bird -cat	bird の語幹変形を含むが cat の語幹変形は含まないドキュメントが検索されます。
bag-of-words	bag、of、と words の 3 つの用語の語幹変形を含むドキュメントが検索されます。引用符が使用されていない場合、句読点は空白として取り扱われます。
"Mr. Jones"	mr . jones という語句が検索されます。引用符の中に含まれている句読点は、検索文字列の一部としてみなされます。

結果のランキング

デフォルトで、検索結果は、関連性に基づいてランク付けされます。この節の以下のトピックでは、関連性を決定するために使用される要素について説明します。

- [「検索用語の出現頻度」](#)
- [「メタデータ（フィールド）の重要度」、E-12 ページ](#)
- [「語句と近接度」、E-12 ページ](#)

検索用語の出現頻度

検索可能項目における検索用語（またはステミングによる変形や活字ケースの変形）の出現回数は、その項目の関連性のランク付けに大きく影響します。ほかのすべての条件が同等である場合、検索用語の

出現回数がより多い項目が、出現回数が少ない項目よりも高くランク付けされることになります。これは *term frequency*（用語の出現頻度）に基づいたのランク付けとして知られています。

メタデータ（フィールド）の重要度

基本検索は、いくつかのドキュメント フィールドを対象に実行され、あるフィールドの重要度は、ほかのフィールドの重要度より高く設定されています。したがって、例えば、オブジェクトの名前の一致がオブジェクトの説明の一致よりも高くランク付けされます。デフォルトで検索されるフィールドは名前、説明、およびフルテキスト コンテンツです。フィールドの重要度を設定または編集する方法については、[「ドキュメント プロパティの重要度の編集」、4-41 ページ](#) を参照してください。

語句と近接度

基本検索において、*bag-of-words*（単語のグループ）モードでは、ユーザーが引用符や近接演算子を使用していなくても、ユーザーのクエリと一致する語句や近接度を重視する特別な関連性ランク付け機能が使用されます。

ユーザーのクエリ用語から次の 3 つのクエリが生成されます。

- すべての単語を 1 つの語句として組み合わせたクエリ
- すべての単語の語幹変形とすべての引用句の *<ORDER><NEAR>* のクエリ
- すべての単語の語幹変形とすべての引用句の AND 結合のクエリ

これらの 3 つのクエリの OR 結合によって 1 つのクエリが構成されます。関連性によるランク付けでは、グループ #1 からの結果が常にグループ #2 より上位にランクされ、グループ #2 の結果はグループ #3 より上位にランクされることが保証されます。

例えば、`"san francisco" hotels` と入力した場合、次のクエリが生成されます。

- `"san francisco hotels"`
- `"san francisco" <ORDER><NEAR> hotels`
- `"san francisco" AND hotels`

バナー検索や詳細検索の検索結果ページでは、最後に変更された日付、フォルダ、またはオブジェクトタイプによって検索結果をソートすることができます。

基本検索の動作

基本検索では、適切な結果を得られる可能性を高めるための特別な機能が適用されます。前節で説明したように、用語の近接度は、基本検索における関連性ランキングを引き上げることがあります。また、自動スペル チェックは、基本検索のみに適用されます。

基本検索において、ユーザーの検索クエリが、インターネット スタイル モードあるいはクエリ オペレータ モードで構文エラーになった場合、自動的に *bag-of-words* モードで再試行され、ユーザーによるエラーに対してできるだけ柔軟に対応します。例えば、`dog and` と入力した場合、*and* 演算子の右側のオペランドが抜けているため、このクエリは、クエリ オペレータ モードにおいて構文エラーになり

ます。この場合、このクエリは、**bag-of-words** モードで再試行されます。このモードでは、**and** は、特別のオペレータの意味を持ちません。したがって、**dog** と **and** を含むドキュメントが取得されます。

詳細検索の動作

詳細検索は、精度の高い複雑なクエリをサポートするように設計されています。したがって、詳細検索では、基本的には多数のフィールドにわたる検索や自動スペル チェックのような基本検索の自動拡張機能を使用しません。しかし、ステミングは詳細検索においても適用されます。

詳細検索の [テキスト検索] では、名前、説明、およびフルテキスト コンテンツのフィールドを対象に検索が実行されます。追加のプロパティ条件は、各条件で選択されているフィールドのみに適用されます。

インターネット スタイル モードあるいはクエリ オペレータ モードにおいて、ユーザーのクエリが構文エラーになった場合、**bag-of-words** モードは実行されず、ユーザー インタフェースにエラー メッセージが表示されます。

F

よくある質問とその回答

この付録には以下の節が含まれています。

- [「検索に関する FAQ」](#)
- [「SSO に関する FAQ」、F-3 ページ](#)
- [「その他の FAQ」、F-7 ページ](#)

検索に関する FAQ

Q: バックアップを実行しているとき次のエラーが表示される。

```
Replicate.exe -incr_backup MACHINE_A 8766 /MACHINE_A/Search/index/1 /MACHINE_B/  
SearchBackups/20021012 TRACE: INCR_BACKUP with host MACHINE_A and port 8766 from  
collection image in /MACHINE_A/Search/index/1 to index: /MACHINE_B/  
SearchBackups/20021012 Error: Incremental Backup failed: Valid READY file not  
found in path: /MACHINE_A/Search/index/1
```

A: このエラーは、指定されたパスが有効なインデックス ディレクトリではないことを示しています。このユーティリティは、次の条件に基づいて、インデックス ディレクトリが有効であることを確認します。

- INDEX_DIR という有効なディレクトリが存在する。
- INDEX_DIR には、**ready** という名前のファイルが含まれており、このファイルの最初の文字が 1 または 2 である。このファイルは、**Search Service** が再起動した際に、**Search Service** がどのコレクションを参照すべきかを指定します。

上記のエラーの原因は、/MACHINE_A/Search/index/1 が特定のコレクション イメージへのパスであることです。これを入力する代わりに、ルート インデックス ディレクトリを指定する必要があります。この場合、ルート ディレクトリは、/MACHINE_A/Search/index です。

Q: バックアップ操作が完了した後、バックアップ ディレクトリの内容と検索コレクションのイメージ ディレクトリの内容が異なっている。

A: これには 2 つの原因が考えられます。

- バックアップ操作中にインデックスの作成が実行された可能性があります。バックアップの終了時のターゲット コレクション ディレクトリには、スナップショット操作の開始直後におけるソース コレクション ディレクトリの確定された項目が含まれています。したがって、ソース コレクションへの追加インデックスは、宛先コレクションには含まれません。この方法によって、複製されたコレクションが有効であり、一貫性が保たれることが保証されます。
- バックアップ操作中またはバックアップ直後に通常のシステム メンテナンスが実施された可能性があります。その結果、一部のコレクション ファイルが性能確保またはメンテナンスのために結合された可能性があります。

Q: インデックス ディレクトリにディレクトリが 1 つしかない。2 つあるべきではないか？

A: 必ずしもそうではありません。Search Service を最初にインストールしたときは、1 のサブディレクトリしか存在しません。検索コレクションをコピーする前に、まだ存在していない場合は、ユーティリティによって適切な 2 のサブディレクトリが作成されます。

Q: replicate -incr_backup (複製 - 差分バックアップ) をなぜ実行する必要があるのか? 現在使用中のサブディレクトリからコレクション イメージをコピーすることはできないのか?

A: いいえ、できません。手動でファイルをコピーしている間に、追加のインデック作成や Search Service のメンテナンスが実行される可能性があるため、結果として、一貫性と整合性のないコレクション イメージができてしまいます。複製ユーティリティは、最初にホスト Search Service をスナップショット モードに切り替えることによってこの問題を回避します。

Q: Search Service をシャットダウンしてから、手動でコレクション イメージをコピーすることによって検索コレクションをバックアップすることは可能か?

A: はい、可能です。Search Service が正常にシャットダウンされると、コレクション ファイルは一貫性のある状態になり、別の場所にコピーすることができます。

Q: バックアップ操作の開始直後にユーティリティが差動していないように見える。コンソールには次のように表示される。

```
Replicate.exe -incr_backup MACHINE_A 8766 /MACHINE_A/Search/index /MACHINE_B/SearchBackups/20021012 TRACE: INCR_BACKUP with host MACHINE_A and port 8766 from collection image in /MACHINE_A/Search/index to index: /MACHINE_B/SearchBackups/20021012 TRACE: SNAPSHOT from index /MACHINE_A/Search/index/1 on host MACHINE_A and port 8766 to target: /MACHINE_B/SearchBackups/20021012 Beginning snapshot
```

A: これは、この複製インスタンスが開始する前に、Search Service が既にスナップショット モードになっていたため発生した問題です。原因は次の 2 つのいずれかです。

- この Search Service で、複製が既に実行中である可能性があります。複製ユーティリティのインスタンスは一度に 1 つのみ実行できます。
- 複製が終了する前に、エラーまたはユーザーの操作によって (例えば [Ctrl] + [C] を押すことによって) 複製ユーティリティが突然終了され、Search Service がスナップショットモードのままになっている可能性があります。この場合、Search Service はタイムアウトにより 30 分以内にスナップショット モードから自動的に切り替わります。

Search Service を強制的にスナップショット モードから切り替えるには、次のコマンドを実行し、エンドスナップショット モードでユーティリティを実行してください。

```
replicate -endsnapshot HOST PORT
```

これは、ほとんどの場合、必要ありません。

Q: Search Service に接続できない。次のようなメッセージが表示される。

```
Error: Snapshot Error-Unable to connect to server: Winsock error code 10061
```

A: 次のことを確認してください。

- Search Service が稼動していること。ユーティリティは Search Service が稼動している場合のみ実行できます。
- 正しいポート番号を入力したこと。

Q: 複製の実行中に、クローラとシステム メンテナンスのジョブ ログに次のエラーメッセージが表示された。

Queue unavailable: waiting for dynamic merge to finish

- A:** 検索コレクションが大きくて、**Search Service** に極度の負荷がかかった場合、このようなエラーが発生することがあります。検索コレクションが大きい場合、複製に数時間かかることがあります（これは、主にコレクション イメージのコピーに必要な時間です）。システムがスナップショットモードになっている間は、インデックスできる新しいデータの量が制限されます。大量の新しいドキュメントのインデックスを作成していて、サーバーがインデックス作成要求の受付を拒否しなければならないようになった場合にこの問題が発生します。この問題の回避策は、インデックス作成作業が少ない時に複製をスケジュールすることです。
- Q:** 複製を IP ロード バランシングと連携して行う方法は？
- A:** **Search Service** マネージャで、管理者は、インデックス サーバー、クエリ サーバー、フォールバック サーバーの 3 つの異なる **Search Service** を指定することができます。IP ロード バランシングはクエリ サーバーにのみ使用できます。インデックス サーバーには使用できません。これらのクエリ **Search Service** は、ネットワーク アクセス可能な 1 つの検索コレクションを共有します。インデックス サーバー上で差分バックアップを実行した後、いずれかのパッシブノードの **Search Service** 上でリストアを実行し、残りの **Search Service** でスワップを実行してください。
- Q:** IP ロード バランシングを使用する場合、インデックス **Search Service** をクラスターの一部として使用できるか？
- A:** いいえ、使用できません。IP ロード バランシングを使用する場合は、クエリ サーバーにのみ使用し、**Search Service** マネージャに別個のインデックス サーバーを必ず指定してください。インデックス **Search Service** は、ネットワーク上の検索コレクションを他の **Search Service** と共有できません（複製ユーティリティを使用した場合を除く）。
- Q:** インデックス **Search Service** のフェイルオーバーをサポートする方法はあるか？
- A:** ありません。**Search Service** マネージャでは、フェイルオーバー インデックス **Search Service** を指定することができません。ファイルオーバー クエリ **Search Service** のみ指定できます。

SSO に関する FAQ

この節では、一般的な導入問題の解決法について、質問と回答の形式で説明します。

- Q:** あるユーザーに対して SSO を使用できないのはなぜか？
- A:** この問題の原因を特定するには、次の設定またはイベントを確認してください。
- **portalconfig.xml** で、ユーザー名のプレフィックスが、認証元ポータル オブジェクトに対して設定されている認証元カテゴリの値に一致している必要があります。これらの文字列が同一であることを確認してください。
 - **Plumtree Logging Spy** を使用し、SSO 認証元がユーザー名をポータルに渡しているかどうかを確認してください。"SSO integration returned a null user name.Exiting SSOLoginPage" のようなエラー メッセージが赤い文字で表示された場合、設定に誤りがあります。認証元サーバーが、ポータルへの認証後、ユーザー名を正しく転送するように設定されていることを確認してください。詳細については、[「Plumtree Logging Spy の設定」](#)、[A-18 ページ](#)を参照してください。

Q: SSO クッキーがリモート サーバーやポートレットに転送されないのはなぜか？

A: この問題の原因を特定するには、次の設定またはイベントを確認してください。

- **portalconfig.xml** で、<CookieDomain> 要素の値の初めにピリオドがあることを確認してください。
- **portalconfig.xml** で、<CookiePath> 要素の値が、<CookiePath value="/" /> という標準の値またはその他の適切な値であることを確認してください。
- 認証サーバーで、クッキー オブジェクトの値が、クッキーを転送できるように設定されていることを確認してください。
- 認証サーバーとプラムツリー ポータルの設定を確認し、すべてのサーバーに対して完全修飾ドメイン名が指定されていることを確認してください。
- 上記の方法を使用しても問題を特定できない場合は、TCP トレース ツールを使用して SSO プロバイダから返される値を確認してください。パスとドメインは、**portalconfig.xml** の <CookiePath> と <CookieDomain> の値と一致している必要があります。

Q: SSO を導入したプラムツリー ポータルにおいて、ゲスト ユーザー アクセスはサポートできるか？

A: SSO を有効にした場合においても、ゲストがポータルにアクセスできるように設定できます。ゲストのアクセスは、**portalconfig.xml** の *Authentication* の *AllowGuestAccess* 設定によって制御されます。ゲスト アクセスを有効に設定した場合、ユーザーはログインしなくてもポータルを参照できますが、ユーザーがポータル バナーの [**ログイン**] をクリックした場合、あるいは、アクセス権がないページを開こうとした場合、ポータルはユーザーを SSO ログイン ページに転送します。そこで、ユーザーは、SSO 製品の指示に従ってログイン認証情報を入力する必要があります。

ユーザーが他のアプリケーションの SSO クッキーを既に持っている場合でも、[**ログイン**] をクリックするまではゲストとしてポータルを参照することになります。そのユーザーが [**ログイン**] をクリックすると、ユーザー名とパスワードを入力せずにログインできます。

ゲスト アクセスは SSO とは関係なく有効にしたり無効にしたりできます。ゲスト アクセスと SSO の両方が無効に設定されている場合、ユーザーは、ポータルのいかなる部分にアクセスする際もログインしなければなりません。

Q: ログインしているユーザーを変更する方法は？例えば、管理ユーザーに切り替えるにはどのようにするのか？

A: ユーザーが、同一 SSO セッション内で、管理者として、または他のポータル ユーザーとしてログインする必要がある場合、ポータル バナーで [**ログオフ**] をクリックします。こうすると、SSO が無効である場合と同様に、ユーザーはポータルからログオフしポータルのログイン ページに転送されます。このページからユーザーは、非 SSO ユーザーとしてログインするか、ゲストとしてポータルを参照できます。SSO ユーザーとしてログインし直したい場合は、ポータル バナーの [**ログイン**] をクリックすることによって、自動的にポータルにログインできます。

Q: SSOLogin.aspx または SSOServlet からポータルにアクセスできないのはなぜか？

A: SSO を導入した後、最初にポータルにアクセスする際は、次のメイン ポータル URL からアクセスする必要があります。**http://<servername>/portal/Server.pt**

/portal/ssos/SSOLogin.aspx (.NET) または **/portal/SSOServlet** (Java) からポータルにアクセスしようとする、要求は拒否され、Plumtree Logging Spy のトレース ログには次のエラー メッセージ

が表示されます。"The SSO Login Page was unable to retrieve the request URL from the session. Will use a relative redirect to return to the main page."

Q: Image Service を SSO 認証サーバーによって保護するように設定した場合、ユーザーには JavaScript のエラーが表示され、ポータル メニューがロードされないのはなぜか？

A: ポータル、そして Collaboration や Publisher といったほかのエンタープライズ製品は、Image Service に格納されている JavaScript コンポーネントのバージョンを確認するために、Image Service に HTTP 要求を定期的を送信します。これらの要求は、特定のユーザーのセッションに関連しておらず、SSO クッキーまたはその他の認証情報は送信されません。SSO ソリューションによって Image Service を保護している場合、JavaScript バージョンを確認するためのポータルからの要求がブロックされます。その結果、ポータルは、適切な JavaScript ファイルをロードすることができず、エンドユーザーには、JavaScript エラーが表示されたり、その他の異常が発生することがあります。この問題を解決するには、Image Service は保護せず、ポータルのみを保護するように SSO 認証サーバーを設定し直してください。Image Service には、すべてのポータル システムに標準装備される一般的な静的コンテンツのみ格納されているため、保護する必要はありません。ユーザーや貴社の組織の固有のデータが Image Service に保存されることは一切ありません。

Q: SSO の導入環境をデバッグする方法は？

A: ポータルには SSO 統合をデバッグするために役立つビルトイン トレース文が付属しています。例えば、ユーザーが SSO を使用してログインした場合、すべてのヘッダの内容がトレースされます。このトレース機能を有効にするには、**Portal UI - Infrastructure** コンポーネントのすべてのトレースをオンにします。詳細については、[「Plumtree Logging Spy の設定」、A-18 ページ](#)を参照してください。

Q: SSO 導入環境にリバース プロキシを設定する方法は？

A: Apache HTTP server、Obliv Netpoint Access Server (バージョン 6.1.1 または 6.5)、Apache WebGate、Java ベースのプラムツリー ポータルを使用したリバース プロキシ環境がプラムツリーによってテスト済みです。

この構成を導入するには次の基本手順に従ってください。

1. NetPoint Access Manager、NetPoint COREid、と Obliv Apache WebGate を含む Obliv NetPoint Access Server をインストールします。WebGate は、Apache HTTP server と同じサーバーにインストールする必要があります。詳細な手順については、Obliv の資料を参照してください。
2. Obliv Access Manager を使用してポータルの保護ポリシーを作成します。詳細な手順については、Obliv の資料を参照してください。
3. Obliv NetPoint Access Server を設定します。詳細な手順については、[「Obliv 認証プロバイダの設定」、D-16 ページ](#)を参照してください。
4. Apache HTTP server でリバース プロキシを設定します。詳細な手順については、下記の手順の後の説明を参照してください。
5. ポータルで SSO を設定します。詳細な手順については、[「SSO に必要なポータルの設定」、D-23 ページ](#)を参照してください。
6. ポータル アプリケーション サーバー でリバース プロキシを設定します。詳細な手順については、下記の手順の後の説明を参照してください。
7. 設定への変更を反映させるためにサービスを再起動します。

Apache HTTP server でリバース プロキシを設定するには、次を行います。

1. Oblix のインストール ガイドで推奨されている Apache HTTP server のバージョンをインストールします。Netpoint 6.5 に対して、Oblix は、Apache の最新バージョンである v1.3 ラインを推奨しています。この例の構成は、バージョン v1.3.29 でテスト済みです。
2. Apache の設定でプロキシ モジュールをオンにします。これを設定するには、**<apache_install_dir>/conf/httpd.conf** を編集し、**LoadModule proxy_module modules/mod_proxy.so** と **AddModule mod_proxy.c** の行を非コメント化します（行を非コメント化するには、行の初めのシャープ記号（#）を削除します）。
3. Apache がポータルのリバース プロキシとして機能するように設定します。これを設定するには、下記の例のように、**httpd.conf** の最後に行を追加します。

```
ProxyRequests Off
ProxyPass /portal http://your_portal_server.domain.com:7001/portal
ProxyPassReverse /portal http://your_portal_server.domain.com:7001/portal
```
4. 上記の例の構成では、Apache ウェブ サーバー (http://proxy_server.domain.com:80/portal/xyz) からの要求がポータル アプリケーション サーバー (http://your_portal_server.domain.com:7001/portal/xyz) にリダイレクトされます。
5. このファイルで指定する際、およびサーバー名を入力する際は必ず完全修飾ドメイン名を入力する必要があります。
6. Apache のリバース プロキシに関する詳細については、http://httpd.apache.org/docs/mod/mod_proxy.html を参照してください。
7. Apache HTTP server を起動またはリブートします。

Java アプリケーション サーバーでリバース プロキシを設定するには次を行います。

1. **PT_HOME/ptportal/6.0/settings/config/portalconfig.xml** を編集するために開きます。
2. <URLMapping> 要素を次の例のように設定します。

```
<URLFromRequest0 value="*" />
<ApplicationURL0 value="http://proxy_server.domain.com/portal/server.pt" />
<SecureApplicationURL0 value="*" />
```

`proxy_server.domain.com` を Apache HTTP server の完全修飾ドメイン名によって置き換えます。
3. <SSOVirtualDirectoryPath> 要素を次の例のように設定します。

```
<SSOVirtualDirectoryPath value="http://proxy_server.domain.com/portal/" />
```

`proxy_server.domain.com` を Apache HTTP server の完全修飾ドメイン名によって置き換えます。
4. アプリケーション サーバーをリブートします。

その他の FAQ

Q: ナレッジ ディレクトリのフォルダのセキュリティ ページを変更して、セキュリティへの変更をそのフォルダのすべてのチャイルド オブジェクトに適用しようとするするとタイムアウト エラーになる。

A: この問題は、多数のチャイルド オブジェクト（他のフォルダやドキュメント）を含む多数のサブフォルダがネストされている場合に発生することがあります。この問題が発生した場合の回避策は、次の通りです。

1. セキュリティへの変更が適用されたフォルダを特定するには、すべての 1 次レベルのフォルダを選択し、セキュリティ アイコンをクリックします。
2. フォルダの一覧をスクロールして、どのフォルダまでセキュリティへの変更が適用されたかを確認します。
3. 次の手順によって、セキュリティへの変更がまだ適用されていない残りのフォルダに、必要なセキュリティへの変更を適用します。各 1 次レベルのフォルダを 1 つずつ開き、セキュリティを設定および保存し、[はい] を選択して、そのフォルダのすべてのチャイルド オブジェクトにセキュリティへの変更を適用します。
4. エラーによってセキュリティが適用されなかった残りのすべての 1 次レベル サブフォルダで上記のプロセスを実行します。

索引

Symbols

* (アスタリスク) 検索演算子 E-5

+ (プラス) 検索演算子 E-4

− (マイナス) 検索演算子 E-5

A

ACL

管理オブジェクト ディレクトリの設定 3-21

グローバル ACL とクローラ コンテンツ ソースの同期化 4-37

コミュニティ用の設定 4-29

ナレッジ ディレクトリでの設定 4-11

Administration セクション、portalconfig.xml A-8

Administrative Resources (管理リソース) 管理フォルダ 3-19

AllowGuestAccess A-4

<AND> 検索演算子 E-4

Apache HTTP Server でのリバース プロキシの設定 F-6

API サービス 2-3

Authentication セクション、portalconfig.xml A-4, A-9

Automation Service

概要 2-3

登録 5-1

Automation Service ユーティリティ 2-21

automationserverd daemon 2-24

AWS: 認証ウェブ サービスを参照

B

bag-of-words モード E-3

BasicSSO D-22, D-24

bin インストール ディレクトリ 2-22

C

CachedSettings セクション、portalconfig.xml A-3

Collaboration: Plumtree Collaboration を参照

Communities セクション、portalconfig.xml A-8

Config Tool A-17

Cookie 要素、portalconfig.xml D-26

CookieDomain 要素、portalconfig.xml D-25, D-31, D-33

CookiePath 要素、portalconfig.xml D-24, D-30, D-31, D-33

Counter Monitoring System B-1

Crawlers セクション、portalconfig.xml A-8

cryptoutil.sh ユーティリティ 2-22

CustomSSO D-22, D-32

CustomSSOAssembly 要素、portalconfig.xml D-33

CustomSSOClass 要素、portalconfig.xml D-32

D

daemon、automationserverd 2-24

Default Experience Definition (デフォルトの環境定義) 管理フォルダ 3-20

DefaultAuthSourcePrefix 要素、portalconfig.xml D-24, D-28

Documents セクション、portalconfig.xml A-7

G

GuestPassword A-4

GuestRedirectToLogin A-4

H

HTML アクセッサ 4-4

HTML 属性のポータル プロパティへのマッピング 4-4

I

ignite.ini の RF_DOCSET_CACHE_BYTES パラメータ A-14, A-17

ignite.ini の RF_DOCUMENT_TOKEN_CACHE_SIZE パラメータ A-13

ignite.ini の RF_HANDSHAKE_THREADS パラメータ A-16

ignite.ini の RFINDEX パラメータ A-13

ignite.ini の RF_INDEX_CACHE_BYTES パラメータ A-17

ignite.ini の RF_INDEX_QUEUE_SIZE パラメータ A-15

ignite.ini の RF_INDEX_THREAD パラメータ A-17

ignite.ini の RF_INDEX_THREADS パラメータ A-15

ignite.ini の RFLOG パラメータ A-14

ignite.ini の RF_LOG_VERBOSITY パラメータ A-13

ignite.ini の RF_MAPPING_TOKEN_CACHE_SIZE パラメータ A-13, A-17

ignite.ini の RF_MAX_NUM_STATIC_ARCHIVES パラメータ A-15

ignite.ini の RF_MAX_QUERY_MSECS パラメータ A-15

ignite.ini の RF_MAX_TOTAL_RESULTS パラメータ A-15

ignite.ini の RFPORT パラメータ A-13

ignite.ini の RF_QUERY_QUEUE_SIZE パラメータ A-15

ignite.ini の RF_QUERY_THREADS パラメータ A-15

ignite.ini の RF_REQUIRED_DISK_SPACE パラメータ A-16

ignite.ini の RF_SPELL_TOKEN_CACHE_SIZE パラメータ A-14

ignite.ini の RF_TOKEN_LEXICON_REBUILD_LIMIT パラメータ A-16

ignite.ini の RF_USE_DATA_FILE_CACHE パラメータ A-16, A-17

ignite.ini のパラメータ A-13

Image Service 2-2

International セクション、portalconfig.xml A-7

Intrinsic Operations (ビルトイン操作) 管理フォルダ 3-19

Invitations セクション、portalconfig.xml A-11

J

Java アプリケーション サーバーでのリバース プロキシの設定 F-6

M

MainURLs セクション、portalconfig.xml A-2

N

NameHeader 要素、portalconfig.xml D-26
 <NEAR> 検索演算子 E-4
 Netegrity SiteMinder 4.6 の SSO 設定 D-3
 Netegrity SiteMinder 5.5 SP3 の SSO 設定 D-11
 Netegrity SiteMinder 5.5 の SSO 設定 D-6
 <NOT> 検索演算子 E-4

O

Oblix Policy Server
 IIS 上での SSO 用の設定 D-18
 Oblix Policy Server の SSO 設定 D-16
 Oblix WebGate のリモート サーバー用の設定 D-22
 <ORDER> 検索演算子 E-4
 <OR> 検索演算子 E-4

P

<PARAGRAPH> 検索演算子 E-4
 PasswordHeader 要素、portalconfig.xml D-26
 Perfmon、パフォーマンス カウンタの参照 B-7
 <PHRASE> 検索演算子 E-4
 Plumtree Collaboration
 オブジェクトのエクスポート 6-3
 概要 2-5
 Plumtree Logging Spy、設定 A-18
 Plumtree Logging Utilities A-18
 Plumtree Publisher
 オブジェクトのエクスポート 6-3
 オブジェクトの移行 6-4
 概要 2-5
 Plumtree Studio の概要 2-5
 Portal Resources (ポータル リソース) 管理フォルダ 3-19
 portalconfig.xml
 authentication セクション A-4, A-9
 CachedSettings セクション A-3
 Cookie 要素 D-26
 CookieDomain 要素 D-25
 CookiePath 要素 D-24
 CustomSSOAssembly 要素 D-33
 CustomSSOClass 要素 D-32
 DefaultAuthSourcePrefix 要素 D-24
 NameHeader 要素 D-26
 PasswordHeader 要素 D-26
 PrefixHeader 要素 D-26
 Search 要素 4-47
 SecureHeader 要素 D-27
 SSOCookieIsSecure 要素 D-25
 SSOVendor 要素 D-24
 UseDomain 要素 D-29
 portalconfig.xml ファイル A-1
 portallenv.sh ユーティリティ 2-23
 PrefixHeader 要素、portalconfig.xml D-26
 ptconfig.exe A-17

ptconfig.sh A-17
 PT_HOME A-1
 ptmigration.bat ユーティリティ 2-23
 ptmigration.sh ユーティリティ 2-23
 ptspy.bat ユーティリティ 2-24
 ptspy.sh 2-24
 PTSpy: Plumtree Logging Spy を参照
 ptverify.sh ユーティリティ 2-24
 Publisher: Plumtree Publisher を参照
 PWS: プロファイル ウェブ サービスを参照

R

RedirectOnLogout A-5
 replicate.exe 4-52

S

SavedSearchMailer.sh 5-4
 Search Service 2-2
 おすすめコンテンツ機能の使用方法 4-40
 管理 4-40 - 4-61
 キャッシュのサイズ設定 A-12
 結果のカテゴリ分類のカスタマイズ 4-46
 結果ランキングのデフォルトの動作 E-11, E-12
 検索イメージの複製 4-52 - 4-57
 検索インデックスの修正 4-51
 検索コレクションの更新 4-48
 国際化 C-4
 差分バックアップ 4-52
 サポートされている言語 C-4
 シソーラスの拡張機能用のカスタマイズ ユーティリティ 4-46
 シソーラスの項目の設定 4-43
 重要度の編集 4-41
 受信ネットワーク検索 4-60
 詳細設定 A-12 - A-17
 スナップショット クエリの作成 4-49
 スペル チェックの使用 4-42
 送信ネットワーク検索 4-60
 デフォルトの動作 E-1 - E-13
 ネットワーク検索の設定 4-58 - 4-61
 バックアップと復元 6-5
 フェイルオーバーの設定 4-57
 リストア 4-53
 ログ 4-49
 Search Service とクローラ 4-34
 Search Service マネージャ ユーティリティ 2-22, 6-6
 Search Service 用のフェイルオーバーの設定 4-57
 Search 要素、portalconfig.xml 4-47
 SecureHeader 要素、portalconfig.xml D-27
 Security セクション、portalconfig.xml A-5
 <SENTENCE> 検索演算子 E-4
 serverconfig.xml ファイル A-11, A-12
 SOAP API 2-3
 SSO

- BasicSSO D-22
- CustomSSO D-22
- IIS 上での Oblix の設定 D-18
- Netegrity SiteMinder 4.6 の設定 D-3
- Netegrity SiteMinder 5.5 SP3 の設定 D-11
- Netegrity SiteMinder 5.5 の設定 D-6
- Netegrity SiteMinder Web Agent (5.5 SP3 または 6.0) の設定 D-16
- Oblix Policy Server の設定 D-16
- Oblix WebGate をリモート サーバー用に設定する方法 D-22
- WIA の設定 D-2
- 管理ユーザー F-4
- ゲスト ユーザー F-4
- トラブルシューティング F-3 - F-4
- 認証元の作成 D-23
- ポータルへの導入 D-23
- 他の認証プロバイダとの統合 D-22
- リバース プロキシの導入 F-5
- portalconfig.xml も参照
- SSO でのゲスト ユーザーのサポート F-4
- SSO での管理ユーザーのサポート F-4
- SSOCookieIsSecure 要素、portalconfig.xml D-25
- SSOLogin.aspx F-4
- SSOVendor 要素、portalconfig.xml D-28
- Studio: Plumtree Studio を参照
- Style セクション、portalconfig.xml A-8
- SystemProperties セクション、portalconfig.xml A-2
- U
- Unclassified Documents (未分類ドキュメント) フォルダ 4-33
- upgrade.sh スクリプト 2-24
- URLMapping セクション、portalconfig.xml A-3
- UseDomain 要素、portalconfig.xml D-29
- W
- WebGate のリモート サーバー用の設定 D-22
- WeeklySearchLogReport.sh 5-4
- <WORD> 検索演算子 E-4
- WWW コンテンツ ソース 4-7 - 4-10
- あ
- アイテム ロックの解除ユーティリティ 2-22
- アクセス コントロール リスト
 - ACL を参照
- アクセス管理アクティビティ権 3-3
- アクセス権限
 - 概要 3-1
 - 管理 3-20
 - 選択 3-20
 - 編集 3-20
 - 読み取り 3-20
- アクティビティ権
 - アクセス管理 3-3
 - アクティビティの作成 3-4
 - 案内状の作成 3-5
 - 一覧と説明 3-3
 - ウェブ サービスのインフラストラクチャの作成 3-6
 - 概要 3-1
 - カスタマイズ 3-7
 - 環境定義の作成 3-6
 - 管理フォルダの作成 3-4
 - グループの作成 3-5
 - 権限の委譲 3-6
 - 検索サーバー設定へのアクセス 3-3
 - コマンドライン操作の作成 3-5
 - コミュニティ インフラストラクチャの作成 3-5
 - コミュニティの作成 3-4
 - コンテンツ クローラの作成 3-5
 - コンテンツ ソースの作成 3-5
 - コンテンツ タイプの作成 3-5
 - 自己設定による専門家 3-7
 - ジョブの作成 3-6
 - スナップショット クエリの作成 3-6
 - スマート ソートへのアクセス 3-3
 - ドキュメントの提出の詳細設定 3-4
 - 独自のプロファイルの編集 3-7
 - ナレッジ ディレクトリの編集 3-7
 - 認証元の作成 3-4
 - ネットワーク検索の作成 3-5
 - フィルタの作成 3-5
 - フォルダ管理者の作成 3-3
 - フォルダの作成 3-5
 - プロパティの作成 3-6
 - プロファイル ソースの作成 3-6
 - プロファイル レイアウトの編集 3-7
 - ポートレットの作成 3-6
 - 未分類ドキュメントへのアクセス 3-4
 - ユーザーの作成 3-6
 - ユーザー プロファイル マネージャへのアクセス 3-4
 - ユーティリティへのアクセス 3-4
 - 例 3-3
 - アクティビティの作成アクティビティ権 3-4
 - アクティビティ マネージャ ユーティリティ 2-21
 - アップロード
 - コンテンツ 2-3
 - ドキュメント 4-11
 - 案内状
 - 作成 3-14
 - 送信 3-14
 - 案内状の作成アクティビティ権 3-5
 - 案内状の送信 3-14
 - い
 - 移行
 - ガイドライン 6-2
 - コマンドラインによるインポート 6-3

- コマンドラインを使用したインポート 6-4
- パッケージからのインポート 6-4
- パッケージの概要 6-2
- パッケージの作成 6-3
- 移行 - インポート ユーティリティ 6-4
- 移行 - エクスポート ユーティリティ 6-2
- 移行するオブジェクトの承認ユーティリティ 2-21
- 一括追加
 - コミュニティでの使用 4-30
 - ポートレットでの使用 4-23
- インターネット スタイル モード: E-3
- インポート
 - 移行 - インポート ユーティリティによるポータル リソースのインポート 6-4
 - 外部ソースからのユーザー プロパティ 3-12
 - コマンドラインによるポータル リソースのインポート 6-4
- う
- ウェブ サービス
 - アーキテクチャ 2-6
 - クローラ用の設定 4-35
 - 認証用の設定 3-11
 - ネットワーク検索の設定 4-61
 - プロファイル サービス用の設定 3-12
 - ポートレット用の設定 4-20
- ウェブ サービスのインフラストラクチャの作成アクティビティ権 3-6
- え
- エージェント
 - 一括追加 5-3
 - 監査ログの管理 3-16
 - 検索更新 4-48
 - 週ごとのハウスキーピング 5-3
 - 同期によるアカウントのロック 3-18
 - 動的メンバーシップの更新 5-3
 - ドキュメント更新 4-14, 4-39
- お
- おすすめコンテンツ 4-40
- オブジェクトのエクスポート 6-3
- オブジェクトのローカライズ C-1
- オブジェクトの作成 ドロップダウン リスト
 - 案内状 2-19
 - ウェブ サービス - 検索 2-20
 - ウェブ サービス - コンテンツ 2-20
 - ウェブ サービス - 認証 2-20
 - ウェブ サービス - ビルトイン ポートレット 2-20
 - ウェブ サービス - プロファイル 2-20
 - ウェブ サービス - リモート ポートレット 2-20
 - 環境定義 2-19
 - 管理フォルダ 2-18
 - グループ 2-19
 - コマンドライン操作 2-19

- コミュニティ 2-19
- コミュニティ テンプレート 2-19
- コンテンツ クローラ - WWW 2-19
- コンテンツ クローラ - リモート 2-19
- コンテンツ ソース - WWW 2-19
- コンテンツ ソース - リモート 2-19
- コンテンツ タイプ 2-19
- ジョブ 2-19
- スナップショット クエリ 2-20
- 認証元 - リモート 2-18
- ネットワーク検索 - 受信検索 2-19
- ネットワーク検索 - 送信検索 2-19
- フィルタ 2-19
- プロパティ 2-20
- プロファイル ソース - リモート 2-20
- ページ 2-19
- ページ テンプレート 2-19
- ポートレット 2-20
- ポートレット テンプレート 2-20
- ポートレット バンドル 2-20
- ユーザー 2-20
- リモート サーバー 2-20
- オブジェクトの選択における検索 E-2
- か
- カウンタ ログイン B-1
- カスタマイズ ユーティリティ 4-46
- 環境定義
 - 概要 2-8, 2-16
 - 作成 2-16
 - 作成するためのアクセス権限 2-16
 - タグ ナビゲーション 4-17
- 環境定義の規則マネージャ ユーティリティ 2-21
- 環境定義の作成アクティビティ権 3-6
- 監査マネージャ ユーティリティ 2-21, 3-16
- 監査ログの管理エージェント 3-16, 5-3
- 管理アクセス権限 3-20
- 管理インタフェース 2-17 - 2-22
- 管理オブジェクト ディレクトリ 2-18
- 管理オブジェクトの検索 E-2
- 管理者グループ 3-2
- 管理者のユーザー アカウント 3-2
- 管理フォルダ
 - Administrative Resources (管理リソース) 3-19
 - Default Experience Definition (デフォルトの環境定義) 3-20
 - Intrinsic Operations (ビルトイン操作) 3-19, 4-50
 - Portal Resources (ポータル リソース) 3-19
 - 管理オブジェクト ディレクトリ 2-18
- 管理フォルダの作成アクティビティ権 3-4
- 管理ポータル 2-1
- 管理ポータル エリア 2-10, 2-18
- 関連するコミュニティ タブ 4-28

き

既存アプリケーションの統合 4-17
 既存アプリケーションのホスティング 4-17
 基本的に使用される検索の種類 E-1

く

クエリ オペレータ モード E-3

グループ

概要 3-1
 管理 3-2
 コミュニティ グループの作成 4-28
 コミュニティでの管理 4-29
 設定 3-8
 動的メンバーシップ 3-8
 グループの作成アクティビティ権 3-5
 グループの動的メンバーシップの規則 3-8
 グループのメンバーシップを動的に設定 3-8
 グローバル ACL 同期マップ ユーティリティ 2-21
 グローバル オブジェクト プロパティ マップ ユーティリティ 2-21
 グローバル コンテンツ タイプ マップ ユーティリティ 2-21
 グローバル ドキュメント プロパティ マップ ユーティリティ 2-21
 クローラ
 コンテンツ クローラを参照
 クローラによるファイル システムのミラーリング 4-34
 クローラのためのコンテンツ タイプの設定 4-36

け

ゲスト プロファイルのプロファイル 3-2
 権限の委譲アクティビティ権 3-6

検索

インデックスの修正 4-51
 オブジェクトの選択 E-2
 管理オブジェクト E-2
 結果のランキング E-11
 構文内の句読点 E-6
 構文内の同義語 E-8
 構文内のワイルドカード E-7
 構文の大文字と小文字の区別 E-7
 構文の用語の語幹処理 E-7
 詳細 E-1
 スナップショット クエリ E-2
 ネットワーク E-2
 バナー E-1
 フィルタ E-2
 検索イメージの複製 4-52 - 4-57
 検索演算子 E-4
 検索結果の近接度によるランク付け E-12
 検索結果のランキング E-11
 検索言語 E-8
 検索更新エージェント 4-48, 4-51, 5-3
 検索構文 E-2 - E-11

検索構文で使用される引用符 E-8
 検索構文で使用される丸括弧 E-5
 検索構文内の同義語 E-8
 検索構文内のワイルドカード E-7
 検索構文の大文字と小文字の区別 E-7
 検索構文の優先順位 E-5
 検索構文の用語の語幹処理 E-7
 検索コレクションの更新 4-48
 検索サーバー設定へのアクセス アクティビティ権 3-3
 検索サーバー設定ユーティリティ 2-22
 検索の結果ランキング E-11
 検索用の演算子 E-4

こ

公開アクセスの受信ネットワーク検索 4-58
 個人用ポートレット 4-16
 コマンドライン操作の概要 5-4
 コマンドライン操作の作成アクティビティ権 3-5
 コミュニティ 4-23 - 4-32
 関連するコミュニティの指定 4-28
 グループの作成 4-28
 作成 4-26
 推奨 4-30
 テンプレート 4-26
 ナレッジ ディレクトリの管理 4-31
 必須 4-30
 複数のグループの参加 4-30
 ページ テンプレート 4-25
 ページの作成 4-28
 ポートレットの作成 4-29
 ユーザーとグループの管理 4-29
 コミュニティ インフラストラクチャの作成アクティビティ権 3-5
 コミュニティの作成アクティビティ権 3-4, 4-26
 コミュニティ リンク ポートレット 4-31
 コンソールから参照可能なパフォーマンス カウンタ B-5
 コンテンツ アップロード サービス 2-3
 コンテンツ キャンバス ポートレット 4-16
 コンテンツ クローラ
 Documentum 4-34
 Exchange 4-33
 Lotus Notes 4-34
 Search Service 4-34
 インポートされたドキュメントの削除 4-39
 インポートしたドキュメントの管理 4-39
 ウェブ サービスの設定 4-35
 ウェブ用のガイドライン 4-34
 概要 4-32
 クローラされたコンテンツのサブフォルダへの分類 4-13
 コンテンツ タイプの設定 4-36
 作成 4-35

テスト 4-37
 ドキュメントに対するコンテンツのガイドライン 4-34
 ドキュメントの更新設定 4-39
 ナレッジ ディレクトリのフィルタ 4-33
 ファイル システムのミラーリング 4-34
 メールに対するガイドライン 4-34
 コンテンツ クローラの作成アクティビティ権 3-5
 コンテンツ サーバー: Plumtree Publisher を参照
 コンテンツ サービスの作成 4-35
 コンテンツ ソース
 WWW ターゲットの設定 4-9
 概要 4-7 - 4-10
 クローラ用に作成 4-36
 リモート ターゲットの設定 4-9
 コンテンツ ソースの作成アクティビティ権 3-5
 コンテンツ タイプの作成アクティビティ権 3-5
 し
 自己設定による専門家アクティビティ権 3-7
 システム ヘルス モニタ ユーティリティ 2-22
 シソーラス
 Search Service 用の項目の設定 4-43
 拡張機能用のカスタマイズ ユーティリティ 4-46
 活字ケースに対するルール 4-43
 検索構文に対する拡張機能 E-8
 視聴覚障害を持つ方のための支援技術ポータルの表示 2-10
 週ごとのハウスキーピング エージェント 5-3
 受信ネットワーク検索 4-59
 上位おすすめコンテンツ 4-40, 4-41
 詳細検索 E-1
 ジョブ
 概要 5-1
 クローラ 4-36
 検索更新エージェント 4-48
 作成 5-3
 ドキュメント更新エージェント 4-14
 認証元とのユーザー同期 3-11
 フォルダの設定 5-2
 履歴 5-4
 ログ 5-4
 ジョブ ディスパッチャー サービス、起動 5-2
 ジョブの作成アクティビティ権 3-6
 シングル サインオン
 SSO を参照
 す
 スナップショット クエリ
 概要 4-49
 検索 E-2
 スナップショット クエリの作成アクティビティ権 3-6
 スペル チェックと Search Service 4-42
 スマート ソート ユーティリティ 2-22

スマート ソートへのアクセス アクティビティ権 3-3
 せ
 設定ディレクトリの場所 A-1
 設定ファイル
 portalconfig.xml A-1
 serverconfig.xml A-11, A-12
 全員グループのアクセス権限 3-2
 選択アクセス権限 3-20
 そ
 送信ネットワーク検索 4-59
 ソート順 ドロップダウン リストのカスタマイズ 4-46
 た
 タグ
 ナビゲーション 4-17
 ログイン 4-17
 タグ ナビゲーション用の環境定義 4-17
 タグ ライブラリ マネージャ ユーティリティ 2-25
 て
 低帯域幅ポータルの表示 2-11
 ディレクトリ コンテンツの承認ユーティリティ 2-21
 ディレクトリ サービス、ユーザーのインポート 3-10
 ディレクトリ ポータル エリア 2-9
 データベース
 設定の編集 A-17
 バックアップと復元 6-5
 ログイン設定の変更 A-17
 デフォルト フォルダ ドロップダウン リスト 4-13
 デフォルト プロファイル
 概要 3-9
 使用する理由 4-34
 デフォルト プロファイルのプロファイル 3-2
 デフォルト プロファイル ユーティリティ 2-21
 テンプレート
 コミュニティ 4-26
 ページ 4-25
 ポートレット 4-21
 と
 同期ジョブ 3-11
 同期によるアカウントのロック 3-18
 統合サービス 2-5
 ドキュメント更新エージェント 4-14, 4-39
 クローラによって作成されたリンク 4-39
 ナレッジ ディレクトリの更新 4-14
 ドキュメント設定 ページ 4-14
 ドキュメント タイプ 4-2 - 4-7
 ドキュメントの更新 4-14
 ドキュメントの更新設定 4-39
 ドキュメントの提出の詳細設定アクティビティ権 3-4
 ドキュメント プロパティ
 検索関連性を決定するための重要度設定 E-12
 設定 4-2 - 4-7

ドキュメント リポジトリ サービス 2-3
 独自のプロファイルの編集アクティビティ権 3-7

な

ナビゲーション

- 水平ドロップダウン 2-14
- 水平ドロップダウン コンボボックス 2-12
- タブセクション付き左の縦型 2-12
- 低帯域幅およびユーザー補助 2-14
- なし 2-13
- 左の縦型 2-12
- 必須リンク 2-11
- 必須リンクのみ 2-13
- ポートレットの使用 4-16, 4-17
- ポートレット用 2-14

ナビゲーション タグ ヘッダ ポートレット 4-17

ナレッジ ディレクトリ

- Unclassified Documents (未分類ドキュメント) フォルダ 4-33
- 管理 4-10 - 4-14
- クローラ 4-33
- 設定 4-31
- フォルダへのフィルタの割り当て 4-12

ナレッジ ディレクトリの基本設定ユーティリティ 2-21

ナレッジ ディレクトリの編集アクティビティ権 3-7

に

認証ウェブ サービス

- テスト 3-11
- ユーザーのインポート 3-10

認証情報の管理 3-18

認証元

- SSO 用に作成 D-23
- 設定 3-11

認証元の作成アクティビティ権 3-4

ね

ネットワーク検索

- 概要 E-2
- 受信 4-59, 4-60
- 設定 4-58 - 4-61
- 送信 4-59, 4-60

ネットワーク検索の作成アクティビティ権 3-5

は

パスワード設定の変更 A-17

バックアップ

- Search Service 4-52, 6-5
- データベース 6-5
- ポータル 6-5

バナー検索 E-1

バナー フィールド 4-41

バナーフィールドの重要度の設定 E-12

幅が狭いポートレット 4-16

幅が広いポートレット 4-16

パフォーマンス カウンタ B-1

ひ

必須コミュニティ 4-30

必須リンク 2-11, 2-13

表示オプション 2-10

標準ポータルの表示 2-10

ビルトイン ポートレット 4-15

ふ

ファイルのアップロード 2-3

フィルタ

- 概要 4-2
- クローラの宛先フォルダ 4-33
- クローラされたコンテンツのサブフォルダへの分類 4-13

検索 E-2

サブフォルダの 4-12

フォルダに対する設定 4-12 - 4-13

フィルタの作成アクティビティ権 3-5

フォルダ

- Unclassified Documents (未分類ドキュメント) 4-33
- 管理オブジェクト 2-18
- ナレッジ ディレクトリ 4-11, 4-13
- フィルタの割り当て 4-12
- 管理フォルダも参照

フォルダ管理者の作成アクティビティ権 3-3

フォルダの作成アクティビティ権 3-5

復元

- Search Service 4-52, 6-5
- データベース 6-5
- ポータル 6-5

複製ユーティリティ 4-52

フッタ ポートレット 4-16

プラムツリー コンテンツ クローラによってインポートされるメタデータの種類 4-33

プラムツリー ソフトウェアのインストール ディレクトリ A-1

プロパティ 4-2 - 4-7

Search Service 4-41

Search Service によって使用される 4-47

検索関連性を決定するための重要度設定 E-12

プロパティの作成アクティビティ権 3-6

プロファイル

- 概要 3-1
- デフォルト 3-9
- デフォルト プロファイルのレイアウトの編集 3-9
- 表示の管理 3-15
- プロファイル ソースの設定 3-13

プロファイル ウェブ サービス

テスト 3-13

ユーザー プロファイル情報のインポート 3-11

プロファイル ソースの作成アクティビティ権 3-6

プロファイル レイアウトの編集アクティビティ権 3-7

へ

米国リハビリテーション法第 508 条 2-10

ページ

コミュニティの作成 4-28

レイアウトの作成 4-25

ページ テンプレート

概要 4-25

ページのレイアウト 4-25

ヘッダ ポートレット 4-16

編集アクセス権限 3-20

ほ

ポータル

エリア 2-8

エンドユーザー用のインタフェース 2-8

概要 2-2

管理用ユーザー インタフェース 2-17

コンポーネントの URL の編集 A-1

コンポーネントの概要 2-1

データベースについて 2-1

バックアップと復元 6-5

ポータルにおけるアプリケーションの提供 4-17

ポータルにおける既存アプリケーションの使用 4-17

ポータルのコンポーネント 2-1

ポータルのパフォーマンスの監視 B-1

ポータルのユーザー インタフェース

エンドユーザー用 2-8

管理者用 2-17

ポータル リソース - エクスポート ユーティリティ 2-22

ポートレット 4-14 - 4-23

インスタンスの作成 4-21

ウェブ サービス 4-20

ウェブ サービスの作成 4-20

ウェブ サービスの設定 4-20

管理の基本設定 4-19

個人用 4-16

コミュニティ 4-16, 4-29

コミュニティ リンク 4-31

コミュニティの基本設定 4-20

コンテンツ キャンバス 4-16

コンテンツのキャッシュ 4-18

推奨 4-22

送信されるユーザー プロパティの管理 3-15

タイプ 4-15

テンプレート 4-21

テンプレートの基本設定 4-20

ナビゲーションに使用 4-16

幅が狭い 4-16

幅が広い 4-16

バンドルの作成 4-21

必須 4-22

必須にする 4-22

ビルトイン 4-15

複数グループへの一括追加 4-23

フッタ 4-16

ブランド 4-16

ヘッダ 4-16

ユーザー設定 4-19

リモート 4-15

ポートレットに対する管理の基本設定 4-19

ポートレットの基本設定 4-19

ポートレットのコンテンツのキャッシュ 4-18

ポートレットの作成アクティビティ権 3-6

ポートレットのテンプレートの基本設定 4-20

ポートレットのバンドル化 4-21

ホストされている表示モード 4-18

ま

マイ コミュニティ ポータル エリア 2-9

マイ ページ ポータル エリア 2-9

毎週実行される検索ログ レポートのコマンドライン操作 5-4

み

未分類ドキュメントへのアクセス アクティビティ権 3-4

未分類ドキュメントへのアクセス ユーティリティ 2-21

む

無効化されたログインの解除ユーティリティ 2-22

も

モード

bag-of-words E-3

インターネット スタイル E-3

クエリ オペレータ E-3

ホストされている表示 4-18

や

役割

概要 3-1

管理役割の委譲 3-2

例 3-3

ゆ

ユーザー

アカウントの監査 3-15, 3-16

アカウントの管理 3-15 - 3-18

アカウントのロック 3-16

アカウントのロックの解除 3-16

概要 3-1

環境定義との関連付け 2-17

削除 3-18

作成 3-13

自己登録 3-14

追加 3-9 - 3-15

認証ウェブ サービスによるインポート 3-10

プロパティのインポート 3-12

ロックの解除、アカウント 3-17

ユーザー アカウント

監査 3-15

- 管理者 3-2
- ロック 3-17
- ロックの解除 3-16
- ユーザー アカウントの監査 3-15, 3-16
- ユーザー アカウントのロック 3-17
- ユーザー アカウントのロックの解除 3-16
- ユーザーの作成アクティビティ権 3-6
- ユーザーの認証情報の管理 3-18
- ユーザー プロファイル マネージャへのアクセス アクティビティ権 3-4
- ユーザー プロファイル マネージャ ユーティリティ 2-22
- ユーティリティ
 - Automation Service 2-21
 - automation service daemon 2-24
 - bin ディレクトリ、リスト 2-22
 - cryptoutil.sh 2-22
 - portalenv.sh 2-23
 - ptmigration.bat 2-23
 - ptmigration.sh 2-23
 - ptspy.bat 2-24
 - ptspy.sh 2-24
 - ptverify.sh 2-24
 - replicate.exe 4-52
 - Search Service、カスタマイズ 4-46
 - Search Service マネージャ 2-22
 - upgrade.sh スクリプト 2-24
 - アイテム ロックの解除 2-22
 - アクティビティ マネージャ 2-21
 - 移行 - インポート 2-22
 - 移行 - エクスポート 2-22
 - 移行するオブジェクトの承認 2-21
 - カスタマイズ 2-21
 - 環境定義の規則マネージャ 2-21
 - 監査マネージャ 2-21
 - 管理 UI における 2-21
 - グローバル ACL 同期マップ 2-21
 - グローバル オブジェクト プロパティ マップ 2-21
 - グローバル コンテンツ タイプ マップ 2-21
 - グローバル ドキュメント プロパティ マップ 2-21
 - 検索サーバー設定 2-22
 - システム ヘルス モニタ 2-22
 - スマート ソート 2-22
 - タグ ライブラリ マネージャ 2-25
 - ディレクトリ コンテンツの承認 2-21
 - デフォルト プロファイル 2-21
 - ナレッジ ディレクトリの基本設定 2-21
 - 複製 4-52
 - ポータル設定 2-22
 - 未分類ドキュメントへのアクセス 2-21
 - 無効化されたログインの解除 2-22
 - ユーザー プロファイル マネージャ 2-22
 - ローカライゼーション マネージャ 2-21
- ユーティリティの選択ドロップダウン リスト
 - Automation Service 2-21
 - Custom 2-21
 - Search Service マネージャ 2-22
 - アイテム ロックの解除 2-22
 - アクティビティ マネージャ 2-21
 - 移行するオブジェクトの承認 2-21
 - 環境定義の規則マネージャ 2-21
 - 監査マネージャ 2-21
 - グローバル ACL 同期マップ 2-21
 - グローバル オブジェクト プロパティ マップ 2-21
 - グローバル コンテンツ タイプ マップ 2-21
 - グローバル ドキュメント プロパティ マップ 2-21
 - 検索サーバー設定 2-22
 - システム ヘルス モニタ 2-22
 - スマート ソート 2-22
 - ディレクトリ コンテンツの承認 2-21
 - デフォルト プロファイル 2-21
 - ナレッジ ディレクトリの基本設定 2-21
 - ポータル設定 2-22
 - ポータル リソース - エクスポート 2-22
 - 未分類ドキュメントへのアクセス 2-21
 - 無効化されたログインの解除 2-22
 - ユーザー プロファイル マネージャ 2-22
- ユーティリティへのアクセス アクティビティ権 3-4
- よ
- 読み取りアクセス権限 3-20
- り
- リバース プロキシの設定 F-5
- リハビリテーション法 2-10
- リモート コンテンツ ソース 4-7 - 4-10
- リモート サーバー
 - PWS 用の設定 3-12
 - クローラ用の設定 4-35
 - 図 2-7
 - 認証サービス用の設定 3-10
 - ネットワーク検索の設定 4-60
- リモート ポートレット 4-15
- 利用可能な言語 C-3
- ろ
- ローカライゼーション マネージャ ユーティリティ C-1
- ロギング
 - Plumtree Logging Spy の設定 A-18
 - 設定 A-17
 - ユーティリティ A-18
 - リモート メッセージの参照 A-17
- ログ
 - Search Service の 4-49
 - ジョブ 5-4
 - パフォーマンス カウンタ用 B-3
- ログイン タグ 4-17
- ログイン ポートレット 4-17

ロケールの設定	2-15
ロックボックスの作成	3-18